

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（221）

主要地方道鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

く ぼ た まき
久保田牧遺跡 1

（鹿屋市吾平町）

古代以降編

2023年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター



遺跡遠景 高隈山を望む



遺跡近景 高隈山を望む



遺跡近景 北から



中世の遺構

序 文

この報告書は、主要地方道鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築事業に伴って、令和元年6月5日から令和4年1月27日まで発掘調査を実施した久保田牧遺跡の記録です。本遺跡は縄文時代早期から中世にかけての複合遺跡で、今回「古代以降編」を刊行することとなりました。

古代では、掘立柱建物跡・土坑・畝間状遺構・柱穴跡などの遺構が検出されました。遺物は、土師器・黒色土器・須恵器・刻書土器・墨書土器（両面）・土錘・石製品などが出土しました。

中世では、掘立柱建物跡・土坑・溝状遺構・古道などの遺構が検出され、遺物は土師器・須恵器・瓦質土器・青磁・白磁・染付・陶器・滑石製石鍋・古銭（洪武通宝）・鉄製品などが出土しました。その他にも縄文時代早期、前～中期、後期、晩期、弥生時代にかけての集石遺構や土坑、古墳時代の竪穴建物跡や土器棺などの遺構が検出されました。縄文時代から弥生時代の遺物は、土器が貝殻条痕文土器や押型文土器・轟式土器・野久尾式土器・春日式土器・黒川式土器・刻目突帯文土器、石器は打製石斧や石鏃・石匙などが多く出土しています。また、古墳時代の竪穴建物跡からは成川式土器や鉄製品が出土しています。これらの遺構・遺物は大隅半島の当時の様子を知る上で貴重な資料と考えます。

本報告書が当時の生活環境や社会活動を知ることができる資料として、県民の皆様をはじめ多くの方々に活用され、埋蔵文化財保護に関する理解を広め、文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

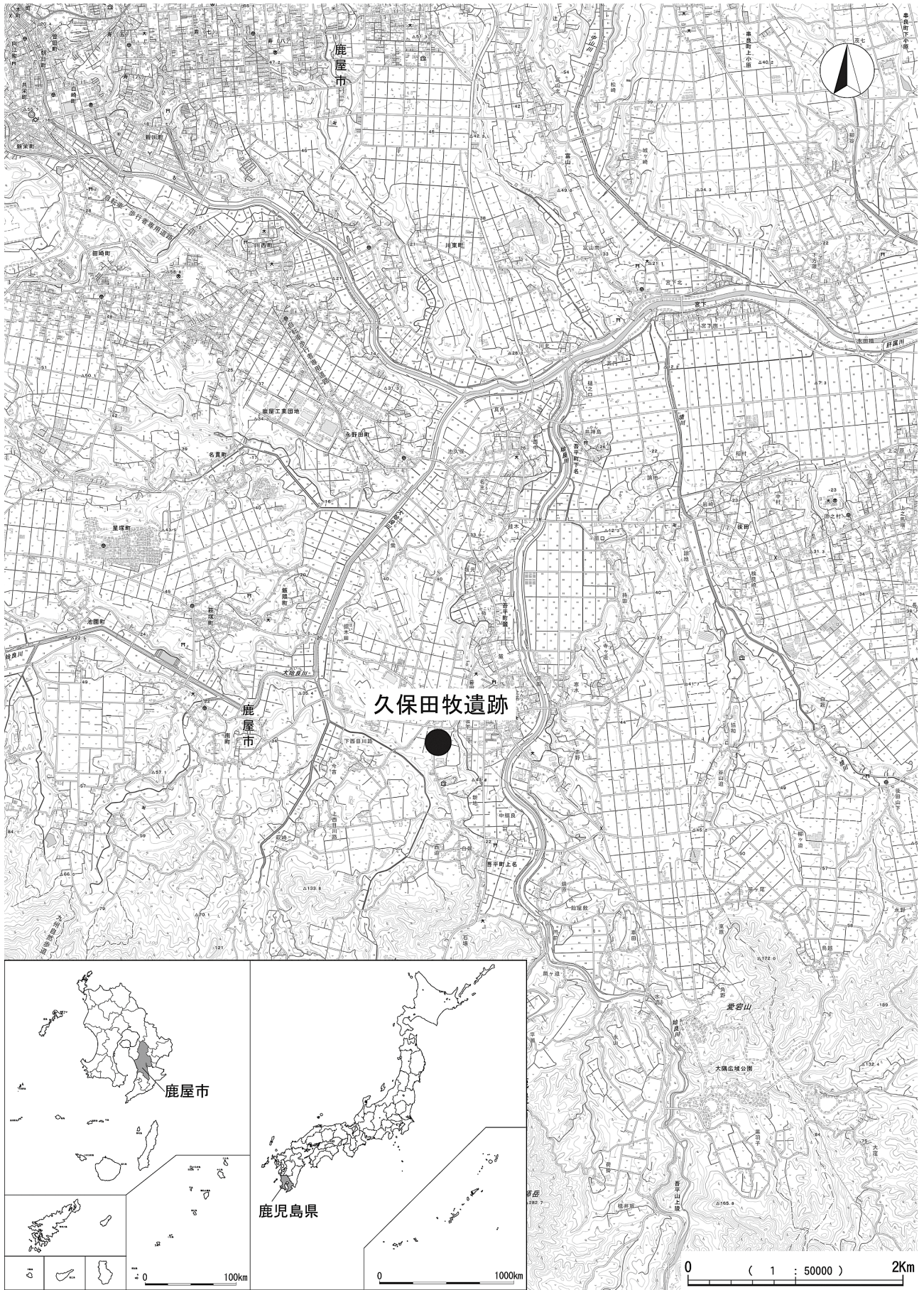
最後に、調査にあたって御協力をいただいた鹿児島県土木部道路建設課（大隅地域振興局建設部土木建築課）、鹿屋市教育委員会ほか、各関係機関並びに発掘調査に御協力いただいた地域の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和5年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所 長 中 原 一 成

報 告 書 抄 録

ふりがな	くぼたまきいせき1 こだいここうへん							
書名	久保田牧遺跡1 古代以降編							
副書名	主要地方道鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第221集							
編集者名	山形敏行・森えりこ・西園勝彦							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号 TEL 0995-48-5811 FAX 0995-48-5821							
発行年月日	2023年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (㎡)	発掘起因
		市町村	遺跡番号					
くぼたまきいせき 久保田牧遺跡	かこしまけん 鹿児島県 かのやし 鹿屋市 あいらちよう 吾平町 ふもとみちわき 麓道脇	46203	203-414	31° 19' 29"	130° 53' 33"	確認調査 ①2018.11.～ 2018.12.27 ②2019.9.2～ 2019.9.26 本調査 ①2019.6.5～ 2020.1.28 ②2020.6.8～ 2021.2.10 ③2021.6.7～ 2022.1.27	17,700㎡（対象面積） 313㎡（表面積） 7,250㎡（対象面積） 156㎡（表面積） ①4,630㎡（表面積） 18,529㎡（延べ面積） ②8,100㎡（表面積） 19,200㎡（延べ面積） ③5,720㎡（表面積） 12,068㎡（延べ面積）	主要地方道鹿屋 吾平佐多線（吾 平道路）改築事 業に伴う記録保 存調査
所収遺跡	名種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
久保田牧遺跡	散布地	縄文時代 早期	集石遺構13基 炭化物集中域	貝殻条痕文土器、押型文土器、平椀式土器、塞 ノ神A式土器、石鏃、石匙、打製石斧、磨製石 斧、磨・敲石、礫器				
		縄文時代 前・中期	土坑23基、集石3 基、敲石集積1基、 土器集中1カ所、 石器製作所跡	条痕文土器、春日式土器、野久尾式土器、打製 石鏃、石匙、打製石斧、磨製石斧、磨・敲石、 環石、石錘				
		縄文時代 晩期～ 弥生時代	土坑4基	黒川式土器、刻目突帯文土器、組織痕土器、山 ノ口式土器、打製石斧				
		古墳時代	竪穴建物跡19軒、 土坑2基、土器棺 1基、土器集中1 カ所	成川式土器、赤色土器、須恵器、紡錘車、鉄製 品、棒状礫、炭化材、杓子形土製品				
		古 代	掘立柱建物跡8棟、 土坑12基、畝間状 遺構、柱穴	土師器（坏・埴・皿・蓋・甕・鉢・甗）、黒色土器、 須恵器（坏・埴・蓋・甕・壺・甗）、墨書土器、 土錘、鉄製品				
		中 世	掘立柱建物跡18 棟、土坑8基、溝 状遺構25条、古道 15条	土師器、須恵器、瓦質土器、青磁、白磁、染付、 陶器、滑石製石鍋片、古銭、鉄製品、				
		近世以降		陶磁器、鉄製品				
遺跡の概要	久保田牧遺跡は、大隅半島のほぼ中央部に位置する鹿屋市吾平町にあり、始良川と大始良川に挟まれた標高41～43m前後のシラス台地の東側縁辺部にあり、縄文時代から中世にわたる複合遺跡である。縄文時代早期～晩期、弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世の遺構や遺物が発見され、各時代の集落や人々の活動の場として、使われてきた遺跡である。本報告書では、そのうち、古代以降の遺構・遺物について報告する。古代では、掘立柱建物跡や畝間状遺構などが検出され、遺物では、土師器や須恵器などが出土した。なかでも多くの墨書土器が出土し、両面墨書土器も出土した。中世では、掘立柱建物跡や溝状遺構・古道などが検出され、遺物としては、土師器や須恵器の他に青磁や白磁・古銭、鉄製品などが出土した。							



久保田牧遺跡位置图

例 言

- 1 本書は、主要地方道鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築事業に伴う久保田牧遺跡（古代以降）の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、鹿児島県鹿屋市吾平町麓に所在する。
- 3 発掘調査は、鹿児島県土木部道路建設課（大隅地域振興局建設局土木建築課）から鹿児島県教育委員会が依頼を受け、鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。
- 4 発掘調査は、令和元年から令和3年度まで鹿児島県立埋蔵文化財センターが新和技術コンサルタント株式会社に業務を委託して実施した。
- 5 整理作業は、令和2年度は鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。令和3年度は鹿児島県立埋蔵文化財センターが株式会社大福コンサルタントに業務を委託して実施した。整理・報告書作成作業は、令和4年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターが第2整理作業所で実施した。
- 6 掲載遺構番号は遺構の種類毎に番号を付し、本文・挿図・表・図版の遺構番号は一致する。
- 7 掲載遺物番号は通し番号であり、本文・挿図・表・図版の遺物番号は一致する。
- 8 本書で用いたレベル数値は、海拔絶対高度である。
- 9 本書で使用した方位は、すべて座標北（G. N.）であり、測量座標は国土座標系第Ⅱ系を基準としている。
- 10 遺構の埋土や土器の色調等は『新版標準土色帖』（2013年度版、農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づく。
- 11 発掘調査における実測図作成及び写真撮影は、主として調査担当者が行い、土層断面を新和技術コンサルタント株式会社に委託し、調査担当者が監修した。また、空中写真の撮影は、株式会社ふじたが行った。
- 12 遺構図・遺構配置図・遺物出土状況図の作成及びトレースは、山形敏行・森えりこが整理作業員の協力を得て行った。
- 13 出土遺物の実測・トレース・拓本は、馬籠亮道・森が担当し、整理作業員の協力を得て行った。
- 14 出土遺物の写真撮影は、鹿児島県立埋蔵文化財センター第2整理作業所にて、西園勝彦が行った。
- 15 本報告に係る自然科学分析は、放射性炭素年代測定・

樹種同定・植物珪酸体分析・花粉分析・テフラ分析を株式会社古環境研究センターに委託した。

- 16 本書の編集は山形・森が担当し、執筆担当は以下のとおりである。

第1章 山形・森

第2章 山形・森

第3章 山形・森

第4章 第1節

1・2 森

3 山形

第2節

1・2 森

3 山形・西園

第5章（委託業者の納品原稿をもとに編集）

第6章 第1節 森

第2節 山形

- 17 本報告書に係る出土遺物及び実測図・写真等の記録は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し展示・活用を図る予定である。なお、遺物注記で用いた遺跡記号は、「KUB」である。

凡 例

1 遺構種別ごとに略記号を付して調査を行った。遺構の略記号を以下に示す。

SB：掘立柱建物跡 SK：土坑 SL：焼土跡
SD：溝状遺構 KM：硬化面 SF：道跡 P：柱穴
SN：畝間状遺構 SJ：埋設土器 SX：不明遺構
SH：竪穴建物跡 SS：集石

2 遺構番号については、調査時に付されたものから報告書掲載順に付け替えた（第7表参照）。

3 遺構の縮尺は以下を基本とし、各図に縮尺を示した。
掘立柱建物跡：1/60・1/80

土坑：1/20・1/40・1/100

溝状遺構：1/250，断面図1/40

古道：1/250，断面図1/40

畝間状遺構：1/100・1/300，断面図1/40

4 遺物の縮尺は以下を基本とし、各図に縮尺を示した。

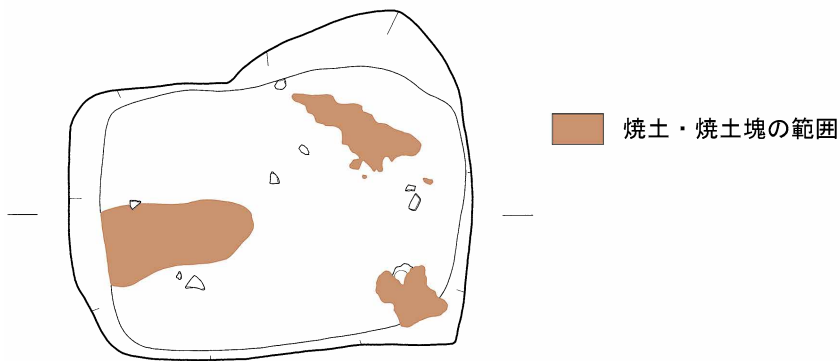
土師器・須恵器・陶磁器等 1/3

土製品・合子・鉄器 1/2

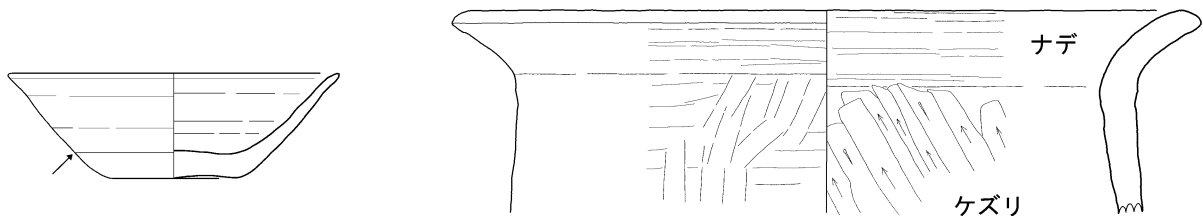
石製品（玉） 原寸

5 観察表のうち、口径・底径が括弧書きのものは復元径である。

【遺構】



【遺物】



体部下半の稜線が実線の場合は、ケズリ痕の範囲を示す。

本文目次

巻頭図版	
序文	
報告書抄録	
久保田牧遺跡位置図	
例言	
凡例	
本文目次・挿図目次・表目次・図版目次	
第1章 発掘調査の経過	
第1節 調査に至るまでの経緯	1
1 主要地方道鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築 事業と埋蔵文化財保護に係る調整	1
第2節 事前調査	1
1 確認調査	1
2 協議・調整	2
第3節 本調査	3
1 本調査の概要	3
2 本調査の経過	4
第4節 整理事業・報告書作成作業	6
1 整理事業・報告書作成作業の概要	6
2 整理事業・報告書作成作業体制	6
3 整理事業・報告書作成作業業務の委託	6
4 調査の経過	7
第2章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境	9
第2節 歴史的環境	9
第3節 鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築事業に伴う遺跡	15
第3章 調査の方法と層序	
第1節 調査の方法	17
1 発掘調査の方法	17
2 遺構の認定と調査方法	17
3 整理事業・報告書作成作業の方法	17
4 出土遺物の分類	18
第2節 層序	18
第4章 調査の成果	
第1節 古代の調査成果	29
1 調査の概要	29
2 遺構	29
3 遺物	55
第2節 中世の調査成果	69
1 調査の概要	69
2 遺構	69
3 遺物	126
第5章 自然科学分析	
第1節 自然科学分析の概要	145
第2節 放射性炭素年代測定	145
1 はじめに	145
2 試料と方法	145
3 測定結果	145
4 所見	147
第3節 樹種同定	148
1 はじめに	148
2 試料	148
3 方法	148
4 結果	148
5 所見	148
第4節 植物珪酸体分析	151
1 はじめに	151
2 試料	151
3 分析法	151
4 分析結果	151
5 考察	152
6 まとめ	152
第5節 花粉分析	152
1 はじめに	152
2 試料	152
3 方法	155
4 結果	155
5 花粉分析から推定される植生と環境	155
第6節 テフラ（火山灰）分析	158
1 はじめに	158
2 試料	158
3 分析方法	158
4 結果	158
5 指標テフラとの対比	158
第6章 総括	
第1節 遺構	161
第2節 遺物	165
写真図版	

挿図目次

第1図	グリット配置図及び年度別調査範囲図	8	第54図	中世の遺構配置図6	76
第2図	周辺遺跡位置図	14	第55図	中世の遺構配置図7	77
第3図	吾平道路改築事業に係る遺跡位置図	16	第56図	9号掘立柱建物跡	78
第4図	土層断面図1	19	第57図	10・11号掘立柱建物跡	79
第5図	土層断面図2	20	第58図	12号掘立柱建物跡	80
第6図	土層断面図3	21	第59図	13号掘立柱建物跡	81
第7図	土層断面図4	22	第60図	14号掘立柱建物跡	82
第8図	土層断面図5	23	第61図	15・16号掘立柱建物跡	83
第9図	土層断面図6	24	第62図	17・18号掘立柱建物跡	84
第10図	土層断面図7	25	第63図	19号掘立柱建物跡	86
第11図	土層断面図8	26	第64図	20号掘立柱建物跡	87
第12図	土層断面図9	27	第65図	21号掘立柱建物跡	88
第13図	土層断面図10	28	第66図	22号掘立柱建物跡	89
第14図	古代の遺構配置図(全体)	30	第67図	23号掘立柱建物跡	90
第15図	古代の遺構配置図1	31	第68図	24号掘立柱建物跡	91
第16図	古代の遺構配置図2	32	第69図	25号掘立柱建物跡1	92
第17図	古代の遺構配置図3	33	第70図	25号掘立柱建物跡2	93
第18図	古代の遺構配置図4	34	第71図	26号掘立柱建物跡	94
第19図	古代の遺構配置図5	35	第72図	13・14号土坑	95
第20図	古代の遺構配置図6	36	第73図	15号土坑	96
第21図	1号掘立柱建物跡	37	第74図	16号土坑	97
第22図	2号掘立柱建物跡	38	第75図	17・18号土坑	98
第23図	3号掘立柱建物跡	40	第76図	19・20号土坑	99
第24図	4号掘立柱建物跡	41	第77図	溝状遺構1～3, 古道1	100
第25図	5号掘立柱建物跡1	42	第78図	溝状遺構4, 古道2	101
第26図	5号掘立柱建物跡2	43	第79図	溝状遺構5・6, 古道3～5	103
第27図	6号掘立柱建物跡1	44	第80図	古道6～9	104
第28図	6号掘立柱建物跡2	45	第81図	溝状遺構7, 古道10	105
第29図	6号掘立柱建物跡3	46	第82図	古道11・12	106
第30図	7号掘立柱建物跡	47	第83図	溝状遺構8・9	107
第31図	8号掘立柱建物跡	48	第84図	溝状遺構10～15①	108
第32図	1～5号土坑	50	第85図	溝状遺構10～15②	109
第33図	6～8号土坑	51	第86図	古道13	112
第34図	7号土坑出土遺物	52	第87図	溝状遺構16～20・22・23	114
第35図	9号土坑	53	第88図	溝状遺構21・24	115
第36図	10～12号土坑	54	第89図	溝状遺構25, 古道14・15	117
第37図	畝間状遺構1	56	第90図	溝状遺構出土遺物1	118
第38図	畝間状遺構2	57	第91図	溝状遺構出土遺物2	119
第39図	土師器(坏-1)	59	第92図	古道出土遺物1	120
第40図	土師器(坏-2)	60	第93図	古道出土遺物2	121
第41図	土師器(埴・皿)	61	第94図	古道出土遺物3	122
第42図	土師器(甕・甔)	62	第95図	古道出土遺物4	123
第43図	黒色土器・刻書土器	63	第96図	古道・柱穴出土遺物	124
第44図	墨書土器	65	第97図	溝状遺構・古道出土鉄製品・古銭	125
第45図	土製品(土錘)	66	第98図	青磁1	127
第46図	須恵器1	67	第99図	青磁2・白磁・染付・陶器	128
第47図	須恵器2	68	第100図	土師器・その他	129
第48図	中世の遺構配置図(全体)	70	第101図	鉄器	130
第49図	中世の遺構配置図1	71	第102図	暦年較正結果	147
第50図	中世の遺構配置図2	72	第103図	暦年較正年代マルチプロット図	147
第51図	中世の遺構配置図3	73	第104図	久保田牧遺跡の木材I	149
第52図	中世の遺構配置図4	74	第105図	久保田牧遺跡の木材II	150
第53図	中世の遺構配置図5	75	第106図	植物珪酸体分析結果	153

第107図	植物珪酸体（プラント・オパール）	154
第108図	久保田牧遺跡の花粉	157
第109図	テフラ分析結果図	159
第110図	屈折率測定結果	159

第111図	テフラ試料の顕微鏡写真	160
第112図	遺物出土状況図1（坏・埴）	162
第113図	遺物出土状況図2（皿・土師甕）	163
第114図	遺物出土状況図3（黒色土器・須恵器）	164

表 目 次

第1表	吾平道路工区に係る分布調査	2
第2表	吾平道路改築事業に係る試掘・確認調査一覧	2
第3表	確認調査結果	3
第4表	周辺遺跡一覧表	12
第5表	鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築に伴う遺跡	15
第6表	基本層序	15
第7表	遺構番号新旧対応表	131
第8表	古代の掘立柱建物跡計測表	132
第9表	中世の掘立柱建物跡計測表1	133
第10表	中世の掘立柱建物跡計測表2	134
第11表	古代の遺構内出土遺物観察表	135
第12表	古代の遺物観察表1	136
第13表	古代の遺物観察表2	137
第14表	古代の遺物観察表3	138
第15表	古代の遺物観察表4	138
第16表	中世の遺構内出土遺物観察表1	139
第17表	中世の遺構内出土遺物観察表2	140
第18表	中世の遺構内出土遺物観察表3	141

第19表	中世の遺構内出土遺物観察表4	142
第20表	中世の遺構内出土遺物観察表5	142
第21表	中世の遺構内出土遺物観察表6	142
第22表	中世の遺構内出土遺物観察表7	142
第23表	中世の遺構内出土遺物観察表8	142
第24表	中世の遺物観察表1	143
第25表	中世の遺物観察表2	144
第26表	中世の遺物観察表3	144
第27表	中世の遺物観察表4	144
第28表	中世の遺物観察表5	144
第29表	分析内容・試料一覧	145
第30表	放射性炭素年代測定結果	146
第31表	炭化材の樹種同定結果	148
第32表	植物珪酸体分析結果	153
第33表	花粉分析結果	156
第34表	テフラ組成分析結果	159
第35表	掘立柱建物跡計測表	161
第36表	墨書及び刻書土器	165

図版目次

巻頭図版1	遺跡遠景 高隈山を望む	
巻頭図版2	遺跡近景 高隈山を望む	
巻頭図版3	遺跡近景 北から	
巻頭図版4	中世の遺構	
写真1	墨書土器（両面）掲載番号129	64
写真2	遺構内出土の鉄製品	125
写真3	包含層出土の古銭	130
図版1	基本層序	167
図版2	古代掘立柱建物跡1	168
図版3	古代掘立柱建物跡2	169
図版4	古代掘立柱建物跡3	170
図版5	古代掘立柱建物跡4	171
図版6	古代掘立柱建物跡5	172
図版7	古代土坑1	173
図版8	古代土坑2	174
図版9	古代土坑3	175
図版10	古代畝間状遺構	176
図版11	中世掘立柱建物跡1	177
図版12	中世掘立柱建物跡2	178
図版13	中世掘立柱建物跡3	179
図版14	中世掘立柱建物跡4	180
図版15	中世掘立柱建物跡5	181
図版16	中世掘立柱建物跡6	182
図版17	中世掘立柱建物跡7	183
図版18	中世掘立柱建物跡8	184
図版19	中世土坑1	185

図版20	中世土坑2	186
図版21	中世溝状遺構1	187
図版22	中世溝状遺構2・古道1	188
図版23	中世溝状遺構3	189
図版24	中世古道2	190
図版25	古代掘立柱建物跡の遺物	191
図版26	古代7号土坑の遺物・遺構内出土鉄滓	192
図版27	古代9号土坑の遺物	193
図版28	古代10～12号土坑の遺物	194
図版29	古代の遺物（1）	195
図版30	古代の遺物（2）	196
図版31	古代の遺物（3）	197
図版32	古代の遺物（4）	198
図版33	古代の遺物（5）	199
図版34	古代の遺物（6）	200
図版35	古代の遺物（7）	201
図版36	古代の遺物（8）	202
図版37	中世掘立柱建物跡・土坑の遺物	203
図版38	中世溝状遺構の遺物（1）	204
図版39	中世溝状遺構の遺物（2）・古道の遺物（1）	205
図版40	中世古道の遺物（2）	206
図版41	中世古道13の遺物（1）	207
図版42	中世古道13の遺物（2）	208
図版43	中世の遺物（1）	209
図版44	中世の遺物（2）	210
図版45	その他の遺物	211

第1章 発掘調査の経過

第1節 調査に至るまでの経緯

1 主要地方道鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築事業と埋蔵文化財保護に係る調整

(1) 事業照会

鹿児島県教育委員会は、文化財の保護・活用を図るため、各開発関係機関との間で、事業区域内における文化財の有無及びその取扱いについて協議し、調整を行ってきた。

鹿児島県土木部道路建設課（以下、「道路建設課」）は、平成27年5月に「大隅縦貫道路」のうち「主要地方道鹿屋吾平佐多線吾平道路工区」（以下、「吾平道路」）の施工計画に基づき、事業区内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育庁文化財課（以下、「文化財課」）に照会した。文化財課は、県が作成する遺跡地図（以下、「遺跡地図」）により吾平道路の事業区内に7か所の周知の埋蔵文化財包蔵地が所在することを確認した。

(2) 事前調査

分布調査

文化財課は未発見の遺跡が所在する可能性があること及び周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲等の確認の必要性があることから、鹿屋市教育委員会の協力を得て、平成27年度に「道路建設課所管事業に係る埋蔵文化財分布調査」（以下、「H27分布調査」）として吾平道路工区に係る埋蔵文化財分布調査を実施した。分布調査の結果、遺跡の新発見は無かったが、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲をそれぞれ変更する必要があることを確認するとともに、鶯原遺跡の南側隣接地では遺跡の範囲等を確定するために試掘調査が必要と判断された。また、文化財課は平成28年度に吾平道路工区を含む範囲を対象とした「農業農村整備事業に伴う分布調査」（以下、「H28分布調査」）を実施し、鶯原遺跡の範囲が広がること、並びに「道脇遺跡」の範囲が広がること及び当該地の小字が「久保田牧」であることを確認した。文化財課は分布調査の結果に基づき、鹿屋市教育委員会と協議し、「道脇遺跡」を「久保田牧遺跡」へ名称変更するとともに、遺跡の範囲を変更することとした。なお、分布調査の結果等については、第1表のとおりである。

試掘調査及び確認調査

文化財課は分布調査の結果に基づき、鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下、「埋蔵文化財センター」）、道路建設課及び大隅地域振興局建設部土木建築課（以下、「大隅地域振興局」）と四者で協議し、吾平道路の事業区内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地及び試掘調査が必要と判断された箇所について、遺跡の残存状況・範囲等を把握するために、試掘調査又は確認調査（以下、「試掘・

確認調査」）を実施することとした。令和3年度までの試掘・確認調査の実施状況は第2表のとおりである。

調査体制については、以下のとおりである。

調査体制

事業主体	鹿児島県土木部道路建設課大隅地域振興局
調査主体	鹿児島県教育委員会
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課
調査統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長	堂込 秀人
調査企画	次長兼調査課長 大久保浩二
総務課長	高田 浩
主任文化財主事	
兼第二調査係長	宗岡 克英
調査担当	鹿児島県教育庁文化財課
文化財主事	森 幸一郎
鹿児島県立埋蔵文化財センター	
文化財主事	樋之口隆志
文化財主事	今村 結記
立会者	大隅地域振興局建設部土木建設課
道路建設第一係技術専門員	有馬 浩士

(3) 調整及び協議

分布調査、試掘・確認調査の結果に基づき、文化財課は道路建設課、大隅地域振興局及び埋蔵文化財センターと四者での協議を行い、路線変更や設計変更等による遺跡の現状保存が困難であることから、吾平道路工区内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地の記録保存調査（以下、「本調査」）を実施することとなった。

第2節 事前調査

1 確認調査

久保田牧遺跡の確認調査は文化財課及び埋蔵文化財センターが、文化庁の国庫補助事業（以下、「県内遺跡発掘調査等補助事業」）により、平成30年11月7日から12月27日に名主原遺跡及び猫塚遺跡の確認調査と併せて一部実施した。確認調査の対象面積は17,700㎡であり、調査に入ることができた7,900㎡にトレンチを11本設定した。

その後、新たに調査に着手する条件が整った部分及び遺跡から連続する北側の部分について、遺跡の範囲及び性格をより詳細に把握するための確認調査を、県内遺跡発掘調査等補助事業により、令和元年9月2日から9月26日に実施した。確認調査の対象面積は7,250㎡であり、トレンチを14本設定した。

調査の結果、中世・古代・古墳時代・弥生時代・縄文時代の遺構・遺物が確認された。

調査体制については、以下のとおりである。

調査体制（平成30年度）

事業主体	鹿児島県
調査主体	鹿児島県教育委員会
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課
調査統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター
	所 長 堂込 秀人
調査企画	次長兼調査課長 大久保浩二
	総務課長 高田 浩
	第二調査係長 宗岡 克英
調査担当	文化財主事 倉元 良文
	文化財研究員 松山 初音
事務担当	主 査 新穂 秀貴
発掘調査指導	国立大学法人鹿児島大学埋蔵文化財調査センター センター長 中村 直子 特任助教 寒川 朋枝

調査体制（令和元年度）

事業主体	鹿児島県
調査主体	鹿児島県教育委員会

企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課
調査統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター
	所 長 前迫 亮一
調査企画	次長兼総務課長 野間口 誠
	調査課長兼 南の縄文調査室長 中村 和美
調査担当	第二調査係長 三垣 恵一
	文化財主事 隈元 俊一
事務担当	文化財研究員 鮫島えりな
	主 査 新穂 秀貴

2 協議・調整

確認調査の結果に基づき、文化財課は埋蔵文化財センター、道路建設課及び大隅地域振興局と久保田牧遺跡の取扱いについて協議を行い、設計変更等による遺跡の現状変更が困難であることから、令和元年度に本調査を実施することとなった。これを受けて大隅地域振興局は、文化財保護法第94条の規定に基づき、鹿児島県教育委員会に対し通知を行い、鹿児島県教育委員会は大隅地域振興局へ発掘調査の勧告を行った。

第1表 吾平道路工区に係る分布調査

遺跡名	H 27 分布調査	H 28 分布調査	備考
名主原遺跡	範囲の拡大	変更等なし	
川上遺跡	範囲の拡大	変更等なし	
鶯原遺跡	範囲確定のために南側隣接地の試掘調査が必要と判断	範囲の拡大	
廣牧遺跡	範囲の拡大	変更等なし	
立塚遺跡	-	-	分布調査では未発見
久保田牧遺跡	範囲の拡大（道脇遺跡）	「久保田牧遺跡」へ名称変更及び範囲の拡大	
猫塚遺跡	範囲の拡大	変更等なし	

第2表 吾平道路改築事業に係る試掘・確認調査一覧

実施日	遺跡名等	調査後の取扱い等
平成29年3月6日～3月10日	川上遺跡	試掘調査実施箇所については本調査不要と判断
	鶯原遺跡	本調査が必要と判断
	鶯原遺跡隣接地	追加の試掘調査が必要
	廣牧遺跡	本調査が必要と判断
平成30年2月5日～2月9日	川上遺跡	試掘調査実施箇所については本調査が必要と判断
	鶯原遺跡及び隣接地	鶯原遺跡の範囲が南側へ広がることを確認（平成30年4月2日付けで範囲変更）
平成30年11月7日～12月27日	名主原遺跡	試掘調査実施箇所については本調査が必要と判断
	久保田牧遺跡	試掘調査実施箇所については本調査が必要と判断
	猫塚遺跡	試掘調査実施箇所については本調査が必要と判断
令和元年9月2日～9月26日	久保田牧遺跡	試掘調査実施箇所については本調査が必要と判断
令和元年11月11日	久保田牧遺跡隣接地	遺跡の残存を確認、追加の試掘調査が必要と判断
令和2年2月10日～2月21日	久保田牧遺跡隣接地	遺跡の残存を確認（令和2年3月18日付けで「立塚遺跡」として遺跡地図へ記載）
令和2年11月27日	川上遺跡	試掘調査実施箇所については本調査不要と判断
令和2年12月1日～12月24日	立塚遺跡	本調査が必要だが、一部については攪乱が及んでいるため本調査不要と判断
	廣牧遺跡隣接地	遺跡の広がり等は確認されず

第3表 確認調査結果

調査年度	トレンチ番号	遺構	遺物
H 30	1 T	溝1条, 土坑3基 住居跡1軒	条痕文土器, 縄文晩期土器, 土師器, 成川式土器, 打製石斧
	2 T	ピット2基	磨石, 礫
	3 T	溝1条	条痕文土器, 土師器, 成川式土器, 磨石
	4 T	土坑3基, ピット4基	条痕文土器, 成川式土器, 土師器, 黒曜石, 石鏃, 打製石斧, 剥片 破碎礫
	5 T	溝2条, 土坑7基 ピット2基	条痕文土器, 成川式土器, 土師器, 打製石斧, 磨石, 黒曜石, 礫
	6 T	溝1条	条痕文土器, 成川式土器, 土師器, 白磁, 黒曜石
	7 T	住居跡2軒	条痕文土器, 縄文晩期土器, 成川式土器
	8 T	土坑3基	条痕文土器
	9 T	-	条痕文土器, 剥片石器, 磨石, 敲石, 黒曜石
	10 T	土坑2基	成川式土器
	11 T	-	成川式土器
R 1	12 T	溝状遺構	刻目突帯文土器, 成川式土器, 黒曜石剥片, チップ
	13 T	溝状遺構	刻目突帯文土器, 成川式土器, 赤色土器
	14 T	溝状遺構	-
	15 T	-	打製石鏃, 磨石
	16 T	-	-
	17 T	-	成川式土器, 土師器
	18 T	-	黒川式土器, 刻目突帯文土器, 弥生土器
	19 T	-	条痕文土器, 刻目突帯文土器, 弥生土器, 石匙, 黒曜石剥片
	20 T	ピット3基	条痕文土器, 刻目突帯文土器, 弥生土器, 石匙, 黒曜石剥片
	21 T	-	土器片(攪乱内, 薩摩焼)
	22 T	竪穴住居跡	成川式土器, 土師器, 須恵器, 高坏
	23 T	-	土器片(型式不明)
	24 T	-	条痕文土器
	25 T	-	土器片(型式不明)

第3節 本調査

1 本調査の概要

久保田牧遺跡の本調査は鹿児島県埋蔵文化財発掘調査基準(以下、「県基準」)及び鹿児島県埋蔵文化財発掘調査(民間委託)実施要綱(以下、「民間委託実施要綱」)に基づき、鹿児島県教育委員会が調査主体となり、埋蔵文化財センターが、新和技術コンサルタント株式会社へ発掘調査業務を委託し、実施した。本調査は令和元年度から令和3年度の3カ年実施した。

なお、発掘調査の適切な実施のため、本調査実施の間中は埋蔵文化財センターの職員が監督職員として常駐し、調査方法及び業務内容に係る統括・指揮・調整を行った。

各年度の調査体制等については、以下のとおりである。
令和元年度

調査期間は令和元年6月5日から令和2年1月28日で、調査面積は4,630㎡、延べ面積は18,520㎡である。

調査体制

事業主体 鹿児島県
調査主体 鹿児島県教育委員会

企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課	
調査統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
所長		前迫 亮一
調査企画	次長兼総務課長	野間口 誠
調査課長	兼南の縄文調査室長	中村 和美
第一調査係長		宗岡 克英
調査担当	文化財主事	徳永 智明
	文化財主事	大久保王義
	文化財主事	湯場崎辰巳
事務担当	主幹兼総務係長	草水美穂子
現地指導	始良市及び十島村文化財保護審議会委員	成尾 英仁
委託先	新和技術コンサルタント株式会社	
	主任技術者	井之上公裕
	主任調査員	新福 深
	測量主任技師	井之上公裕
	調査員	峯崎 幸清
	〃	賦句 博隆
	〃	上川路直光

〃 新納 弘恵
 〃 白井 菜実
 主任調査員兼調査員（代理） 鎌田 浩平
 委託期間 令和元年5月9日～令和2年3月6日
 委託内容 発掘調査業務 1式
 測量業務 1式
 土工業務 1式
 検 査 中間検査 令和元年10月24日
 完成検査 令和2年2月25日
 （成果物検査）合格
 令和2年3月3日
 （実地検査）合格

令和2年度

調査期間は令和2年6月8日から令和3年2月10日で、調査面積は8,100㎡、延べ面積は19,200㎡である。

調査体制

事業主体 鹿児島県
 調査主体 鹿児島県教育委員会
 企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課
 調査統括 鹿児島県立埋蔵文化財センター
 所 長 前迫 亮一
 調査企画 次長兼総務課長 野間口 誠
 調査課長兼 南の縄文調査室長 中村 和美
 第二調査係長 横手浩二郎
 調査担当 文化財主事 藤崎 光洋
 文化財主事 徳永 智明
 事務担当 主幹兼総務係長 山下 勝史
 現地指導 大野城心のふるさと館館長 赤司 善彦
 始良市文化財保護審議会委員 成尾 英仁
 委託先 新和技術コンサルタント株式会社
 主任技術者 井之上公裕
 主任調査員 新福 深
 測量主任技師 井之上公裕
 調査員 峯崎 幸清
 〃 賦句 博隆
 〃 上川路直光
 〃 新納 弘恵
 〃 白井 菜実
 主任調査員兼調査員（代理） 鎌田 浩平

委託期間 令和2年5月18日～令和3年3月12日
 委託内容 発掘調査業務 1式
 測量業務 1式
 土工業務 1式
 検 査 中間検査 令和2年11月6日
 完成検査 令和3年3月8日
 （実地検査）合格

令和2年3月9日
 （成果物検査）合格

令和3年度

調査期間は令和3年6月7日から令和4年1月27日で、調査面積は5,720㎡、延べ面積は12,068㎡である。

調査体制

事業主体 鹿児島県
 調査主体 鹿児島県教育委員会
 企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課
 調査統括 鹿児島県立埋蔵文化財センター
 所 長 中原 一成
 調査企画 次長兼総務課長 大口 浩嗣
 調査課長兼 南の縄文調査室長 寺原 徹
 第二調査係長 西園 勝彦
 調査担当 文化財主事兼専門員 上床 真
 文化財主事 徳永 智明
 事務担当 主幹兼総務係長 山下 勝史
 委託先 新和技術コンサルタント株式会社
 主任技術者 井之上公裕
 主任調査員 新福 深
 測量主任技師 井之上公裕
 調査員 賦句 博隆
 〃 上川路直光
 〃 白井 菜実
 主任調査員兼調査員（代理） 鎌田 浩平

委託期間 令和3年5月14日～令和4年3月11日
 委託内容 発掘調査業務 1式
 測量業務 1式
 土工業務 1式
 検 査 中間検査 令和3年10月20日
 完成検査 令和4年3月7日
 （実地検査）合格
 令和4年3月8日
 （成果物検査）合格

2 本調査の経過

発掘調査の経過について、日誌抄を月ごとに集約して記載する。

令和元年度

6月 調査開始。環境整備、グリッド設定・設置。d～k-32～37区表土掘削、Ⅲ層：上面遺構検出、写真撮影、実測・遺物取り上げ。
 7月 d～k-32～37区Ⅲ層上面：遺構検出・遺物取り上げ、Ⅲ層：遺構検出・実測・写真撮影・遺物取り上げ。
 8月 d～i-32～37区Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ、d～g-35～37区Ⅲ層：掘削・遺構検出・写

真撮影・実測・遺物取り上げ。i～j-33～37区Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ層：遺構検出・調査・測量，遺物取り上げ，Ⅴ～Ⅷ層：重機掘削，Ⅷ層：遺構検出・調査・測量。

9月 d～g-33～35区，h・i-32区Ⅳ層：遺構検出・写真撮影・実測・遺物取り上げ，Ⅴ層上面：遺構検出・写真撮影・実測・遺物取り上げ，d～h-35～37区Ⅲ層：遺構検出・写真撮影・実測・遺物取り上げ，g～j-33～37区Ⅴ層上面：遺構検出・実測，Ⅴ～Ⅶ層：重機掘削，Ⅷ・Ⅸ層：遺構検出，i-35区旧石器確認トレンチ，X～XⅣ層：掘り下げ，b～e-29～32区表土：重機掘削，Ⅱ・Ⅲ層：掘り下げ・遺構検出・実測。

10月 d～g-33～35区Ⅴ層：上面遺構検出・実測，d～h-35～37区Ⅲ層：遺構検出・実測・写真撮影・遺物取り上げ，g～j-33～37区Ⅷ・Ⅸ層：遺構検出・実測，b～e-29～32区Ⅱ・Ⅲ層：遺構検出・実測。b～h-29～32区表土重機掘削。

11月 b～h-29～32区Ⅱ～Ⅳ層：遺構検出・写真撮影・実測・遺物取り上げ，d～h-35～37区：Ⅲ層・遺構検出・写真撮影・実測・遺物取り上げ，h・i-32区Ⅴ層：上面遺構検出・実測。9日現地説明会。

12月 b～h-29～32区Ⅱ～Ⅳ層：遺構検出・写真撮影・実測・遺物取り上げ，d～h-35～37区Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・写真撮影・実測・遺物取り上げ，Ⅴ層上面：遺構検出・写真撮影・実測，f～g-32区Ⅴ～Ⅶ層：重機掘削，Ⅷ層：遺構検出・実測。

1月 b～h-29～32区Ⅳ層：遺構検出・写真撮影・実測・遺物取り上げ，Ⅴ層上面遺構検出・写真撮影・実測，f・g-32区Ⅷ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，Ⅸ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ。9日成尾英仁氏現地指導。28日作業終了。

令和2年度

6月 調査開始。環境整備，グリッド設定・設置。a～g-18～28区Ⅱ・Ⅲ層：上面遺構検出・実測。

7月 a～g-18～28区Ⅱ・Ⅲ層：上面遺構検出・実測。

8月 a～g-18～28区Ⅱ・Ⅲ層：遺構検出・実測。

9月 a～g-18～28区Ⅲ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，W～a-19～22区表土重機掘削，Ⅱ・Ⅲ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ。

10月 a～g-18～28区Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，W～a-19～22区Ⅲ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，S～Z-13～17区表土重機掘削，Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，6日空撮。

11月 a～g-18～28区Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，Ⅴ層上面：遺構検出・実測，Ⅴ・Ⅵ層：（無遺物層）重機掘削，Ⅶ層上面：遺構検出，Ⅶ層：（無遺物層）重機掘削，Ⅷ・Ⅸ層：遺構検出・

実測・遺物取り上げ，X層以下旧石器確認調査，W～a-19～22区Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ層：掘り下げ・遺構検出・調査・測量・実測・遺物取り上げ，Ⅴ～Z-16～21区表土重機掘削，Ⅲ・Ⅳ層：掘り下げ・遺構検出・実測・遺物取り上げ，R～Y-12～17区表土掘削，Ⅲ～Ⅴ層：掘り下げ・遺構検出・調査・測量・遺物取り上げ，Ⅴ・Ⅵ層：重機掘削Ⅶ層上面：遺構検出・調査。14日現地説明会。

12月 a～g-18～28区X～XⅣ層：旧石器確認調査終了Ⅲ・Ⅳ層：掘り下げ・遺構検出・調査・測量・遺物取り上げ，Ⅴ層上面：遺構検出・調査・測量，Ⅶ層上面：遺構検出・調査，Ⅶ・Ⅸ層：掘り下げ・遺構検出・調査・測量・遺物取り上げ，R～Y-12～17区Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，Ⅴ層上面：遺構検出・実測・遺物取り上げ終了，Ⅷ・Ⅸ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，g・h-37～39区表土掘削終了Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，Ⅴ層上面：遺構検出。2日空撮（2回目）

1月 a～g-20～28区Ⅲ・Ⅳ層：掘り下げ・遺構検出・調査・測量・遺物取り上げ，Ⅴ層上面：遺構検出・調査・測量，Ⅷ・Ⅸ層：遺構検出・調査・測量・遺物取り上げ，Ⅲ～Ⅶ層：控え部分調査，Z～d-20～25区Ⅶ層：（無遺物層）重機掘削，Ⅷ・Ⅸ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，X層以下：旧石器確認調査，X～a-18～20区Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，Ⅴ層上面：遺構検出・実測，Ⅴ・Ⅵ層（無遺物層）：重機掘削，Ⅶ層上面遺構検出，Ⅶ層（無遺物層）：重機掘削，Ⅷ・Ⅸ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，R～Z-12～17区Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，Ⅴ層上面：遺構検出・実測，g・h-37～39区Ⅴ・Ⅵ層（無遺物層）：重機掘削。

2月 a～g-18～28区Ⅲ・Ⅳ層：遺構調査・測量・遺物取り上げ，a-18～20区Ⅶ層（無遺物層）：重機掘削，Ⅷ・Ⅸ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，X層以下：旧石器確認調査，R～Z-12～17区Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，Ⅴ層上面：遺構検出・実測。

令和3年度

6月 調査開始。環境整備，グリッド設定・設置。A～Q-1～15区表土重機掘削，Ⅲ層：掘り下げ，遺構検出・実測・写真撮影・遺物取り上げ，Y～b-16～19区Ⅲ層：上面清掃。

7月 A～Q-1～15区表土重機掘削，Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測・写真撮影・遺物取り上げ。整理作業

8月 A～Q-1～15区Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測写真撮影・遺物取り上げ。

9月 A～Q-1～15区Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測・写真撮影・遺物取り上げ，Ⅴ層上面：遺構検出・実測。整理作業

10月 A～Q-1～15区Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測・写真撮影・遺物取り上げ，Ⅴ層上面：遺構検出・実測，Ⅴ～Ⅶ層（無遺物層）：重機掘削，Ⅷ・Ⅸ層：遺構検出・調査。整理作業

11月 A～Q-1～15区Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測・写真撮影・遺物取り上げ，Ⅴ層上面：遺構検出・実測，Ⅴ～Ⅶ層（無遺物層）：重機掘削，Ⅷ・Ⅸ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ。整理作業

12月 A～Q-1～15区表土掘削，Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測・写真撮影・遺物取り上げ，Ⅴ層上面：遺構検出・実測，Ⅴ～Ⅶ層（無遺物層）重機掘削，Ⅷ・Ⅸ層：遺構検出・実測・写真撮影・遺物取り上げ，

1月 A～Q-1～15区Ⅲ・Ⅳ層：遺構検出・実測・写真撮影・遺物取り上げ，Ⅴ層上面：遺構検出・実測，Ⅴ～Ⅶ層（無遺物層）：重機掘削，Ⅷ・Ⅸ層：遺構検出・実測・遺物取り上げ，R31区旧石器確認トレンチ，XⅠ～XⅣ層：遺構検出・測量。整理作業。27日調査終了。

第4節 整理作業・報告書作成作業

1 整理作業・報告書作成作業の概要

久保田牧遺跡の整理作業・報告書作成作業は、令和2～4年度で実施した。なお、出土遺物の洗浄及び注記・接合については、一部本調査において実施した。

整理作業・報告書作成作業は令和2年度は埋蔵文化財センター、令和4年度は埋蔵文化財センター第二整理作業所（旧福山中学校）で実施し、令和3年度は鹿児島県埋蔵文化財整理作業及び報告書作成作業（民間委託）実施要綱に基づき、大福コンサルタント株式会社へ整理作業及び報告書作成作業業務を委託し実施した。

整理作業・報告書作成作業の内容は、以下のとおりである。

- ①遺構実測図と図面台帳の照合、遺構ごとに実測図の仕分け、注記、トレース原図作成及びトレース
- ②遺構内出土遺物と包含層出土遺物の仕分け、遺物と遺物台帳との照合、遺構内出土遺物と遺構実測図との照合、分類
- ③出土遺物の注記、選別、接合、復元、分類、掲載資料の選別、実測、土器の拓本、トレース
- ④石器実測委託、自然科学分析（年代測定・樹種同定・植物珪酸体分析・テフラ分析）業務委託
- ⑤レイアウト、原稿執筆

2 整理作業・報告書作成作業体制

整理・報告書作成作業に関する体制は、以下のとおりである。

令和2年度

事業主体	鹿児島県
調査主体	鹿児島県教育委員会
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課
作成統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長	前迫 亮一
作成企画	次長兼総務課長 野間口 誠
調査課長兼南の縄文調査室長	中村 和美
第二調査係長	横手浩二郎
作成担当	文化財主事 浅田 剛士
文化財研究員	倉元 良文
事務担当	主幹兼総務係長 山下 勝史

令和3年度

事業主体	鹿児島県
調査主体	鹿児島県教育委員会
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課
作成統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長	中原 一成
作成企画	次長兼総務課長 大口 浩嗣
調査課長兼南の縄文調査室長	寺原 徹
第二調査係長	西園 勝彦
作成担当	文化財主事 馬籠 亮道
文化財主事	山形 敏行
事務担当	主幹兼総務係長 山下 勝史

令和4年度

事業主体	鹿児島県
調査主体	鹿児島県教育委員会
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課
作成統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長	中原 一成
作成企画	次長兼総務課長 大口 浩嗣
調査課長兼南の縄文調査室長	寺原 徹
第二調査係長	西園 勝彦
作成担当	文化財主事 山形 敏行
文化財研究員	森 えりこ
事務担当	総務係長 白坂 由香

3 整理作業・報告書作成作業業務の委託

令和3年度の整理作業及び報告書作成作業業務の委託内容については、以下のとおりである。

委託先 大福コンサルタント株式会社

主任調査員 上田 耕
調査員 倉本るみ子
〃 川俣 幸次
〃 重久 淳一

委託名 久保田牧遺跡埋蔵文化財整理作業及び報告書作成作業業務委託
委託期間 令和3年5月12日～令和4年3月11日
作業期間 令和3年6月7日～令和4年2月10日
委託内容 報告書作成業務 1式
整理作業業務 1式
検査 中間検査 令和3年10月26日
完成検査 令和4年3月8日

4 調査の経過

整理作業については、日誌抄を月ごとに集約して記した。

令和2年度

5～9月 遺物確認、遺物水洗、注記。
10月 遺物確認、遺物水洗、注記、石器実測委託。
11～1月 遺物確認、遺物水洗、注記。
2月 遺物確認、遺物水洗、注記、収納作業。17日永山修一氏整理指導。
3月 石器実測委託納品。

令和3年度（民間委託）

6月 オリエンテーション。遺物水洗、土器分類・接合データ整理、小型剥片石器実測・トレース。大型剥片石器、礫石器石材・器種分類。
7月 遺物水洗、遺物分類・接合・実測準備。自動注記機械による注記。遺構図・分布図作成・データ入力。小型剥片石器実測・トレース、大型剥片石器、礫石器石材・器種分類。
8月 遺物水洗、遺物分類・接合。自動注記機械による注記。遺構トレース図作成・データ入力。剥片石器実測・トレース。
9月 遺物分類・接合（古墳・古代～中世）自動注記機械による注記。トレース準備（統合第2原図作成）剥片石器実測・トレース。
10月 遺物分類・接合（古墳・古代～中世）、実測遺物の選別、遺構トレース。剥片石器実測
11月 遺物分類・接合（縄文）、竪穴建物遺構内遺物収納作業、実測遺物の選別、遺構トレース、遺構図面の説明記録データ入力。剥片石器実測及び陶磁器・土師器の実測。
12月 遺物分類・接合（縄文）、竪穴建物遺構内遺物収納作業、実測遺物の選別、遺構トレース、遺構図面の説明記録データ入力。剥片石器実測及び陶磁器・土師器の実測。

1月 接合（縄文）、遺物実測（土器）遺構トレース復元及び修復（須恵器・土師器）。剥片石器実測及び陶磁器・土師器の実測・トレース・写真撮影・拓本。収納前作業。
2月 復元及び修復（須恵器・土師器）。剥片石器実測及び陶磁器・土師器の実測・トレース・写真撮影・拓本。収納作業。

令和4年度

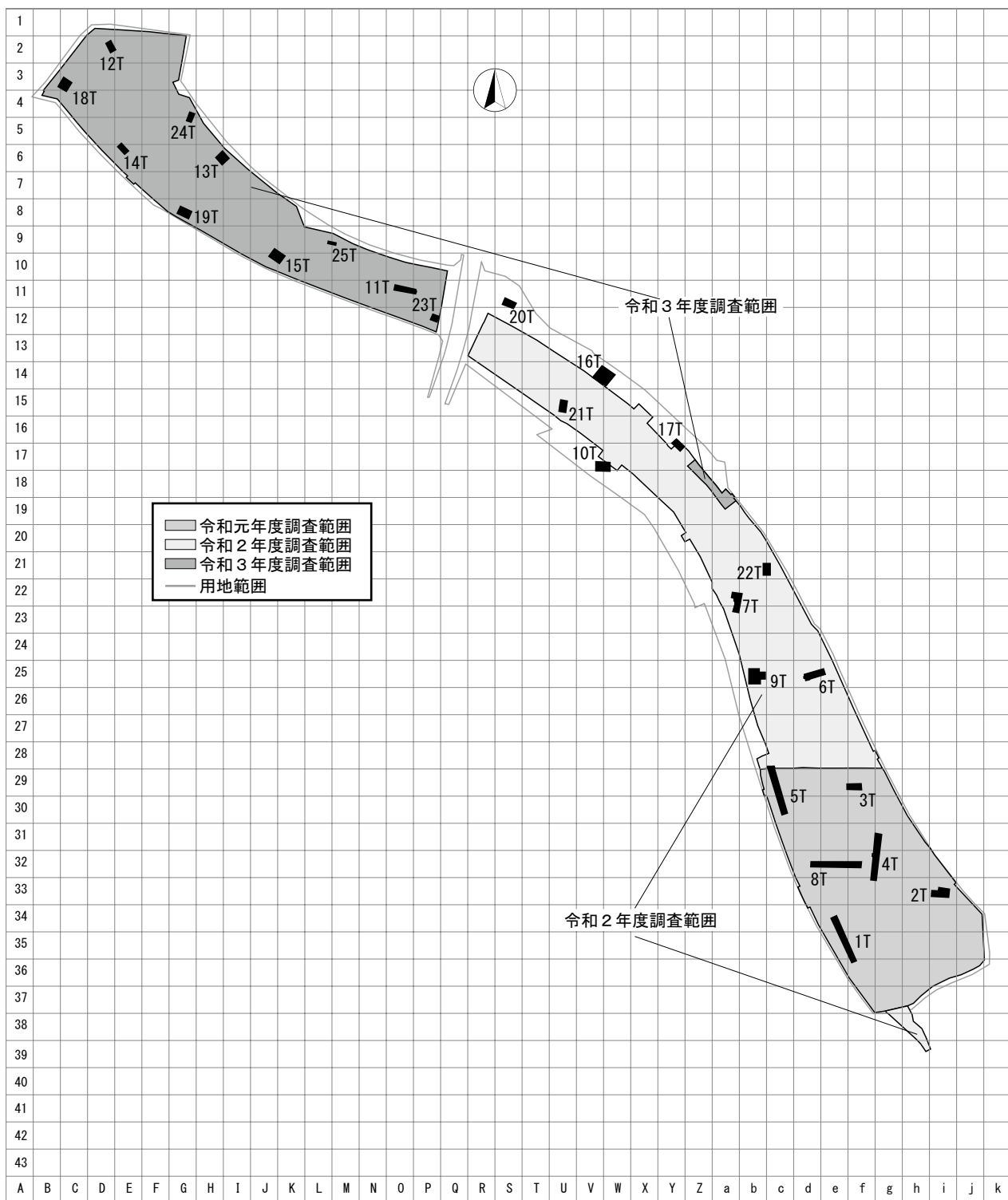
5月 オリエンテーション。遺物確認・注記・分類、図面確認、原稿執筆。
6月 土器実測・拓本、地形図・土層断面図修正、遺構図トレース、原稿執筆。
7月 土器実測・拓本・トレース、遺構図修正・トレース、原稿執筆。
8月 土器拓本・トレース・復元・着色、遺構図修正・トレース・計測表作成、本文・図面レイアウト、原稿執筆。
9月 土器復元・着色、遺構図修正・トレース・計測表作成、本文・図面レイアウト、遺物写真レイアウト、原稿執筆。
10月 土器復元・着色、本文・図面レイアウト、遺物写真レイアウト、原稿執筆、編集。
11月 本文・図面レイアウト、原稿執筆、編集、遺物写真レイアウト、写真撮影、鉄器実測・トレース。土器接合・復元・実測（次年度以降刊行分）。石器実測委託。自然科学分析。
12月 原稿執筆・編集・入稿。土器接合・復元・実測。
1月 校正、土器接合・復元・実測、石器実測。
2月 校正、土器接合・復元・実測、石器実測、収納作業。
3月 報告書納品、石器実測委託納品。

報告書作成指導委員会

令和4年6月8日・8月2日・10月5日・11月8日・11月28日 調査課長ほか7名

報告書作成検討委員会

令和4年11月30日 所長ほか5名



(1グリッド10m)

第1図 グリッド配置図及び年度別調査範囲図

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

久保田牧遺跡が所在する鹿屋市吾平町は、鹿児島県の東部を形成する大隅半島のほぼ中央部に位置する。鹿屋市は、平成18年1月1日に旧鹿屋市と肝属郡の吾平町・串良町、曾於郡の輝北町が合併し成立した。東に東串良町と肝付町（旧高山町）、南西に錦江町（旧大根占町）に接している。

鹿屋市吾平町は、南部の肝属山地（国見山地）、中部のシラス台地、北部の河川に沿って形成された河岸段丘及び沖積平野に区分される。南部一帯は山林、台地上には畑、河川流域には水田地帯が広がっている。

地質的には、南部の山地に黒雲母花崗岩、西部の山地に輝石安山岩・玄武岩等の火山岩、その中間地帯には砂岩・頁岩交互層等の堆積岩が分布する。北部一帯は始良カルデラを噴出源とするいわゆるシラス層からなり、始良川流域には粘土層や一部に泥岩等が分布する。

久保田牧遺跡は、始良川と大始良川に挟まれた標高41～43m前後のシラス台地の東側縁辺部に所在する。なお、本遺跡の北側には隣接して立塚遺跡が所在する。

第2節 歴史的環境

鹿屋市吾平町における遺跡の分布を見ると、南部の山地帯には少なく、肝属川支流の始良川と大始良川に挟まれた中部の舌状に延びたシラス台地から、北部の河岸段丘及び沖積地にかけて遺跡が集中している傾向が伺える。ここでは、鹿屋市内と旧吾平町域における主な遺跡を時代ごとに紹介する。

旧石器時代

鹿屋市の国道220号線バイパス建設に伴い、榎木崎A遺跡（郷之原町）・榎木崎B遺跡（郷之原町）・西丸尾遺跡（白水町）等で調査が実施された。榎木崎A遺跡（郷之原町）では細石刃文化期のブロックが3か所検出され、水晶製の野岳型細石核と砂岩製の畦原型細石核が出土している。榎木崎B遺跡（郷之原町）では、ナイフ形石器と台形石器及び細石刃文化期の石器に伴い礫群9基とピット群が検出された。西丸尾遺跡（白水町）では、ナイフ形石器文化期のブロック7か所と礫群5基が検出され、石器もナイフ形石器・剥片尖頭器・三稜尖頭器や磨石・敲石等豊富な種類・量が出土している。また、細石刃文化期もブロック2か所と礫群4基が検出されている。石器も局部磨製石斧をはじめ多く出土している。榎木原遺跡（高須町）では、旧石器時代から縄文時代草創期と考えられる落とし穴が14基検出されている。

縄文時代草創期

縄文時代草創期の遺構や遺物は、桜島起源の薩摩火山灰の下層から出土し、旧石器時代細石刃文化期と重なる場合が多い。鹿屋市の西丸尾遺跡（白水町）では無文土器と石錘・礫器・敲石・石皿等が出土し、掘り込みをもたない2基の集石が検出され、墓の可能性も指摘されている。伊敷遺跡（南町）では隆帯線文土器が出土し、東日本で見られるものに近い特徴をもっている。石鏃が共伴し、集石も検出されている。

縄文時代早期

縄文時代早期になると、遺跡は大隅半島のほぼ全域に分布範囲が広がるとともに遺跡数も増加する傾向が見られる。ただ、海岸部や平野部には及んでいない。鹿屋市では鹿屋バイパス建設に伴う調査をはじめとする前畑遺跡（郷之原町）・榎木崎A遺跡（郷之原町）・飯盛ヶ丘遺跡（上野町）・西丸尾遺跡・西丸尾B遺跡（白水町）・岩ノ上遺跡（高須町）遺跡等多くの遺跡が知られている。これらの遺跡では、集石が検出されている。飯盛ヶ丘遺跡でも、集石約130基が検出されている。

旧吾平町域では、池山B遺跡で円筒状を呈し、口縁部が直行する塞ノ神式土器が出土している。このタイプは、枕崎市の奥木場遺跡からも出土している。四方高迫遺跡では、集石1基が検出され、前平式土器・石坂式土器、打製石鏃・打製石斧・磨石・石皿等が出土している。荷掛原遺跡では集石1基が検出され、打製石鏃・磨石・剥片石器が出土している。水流遺跡では集石1基が検出され、前平式土器・吉田式土器・石坂式土器・山形押型文土器・阿高式土器が出土している。原口岡遺跡では集石6基が検出され、前平式土器・吉田式土器・石坂式土器・磨製石鏃・剥片石器・石斧・石皿・砥石等が出土している。和田遺跡では集石28基、連穴土坑2基が検出され、加栗山式土器・吉田式土器・石坂式土器・下剥峯式土器・辻タイプ土器・中原式系土器・磨製石鏃・打製石鏃・磨製石斧・打製石斧・磨石・石皿・砥石等が出土している。川上遺跡では石坂式土器・塞ノ神式土器・苦浜式土器等が出土し、特に西之蘭式土器は、アカホヤ火山灰下位層から出土している。

縄文時代前期

縄文時代前期の遺跡数はやや少なくなり、轟式土器・曾畑式土器に代表される汎九州的な様相が強くなる。神野牧遺跡（西祓川町）・榎木原遺跡（高須町）等で、轟B式土器・曾畑式土器・深浦式土器が見られる。

旧吾平町域では、前木場遺跡・箕損原遺跡・新地上遺

跡で曾畑式土器が出土している。鶯原遺跡では集石遺構6基・石器製作跡5か所が検出され、下剥峯式土器・押型文土器・手向山式土器等が出土し、猫塚遺跡では轟B式土器が県内2例目となる池田降下軽石層とアカホヤ火山灰下位層に挟まれた地層から出土している。

縄文時代中期

縄文時代中期は、阿高式土器・岩崎式土器に見られる凹線文を施す南九州的な土器と、瀬戸内系の船元式土器や関東地方の加曾利式土器との関連をうかがわせるキャリパー形の春日式土器が出土するようになるが、それらが共伴することは少ない。また、大隅地方においては、阿高式土器は少ない。榎木原遺跡（高須町）でも春日式土器と船元式・黒木式土器が出土したほか、この時期では希少な竪穴住居跡5軒が検出されている。また、春日式土器と船元式土器が共伴している。

旧吾平町域では、簗損原遺跡・鏡原遺跡で阿高式土器が出土している。

縄文時代後期

縄文時代後期は、指宿式土器・市来式土器を中心とした南九州色の強い文化が発達した時期である。また、貝塚が形成されたり、南島や北部九州までこの頃の土器が見られるなど海との関わりを強く伺わせる時期でもある。榎田下遺跡（大浦町）・鎮守ヶ迫遺跡でまとまった遺物が出土している。鎮守ヶ迫遺跡では、宮崎県でよく出土する綾式土器も見られる。前田遺跡では、開聞岳起源の黄ゴラ火山灰を挟んで指宿式土器が出土している。中原遺跡では在地の土器に混ざって瀬戸内地方の磨消縄文系の土器が多く確認されている。瀬戸内系の土器としては、中津式系・福田KⅡ式・彦崎KⅠ式・津雲A式系土器等が見られる。

旧吾平町域では、四方高迫遺跡で指宿式土器が出土している。菌入寺跡遺跡・立元遺跡・鏡原遺跡・苦野原遺跡では、市来式土器・指宿式土器が出土している。

縄文時代晩期

縄文時代晩期は、後期から続く遺跡が多く、後期とほぼ同じような遺跡の在り方である。後期と大きく異なる点は土掘具と思われる扁平打製石器が、著しく増加することである。このことが縄文時代の農耕に直接結びつくという考え方には未だ問題は残るとしても、弥生時代の稲作農耕へと繋がるものである可能性は否定できない。また、晩期については、近年編年上で再検討が行われつつあるところで、前半の上加世田式・入佐式土器等は後期とするべきではないかとする意見もあるが、ここでは従来どおりの編年観で記述する。榎木崎B遺跡（郷之原町）・飯盛ヶ岡遺跡では前半の上加世田式土器、榎木

原遺跡（高須町）では後半の蓆目圧痕文土器が出土している。

旧吾平町域では、山内原遺跡で入佐式・夜白式土器が出土している。四方高迫遺跡では黒色研磨土器が出土している。

弥生時代

稲作農耕の開始によって始まるとされる弥生時代は北九州に始まり、間断をおかず各地に広がって行ったとされている。南九州においても吹上砂丘沿岸部を中心に稲作農耕を思わせる前期の遺跡が見られる。

大隅半島においては、前期の遺跡は見られるが遺跡の規模としては小さく、分布も散発的である。中期になると遺跡の数も規模も爆発的に増加する。弥生時代中期を代表する山ノ口式土器は、大隅式土器と呼ばれていたように大隅半島の各地で発見されている。鹿屋バイパス建設に伴う調査では、王子遺跡（王子町）をはじめ中ノ原遺跡・中ノ丸遺跡（大浦町）・前畑遺跡・中原山野遺跡・飯盛ヶ岡遺跡と相次いで集落跡が発見されている。中でも王子遺跡は、竪穴住居27軒、棟持柱を有する掘立柱建物跡6棟、掘立柱建物跡8棟、土坑を有する建物（1間×1間）2棟とそれまでの南九州の弥生時代の様相を一変する内容を誇り、「クニ」を彷彿させる遺跡として全国的な保存運動にまで発展した。また、矢羽状透かしを有する高坏や凹線文土器が出土し、瀬戸内地方、特に愛媛周辺との交流が盛んであったことが判明した。中ノ丸遺跡の山ノ口式土器の壺型土器には、口唇部に櫛描波状文が施されているものがあり、器形の変化も合わせ、後期に下る可能性があるものとして注目される。肝属川流域を中心とした肥沃な土地に弥生文化が根付いていたことがうかがわれる状況を示している。しかしながら、後期になると遺跡の数は減少し、鎮守ヶ迫遺跡等で後期の松木菌式土器が出土する程度で、集落遺跡は発見されていない。旧吾平町域では弥生時代前期の立元遺跡・鏡原遺跡、弥生時代中期には完形の壺形土器が出土した町頭遺跡・石包丁が出土した新地上遺跡等がある。名主原遺跡では、弥生時代終末頃の花弁状住居跡をはじめとする竪穴住居群が多数検出されている。また、同心円文や重弧文等幾何学的な沈線文様が施された壺形土器が出土している。

古墳時代

稲作農耕を基盤とした弥生時代以降階級社会が発展し、「クニ」が形成されていった。さらに「クニ」は統廃合され、大きな力を持つ権力者（王）が出現する。その最も大きなものが「倭国」を統一した大和地方を基盤とするものであろう。権力者たちは、その力を誇示するために地上に盛り土をした大きな墓を造るようになる。

これが今日古墳と呼ばれるもので、中央権力の波及の様相を示すものである。鹿児島県内においても、志布志湾沿岸・西海岸沿い等に高塚古墳が築かれ、中央勢力の影響が及んでいることが知られている。また、周辺地域には、南九州特有の地下式横穴墓が存在する。地下式横穴墓は、群集することが多く、高塚古墳と共存することもある。分布を見ると、西は短甲が副葬されていた祓川地下式横穴墓（西祓川町）、東は京ノ峯遺跡（曾於市松山町）と肝属川流域、志布志湾沿岸部に集中している。この地域の地下式横穴墓のうち、古いタイプのものには軽石製組合石棺が使用されているものがある。旧吾平町域では中尾地下式横穴墓群で地下式横穴墓が8基が検出され、副葬品としては円頭太刀や鈴等の県内では出土例が稀なものがある。その中で特に注目されるのは6号墓から出土した象嵌装太刀であり、鏝の両面、葉佩、柄頭の3か所に施されているもので、県内においては類例を見ないものである。宮ノ上地下式横穴墓群では地下式横穴墓が15基検出され、平入りと妻入りが共存し、軽石製組合石棺を有するものが2基（いずれも妻入り）確認されている。天神原地下式横穴墓群では地下式横穴墓が4基検出され、1号地下式横穴墓では人骨一体と軽石製石棺、2号地下式横穴墓では粘土床や軽石板とともに、副葬品として、直刀、鉄刀・刀子・鉄斧等が出土している。堀木田原地下式横穴墓では全長5.2mの地下式横穴墓が検出され、県内最大級の規模をもち、玄室内に粘土床を有する。副葬品として、鞘と思われる木質が残存する直刀、柄の一部を伴う鉄剣、刀子が出土している。

古墳時代の集落については南九州の古墳時代の土器として知られている成川式土器が出土している遺跡は多いが、集落として捉えられた遺跡は意外に少ない。

旧吾平町域では中尾地下式横穴墓群と隣接する集落跡が検出されており、墳墓と密接な関連があったものと考えられている。鶯原遺跡では、古道跡が約80mに及ぶものを含め5条が検出された。柵ノ下遺跡で底部はやや尖り気味の丸底で胴部が膨らみ、頸部はよく縮まり、口縁部は外反する器形の壺形土器が出土している。胴部にはすれ違う刻目突帯が1条めぐり、頸部から肩部と突帯の上下に櫛描波状文が見られるもので、在地性の強い成川式土器に畿内・瀬戸内の影響が考えられる技法が見られる注目すべき発見である。中尾Ⅲ遺跡では堅穴住居跡が1軒、溝状遺構が1条、円形周溝遺構が1基が検出され、成川式土器、須恵器が出土している。中尾遺跡Ⅳでは堅穴住居跡1軒、柱穴16基、地下式横穴墓3基が検出され、東原式土器・笹貫式土器、須恵器、土製品、鉄刀、鉄剣、刀子が出土している。

旧吾平町域では当該時期の遺構は多いものの、中尾遺跡で隣接して検出されているほかは、集落と墓の関連について明らかになっていない。

古代（奈良時代～平安時代）

大隅半島においては土師器や須恵器の出土している遺跡は多いが、調査例が少なく特筆する遺跡は少ない。宮の脇遺跡（花岡町）では、青銅器の帯金具（丸軋）が出土し、古代官位制の存在がうかがわれる資料である。

中世

中世前期においては、始良荘があったことが文献・記録等で確認できる。遺跡における水田遺構（稲株跡・溝跡等）や畠遺構（畝状遺構等）が関係するものであるが、上記の遺構で、当該時期の明確な遺構は数少ない。また、当地域の水田地帯における水田は現在では耕地整備・土壌改良等により既にほとんど改変されているが、現在に残る小字には条里呼称の名残と見られるものが多数確認されており、当該時期においても水田開発がなされていた可能性がある。中世後期については、中世城館等の存在が挙げられる。旧吾平町域では、井上城跡（井神島遺跡）・末次城跡・繁昌城跡等がある。松尾城跡では、発掘調査は行われていないが、測量調査が行われており、縄張り等が明らかになっている。山古城跡では、『始良名勝志』『三國名勝図会』などで、「平判官」（平良宗）が居城したと伝えられている。

【引用・参考文献】

吾平町教育委員会

- 1985『山内原遺跡・大牟礼遺跡・中原遺跡』（1）
- 1987『宮ノ上地下式横穴群・松下城遺跡・大牟礼遺跡』（2）
- 1988『前木場遺跡』（3）
- 1989『前木場遺跡・モタイ坂遺跡・蘭入寺跡遺跡』（4）
- 1989『天神原地下式横穴群』（5）
- 1990『名主原遺跡・荷掛原遺跡』（7）
- 1990『水流遺跡・横井坂遺跡』（8）
- 1992『筒ヶ迫遺跡・荷掛原遺跡』（10）
- 1994『原口岡遺跡』（11）
- 1994『中尾Ⅲ遺跡』（14）
- 1998『中尾地下式横穴群』（15）
- 2004『和田遺跡』（17）
- 2005『中尾遺跡Ⅳ』（19）

吾平町誌編纂委員会『吾平町誌上巻』1991

鹿児島県教育委員会

- 2005『先史・古代の鹿児島（資料編）』
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 2005『中尾遺跡』（87）
- 2022『川上遺跡・鶯原遺跡・猫塚遺跡』（213）

第4表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡台帳 番号	遺跡名	所在地	地形	種類	時代	主な遺構・遺物	備考
1	203 414	久保田牧	鹿屋市吾平町籠道脇	台地	散布地	弥生・古墳・奈良・平安		本報告書
2	203 156	中牧	鹿屋市川西町	台地	散布地	弥生(中)・古墳		鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(82)
3	203 155	吉國	鹿屋市川西町境目	台地	散布地	縄文・弥生		鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(75)
4	203 21	笹ヶ尾	鹿屋市名貫町笹ヶ尾	台地	散布地	弥生(中)		
5	203 24	中牧	鹿屋市川西町中牧	台地	散布地	弥生(中)・古墳		
6	203 121	繁昌城跡	鹿屋市永野田町	台地	城館跡	南北朝・室町・戦国		
7	203 154	下牧	鹿屋市永野田町	台地	散布地	弥生・南北朝・戦国		鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(72)
8	203 50	早馬原B	鹿屋市永野田町早馬原	台地	散布地	縄文・弥生・古墳・古代・中世・近世		
9	203 20	湯穴ノ上	鹿屋市名貫町湯穴ノ上	台地	散布地	弥生(中)・古墳		
10	203 392	井神島	鹿屋市吾平町下名川東井神島	独立丘陵	散布地	弥生(中・後～終末)	土器片	
11	203 448	末次城跡	鹿屋市吾平町下名川東井神島	丘陵	城館跡	鎌倉・南北朝		
12	203 157	新橋	鹿屋市川西町	台地	散布地	古墳		
13	203 207	葉師寺跡	鹿屋市永野田町	台地	社寺跡	-		
14	203 524	大堀	鹿屋市名貫町	平地	散布地	-		
15	203 463	原口岡	鹿屋市吾平町下名東	平地	散布地	縄文(早)	前平式土器・吉田式土器・石坂式土器・下剥峰式土器・石斧・磨製石鏃・石皿・砥石・剥片石器	吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書(11)
16	203 525	鼻切	鹿屋市名貫町	平地	散布地	-		
17	203 397	名玉原	鹿屋市吾平町下名川西名玉	台地	散布地	弥生・古墳・奈良・平安	弥生土器・成川式土器, 土師器, 須恵器	吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書(7) 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(84)
18	203 8	菖蒲	鹿屋市飯隈町菖蒲	台地	散布地	縄文・弥生・古墳		鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(77)
19	203 526	牧	鹿屋市萩塚町	平地	散布地	-		
20	203 527	菖蒲ヶ追	鹿屋市飯隈町	平地	散布地	-		
21	203 521	井牟田原	鹿屋市吾平町下名	平地	散布地	弥生		
22	203 398	川上	鹿屋市吾平町籠川上	台地	散布地	縄文(早)・弥生	石坂式土器・下剥峰式土器・押型文土器・手向山式土器・平裾式土器・壺ノ神式土器・苦浜式土器・石京西式土器・石皿・磨石・磨製石斧・礫器・石核・打製石鏃・スクレイパー・剥片・チップ	
23	203 401	堀木田	鹿屋市吾平町籠堀木田	平地	散布地	弥生(中・後～終末)	甕棺, 弥生土器, 打製石斧	
24	203 399	鶯原	鹿屋市吾平町籠鶯原	台地	散布地	縄文(早)・弥生・古墳・古代	石坂式土器・下剥峰式土器・押型文土器・手向山式土器・平裾式土器・壺ノ神式土器・苦浜式土器・石京西式土器・石皿・磨石・磨製石斧・礫器・石核・打製石鏃・スクレイパー・剥片・チップ	
25	203 400	和泉田原	鹿屋市吾平町籠和泉田原	台地	散布地	弥生・古墳・奈良・平安	弥生土器・成川式土器, 土師器, 須恵器	
26	203 6	飯隈	鹿屋市飯隈町飯隈牧	台地	散布地	弥生・古墳		
27	203 479	八万里	鹿屋市吾平町籠	平地	散布地	-		
28	203 405	椿の下	鹿屋市吾平町籠椿下	平地	散布地	弥生(中)・古墳	成川式櫛目文壺	
29	203 412	霧島原	鹿屋市吾平町籠霧島原	台地	散布地	弥生・古墳・奈良・平安	弥生土器・成川式土器, 土師器, 須恵器	
30	203 29	池ノ追	鹿屋市飯隈町池ノ追上	台地	散布地	弥生・古墳		
31	203 402	堀木田原	鹿屋市吾平町籠堀木田	台地	散布地	弥生・奈良・平安	地下式横穴, 土器片	
32	203 457	堀木田原 地下式横穴	鹿屋市吾平町籠堀木田原	台地	散布地	古墳	直刀・剣・刀子	
33	203 447	山古城跡	鹿屋市吾平町籠城ヶ追原城山	丘陵	城館跡	平安・室町	上古平判官と申人数代居住, 近世初頭島津氏支配, 回り八町, 高さ十間	「始良名勝志」 「三國名勝図絵」
34	203 406	城ヶ追原	鹿屋市吾平町籠城ヶ追原	台地	散布地	弥生	土器	
35	203 7	小牧	鹿屋市萩塚町小牧	台地	散布地	弥生		
36	203 480	八反田	鹿屋市吾平町籠	平地	散布地	-		
37	203 465	廣牧	鹿屋市吾平町籠字廣牧	台地	散布地	古墳	土器	
38	203 452	地頭館 仮屋跡	鹿屋市吾平町籠山古城南山麓	平地	散布地	平安・室町・近世	上古平判官居館跡, 島津の地頭初代以降(天正から)	
39	203 233	諏訪神社跡	鹿屋市萩塚町	台地	社寺跡	-		
40	203 411	寺ヶ追 古墳群	鹿屋市吾平町籠寺ヶ追	台地	散布地	弥生(中)・古墳	円墳, 須恵器	
41	203 410	三角原	鹿屋市吾平町籠三角原	台地	散布地	弥生・奈良・平安	土器片, 土師器, 須恵器	
42	203 407	千手院(坂)	鹿屋市吾平町籠千手院	台地	散布地	弥生(後～終末)・古墳・奈良・平安	土器	
43	203 408	宮ノ上 地下式横穴	鹿屋市吾平町籠宮ノ上吾平小校庭	台地	散布地	古墳	地下式横穴(軽石石棺), 土器, 直刀, 刀子	吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)
44	203 241	石佛	鹿屋市飯隈町	台地	散布地	中世		

番号	遺跡台帳 番号	遺跡名	所在地	地形	種類	時代	主な遺構・遺物	備考	
45	203	403	六条原	鹿屋市吾平町麓六条原	台地	散布地	弥生・古墳	土器片, 土師器, 須恵器	
46	203	528	立塚	鹿屋市吾平町	台地	散布地	縄文・弥生		
47	203	120	年貫城跡	鹿屋市南町年貫	台地	城館跡	中世・近世・近現代		
48	203	198	終原軽砂切 目王寺跡	鹿屋市南町	台地	社寺跡	戦国		
49	203	3	上原	鹿屋市南町上原	台地	散布地	縄文(後)・弥生・古墳		
50	203	409	宮ノ前 (鶴戸神社脇)	鹿屋市吾平町麓宮ノ前鶴戸神社脇	平地	散布地	弥生(中)	弥生壺形土器	
51	203	109	西侯城跡	鹿屋市南町	台地	城館跡	鎌倉・南北朝・戦国		
52	203	86	牧ノ原	鹿屋市南町牧ノ原	台地	散布地	縄文(晩)		
53	203	1	本坊	鹿屋市南町本坊六ノ里	台地	散布地	縄文(後・晩)・弥生・古墳		
54	203	41	町頭	鹿屋市吾平町麓町頭	平地	散布地	弥生(中)	弥生壺形土器	
55	203	415	反田原	鹿屋市吾平町麓反田原	台地	散布地	縄文・弥生・奈良・平安	土器, 土師器, 須恵器	
56	203	203	本房寺跡	鹿屋市南町	台地	社寺跡			
57	203	416	赤野原	鹿屋市吾平町麓赤野原	台地	散布地	弥生(中)	弥生土器, 石斧	
58	203	506	山野原	鹿屋市吾平町麓	台地	散布地	弥生・古墳・近世		
59	203	423	モタイ坂	鹿屋市吾平町上名モタイ坂	台地	散布地	弥生(中)・古墳	弥生土器・成川式土器, 打製石斧	吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)
60	203	418	猫塚	鹿屋市吾平町麓猫尾	台地	散布地	弥生・古墳・奈良・平安	石板式土器・下割釜式土器・壺ノ神式土器・平椀式土器・轟B式土器・成川式土器, 土師器, 須恵器, スクレイパー・打製石鏃	
61	203	417	境原	鹿屋市吾平町麓境原	台地	散布地	弥生・古墳・奈良・平安	阿高式土器・市来式土器, 石器	
62	203	472	住吉	鹿屋市南町	台地	散布地	古墳		
63	203	2	島元	鹿屋市南町島元	台地	散布地	弥生・古墳		
64	203	464	打越	鹿屋市吾平町赤野字打越	台地	散布地	古墳		
65	203	424	新地上	鹿屋市吾平町上名新地上	台地	散布地	縄文(前)・弥生(初頭～前・中)	曾畑式土器・弥生土器, 石匙, 石包丁	
66	203	435	大久保迫	鹿屋市吾平町上名大久保迫	台地	散布地	縄文・弥生	縄文土器・弥生土器	
67	203	436	中尾	鹿屋市吾平町上名中尾	台地	散布地	縄文・弥生・古墳	縄文土器(早・晩)・弥生土器・成川式土器	吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書(14・15-19) 県埋七発掘調査報告書(87)
68	203	468	蘭入寺跡	鹿屋市吾平町上名西目川路糞損原	平地	社寺跡	縄文(後)・鎌倉	指宿式土器・市来式土器・成川式土器, 石斧・石皿	吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)
69	203	453	上名西目川路 の逆修塔群	鹿屋市吾平町上名西目川路	平地	散布地	鎌倉・南北朝・室町・戦国		
70	203	422	前木場	鹿屋市吾平町上名前木場	台地	散布地	縄文・弥生(中・後期～終末)・古墳	縄文土器・弥生土器・成川式土器, 土師器, 須恵器	吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書(3) 吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)
71	203	425	西迫	鹿屋市吾平町上名西迫	台地	散布地	弥生(中)	土器片, 石斧	
72	203	204	浄光寺跡	鹿屋市南町	台地	社寺跡	-		
73	203	426	白坂原	鹿屋市吾平町上名白坂原	台地	散布地	弥生・古墳・奈良・平安	弥生土器・成川式土器, 土師器	鹿屋市埋蔵文化財調査報告書(89)
74	203	507	田原上	鹿屋市吾平町上名	台地	散布地	弥生・古墳		
75	203	419	糞損原	鹿屋市吾平町上名西目川路糞損原	台地	散布地	縄文・弥生・古墳	曾畑式土器, 阿高式土器, 石斧	
76	203	438	鏡原上	鹿屋市吾平町上名鏡原	台地	散布地	弥生(中・後～終末)	弥生土器, 片石斧	
77	203	439	諏訪尾	鹿屋市吾平町上名諏訪尾	台地	散布地	弥生(中・後～終末)	弥生土器, 土師器	
78	203	466	軍宮下	鹿屋市吾平町上名	平地	散布地	弥生・古墳		
79	203	437	鏡原	鹿屋市吾平町上名鏡原	台地	散布地	縄文(中・後)・弥生・古墳	市来式土器・阿高式土器・弥生土器・成川式土器, 土師器, 磨製石斧	
80	203	427	杵ヶ尾	鹿屋市吾平町上名杵ヶ尾	山地	散布地	弥生	石斧	
81	203	450	松下城跡	鹿屋市吾平町上名西楯	台地	城館跡	室町～江戸	郭筒ヶ迫城跡の前哨陣地としての役割	吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)
82	203	455	児玉渡	鹿屋市吾平町上名児玉渡	台地	散布地	縄文(晩)・古墳	縄文式土器, 土師器	
83	203	441	渡迫	鹿屋市吾平町上名渡迫(車田)	台地	散布地	弥生(初頭～前・中)	弥生土器, 打製石斧	
84	203	449	筒ヶ迫城跡	鹿屋市吾平町上名迫門前	丘陵	城館跡	室町	天文天正の頃地頭居住回十二町, 高さ十五間, 肝属伊勢守の城跡という	「始良名勝志」 「三國名勝図絵」
85	203	431	下小原	鹿屋市吾平町上名下小原	台地	散布地	弥生・古墳	弥生土器, 土師器, 須恵器	
86	203	482	間庭	鹿屋市吾平町上名	台地	散布地	古墳		



第2図 周辺遺跡位置図

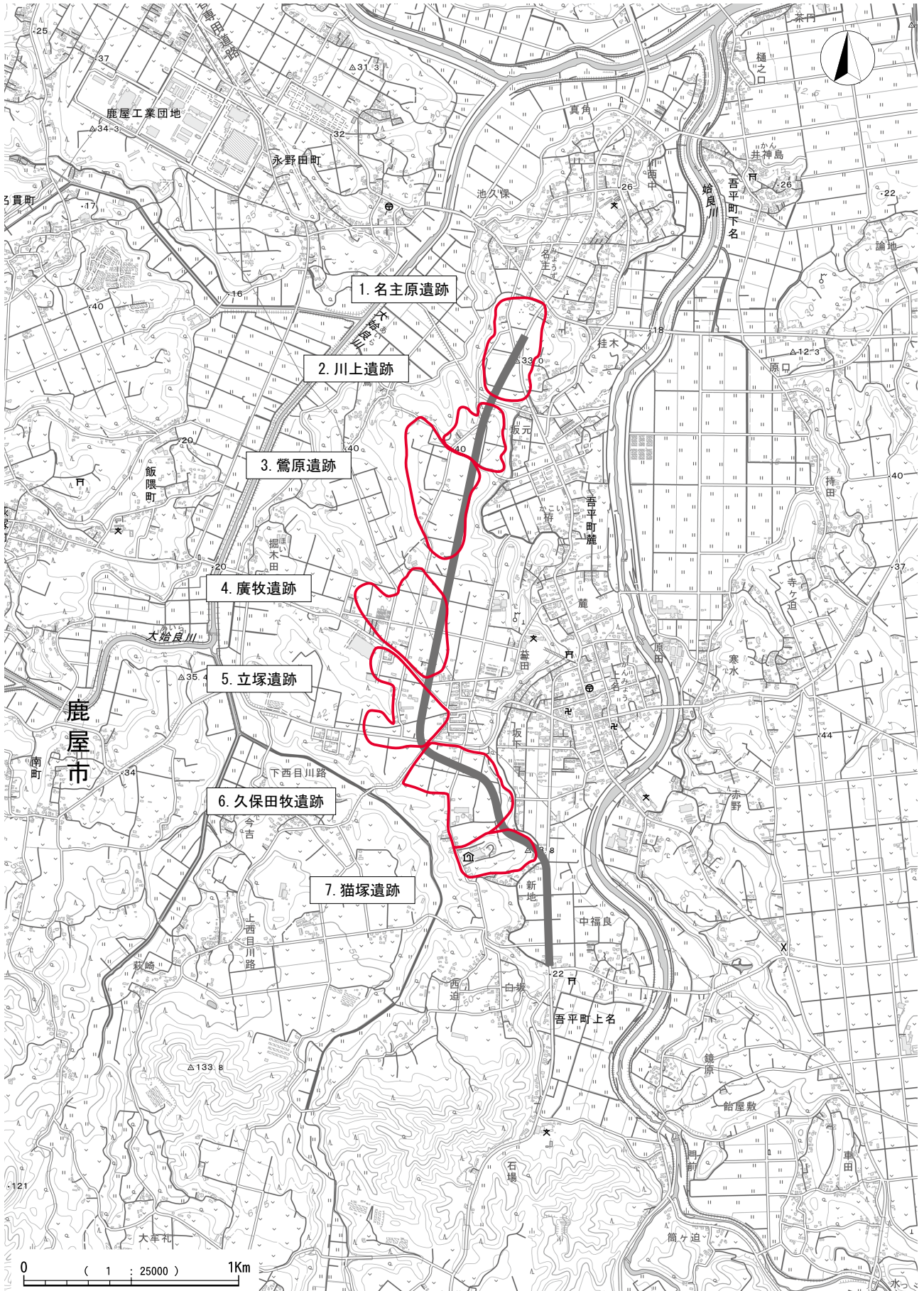
第3節 鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築事業に伴う遺跡

鹿屋吾平佐多線（吾平道路）には、第5表に示すとおり

り7か所の周知の埋蔵文化財包蔵地が存在する。ここでは調査済み及び調査中の遺跡の概要を第5表に示し、位置図を第3図に示す。

第5表 鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築事業に伴う遺跡

番号	遺跡名	所在地・立地	発掘調査	整理・報告書 作成作業	遺跡の概要		
					時代	主な遺構	主な遺物
1	名主原	鹿屋市吾平町下名 台地上 標高32～35m	昭和63年度 平成元年度終了 令和4年度 調査中	吾平町埋蔵文化財 発掘調査報告書(7)	弥生中期	-	山ノ口式土器
					古墳	-	成川式土器
					古墳	竪穴建物跡, 土坑, 地下式横穴墓, 溝状遺構	成川式土器
2	川上	鹿屋市吾平町下名 台地縁辺部 標高32～35m	平成30年度終了	令和元年度 令和3年度刊行	縄文早期	-	石坂式土器・塞ノ神(A・B)式土器・苦浜式土器・西之齒式土器, 石鏃・石皿(台石)・敲石・二次加工剥片・剥片・チップ
					弥生	円形周溝	-
3	鶯原	鹿屋市吾平町下名 台地縁辺部 標高34～38m	平成30年度終了	令和元年度 令和3年度刊行	縄文早期	集石, 石器集中(石器製作跡)	下剥峯式土器・押型文土器・手向山式土器・妙見・天道ヶ尾式土器・平橋式土器・塞ノ神(A・B)式土器・苦浜式土器・轟A式土器, 石鏃・石匙・スクレイパー・石皿・磨石・磨製石斧・礫器・石核・剥片・チップ
					弥生	-	山ノ口式土器
					古墳	古道跡	成川式土器
					古代	古道跡	-
4	廣牧	鹿屋市吾平町麓 台地縁辺部 標高34～40m	令和元年度終了	令和3年度 令和4年度 作業中	弥生	土坑, ピット	刻目突帯文土器・山ノ口式土器・弥生土器, 打製石鏃・磨製石鏃・打製石斧・剥片
					古墳	古道跡	東原式土器・中津野式土器
					古代	古道跡	土師器
5	立塚	鹿屋市吾平町麓 台地上 標高34～40m	令和2年度 令和3年度 令和4年度	令和4年度 作業中	縄文晩期～ 弥生前期	土坑, ピット	黒川式土器・無刻突帯文土器・刻目突帯文土器, 弥生土器, 打製石鏃・磨製石鏃・土製品・打製石斧・石皿・磨石・敲石・砥石・石槍・黒曜石剥片, 軽石製品
					弥生中期	-	山ノ口式土器
					古墳	-	成川式土器
					古代	ピット・柱穴, 土坑	土師器, 須恵器
6	久保田牧	鹿屋市吾平町麓 台地上 標高41～43m	令和元年度 令和2年度 令和3年度終了	令和3年度 令和4年度刊行 本報告書	縄文早期	集石	押型文土器・平橋式土器・貝殻条痕文土器, 石鏃・石匙・磨石・礫器
					縄文早期	-	轟B式土器
					縄文中期	土坑, 集石, 敲石集石 土器集中, 石器製作跡	条痕文土器・野久尾式土器, 春日式土器, 石鏃・石匙・磨製石斧・打製石斧・磨石・敲石・環石・チップ
					縄文晩期	土坑	黒川式土器
					弥生	-	山ノ口式土器
					古墳	竪穴建物跡, 土器棺, 土坑, 土器集中	成川式土器, 丹塗土器, 須恵器, 杓子型土製品, 紡錘車, 鉄製品, 棒状礫, 炭化木, 石鏃
古代	掘立柱建物跡, 土坑, 畝間状遺構, 柱穴	土師器, 黒色土器, 刻書土器, 墨書土器, 須恵器, 土錘, 石製品					
中世	掘立柱建物跡, 土坑, 溝状遺構, 古道	土師器, 須恵器, 青磁, 白磁, 陶器, 滑石製石鍋, 古銭(洪武通宝), 鉄製品					
7	猫塚	鹿屋市吾平町麓 台地縁辺部 標高43m	令和元年度終了	令和3年度刊行	縄文早期	集石	石坂式土器・下剥峯式土器・塞ノ神A式土器・鎌石橋式土器, 石鏃・スクレイパー
					縄文前期	-	轟B式土器
					古墳	土坑	成川式土器



第3図 吾平道路改築事業に係る遺跡位置図

第3章 調査の方法と層序

第1節 調査の方法

1 発掘調査の方法

久保田牧遺跡の発掘調査は、確認調査を平成30年度・令和元年度に実施した。本調査は、令和元年度から令和3年度に実施した。各年度の発掘調査の方法及び概要は以下のとおりである。

(1) 確認調査

分布調査の結果を受けて、調査対象区域内にトレンチを設定し、地層の残存状況及び遺跡の範囲を把握することに努めた。トレンチは任意の大きさで設定し、必要に応じて拡張を行った。重機により表土を除去した後、鋤簾等による人力掘削を基本として、遺構・遺物の確認を行った。遺構については、各層の上面で検出を行い、出土した遺物はトレンチ内の層ごとに一括で取り上げを行った。

(2) 本調査

本遺跡の調査区割（グリッド）は、工事用基準点DT-17（世界測地系座標 $X = -185778.177$, $Y = -10057.487$ ）と、DT-18（世界測地系座標 $X = -185847.652$, $Y = -10058.757$ ）を基に、方位を軸として10m単位で設定した。具体的には、第1図に示したように北側から南側に向かって1・2・3…、西側から東側に向かってA・B・C・（中略）・Z・a・b・c…と調査区割を設定した。

調査は用地境界などでは安全上の措置として、境界から約1.0～2.0m程度内側に控えて調査範囲を設定し、重機で表土を除去した後、遺構検出及び遺物包含層の掘り下げを人力により行った。遺構は、検出及び検出中の写真撮影、埋土堆積状況の実測を行い、完掘の写真撮影後、遺構の規模に応じた縮尺で実測を行った。また、遺構内から遺物が出土した場合はその状況に応じて撮影・取り上げ・出土状況の実測を行った。包含層中の遺物は、トータルステーションで位置を記録した後、取り上げを行った。

各年度の発掘調査の方法は以下のとおりである。

令和元年度

調査期間は令和元年6月5日から令和2年1月28日で、調査面積は4,630㎡、延べ面積は18,520㎡である。調査範囲はb～k-29～37区であり、縄文時代早期から中世までの調査を行った。調査範囲の西側はトレンチ等耕作機械の影響でいたる所で削平を受けており、深いところでIV層まで達していた。IX層までの調査終了後に、下層確認のためのトレンチ調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかったため、土層の堆積状況を記録し、調査を終了した。

令和2年度

調査期間は令和2年6月8日から令和3年2月10日で、調査面積は8,100㎡、延べ面積は19,200㎡である。調査範囲はQ～g-10～28区及びF・G-38・39区であり、縄文時代早期から中世までの調査を行った。調査範囲の南側と北西側はトレンチ等耕作機械の影響でいたる所で削平を受けており、深いところでIV層に達していた。このため、遺構の検出等に困難が生じた。また、R～X-12～16区では大規模な撓乱を受けていた。IX層までの調査終了後に、下層確認のためのトレンチ調査を行ったが、遺構・遺物の広がり確認されなかったため、土層の堆積状況を記録し調査を終了した。

令和3年度

調査期間は令和3年6月7日から令和4年1月27日で、調査面積は5,720㎡、延べ面積は12,068㎡である。調査範囲はA～Q-1～13区及び、Z・a-17～19区であり、縄文時代早期から中世までの調査を行った。Z・a-17～19区では前年度に検出した土器棺の調査を行った。I～K-6～10区ではIX層まで、その他の調査範囲ではIV層までの調査後、下層確認のためのトレンチ調査を行ったが、遺構・遺物の広がり確認されなかったため、層位の記録作業を行い、調査を終了した。

2 遺構の認定と調査方法

当時の地表面に限りなく近い位置での遺構の検出に努めたが、各地点で土層堆積状況に差が認められたり、削平により消失している部分もあったりし、さらにII層及びIII層が茶褐色を主体とした土層であったことから、遺構の構築面を捉えることは非常に困難であった。そこで、調査時には検出面、遺物出土状況、埋土の状況、床面の状況等を観察しながら慎重に検討し、さらに整理作業時には調査年度が異なる遺構について総合的に判断し、遺構の認定及び時期判断を行った。検出した遺構については、遺構の種類ごとに検出した順で遺構名と遺構番号を付した。調査の過程で遺構でない判断したものについては欠番とした。

3 整理作業・報告書作成作業の方法

整理作業・報告書作成作業は令和2年度から令和4年度に実施した。出土遺物の水洗後、注記作業を行い、注記号は遺跡名を「KUB」とし、「グリッド」、「層」、「取上番号」を記入した。遺構内出土遺物については、遺跡名の次に「区」、「遺構名」、「取上番号」を記入した。作業の効率化を図るため、ジェットマーカーも使用した。出土遺物は遺構内遺物と包含層遺物に分けた後、土器等

については形態の特徴や施文等から時期ごとに分類・接合を行った。石器は剥片石器と礫石器に分けた後、器種及び石材別に分類した。石器は作業の効率化を図るため、一部実測委託を行った。

遺構の認定・分類は、実測図や写真等を用いて再検討を行い確定した。掲載スケールを決定し、点検・修正後、デジタルトレースを行った。土層断面や遺構配置図、地形図は、点検・修正後、デジタルトレースを行った。なお、整理作業においても遺構の認定・分類を総合的に行ったことに伴い、報告書に掲載する際には新たな遺構番号を付した。

遺物出土分布図はトータルステーションで取り上げたデータを統合し、図化ソフトを使用して作成した。

令和3年度に遺物の接合、古代・中世の遺物の実測・トレース、遺構図のデジタルトレース、石器の実測・トレースを中心に行った。令和4年度に古代・中世の遺物・遺物のレイアウト、原稿執筆、観察表の作成、遺物写真撮影を終了後、印刷・製本を行った。

4 出土遺物の分類

出土遺物の時代・時期の判断は、発掘現場での出土層位を基本とした。さらに、整理作業の段階で、既存の型式等をもとに細分し、時代・時期の確定を行った。なお、各遺物の分類の基準については、各節で述べる。

第2節 層序

基本層序は以下のとおりである。確認調査及び本調査の情報をもとに作成した。

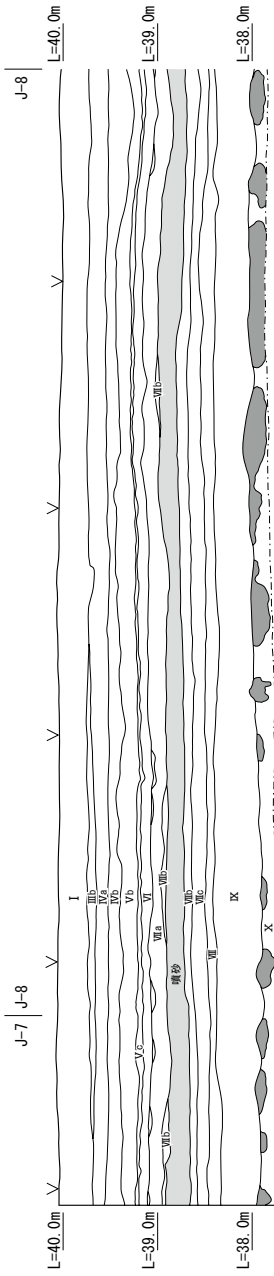
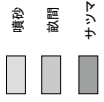
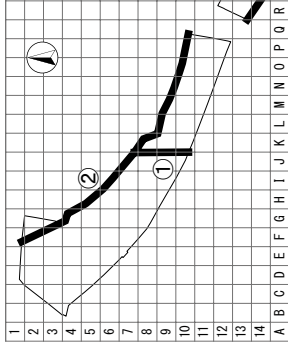
Ⅱ層は削平等により部分的にしか残存せず、Ⅰ層の耕作土下はⅢ層となる所が多いが、場所によってはⅢa層も削平されている。また、農業機械による掘削はⅣ層まで及ぶ場合もあった。Ⅶ層のアカホヤ火山灰は70cmの層厚をもつが、層中に鬼界カルデラ噴火に伴う地震による液状化現象の痕跡が確認された。この噴砂層は厚さ15～40cm程度の明瞭な砂層であり、層状に堆積している。

遺物包含層は、Ⅱ層・Ⅲa層・Ⅲb層・Ⅳ層・Ⅶ層・Ⅸ層であった。

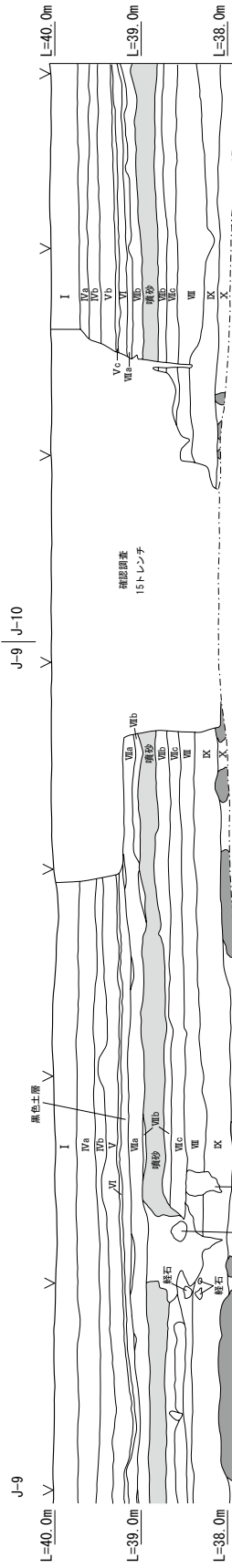
第6表 基本層序

層位	色調・特徴等	包含層・テフラ等	平均層厚(cm)
I	暗褐色土層, しまりなし	耕作土	40
II	茶褐色土層, オレンジパミスを含む	古代～中世の包含層	5～10
Ⅲa	明茶褐色土層, しまり弱い, 紫コラ火山灰を一部含む	古代～中世の包含層	30
Ⅲb	暗茶褐色土層, Ⅲaと比べるしまりやや強い	古墳時代～古代の包含層	
IV	黒褐色土層, 場所により茶褐色土と黒褐色土に2分層できる	縄文時代中期～晩期の包含層	30
Va	黄白色硬質土と灰白色砂がラミナ状に堆積した層	池田湖火山灰	20
Vb	黄色軽石層	池田降下軽石	
Vc	灰色小礫層	尾下スコリア	2～3
VI	極暗赤褐色土層		10
Ⅶa	褐色土層	アカホヤ火山灰	70
Ⅶb	赤褐色土層	アカホヤ火山灰	
噴砂層	白色砂質土層	鬼界カルデラ噴火に伴う地震による液状化	
Ⅶb	赤褐色土層	アカホヤ火山灰	
Ⅶc	赤褐色土砂粒層	幸屋降下軽石	
Ⅷ	暗褐色土層	縄文時代早期の包含層	30
Ⅸ	黒褐色土層	縄文時代早期の包含層	20
X	暗褐色粘質土層	黄色パミス(P14)を含む	20
X I	極暗褐色粘質土層	チョコ層相当層	20
X II	暗褐色粘質土層		20
X III	褐色土層, しまり強い		10～20
X IV	明褐色土層, しまりX III層より強い	赤褐色軽石を含む	-

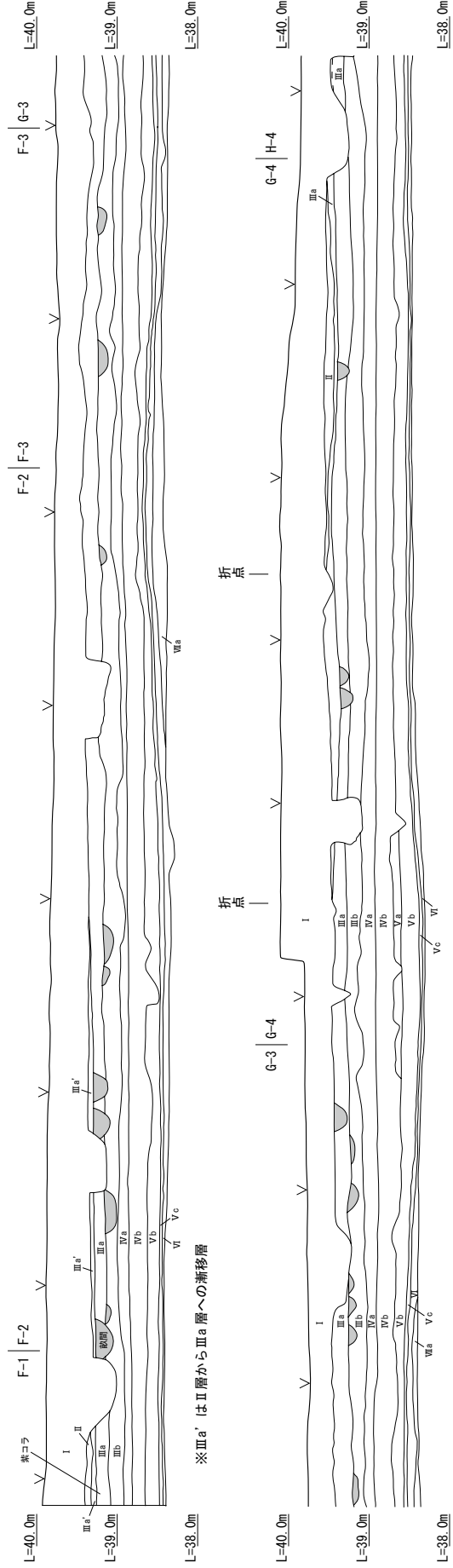
① J-7 ~ 10 区東壁



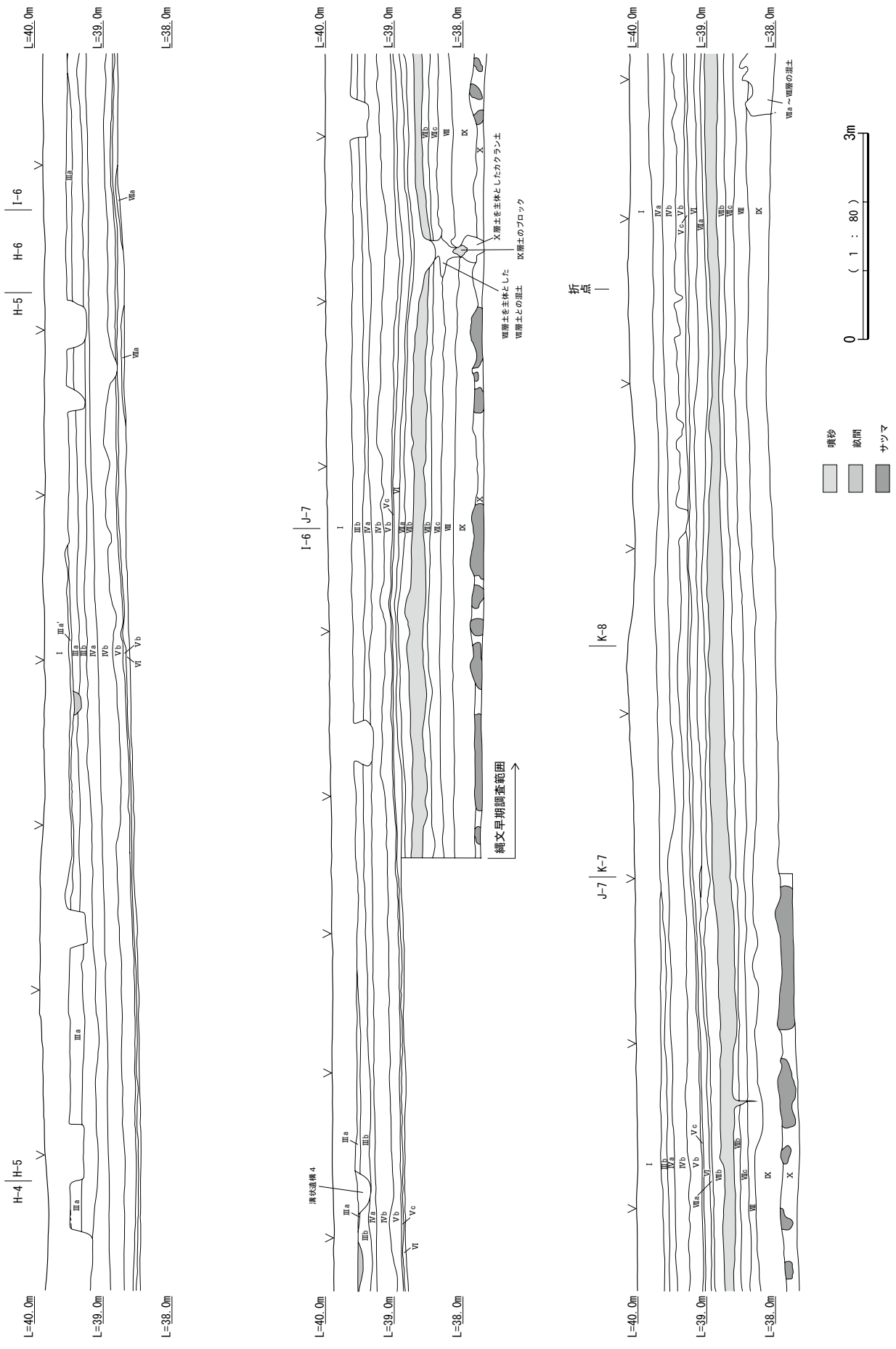
② F ~ Q-1 ~ 10 区北壁



③ F ~ Q-1 ~ 10 区北壁

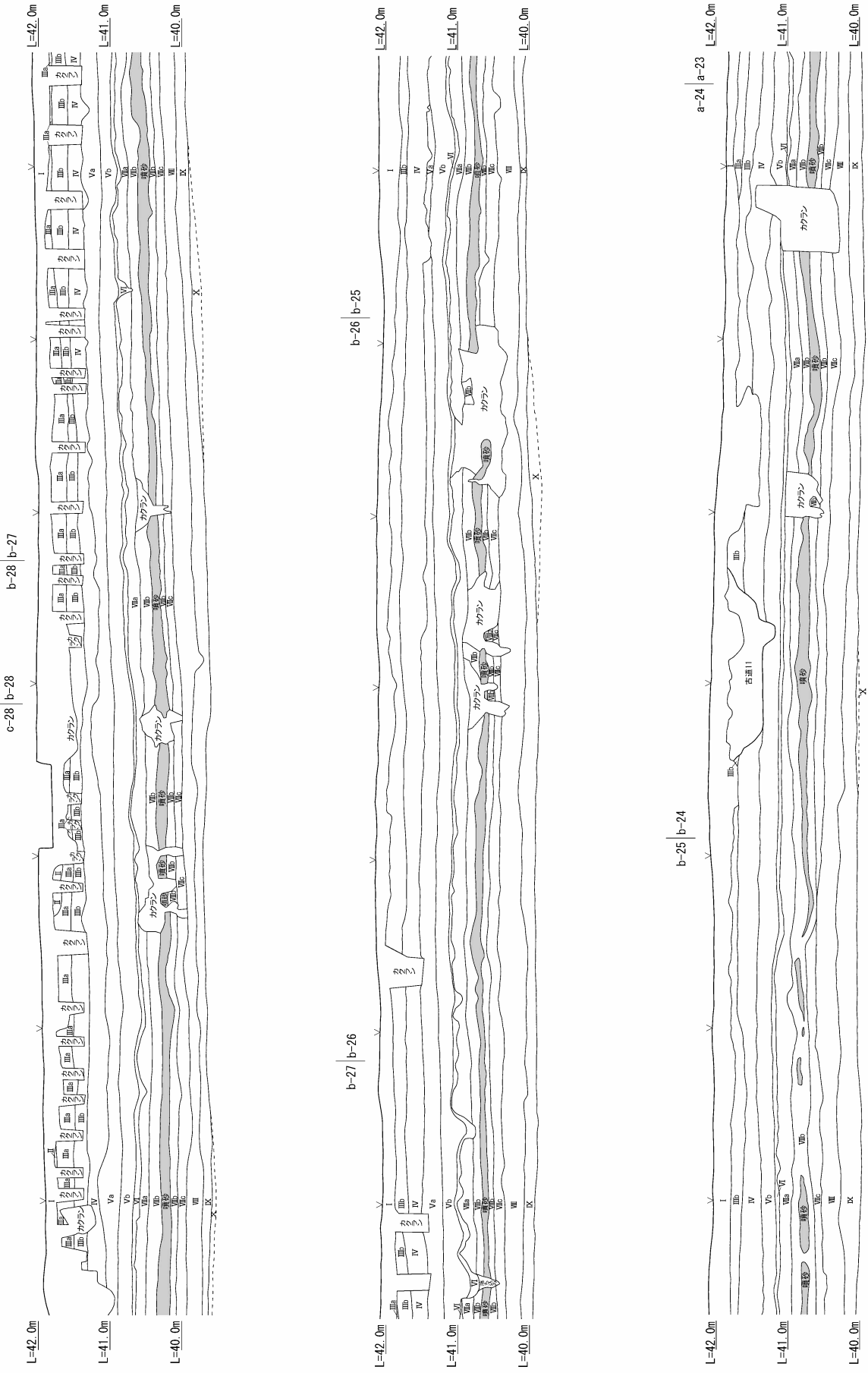


第4図 土層断面図1

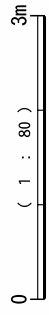
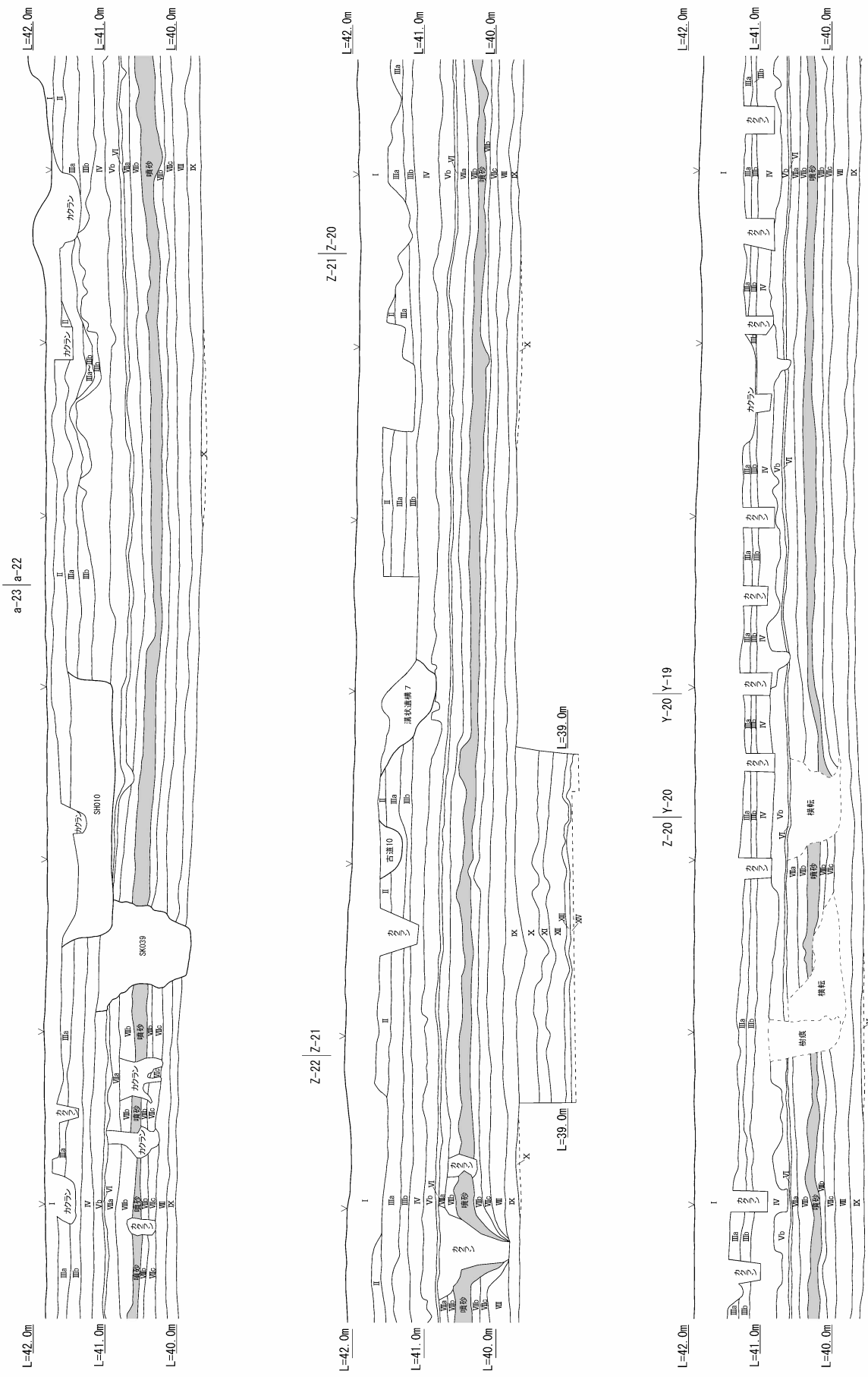


第5図 土層断面図2

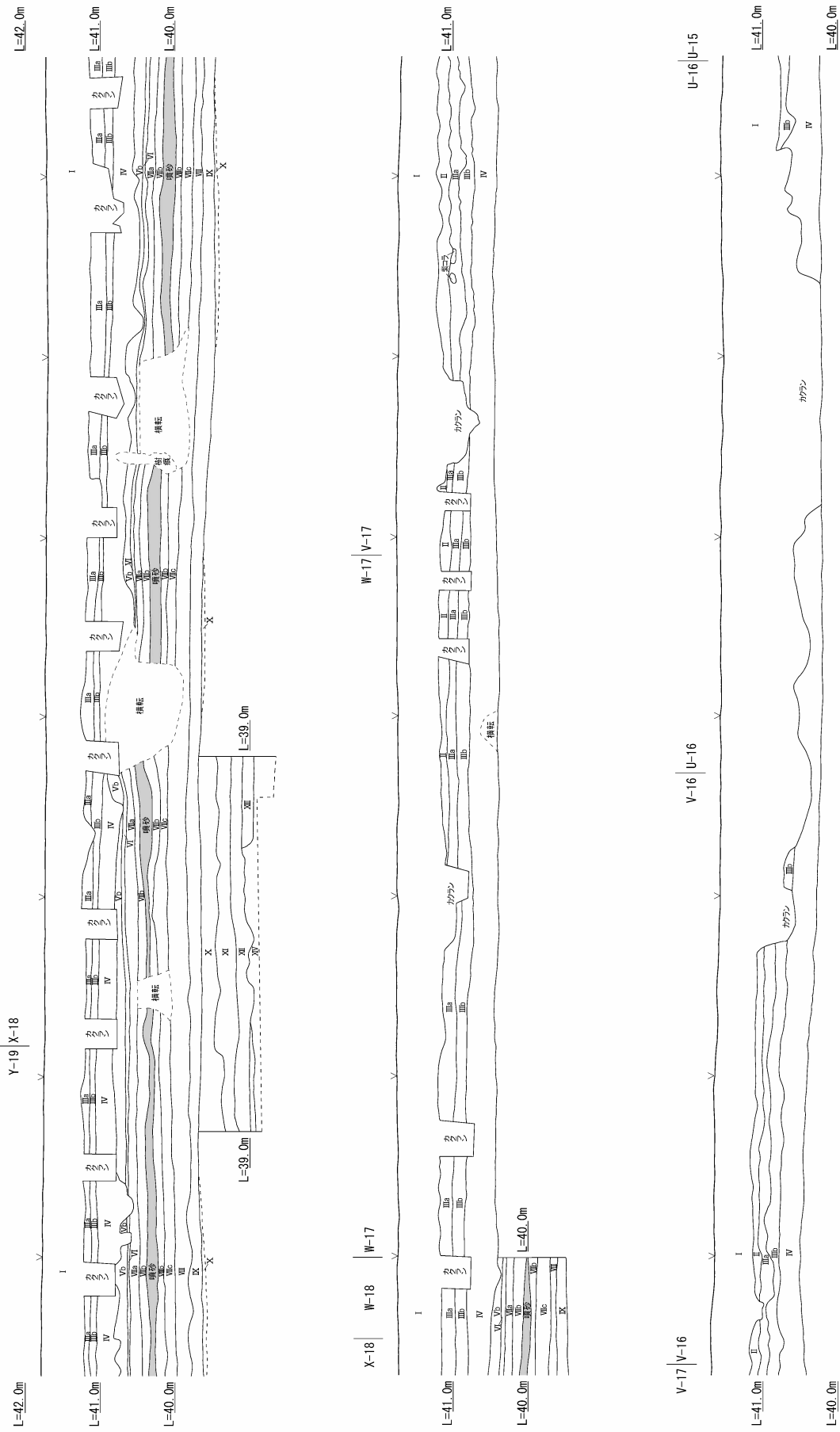
③ R c-13 ~ 28 区西壁



第7図 土層断面図4

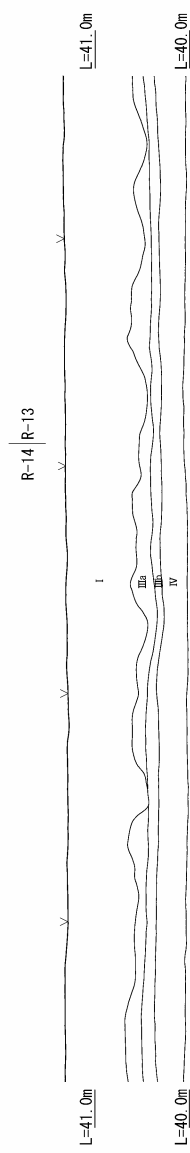
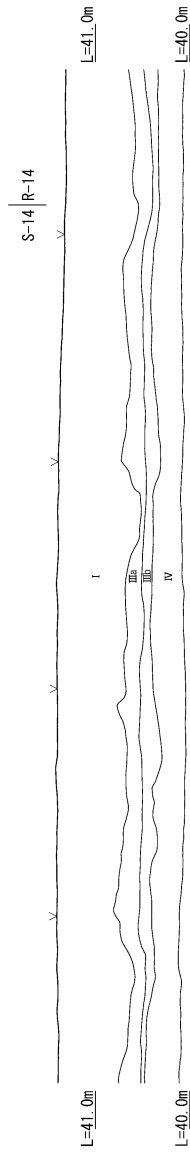
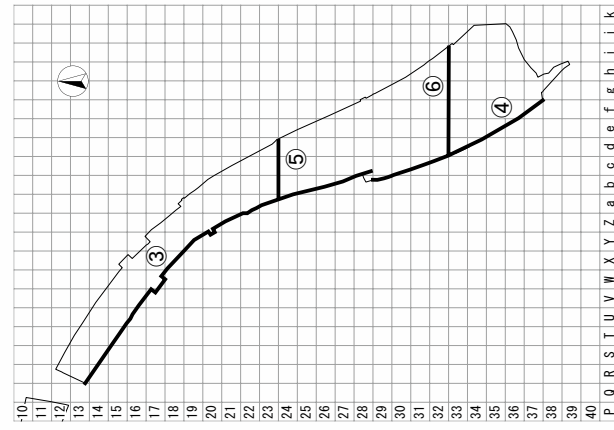
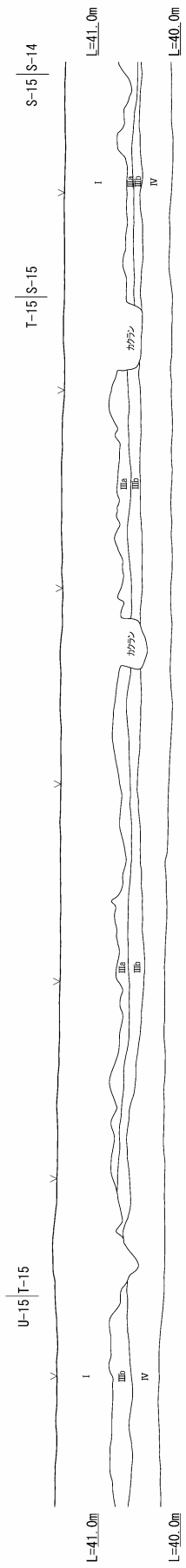


第8図 土層断面図5

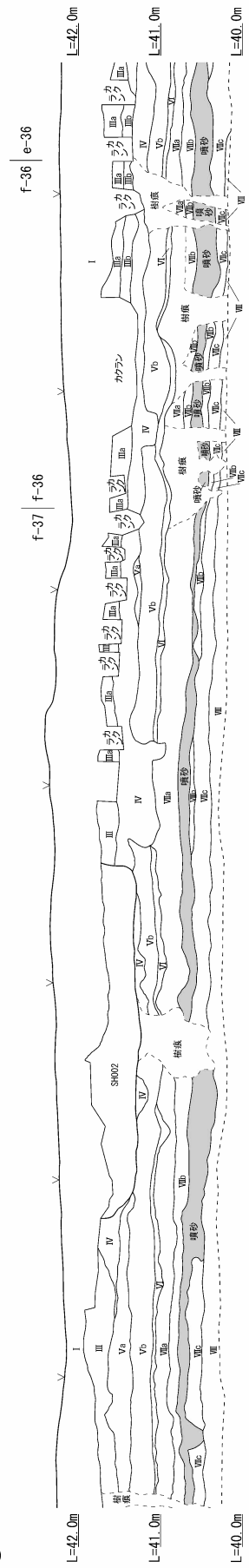


第9図 土層断面図6

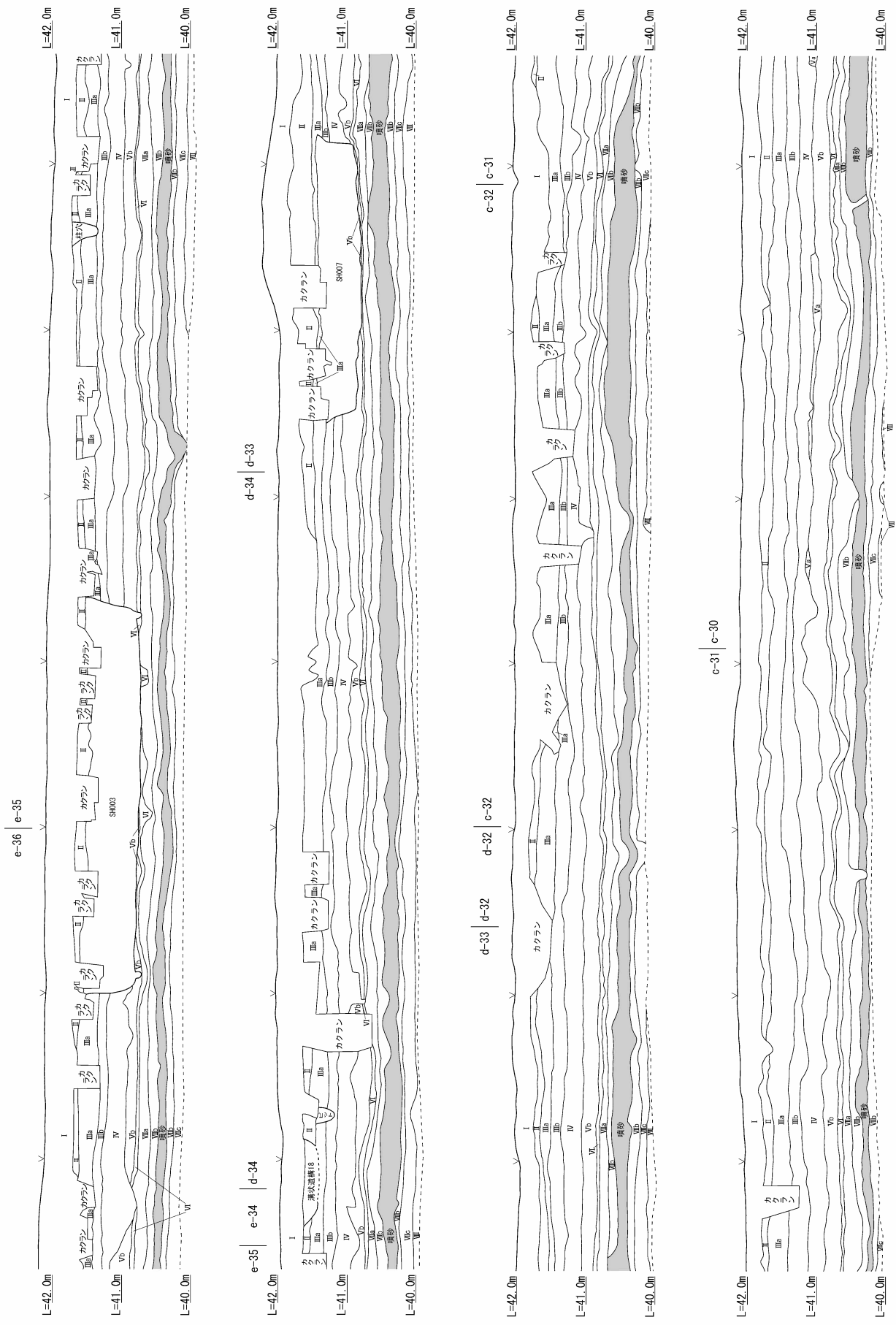




④ b~f-29~37区西壁

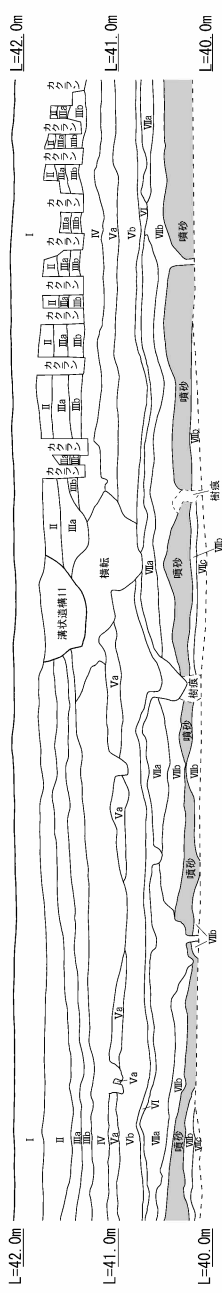


第 10 図 土層断面図 7



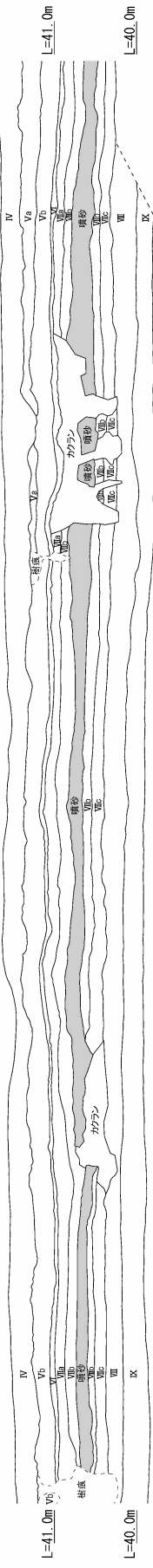
第11図 土層断面図8

c-30 | b-29

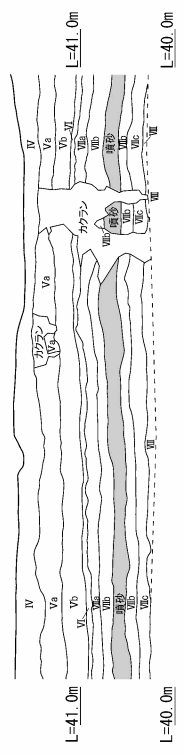


⑤ a ~ d-24 区北壁

a-24 | b-24

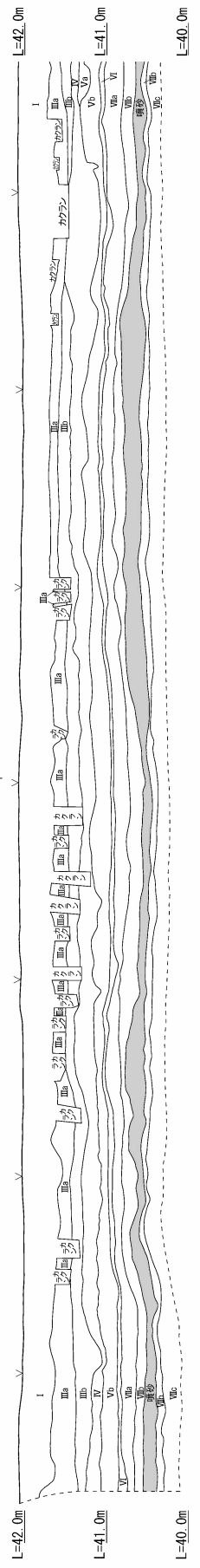


c-24 | d-24

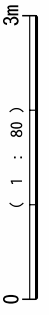
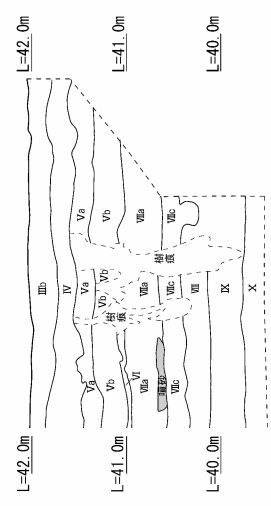
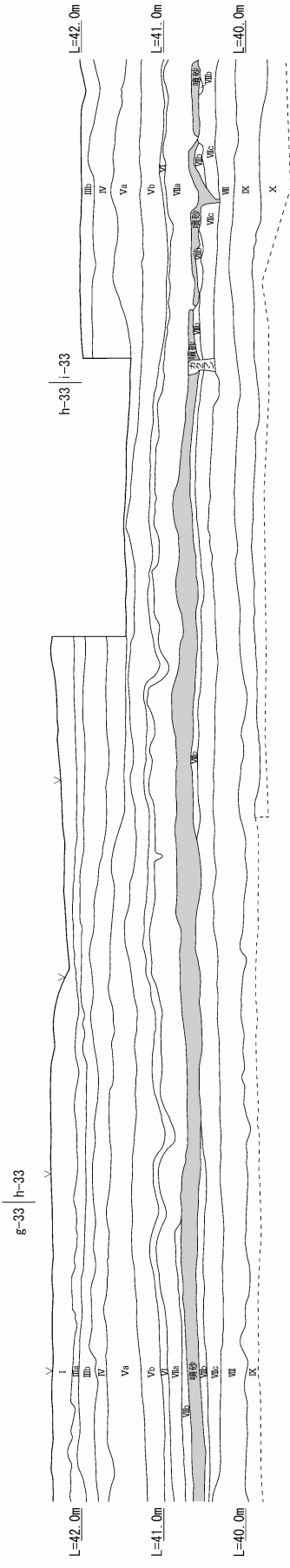
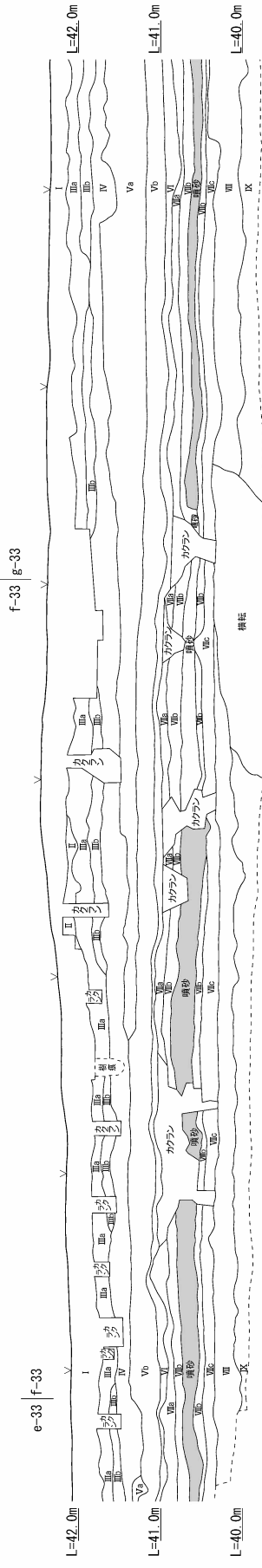


⑥ d ~ i-33 区北壁

d-33 | e-33



第12図 土層断面図9



第13図 土層断面図10

第4章 調査の成果

第1節 古代の調査成果

1 調査の概要

古代の調査は、調査範囲全域で行った。遺物包含層はⅡ・Ⅲ層であり、古代の遺物はⅢ層を中心に出土した。Ⅱ層は部分的に残存状況が悪く、調査範囲の北側では部分的に残存し、調査範囲の中央付近にあたるa～e-22～28区ではⅡ層は残存せず、R～X-12～16区では大規模な攪乱も受けていた。また、調査範囲の南側を中心にトレンチャー等の耕作機械の影響で削平を受けており、深いところでⅣ層まで影響を受けていた。

遺構の多くはⅢ層で検出したが、Ⅲ層からは中世や古墳時代の遺構も検出しており、遺物の出土状況や埋土の状況等から時期判定を行った。

遺物は、Ⅱ～Ⅳ層から出土した。しかし、Ⅳ層からの出土数が少なく、流れ込みや攪乱などの影響も考えられる。Ⅱ・Ⅲ層ではⅢ層出土のものが多く、特にb～g-29・30区に集中して出土した。また、遺物の多くは調査範囲の中央から南側にかけて出土し、調査範囲の北側では分布がまばらである。

調査の結果、遺構は掘立柱建物跡8棟、土坑12基、畝間状遺構、ピットが検出された。遺物は、土師器、墨書土器、刻書土器、土錘、須恵器が出土した。なお、遺物の分類は、包含層出土遺物の項目で詳細を述べる。

遺構配置図を第14～20図に示す。なお、遺構番号の新旧対応表や一覧表、遺物の観察表は、第4章の章末に掲載する。

2 遺構

(1) 掘立柱建物跡 (第21～31図)

掘立柱建物跡は、8棟検出された。遺構の検出面が中世や古墳時代の遺構と重複するため、遺物の出土状況や埋土の状況(紫コラの有無等)、建物の主軸等から時期判定を行った。また、柱痕跡が確認できたものは、平面図に赤線で示した。

1号掘立柱建物跡 (第21図)

Y-17・18区Ⅲb層で検出した。規模は桁行3間、梁行2間で、主軸はN-13°-Wを示す。柱間寸法は桁行が1間160～180cm、梁行が1間180～201cmである。柱穴の平面形は、円形を基本とする。規模は長軸41～52cm、短軸40～50cm、検出面からの深さは35～85cmであり、P2・P6・P7に柱痕跡がみられる。埋土中に紫コラが含まれる。

埋土中から土師器の坏や皿が出土したが、掲載には至らなかった。

2号掘立柱建物跡 (第22図)

c・d-27・28区Ⅲa層で検出した。規模は桁行4間、梁行2間で、主軸はN-88°-Eを示す。柱間寸法は桁行が1間180～215cm、梁行が1間230～270cmである。柱穴の平面形は、円形を基本とする。規模は長軸59～97cm、短軸56～72cm、検出面からの深さは19～52cmであり、P2～5・7・9・12に柱痕跡がみられる。埋土中に紫コラが含まれる。

埋土中から土師器の皿が出土したが、掲載には至らなかった。

3号掘立柱建物跡 (第23図)

d・e-27・28区Ⅲa層で検出した。東側は古道13に切られているため、正確な全体像は不明である。規模は桁行4間、梁行2間で、主軸はN-87°-Eを示す。柱間寸法は桁行が1間138～192cm、梁行が1間263～265cmである。柱穴の平面形は、円形を基本とする。規模は長軸59～75cm、短軸53～73cm、検出面からの深さは18～43cmであり、P4に柱痕跡がみられる。埋土中に紫コラが含まれる。

埋土中から土師器の坏が出土した。1は、P10から出土した。口径約13.2cm、底径5.4cm、器高4.2cmである。体部が大きく開き、口縁部が外反し、底部付近はケズリ痕を残す。

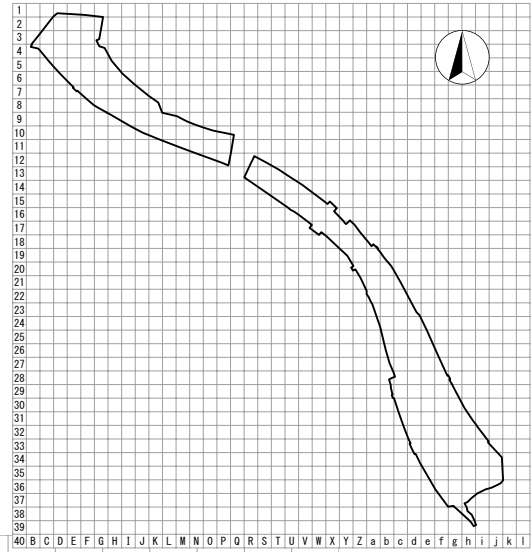
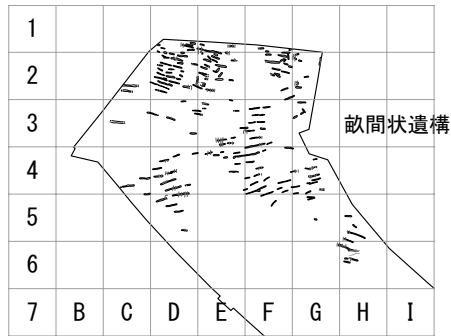
4号掘立柱建物跡 (第24図)

c・d-28区Ⅲa層で検出した。規模は桁行3間、梁行2間で、主軸はN-78°-Eを示す。柱間寸法は桁行が1間153～194cm、梁行が1間177～190cmである。柱穴の平面形は、円形を基本とする。規模は長軸39～50cm、短軸29～38cm、検出面からの深さは34～54cmであり、P9に柱痕跡がみられる。埋土中に紫コラが含まれる。

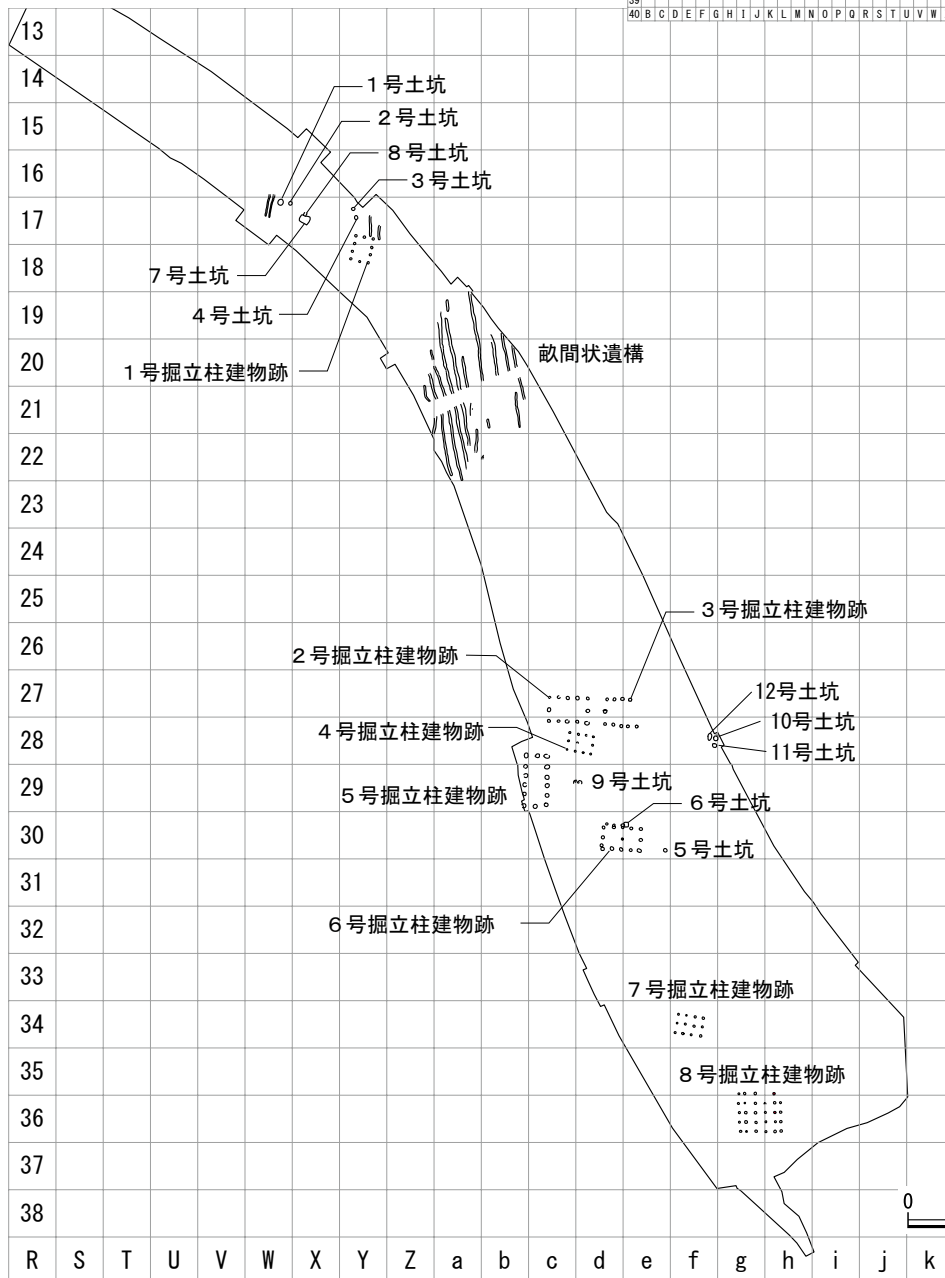
埋土中から土師器の坏や須恵器の甕が出土したが、掲載には至らなかった。

5号掘立柱建物跡 (第25図)

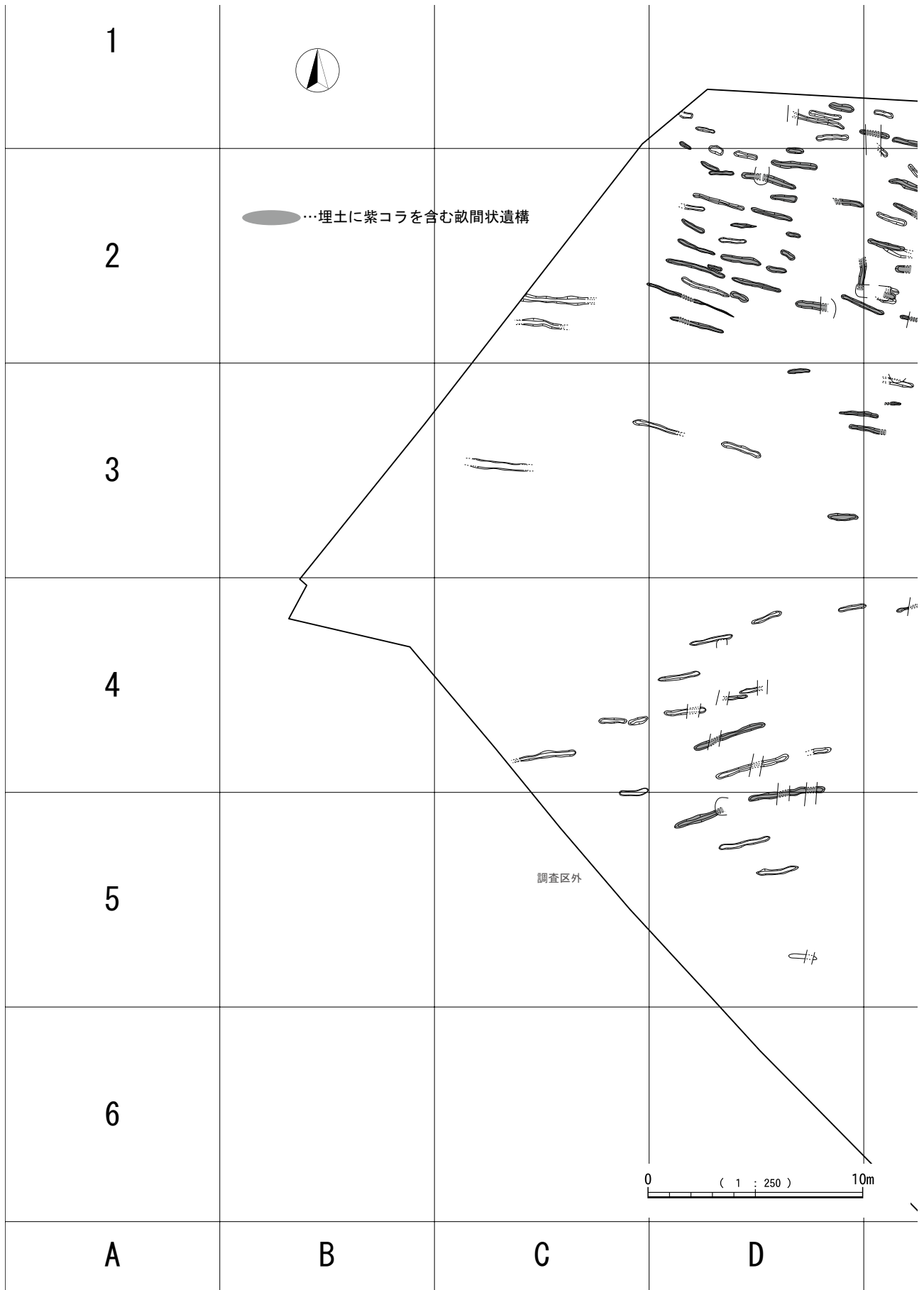
b・c-28・29区Ⅲa層で検出した。規模は桁行5間、梁行2間で、主軸はN-3°-Wを示す。柱間寸法は桁行が1間177～250cm、梁行が1間210～240cmである。柱穴の平面形は、円形を基本とする。規模は長軸76～124cm、短軸70～85cm、検出面からの深さは70～121cmであり、P3～9・11・13・14に柱痕跡がみられ、柱筋の通りも比較的よい。埋土中に紫コラが含まれ、柱掘りかた埋土が版築状になるものもある。本遺跡の掘立柱建物跡の中で、柱穴の規模が最大である。



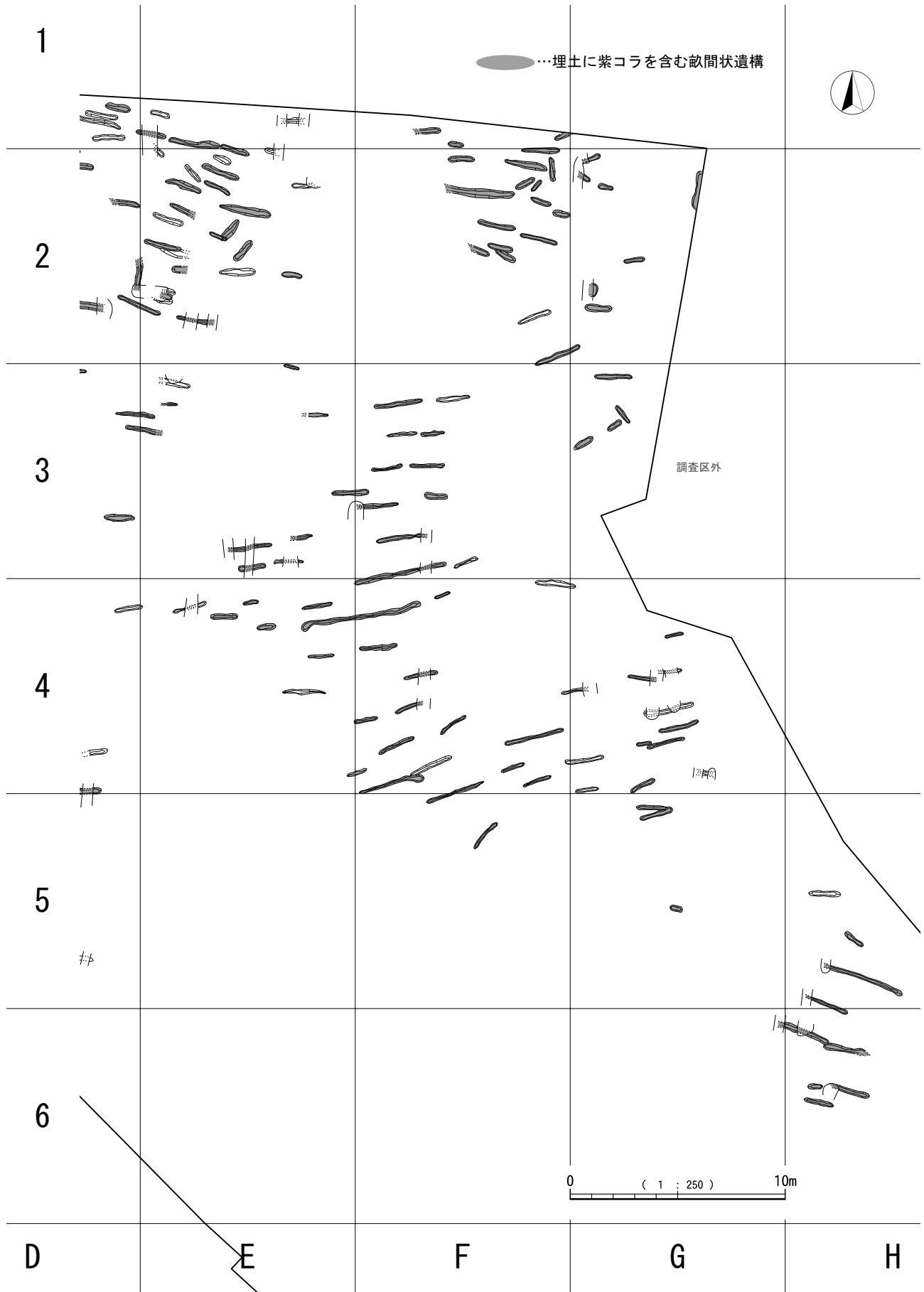
1グリット10m



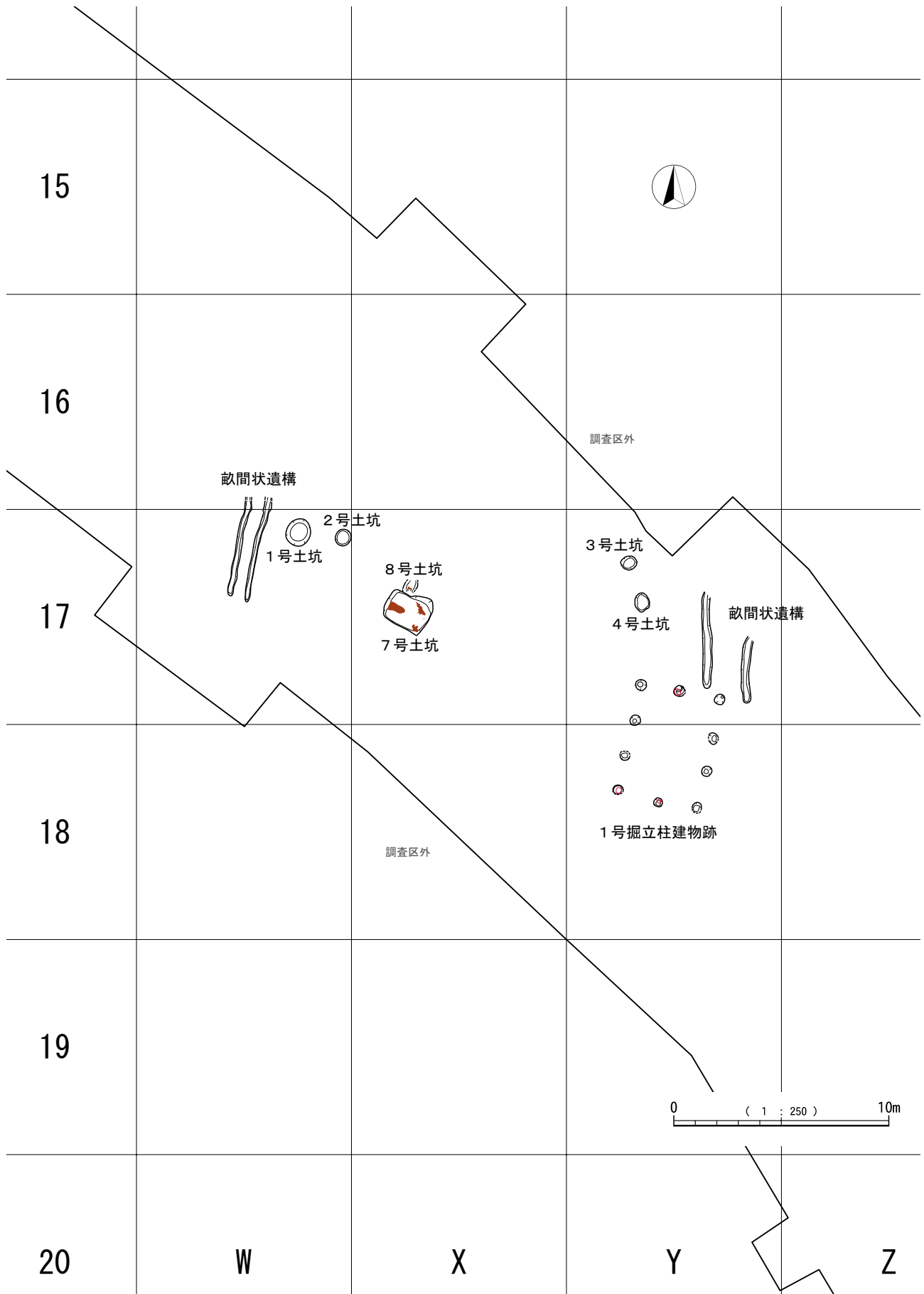
第14図 古代の遺構配置図（全体）



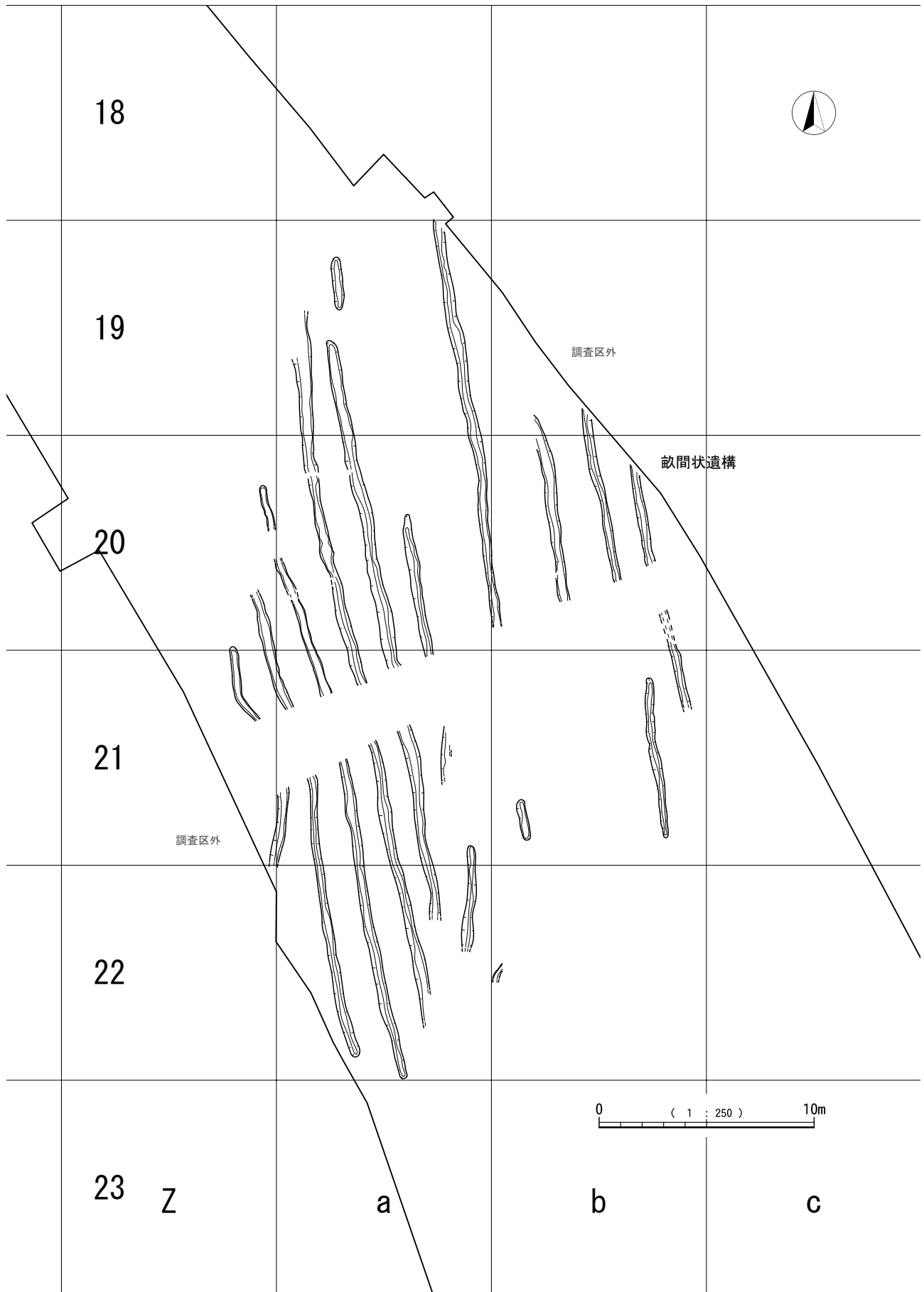
第 15 図 古代の遺構配置図 1



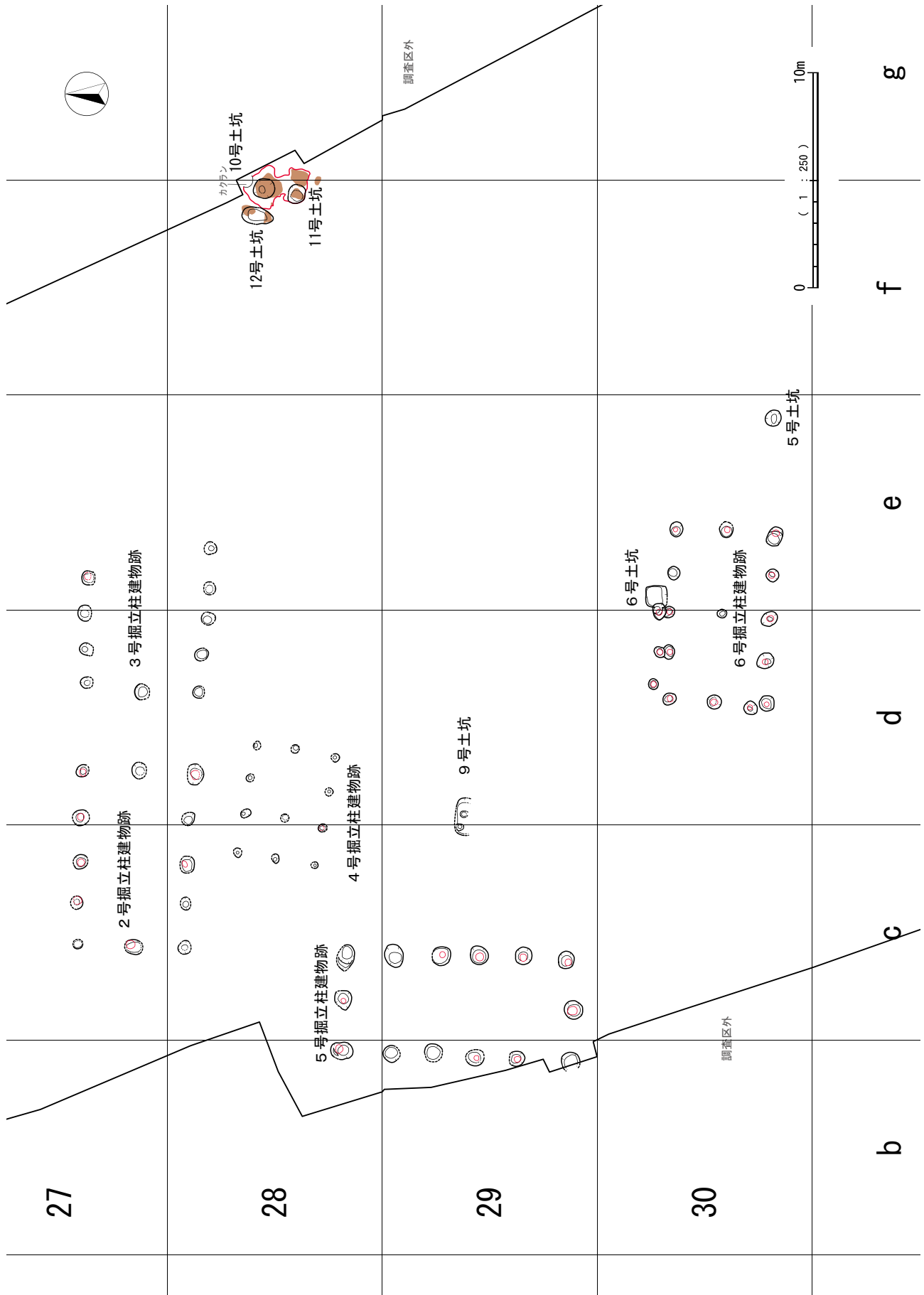
第 16 図 古代の遺構配置図 2



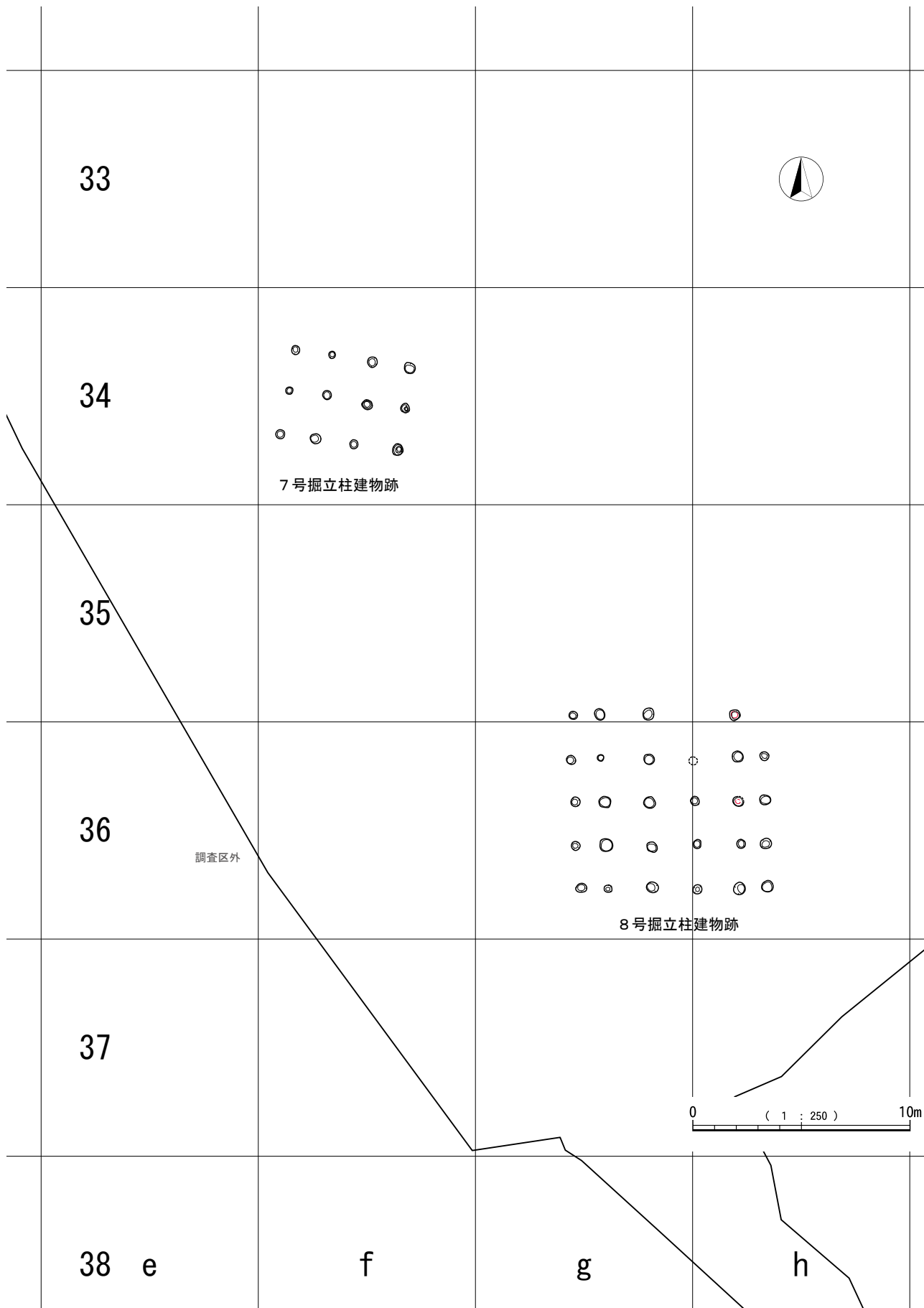
第17図 古代の遺構配置図3



第 18 図 古代の遺構配置図 4

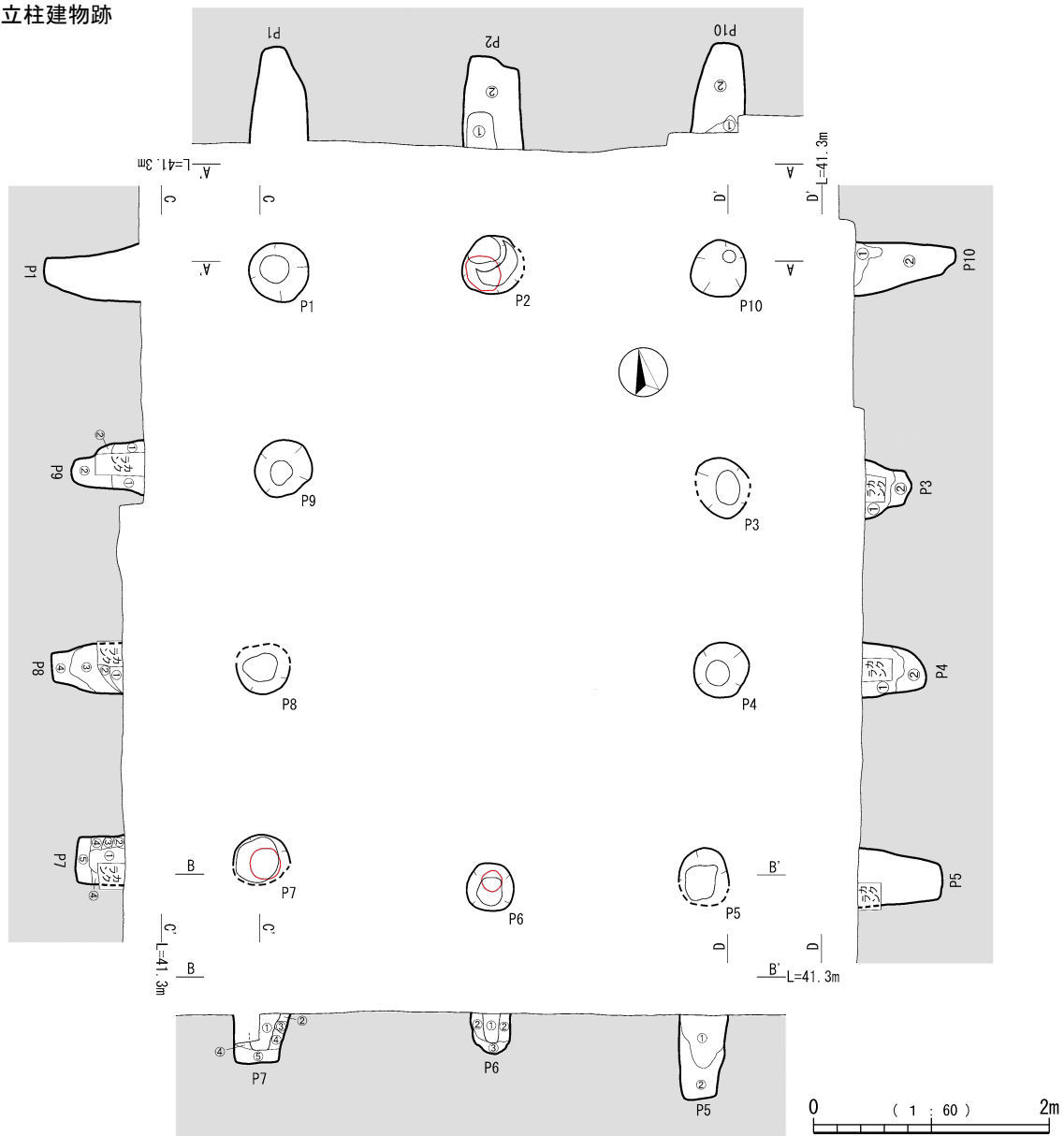


第19図 古代の遺構配置図5



第20図 古代の遺構配置図6

1号掘立柱建物跡

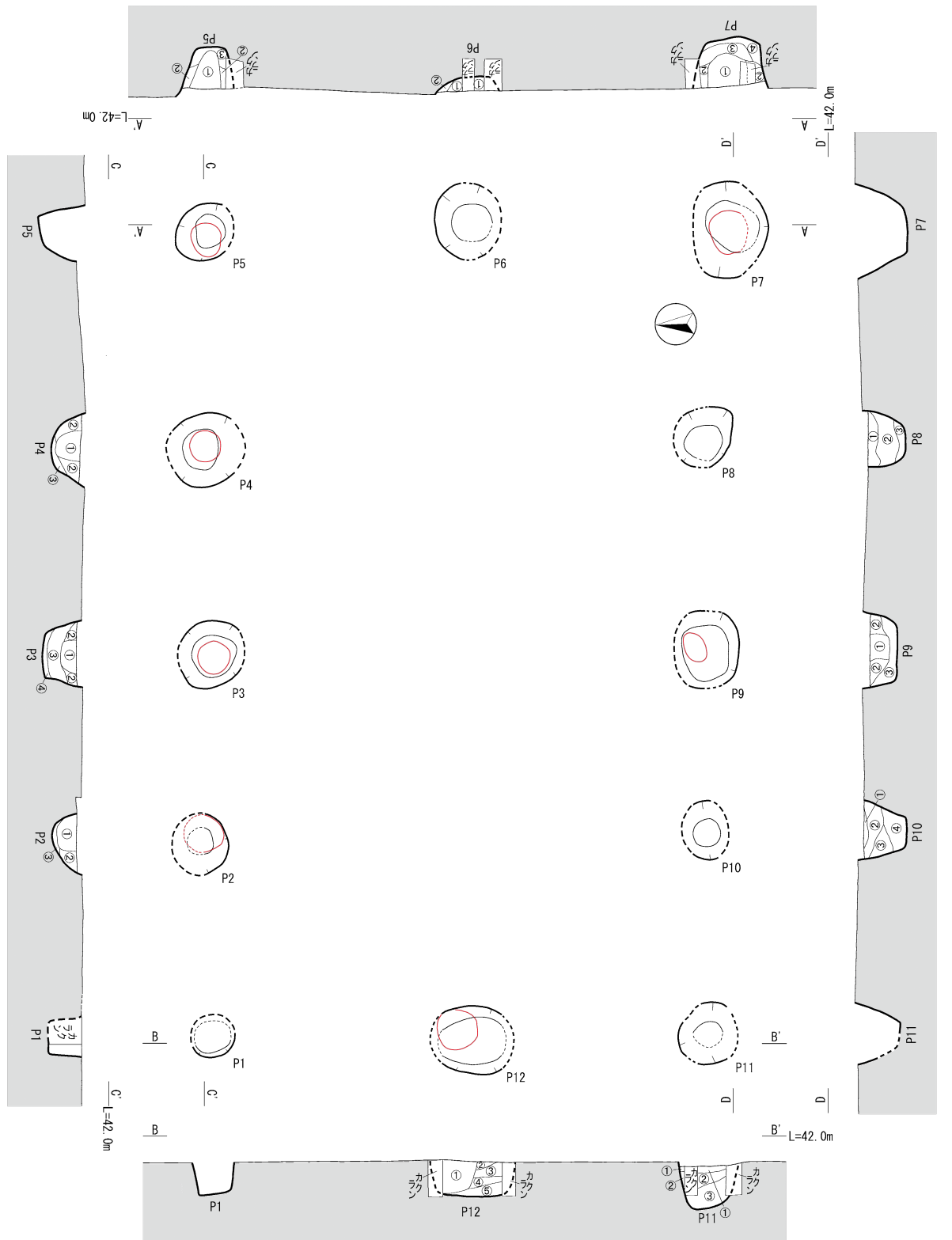


埋土

- P1 黒褐色土 10YR2/2 シルト、ややしまりあり、径0.5～0.8cm大の白色粒子、径0.1mm大の褐色粒子を微量含む。紫コラまじり。
- P2 ①黒褐～橙色土 10YR3/3～7.5YR6/6 シルト、ややしまりあり、径0.5～1.5cm大の白色バミス、径0.5～1mm大の褐色粒子を含む。焼土状褐色土、紫コラを含む。
- P2 ②暗褐色土 10YR3/3 シルト、やや粘性あり、径0.5～1mm大の褐色粒子を含む。
- P3 ①黒褐色土 10YR2/2 シルト、ややしまりあり、径0.5～1.5cm大の白色バミス、径0.1～0.5cm大の褐色粒子を含む。全体的に紫コラ細粒を多く含む。
- P3 ②黒褐色土 10YR2/2 径1～2cm大の池田バミス、径0.1～3mm大の褐色粒子を含む。池田バミスが多く混ざる。
- P4 ①暗褐色土 7.5YR3/3 シルト、やや固くしまる、径0.1～0.5mm大の白色・褐色粒子、径0.5～1cm大の池田バミスを含む。紫コラが多く混じる。
- P4 ②黒褐色土 10YR1.7/1 径0.5～2cm大の池田バミスを少量含む。径0.1～1mm大の褐色・白色粒子を含む。
- P5 ①暗褐色土 7.5YR3/3 シルト、やや固くしまる、径0.5mm大の池田バミス、径0.1～0.5mm大の白色・褐色粒子を含む。紫コラが多く混じる。
- P5 ②黒褐色土 10YR2/3 シルト、径1cm大の池田降下軽石を微量含む。径0.1mm大の褐色粒子を微量含む。
- P6 ①黒褐色土 7.5YR2/2 やや固くしまる。径0.5mm大の白色バミスを極微量含む。径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。柱痕
- P6 ②暗褐色土 7.5YR3/4 シルト、固くしまる。径0.5～1cm大の白色バミス、径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。紫コラを多く含む。
- P6 ③黒褐色土 7.5YR3/1 径0.1～0.5mm大の褐色・白色粒子を含む。
- P7 ①黒褐色土 7.5YR3/1 径1cm大の池田バミスを極微量含む。柱痕
- P7 ②黒褐色土 7.5YR3/1 径0.5～1cm大の池田バミスを少量含む。
- P7 ③黒褐色土 7.5YR3/2 径0.5～1cm大の池田バミス、径0.1～1mm大の白色・褐色粒子を含む。
- P7 ④黒褐色土 7.5YR2/2 径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。
- P7 ⑤黒色土 7.5YR1.7/1 径0.5cm大の白色粒子、径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。
- P8 ①黒褐色土 10YR2/2 シルト、ややしまりあり、径0.5～1cm大の白色バミス・褐色粒子を含む。径0.1～1mm大の褐色粒子を微量含む。紫コラ多く含む。
- P8 ②黒褐色土 7.5YR2/2 シルト、径0.1～0.5mm大の白色粒子・火山灰を含む。
- P8 ③黒褐色土 7.5YR3/2 シルト、径0.1～1cm大の池田バミス、径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。
- P8 ④極暗褐色土 7.5YR2/3 径0.1～1cm大の池田バミス、径0.1～1mm大の褐色・灰褐色・白色粒子を含む。アカホヤブロック混土。
- P9 ①暗褐色土 7.5YR3/3 シルト、固くしまる。径0.5～1cm大の池田バミスを微量、径0.1～1mm大の褐色粒子を微量含む。紫コラを多く含む。
- P9 ②黒褐色土 7.5YR2/2 径0.5～3cm大の池田バミス、径0.1～1mm大の白色・褐色粒子を含む。
- P10 ①黒褐色土 7.5YR3/1 シルト、ややしまりあり、径1～3cm大の池田バミスを微量含む。径0.1～1mm大の白色・褐色粒子を含む。径2cm程の紫コラブロックを含む。
- P10 ②黒色土 7.5YR2/2 シルト、粘性あり、ややしまりあり、径0.1～1mm大の白色・褐色粒子を含む。

第21図 1号掘立柱建物跡

2号掘立柱建物跡



第 22 図 2号掘立柱建物跡

埋土

P1	②黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mmの鉱物を5%程度、径1cm大の紫コラを5%程度含む。
P2	①暗褐色土	10YR3/3	シルト質、粘性弱い、しまりやや弱い。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5～10%含む。柱痕
P2	②黒褐色土	10YR2/3	③より暗い。シルト質、粘性弱い、しまりあり。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を含む。径0.5～5cm大の紫コラを含む。
P2	③黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%以下含む。
P3	①黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%程度、径1cm大の紫コラを5%程度含む。柱痕
P3	②黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、しまりあり。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を10%程度、径1cm大の紫コラを5～10%含む。
P3	③黒褐色土	10YR2/3	②より暗い。シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%以下含む。
P3	④黒褐色土	10YR3/3	シルト質、粘性ややあり、しまりやや弱い。IV層土と径0.5～7cmの池田降下軽石、径0.5～1cmの池田湖火山灰、径0.5～1cmのアカホヤ火山灰の混土
P4	①暗褐色土	10YR3/3	シルト質、粘性弱い、しまりやや弱い。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5～10%含む。柱痕
P4	②黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、しまりあり。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を10%、径1cm大の紫コラを5～10%含む。
P4	③黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%以下含む。
P5	①黒褐色土	10YR3/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%程度、径0.5～5cmの紫コラを30%、径2cm大の池田降下軽石を5%以下含む。
柱痕			
P5	②黒褐色土	10YR2/3	④より暗い。シルト質、粘性弱い、しまりあり。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を10%程度、径1cm大の紫コラを5～10%含む。
P5	③黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%以下含む。
P6	①暗褐色土	10YR3/3	シルト質、粘性弱い、しまりやや弱い。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5～10%含む。
P6	②黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、しまりあり。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を10%程度、径1cm大の紫コラを5～10%含む。
P7	①暗褐色土	10YR3/3	シルト質、粘性弱い、しまりやや弱い。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5～10%、径1cm大の紫コラを5%程度含む。柱痕
P7	②暗褐色土	10YR3/3	①より暗い。シルト質、粘性弱い、しまりやや弱い。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5～10%含む。
P7	③黒褐色土	10YR3/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%程度、径0.5～5cm大の紫コラを30%含む。
P7	④黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%以下、径0.5～2cm大の池田降下軽石を30%程度含む。
P8	①暗褐色土	10YR3/3	シルト質、粘性弱い、しまりあり。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5～10%、径1cm大の紫コラを5%程度含む。
P8	②黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%程度、径0.5～5cmの紫コラを30%含む。
P8	③黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%以下、径1cm大の池田降下軽石を5%以下含む。
P9	①黒褐色土	10YR3/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%程度、径0.5～5cmの紫コラを30%含む。柱痕
P9	②黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%程度、径1cm大の紫コラを5%含む。
P9	③黒褐色土	10YR2/3	②より暗い。シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%以下含む。
P10	①暗褐色土	10YR3/3	シルト質、粘性弱い、しまりあり。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5～10%含む。
P10	②黒褐色土	10YR3/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%程度、径0.5～5cmの紫コラを30%含む。
P10	③黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%以下含む。
P10	④黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%以下、径0.5～2cm大の池田降下軽石を30%程度含む。
P11	①暗褐色土	10YR3/3	シルト質、粘性弱い、しまりあり。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5～10%、径0.5cm大の紫コラを5%以下含む。
P11	②暗褐色土	10YR3/4	シルト質、粘性弱い、しまりやや弱い。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%以下含む。
P11	③暗褐色土	10YR3/3	シルト質、粘性弱い、しまりあり。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5～10%含む。
P12	①黒褐色土	10YR3/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%程度、径0.5～5cm大の紫コラを30%含む。柱痕
P12	②黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、しまりあり。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を10%程度、径1cm大の紫コラを5～10%含む。
P12	③黒褐色土	10YR3/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%程度、径0.5～5cm大の紫コラを40%含む。
P12	④黒褐色土	10YR2/3	シルト質、粘性弱い、よくしまる。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%以下含む。
P12	⑤暗褐色土	10YR3/4	シルト質、粘性弱い、しまりあり。径1mm位の赤色・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%、径0.5～5cm大の紫コラを30%、池田湖火山灰を15%含む。

埋土中から土師器の坏・埴・甕、黒色土器、墨書土器、須恵器の蓋が出土した。2は、P12から出土した土師器の埴である。口径約16cm、底径8.6cm、器高6.1cmである。体部は大きく開き、高台の貼り付け部分には丁寧なナデ調整を行い、稜線が明瞭に残る。3は、P10から出土した墨書土器である。口径約10.9cm、底径約5.9cm、器高4.6cmであり、体部外面に正位で「西」と書かれる。

6号掘立柱建物跡（第27～29図）

d・e-30区Ⅲb層で検出した。規模は桁行4間、梁行2間で、P14～17は建て替えの可能性がある。主軸は、N-88°-Eを示す。柱間寸法は桁行が1間155～220cm、梁行が1間210～251cmである。柱穴の平面形は、円形を基本とする。規模は長軸46～92cm、短軸40～71cm、検出面からの深さは41～80cmであり、P1～3・5～12・14～17に柱痕跡がみられ、柱筋の通りも比較的よい。埋土中に紫コラが含まれる。

埋土中から土師器の坏・皿・甕・甑、黒色土器、須恵器の甕が出土した。4は、P15から出土した土師器の坏である。口径約13cm、底径約6.6cm、器高4.6cmである。体部は大きく開き、底部はヘラ切りである。5は、P15から出土した土師器の坏で、口径約12.4cmを測り、口縁部がやや外反する。6は、P12から出土した土師器の皿であり、底径は約11.2cmで、直線的に立ち上がる。7

は、P14から出土した土師器の把手である。把手は上部を欠損しており、外面はナデ調整、内面はケズリを施す。8は、P15から出土した須恵器の甕の胴部である。外面は格子タタキの後にナデを施し、内面は同心円の当て具痕が残る。9は、P5・17から出土した須恵器の大甕の胴部である。両面とも平行タタキが認められ、内面には同心円の当て具痕がみられる。なお、調査時の取上番号は「P3-1」となっていたが、写真等の記録から、P3と重複するP17からの出土と認定した。

7号掘立柱建物跡（第30図）

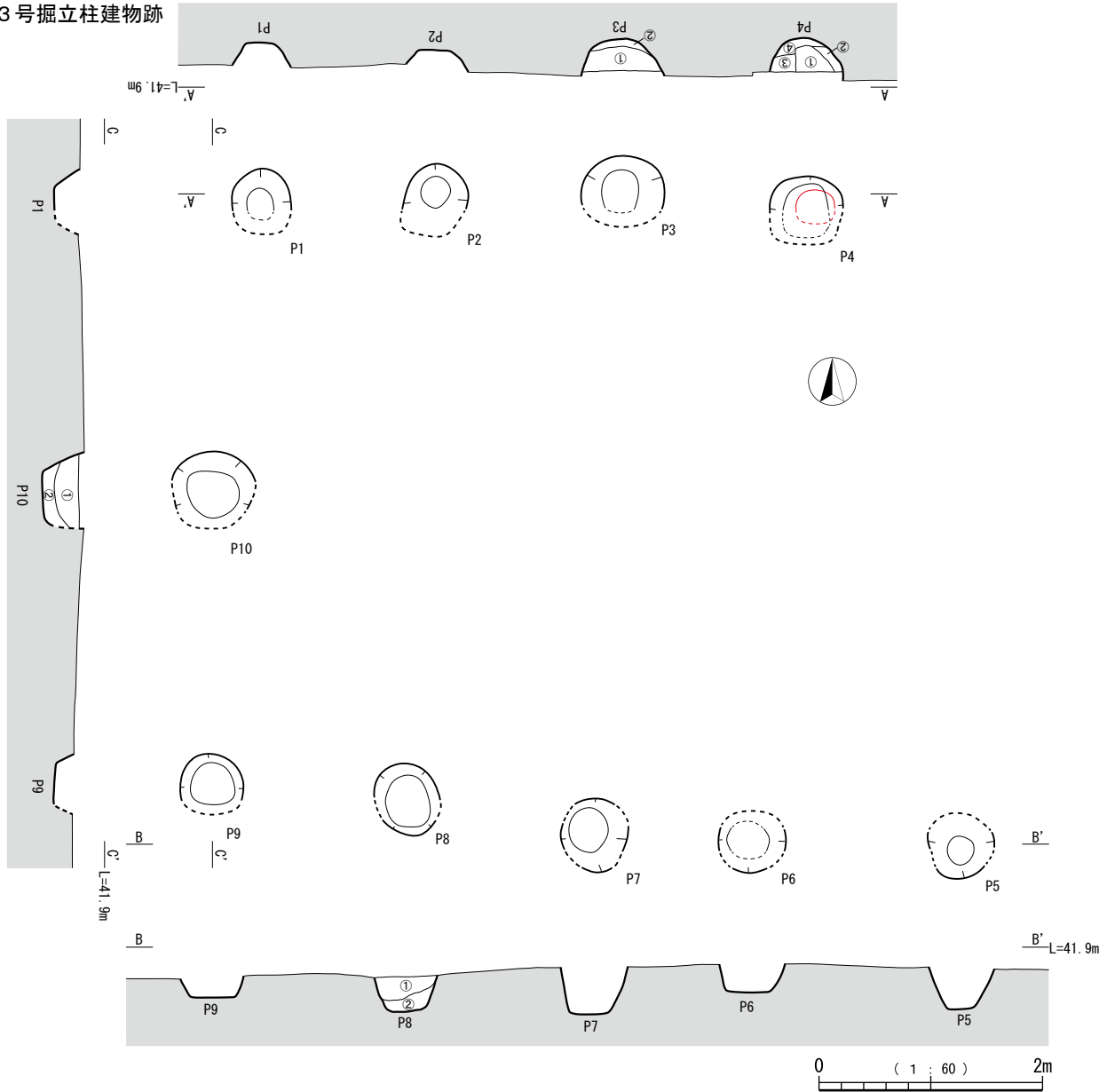
f-34区Ⅲb層で検出した。規模は桁行3間、梁行2間で、主軸はN-84°-Eを示す。柱間寸法は桁行が1間160～205cm、梁行が1間185～205cmである。柱穴の平面形は、円形を基本とする。規模は長軸34～55cm、短軸29～48cm、検出面からの深さは16～62cmである。

P9の埋土中から土師器の皿が出土したが、掲載には至らなかった。

8号掘立柱建物跡（第31図）

g・h-35・36区Ⅲb層で検出した。規模は桁行4間、梁行3間で、東西方向の二面に廂が付き、主軸はN-0°-W-Eを示す。母屋の柱間寸法は桁行が1間186～214cm、梁行が1間194～224cmである。柱穴の平面形は、円形

3号掘立柱建物跡



埋土

P1 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる。径1mm大の赤色・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を20%，径1cm以下の軽石を7%，径3cm以下の紫コラを3%含む。径1mm大の炭化物を若干含む。

P2 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる。径1mm大の赤色・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を30%，径1cm以下の軽石を3%，径1cm以下の紫コラを2%含む。

P3 ①黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる。径1mm大の赤色・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を30%，径5mm以下の軽石・径1cm以下の紫コラ・径1mm大の炭化物を若干含む。

P3 ②黒褐色土 10YR2/2 シルト質，粘性弱い，よくしまる。径1mm大の赤色・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を20%，径0.1mm～3cmの軽石を5%含む。

P4 ①黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる。径1mm大の赤色・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を30%，径5mm以下の軽石・径1cm以下の紫コラ・径1mm大の炭化物を若干含む。

柱痕

P4 ②黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる。径1mm大の赤色・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を20%，径3cm以下の紫コラを15%含む。

P4 ③黒褐色土 10YR2/2 シルト質，粘性弱い，よくしまる。径1mm大の赤色・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を20%，径3cm以下の紫コラを30%，径2mm以下の軽石を10%含む。

P4 ④黒褐色土 10YR2/2 シルト質，粘性弱い，しまりやや弱い。径1mm大の赤色・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を20%，径3mm以下の軽石を若干含む。

P5 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる。径1mm大の赤色・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を20%，径1cm以下の紫コラを3%，径5mm以下の軽石・径1mm大の炭化物を若干含む。

P6 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる。径1mm大の赤色・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を20%，径0.1mm～1cmの軽石を5%，径1cm以下の紫コラを3%含む。

P7 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる。径1mm大の赤色・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を20%，径3cm以下の紫コラを3%含む。径5mm以下の軽石・径1mm大の炭化物を若干含む。

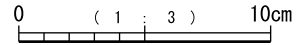
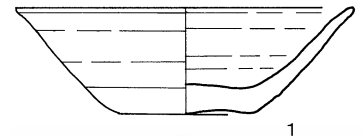
P8 ①黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる。径1mm大の赤色・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を30%，径0.1mm～3cmの軽石を7%，径3cm以下の紫コラを10%含む。径1mm大の炭化物を若干含む。

P8 ②黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，固くしまる。径1mm大の赤色・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を10%，径1cm以下の軽石を10%含む。全面的に紫コラが多量に混入して固くしまっている。

P9 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる。径1mm大の赤色・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を20%，径0.1mm～3cmの軽石を5%，径3cm以下の紫コラ・径1mm大の炭化物を若干含む。

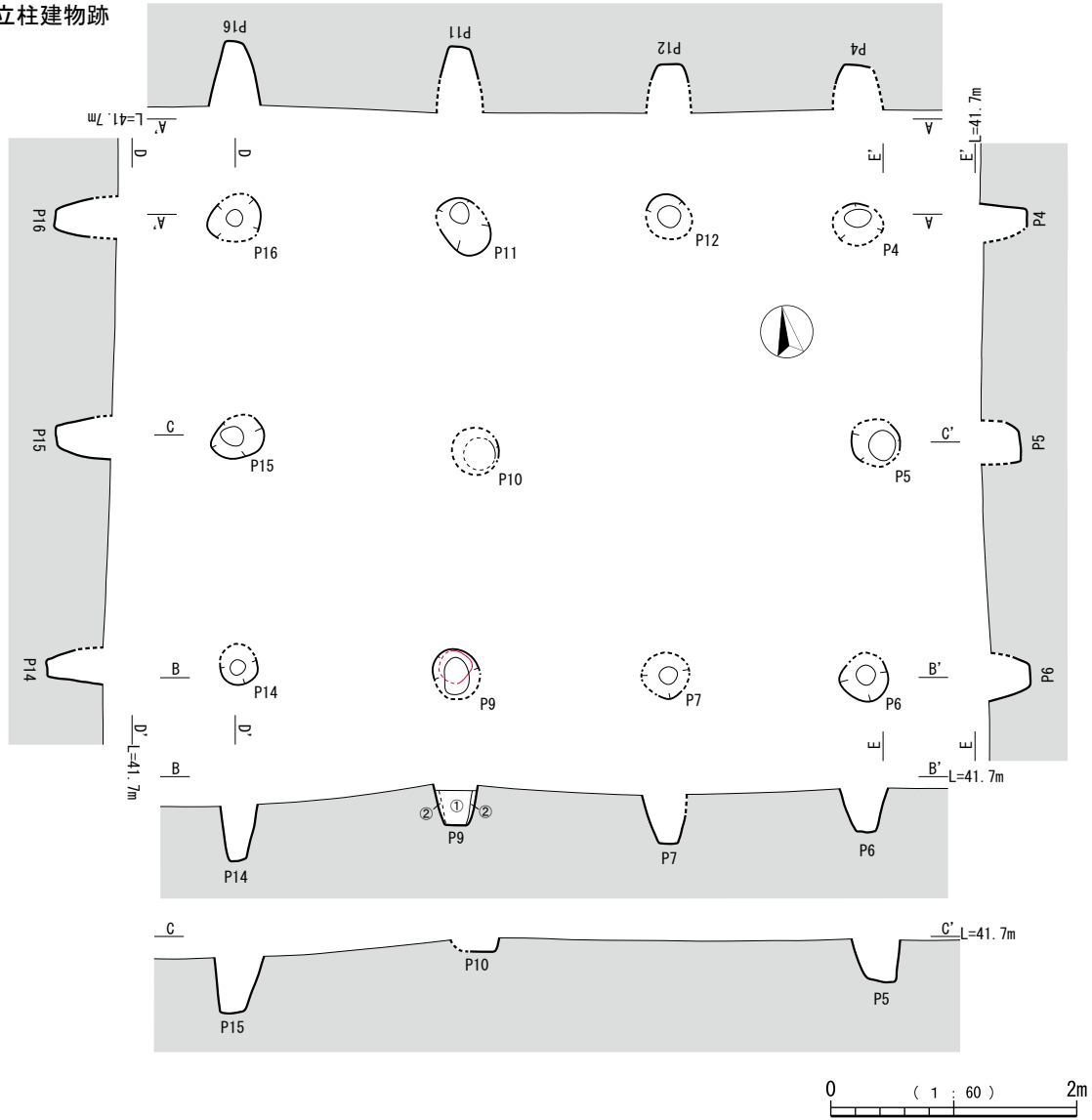
P10 ①黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる。径1mm大の赤色粒子・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を30%，径0.1mm～3cmの軽石を7%，径3cm以下の紫コラを10%含む。径1mm大の炭化物を若干含む。

P10 ②黒褐色土 10YR2/2 シルト質，粘性弱い①よりやや強い，よくしまる。径1mm大の赤色粒子・黄白色粒子・径1mm以下の鉱物を20%，径2cm以下の軽石を7%含む。径3cm以下の紫コラ・径1mm大の炭化物を若干含む。



第23図 3号掘立柱建物跡

4号掘立柱建物跡

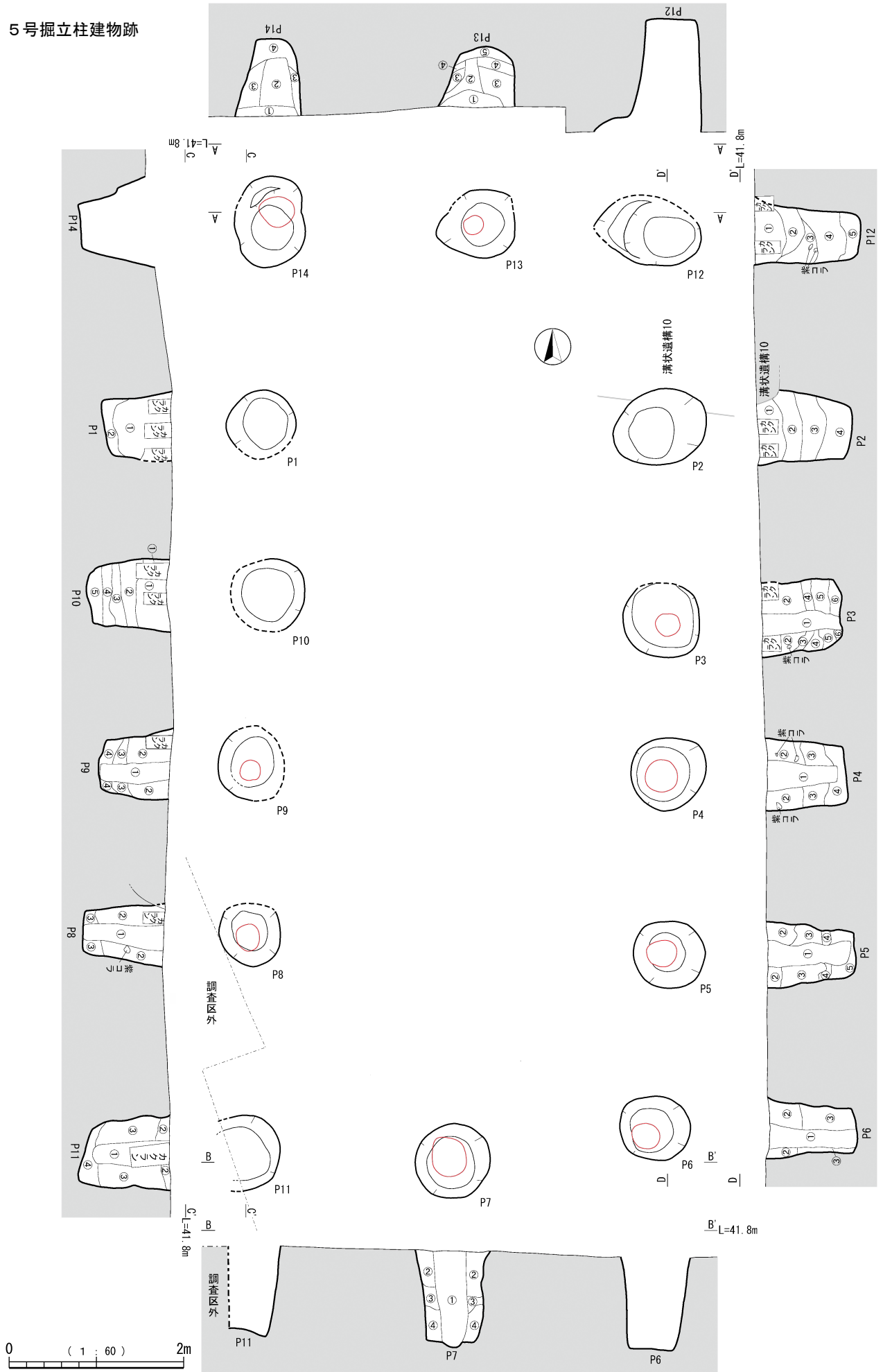


埋土

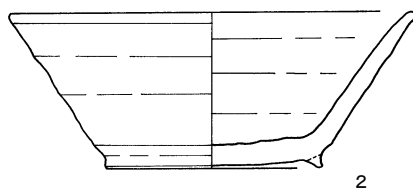
- P4 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる，径1mm位の赤色・黄白色粒子・径1～2mm大の鉱物を10%，径1cm以下の軽石を3%，紫コラを5%含む。
- P5 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる，径1mm位の赤色・黄白色粒子，径1～2mm大の鉱物を含む。径0.5～5cm大の紫コラを20%含む。
- P6 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる，径1mm位の赤色・黄白色粒子，径1～2mm大の鉱物を20%，径1cm以下の軽石を10%含む。一部ブロック状に1cm大の明褐色土（7.5YR5/6）を含む。
- P7 黒褐色土 10YR3/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる，径1mm位の赤色・黄白色粒子，径1～2mm大の鉱物を20%，径0.5～5cm大の紫コラを10%含む。
- P9 ①黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる，径1mm位の赤色・黄白色粒子，径1～2mm大の鉱物を10%程度，径1cm大の紫コラを20%含む。柱痕
- P9 ②暗褐色土 10YR3/3 シルト質，粘性弱い，しまりやや弱い，径1mm位の赤色・黄白色粒子，径1～2mm大の鉱物を5～10%，径1cm大の紫コラを3%程度含む。
- P10 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる，径1mm位の赤色・黄白色粒子，径1～2mm大の鉱物を20～30%含む。
- P11 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，しまりやや弱い，径1mm位の赤色・黄白色粒子，径1～2mm大の鉱物を5～10%含む。
- P12 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる，径1mm位の赤色・黄白色粒子，径1～2mm大の鉱物を含む。径0.5～5cm大の紫コラを30%，径2mm以下の軽石を2%含む。
- P14 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，よくしまる，径1mm位の赤色・黄白色粒子，径1～2mm大の鉱物を20%程度，径3cm以下の紫コラを20%，径2mm以下の軽石・径1mm大の炭化物を若干含む。
- P15 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，固くしまる，径1mm位の赤色・黄白色粒子，径1～2mm大の鉱物を20%程度，径3cm大の紫コラを30%，径3mm以下の軽石・径1mm大の炭化物を若干含む。
- P16 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性弱い，しまりやや弱い，径1mm位の赤色・黄白色粒子，径1～2mm大の鉱物を15%程度，径3cm以下の紫コラを15%，径3mm以下の軽石を若干含む。

第24図 4号掘立柱建物跡

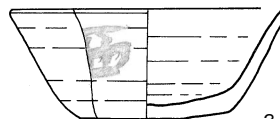
5号掘立柱建物跡



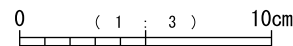
第 25 図 5号掘立柱建物跡 1



2



3

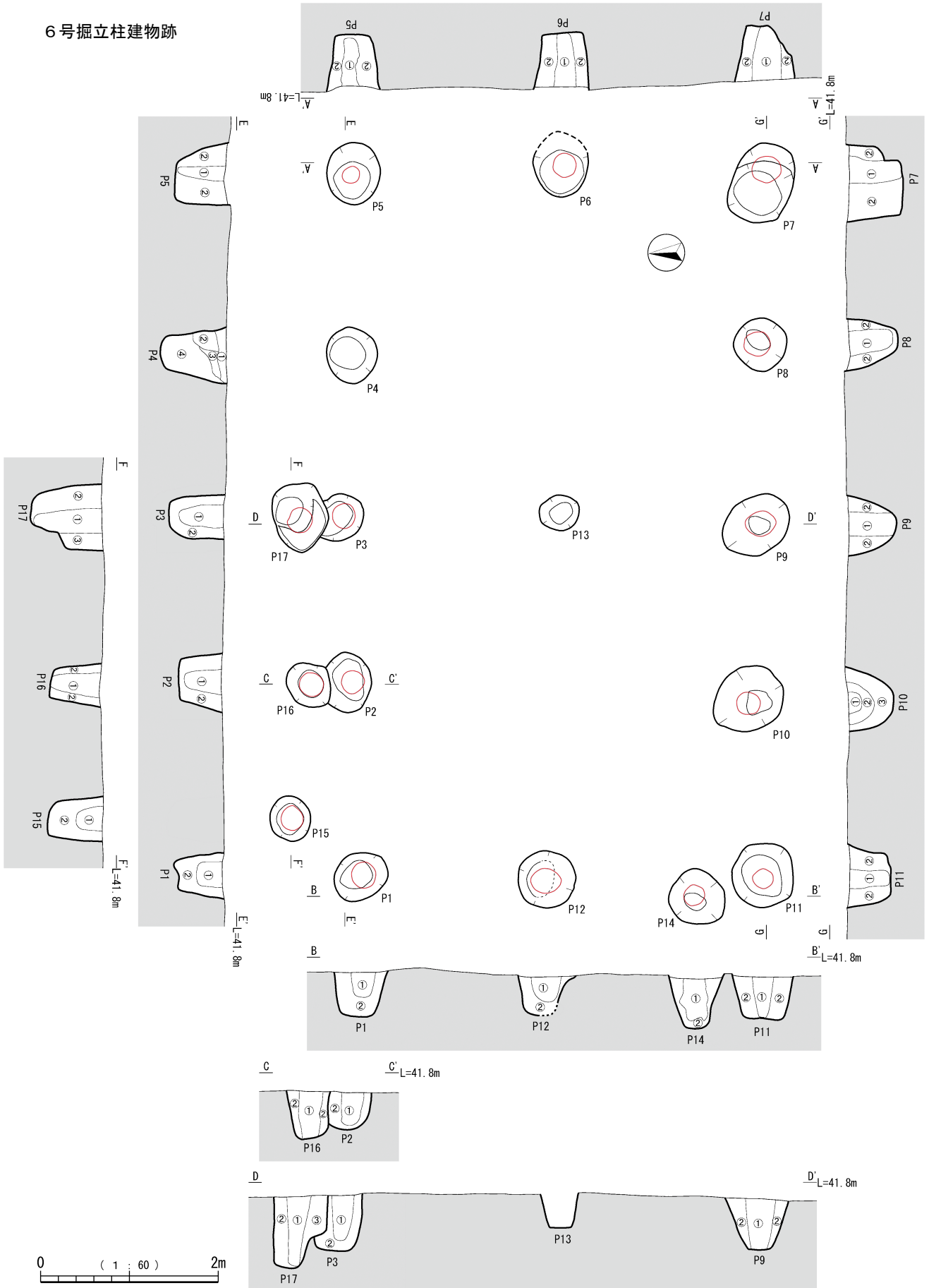


埋土

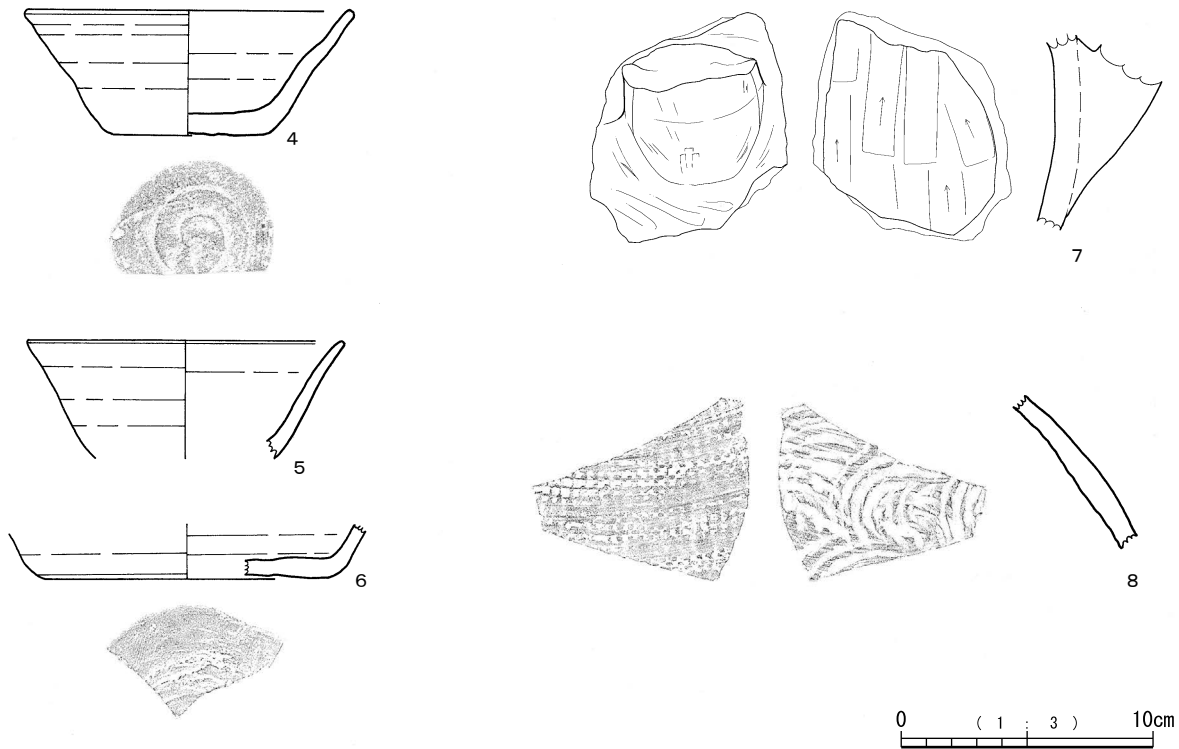
- P1 ①黒～黒褐色土 10YR2/1～10YR2/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～1mm大の褐色・白色粒子、径0.5～1.5cm大の白色バミスを含む。
- P1 ②黒褐色土 10YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.5～1.5cm大の池田バミスを含む。
- P2 ①黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色・白色粒子、径1cm大の白色バミスを含む。径2cm大の紫コラブロックが点在する。
- P2 ②黒褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりあり、径0.1～1mm大の褐色粒子、径5～10mm大の褐灰・白色バミスを含む。
- P2 ③黒褐色土 7.5YR2/2 粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子、径1～5cm大の池田バミスを微量含む。径1～2cm大の紫コラブロックが点在する。
- P2 ④にぶい黄褐～黄褐色土 10YR4/3～10YR5/6 粘性ややあり、しまりあり、径0.1～1mm大の褐色粒子、径1～1.5cm大の褐色バミスを多く含む。II層土と池田バミスが混在した埋土。
- P3 ①黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり、径0.1～1mm大の褐色粒子を含む。II層ベース
- P3 ②黒褐色土 7.5YR3/1～10YR3/2 粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色・白色粒子を含む。部分的に紫コラブロック含む。II層ベース
- P3 ③極暗褐色土 7.5YR2/3 砂土、粘性ややあり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子、径1～1.5cm大の池田バミスを多く含む。
- P3 ④極暗褐色土 7.5YR2/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～1mm大の褐色・白色粒子を含む。II層ベース
- P3 ⑤黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色・白色粒子、径1cm大の池田バミスを含む。II層ベース
- P3 ⑥暗褐色土 10YR3/4 シルト質、粘性あり、しまりややあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子をやや多く含む。II層ベース
- P4 ①黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～1mm大の褐色・白色粒子、径1cm大の白色バミスを微量含む。柱痕
- P4 ②黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色・白色粒子、紫コラブロックを含む。
- P4 ③黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりややあり、径0.1～1mm大の褐色・白色粒子、径0.5～1cm大の白色バミスを含む。
- P4 ④暗褐色土 10YR3/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の黄褐色粒子、径0.5mm～1cm大の池田バミスを含む。
- P5 ①黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子、径1～1.5cm大の白色バミスを含む。柱痕
- P5 ②黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子、径0.1～1cm大の白色バミスを含む。
- P5 ③黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子を微量、径0.5～1cm大の白色バミスを多く含む。
- P5 ④褐灰あり 10YR4/1 シルト質、粘性あり、しまりあり、アカホヤブロック・池田火山灰ブロック混ざり土。
- P5 ⑤黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～1mm大の褐色粒子、池田火山灰ブロック含む。
- P6 ①黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子、径1～2cm大の白色バミスを微量含む。柱痕
- P6 ②黒褐色土 7.5YR3/1 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～5mm大の褐色粒子、径0.5～1cm大の褐灰色粒子、径1～10mm大の白色バミスを含む。
- P6 ③黒褐色土 10YR3/1 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～10mm大の褐色粒子、径0.5～2cm大の白色バミスを含む。アカホヤブロック混ざり土。
- P7 ①黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～1mm大の褐色粒子、径1cm大の白色バミスを微量含む。柱痕
- P7 ②黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～1mm大の褐色粒子、径1～3cm大の池田バミスを微量含む。
- P7 ③黒褐色土 7.5YR3/2 粘性あり、しまりややあり、径0.1～1mm大の褐色粒子、径1～2cm大の池田バミス、アカホヤブロック多く含む。
- P7 ④黒褐色土 7.5YR3/2 粘性あり、しまりあり、径0.1～1mm大の褐色粒子、径0.5～2cm大の池田バミス、アカホヤブロック多く含む。③より黒色土が多い。
- P8 ①黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色・白色粒子、径0.5～1.5cm大の軽石を微量含む。柱痕
- P8 ②黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色・白色粒子、粗砂や径0.5～1cm大の軽石を微量含む。紫コラが混ざる。
- P8 ③暗褐色土 10YR3/4 砂質土、粘性ややあり、しまりあり、径0.5～1cm大の池田バミス、径0.5～1mm大の白色粒子を多く含む。
- P9 ①黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性あり、しまり弱、径0.1～0.5mm大の褐色粒子、径5mm～1cm大の白色バミスを含む。柱痕
- P9 ②黒色土 7.5YR2/1 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～1mm大の褐色・白色粒子を含む。
- P9 ③黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～5mm大の褐色粒子を含む。
- P9 ④黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.5～1cm大の池田バミスを多く含む。
- P10 ①黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色・白色粒子を含む。
- P10 ②黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりややあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子、径0.1～1cm大の白色バミスを微量含む。
- P10 ③黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～1mm大の褐色・白色粒子を含む。
- P10 ④黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の白色粒子を含む。
- P10 ⑤暗褐色土 10YR3/3 砂質シルト、粘性ややあり、しまりあり、径0.1～1mm大の褐色粒子、径1～10mm大の池田バミスを含む。
- P11 ①黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色・白色粒子を含む。柱痕
- P11 ②極暗褐色土 7.5YR2/2 シルト質、粘性ややあり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。
- P11 ③黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりややあり、径0.1～0.5mm大の褐色・白色粒子、径1～1.5cm大の池田バミスを多く含む。
- P11 ④暗褐色土 10YR3/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径1～5mm大の池田バミス、径1cm大のアカホヤブロックを含む。
- P12 ①黒褐色土 10YR3/1 シルト質、しまりややあり、径0.5cm大の白色・褐色粒子を微量含む。
- P12 ②黒褐色土 10YR2/2 シルト質、しまりやや弱い、径0.1～0.5mm大の褐色粒子、径1cm大の白灰色バミスを微量含む。
- P12 ③褐～灰黄褐色土 10YR4/4～10YR4/2 シルト質、しまりあり、径0.5～1.5cm大の白色バミス、径0.5cm大の褐色粒子を含む。紫コラブロックが混ざる。
- P12 ④黒褐色土 7.5YR3/1 シルト質、しまりあり、径0.5～1cm大の白色バミス、径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。
- P12 ⑤褐色土 10YR4/4 砂質、しまり弱い、径0.5～1cm大の白色粒子を含む。※アカホヤ塊に植物根等の影響を受けた粗黒土混じり
- P13 ①暗褐色土 10YR3/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径1mm以下の赤色・白色粒子、径5mm大の池田降下軽石を3%程度含む。
- P13 ②黒褐色土 10YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径1mm以下の赤色・白色粒子、径1～2cm大の紫コラを1%程度、径5mm大の池田降下軽石を7%含む。
- P13 ③黒褐色土 10YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径1mm以下の赤色・白色粒子を5%程度、径5mm大の池田降下軽石を3%含む。径0.5～3cm大の紫コラが5%程度、アカホヤは5%程度混ざる。
- P13 ④黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径1mm以下の赤色・白色粒子を1%程度、径5mm大の池田降下軽石を2%程度、アカホヤを2%程度含む。径0.5～2cm大の紫コラが1%程度混ざる。
- P13 ⑤暗褐色土 10YR3/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径1mm以下の赤色・白色粒子を1%程度、径0.5～2cm大の池田降下軽石を2%程度、径1cm以下のアカホヤを5%程度含む。
- P14 ①暗褐色土 10YR3/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径1mm以下の赤色・白色粒子、径5mm大の池田降下軽石を3%程度含む。径2cm大の池田湖火山灰が1%以下混ざる。
- P14 ②黒褐色土 10YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径1mm以下の赤色・白色粒子、径1～2cm大の紫コラを1%程度含む。
- P14 ③暗褐色土 10YR3/4 シルト質、粘性あり、しまりあり、径1mm以下の赤色・白色粒子を1%程度、径0.1～2cm大の池田降下軽石を30%程度含む、径5mm以下のアカホヤ火山灰を5%含む。紫コラが3%程度混ざる。
- P14 ④暗褐色土 10YR3/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径1mm以下の赤色・白色粒子を1%程度、径0.5～2cm大の池田降下軽石を2%程度、径1cm大のアカホヤ火山灰を1%含む。紫コラが7%程度混ざる。

第26図 5号掘立柱建物跡2

6号掘立柱建物跡



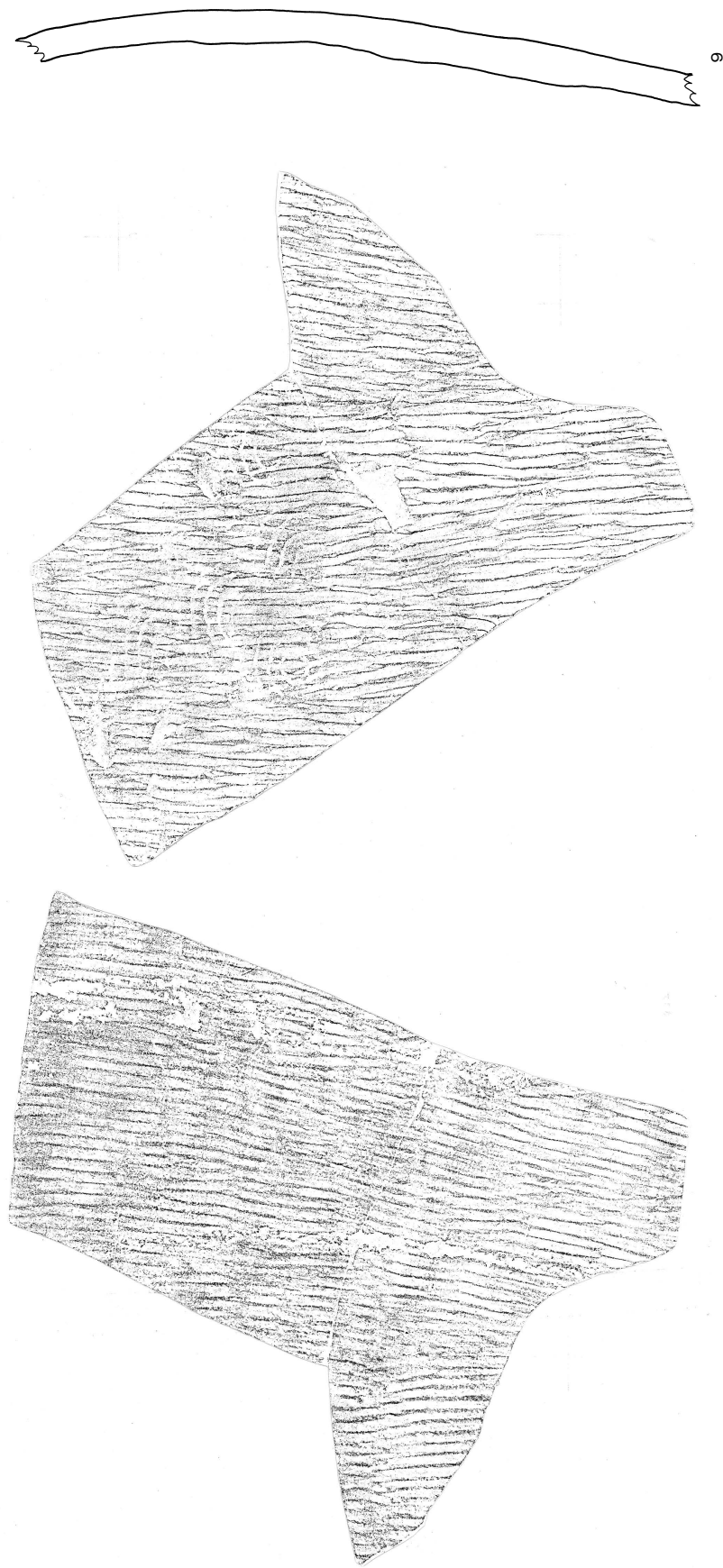
第 27 图 6号掘立柱建物跡 1



埋土

- P1 ①黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質, 粘性・しまりややあり, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子, 粗砂を5%含む。II層ベース, 柱痕の可能性あり。
P1 ②黒褐色土 10YR2/2 シルト質, 粘性弱い, しまりは強い, 径1mm大の褐色粒子・白色粒子を5%含む。
P2 ①黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質, 粘性・しまりややあり, 径0.1~1mm大の白色粒子, 径0.1mm大の褐色粒子を微量含む。II層ベース, 柱痕の可能性あり。
P2 ②黒褐色土 10YR2/3 シルト質, 粘り弱い, しまりは強い, 径0.1~5mm大の白色粒子, 径0.1mm大の褐色粒子を微量含む。全体的に紫コラが含まれ固くしまる。II層ベース
P3 ①黒褐色土 10YR3/1 シルト質, 粘性弱い, しまりは強い, 径0.1~0.5mm大の白色粒, 径1~5mm大のバミスを含む。II層ベース
P3 ②黒褐色土 10YR2/2 シルト質, 粘性弱い, しまりややあり, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子を微量含む。II層ベース
P4 ①黒褐色土 10YR3/1 シルト質, 粘性弱い, しまりは強い, 径0.5~5mm大の白色粒子, 径0.1~1mm大の褐色粒子を少量含む。紫コラ混じりで固くしまる。
P4 ②黒褐色土 10YR2/2 シルト質, 粘性あり, しまりややあり, 径0.5~5mm大の白色バミス, 径0.1mm~0.5mm大の褐色粒子を含む。II層ベース, 柱痕か。
P4 ③暗褐~褐色土 10YR3/3~10YR4/4 シルト質, 粘性弱い, しまりあり, 径0.5~1cm大の池田バミスを30%, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子を含む。
P4 ④黒褐色土 10YR2/2 シルト質, 粘性あり, しまりはややあり, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子を微量含む。II層ベース。
P5 ①黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質, 粘性は弱い, しまりあり, オリーブ灰色土(2.5GY5/1)に近い色土のブロック(紫コラ)が部分的に混じる。径0.5~1mm大の褐色粒子・粗砂を多く含む。紫コラの影響か, 固くしまる。II層ベース。柱痕
P5 ②黒褐色土 10YR2/2 シルト質, 粘性は弱い, しまりややあり, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子を含む。①よりやや明るく, しまり・粘性共に弱い。
P6 ①暗褐色土 10YR3/3 シルト質, 粘性は弱い, しまりあり, 径1~5cm大の池田バミスを多く含む。径0.5~1mm大の白色・褐色粒子を含む。II層~池田ベース。柱痕
P6 ②黒褐色土 10YR2/2 シルト質, 粘性は弱い, しまりあり, 径5mm~1cm大の池田バミス, 径0.5~1mm大の褐色粒子を含む。①と比べやや黒みを帯びる。II層~池田ベース。柱痕
P7 ①黒褐色土 10YR2/3 シルト質, 粘性あり, しまりややあり, 径0.1~1mm大の褐色・白色粒子を含む。粗砂を含む。II層ベース。柱痕
P7 ②黒褐色土 10YR3/1 シルト質, 粘性あり, しまりややあり, 径0.5mm大の白色バミスを極微量, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子を含む。II層ベース
P8 ①黒褐色土 10YR2/2 シルト質, 粘性あり, しまりややあり, 径0.5~2cm大の池田バミス, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子を多く含む。粗砂を含む。III層・池田ベース。柱痕
P8 ②黒土 10YR2/1 シルト質, 粘性あり, しまりややあり, 径0.5~2cm大の池田バミス, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子, 粗砂を含む。II~III層ベース。①より暗い。
P9 ①黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質, 粘性あり, しまりややあり, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子, 粗砂を含む。II層ベース。柱痕
P9 ②黒土 7.5YR2/1 シルト質, 粘性あり, しまりややあり, 径0.5~1mm大の褐色粒子, 粗砂を含む。II層ベース
P10 ①黒褐色土 10YR2/2 シルト質, 粘性弱い, しまりややあり, 径0.1~1mm大の褐色・白色粒子, 径1cm大の池田バミスを含む。III層ベース。柱痕
P10 ②黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質, 粘性あり, しまりややあり, 径1~2cm大の池田バミス, 径5mm大の白色粒子を含む。II~III層ベース。柱痕
P10 ③黒褐色土 7.5YR2/3 シルト質, 粘性あり, しまりややあり, 径0.5~1mm大の褐色・白色粒子を少量含む。II層ベース
P11 ①黒褐色土 10YR2/2 シルト質, 粘性ややあり, しまりあり, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子, 粗砂を含む。II層ベース。柱痕
P11 ②暗褐色土 10YR3/3 シルト質, 粘性ややあり, しまりあり, 径1cm大の池田バミスを極少量, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子, 粗砂を含む。II層ベース
P12 ①黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質, 粘性あり, しまりあり, 径0.5~1mm大の褐色粒子を少量含む。II層ベース。柱痕
P12 ②黒褐色土 10YR2/3 シルト質, 粘性あり, しまりあり, 径1~1.5cm大の池田バミス, 径0.1~0.5mm大の褐色・白色粒子を含む。II層ベース
P13 黒褐色土 10YR2/3 シルト質, 粘性あり, しまりあり, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子を含む。II層ベース
P14 ①黒褐色土 7.5YR3/2 シルト質, 粘性あり, しまりややあり, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子を含む。灰褐色(7.5YR5/2)の小ブロックあり。II~III層ベース。柱痕
P14 ②黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質, 粘性あり, しまりあり, 径0.1~0.5mm大の褐色・白色粒子を含む。II~III層ベース。柱痕
P15 ①黒褐色土 10YR2/2 シルト質, 粘性あり, しまりあり, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子, 粗砂を含む。II層ベース。柱痕
P15 ②黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質, 粘性あり, しまりあり, 径1cm大の白色バミスを極微量含む。
P16 ①黒褐色土 10YR2/2 シルト質, 粘性あり, しまりあり, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子, 粗砂を少量含む。II層ベース。柱痕
P16 ②黒褐色土 7.5YR3/2 シルト質, 粘性あり, しまりあり, 径0.5cm大の白色粒子を極微量, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子を含む。
P17 ①黒褐色土 10YR3/2 シルト質, 粘性あり, しまりあり, 径0.1~0.5mm大の褐色粒子, 粗砂を含む。II層ベース。柱痕
P17 ②黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質, 粘性あり, しまりあり, 径0.1~0.5mm大の褐色・白色粒子, 粗砂含む。

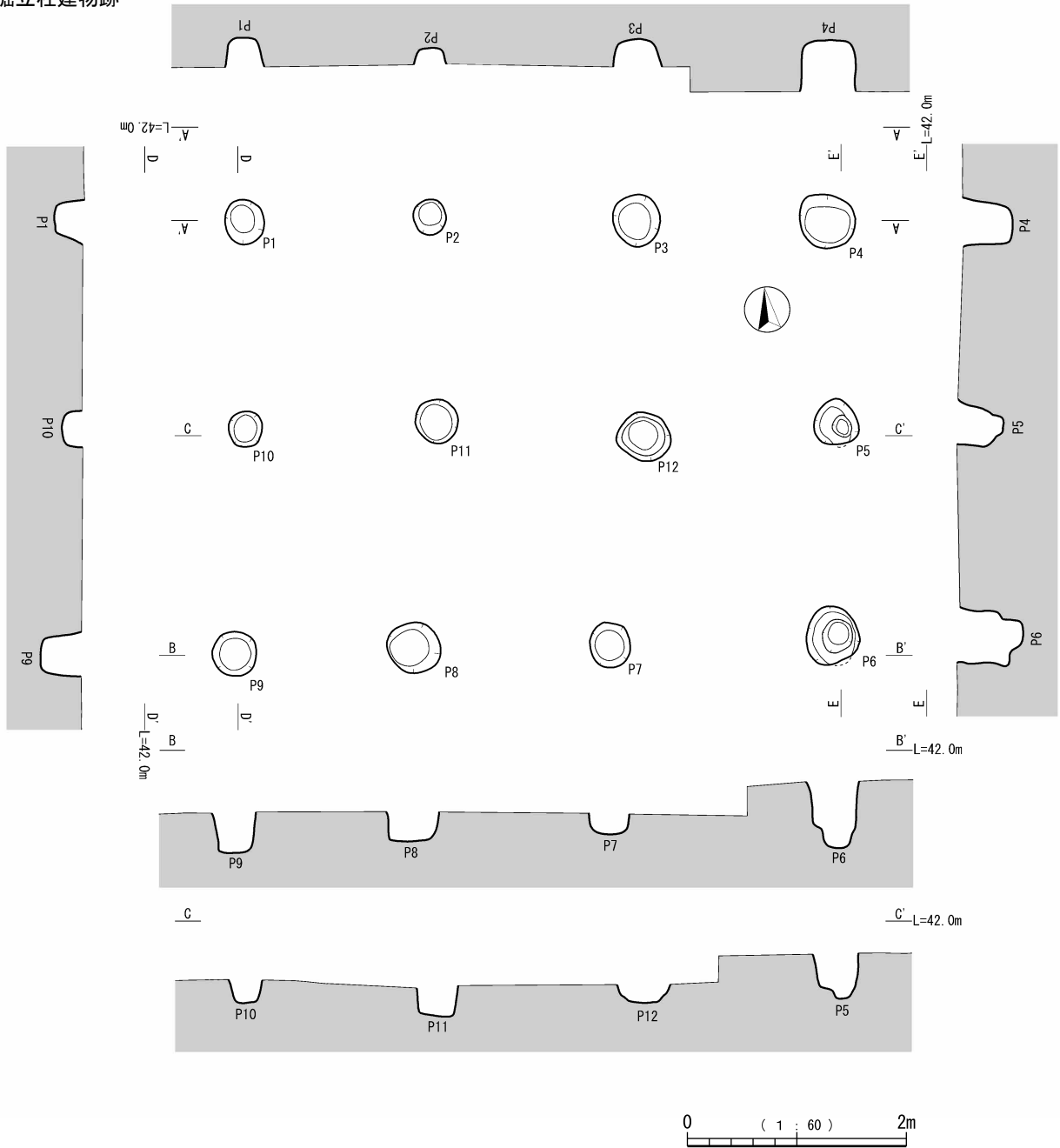
第28図 6号掘立柱建物跡2



0 (1 : 3) 10cm

第29图 6号掘立柱建物跡3

7号掘立柱建物跡

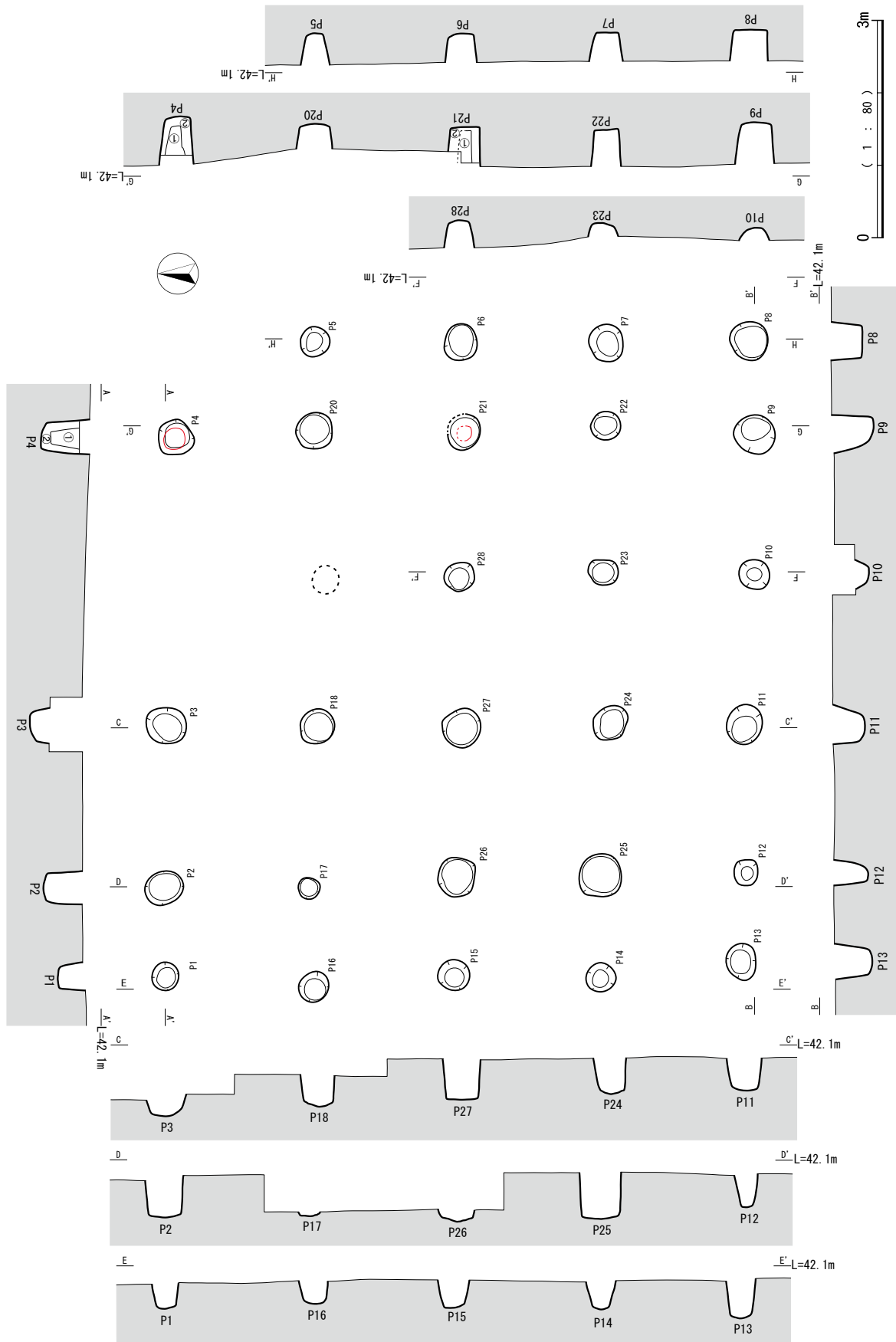


埋土

- P1 黒褐色土 10YR2/2 弱粘性あり, しまりあり, 径0.5mm~1mm大の粗砂, 褐色粒子を10%程度, 径1~5mm大の白色バミスを5%程度含む。
- P2 黒褐色土 10YR3/2 弱粘性あり, しまりあり, 径0.5~1mm大の白色粒子を10%程度, 径1~5mm大の白色バミスを5%程度含む。
- P3 黒色土 10YR2/1 弱粘性あり, しまりあり, 径0.5~1mm大の白色粒子を5%程度含む。
- P4 黒色土 10YR2/1 弱粘性あり, しまりあり, 径0.5~1mm大の白色・褐色粒子を5%程度含む。
- P5 黒色土 10YR2/1 弱粘性あり, しまりあり, 径0.5~1mm大の白色粒子, 径1~5mm大の白色バミスを5%程度含む。
- P6 黒色土 10YR2/1 弱粘性あり, しまりあり, 径0.5~1mm大の白色粒子, 径1~5mm大の白色バミスを微量含む。
- P7 黒褐色土 7.5YR2/2 弱粘性あり, しまりあり, 径0.5~1mm大の白色・赤色粒子を5%程度含む。 ※7号掘立柱建物跡全体の埋土より, やや明るい。
- P8 黒褐色土 10YR3/2 弱粘性あり, しまりあり, 径0.5~1mm大の白色粒子, 径1~5mm大の白色バミスを5%程度含む。
- P9 黒褐色土 10YR3/2 弱粘性あり, しまりあり, 径0.5~1mm大の白色粒子, 径1~5mm大の白色バミスを5%程度含む。
- P10 黒褐色土 10YR3/2 弱粘性あり, しまりあり, 径1~5mm大の白色バミスを5%程度含む。
- P11 黒褐色土 10YR3/2 弱粘性あり, しまりあり, 径0.5~1mm大の粗砂, 径1~5mm大の白色バミスを10%程度含む。
- P12 黒褐色土 10YR3/2 弱粘性あり, しまりあり, 径0.5~1mm大の粗砂, 径1~5mm大の白色バミスを5%程度含む。

第30図 7号掘立柱建物跡

8号掘立柱建物跡



第31图 8号掘立柱建物跡

埋土

- P1 黒色土 10YR2/1 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1mm大の粗砂・白色粒子を5%含む。
P2 黒褐色土 10YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径15mm大の軽石、径0.1mm大の粗砂、褐色粒子、炭化物片を10%含む。
P3 黒褐色土 10YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.5～15mm大の軽石、径0.1～0.5mm大の白色・褐色粒子を5%含む。
P4 ①黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性弱い、しまりあり、径0.1～0.5mm大の粗砂、褐色粒子を含む。柱痕
P4 ②黒褐色土 10YR2/1 シルト質、粘性弱い、しまりあり、径10mm大の軽石くずれブロック含む。
P5 黒色土 10YR2/1 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.5mm大の白色粒子、径0.1mm大の粗砂、褐色粒子を5%含む。
P6 黒色土 10YR2/1 シルト質、粘性あり、しまりあり、径10mm大の軽石を10%、径0.1mm大の粗砂、褐色粒子を5%含む。
P7 黒色土 10YR2/1 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1mm大の粗砂、褐色粒子を5%含む。
P8 黒褐色土 7.5YR 3/1～3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1mm～0.5mm大の粗砂、黄褐色・白色粒子を10%含む。
P9 黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～1mm大の粗砂、褐色粒子を10%含む。
P10 暗褐色土 10YR3/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の粗砂、池田火山灰ブロックを10%含む。
P11 暗褐色土 10YR3/4 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の粗砂、白色粒子を10%含む。
P12 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～10mm大の粗砂、褐色粒子を10%含む。※Ⅲ層ベース小ブロックぼんやりと存在する。
P13 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～10mm大の粗砂、白色・褐色粒子を10%、径5mm大の白色粒を1%含む。
P14 黒褐色土 10YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.5～1mm大の粗砂、白色粒子を5%含む。
P15 黒褐色土 10YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～1mm大の粗砂、褐色・白色粒子を10%含む。
P16 黒色土 10YR2/1 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.5～5mm大の白色・褐色粒子、径0.1mm大の白色粒子を10%含む。
P17 黒色土 10YR1.7/1 シルト質、粘性あり、しまり強い、径0.1～0.5mm大の白色粒子、粗砂を10%含む。底面付近固くしめる。
P18 黒褐色土 10YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の粗砂、褐色・白色粒子を10%含む。
P20 黒褐色土 10YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.5～5mm大の白色粒子、0.1～0.5mm大の粗砂、褐色粒子を10%含む。※下部は池田火山灰ブロックを含む。
P21 ①黒褐色土 10YR2/1 シルト質、粘性あり、しまりあり、径5～10mm大の白色パミス、褐色粒子を10%含む。柱痕
P21 ②暗褐色～ぶい黄褐色土 10YR3/3～10YR4/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.5～10mm大の白色パミス、褐色粒子、粗砂を10%含む。
P22 黒褐色土 7.5YR3/1～3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の粗砂、黄褐色・白色粒子を10%含む。
P23 黒褐色土 10YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径10mm大の粗砂、白色粒子を10%含む。
P24 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径5～10mm大の白色パミス、径0.5mm大の粗砂、褐色粒子を10%含む。
P25 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の粗砂、褐色粒子を5%含む。
P26 黒褐色土 10YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の白色パミス、径0.5mm大の粗砂を10%含む。
P27 黒褐色土 10YR3/1 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.5mm大の白色パミス、径0.1～0.5mm大の褐色粒子、粗砂を10%含む。底面付近はⅢ層ベース土が多くなる。
P28 黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径5～10mm大の軽石、径1mm大の白色・褐色粒子を10%含む。

を基本とする。廂の柱間寸法は桁行が1間194～208cm、梁行が1間116～148cmである。規模は長軸30～64cm、短軸28～60cm、検出面からの深さは8～68cmであり、P4・21に柱痕跡がみられる。埋土中に紫コラが含まれる。

埋土中から土師器の坏や皿が出土したが、掲載には至らなかった。

(2) 土坑 (第32～36図)

土坑は、12基検出した。遺構の検出面が中世や古墳時代の遺構と重複するため、遺物の出土状況や埋土の状況、周辺から検出された遺構等から時期判定を行った。

1号土坑 (第32図)

W-17区Ⅲb層上面で検出した。大きさは長軸128cm、短軸110cm、検出面からの深さは16cmを測る。平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈し、埋土は単層である。

埋土中から遺物は確認されなかった。

2号土坑 (第32図)

W-17区Ⅲb層上面で検出した。大きさは長軸78cm、短軸70cm、検出面からの深さは12cmを測る。平面形は円形で、断面形は皿状を呈し、埋土は単層である。

埋土中から土器片1点が出土したが、掲載には至らなかった。

3号土坑 (第32図)

Y-17区Ⅲb層で検出した。大きさは長軸75cm、短軸64cm、検出面からの深さは42cmを測る。平面形は楕円形で、断面形は鉢状を呈し、埋土は5つに分層した。

埋土中から土器片1点が出土したが、掲載には至らな

かった。

4号土坑 (第32図)

Y-17区Ⅲb層で検出した。大きさは長軸89cm、短軸70cm、検出面からの深さは27cmを測る。平面形は楕円形で、断面形は鉢状を呈し、埋土は単層である。

埋土中から土器片3点が出土したが、掲載には至らなかった。

5号土坑 (第32図)

e-30区Ⅳ層で検出した。大きさは長軸79cm、短軸70cm、検出面からの深さは23cmを測る。平面形は楕円形、断面形は皿形を呈し、埋土は2つに分層した。

埋土中から土師器の坏(Ⅱ類)と甕が出土したが、掲載には至らなかった。

6号土坑 (第33図)

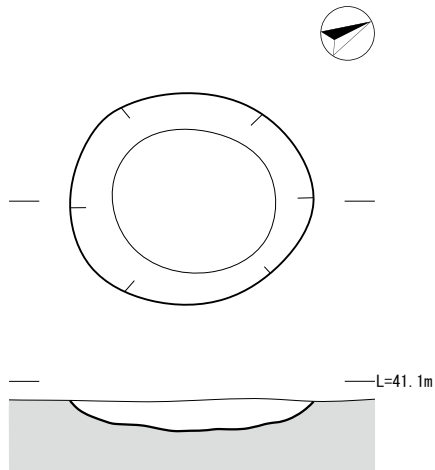
e-30区Ⅲa層で検出した。土坑の西側は、6号掘立柱建物跡のP17に切られている。大きさは長軸約101cm、短軸99cm、検出面からの深さは34cmを測る。平面形は方形、断面形は鉢形を呈し、埋土は3つに分層した。

遺物は埋土中位から底面付近にかけて土師器の甕が出土し、埋土中から土師器の坏が出土した。10は、土師器の甕である。口径約28cmであり、外面はナデ調整、内面はナデ及びケズリを施す。

7号土坑 (第33・34図)

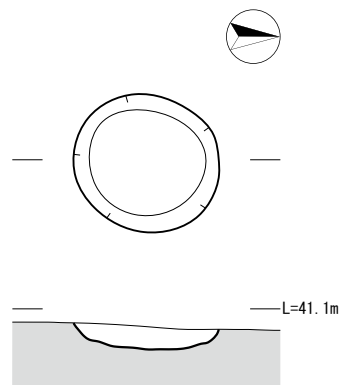
X-17区Ⅲa層で検出した。古墳時代の竪穴建物跡であるSH21を切っており、8号土坑が近接する。大きさは長軸214cm、短軸156cm、検出面からの深さは37cmを

1号土坑



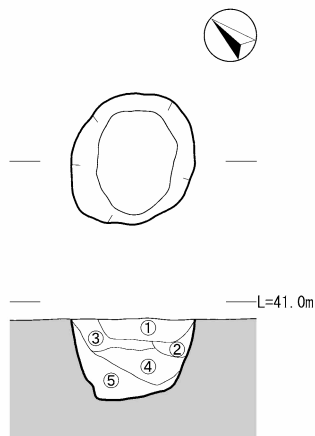
埋土
 暗褐色土 10YR3/4 シルト、粘性弱い、よくしまる、径1mm以下の赤色粒子・黄色粒子を10%程度、径5mm大の紫コラ・軽石を1%含む。

2号土坑



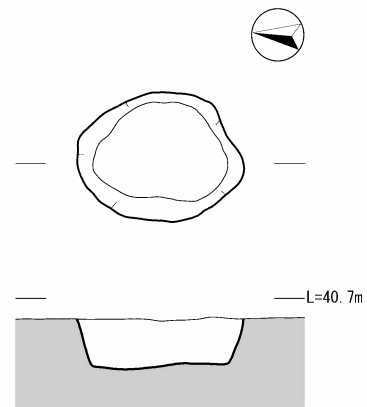
埋土
 暗褐色土 10YR3/4 シルト、粘性弱い、よくしまる、径1mm以下の赤色粒子・黄色粒子を10%程度、径5mm大の紫コラ・軽石を1%含む。

3号土坑



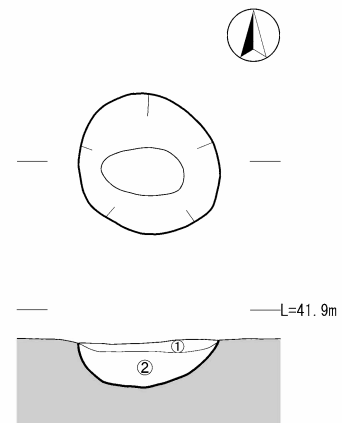
埋土
 ①黒色土 7.5YR2/1 シルト質、粘性弱い、径0.1～1mm大の褐色・赤褐色粒子を含む。
 ②黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性強い、径0.1～1cm大の黄褐色（アカホヤ由来）土、径0.5～5mm大の白色パミスを含む。
 ③黒褐色土 7.5YR3/2 シルト質、粘性あり、径0.5～2cm大の黄褐色（アカホヤ由来）土を多く含む。径1～1.5cm大の白色パミスを含む。
 ④黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質、粘性あり、径0.1～1cm大の褐色・黄褐色粒子を多く含む。径0.1～0.5mm大の白色粒子を含む。
 ⑤黒褐色土 7.5YR2/2～3/2 シルト質、粘性ややあり、径0.1～1cm大の白色パミス、径1cm大の黄褐色粒子を多く含む。

4号土坑



埋土
 黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質、粘性あり、やや固くしまる、径1～2.5cm大の池田パミスを含む。径0.1～1mm大の褐色粒子を少量含む。

5号土坑

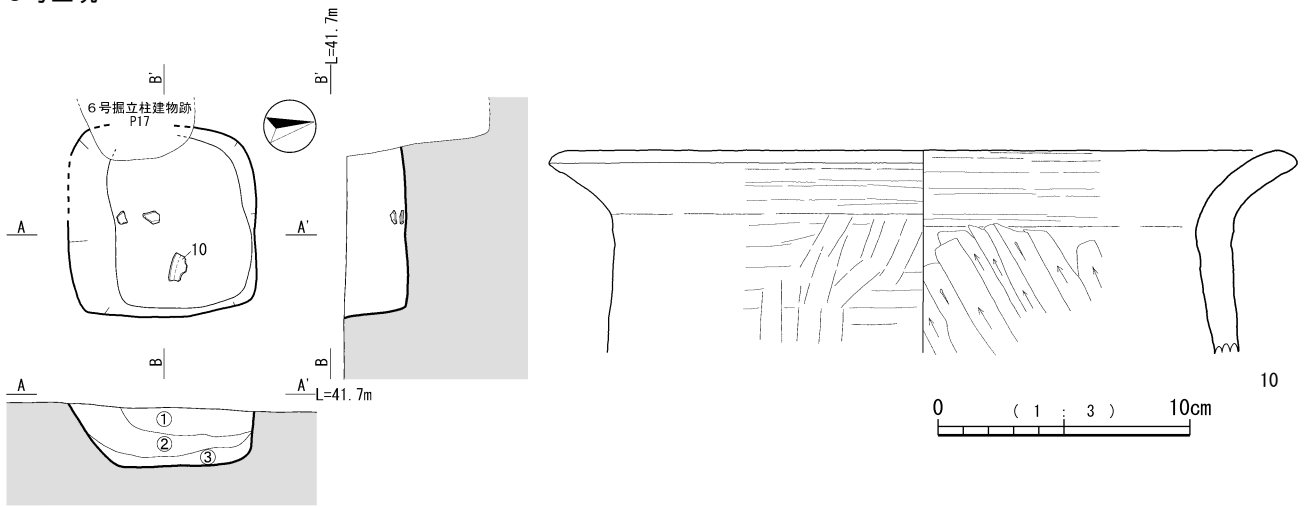


埋土
 ①黒褐色土 10YR3/1 シルト質、粘性弱い、しまりやや強い、白色・橙色粒子を僅か（1%程度）に含む。
 ②黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性弱い、しまりやや強い、下部に径0.5～3mm大の白色パミスを僅か（1%程度）に含む。白色・橙色粒子を僅かに（1%程度）含む。



第32図 1～5号土坑

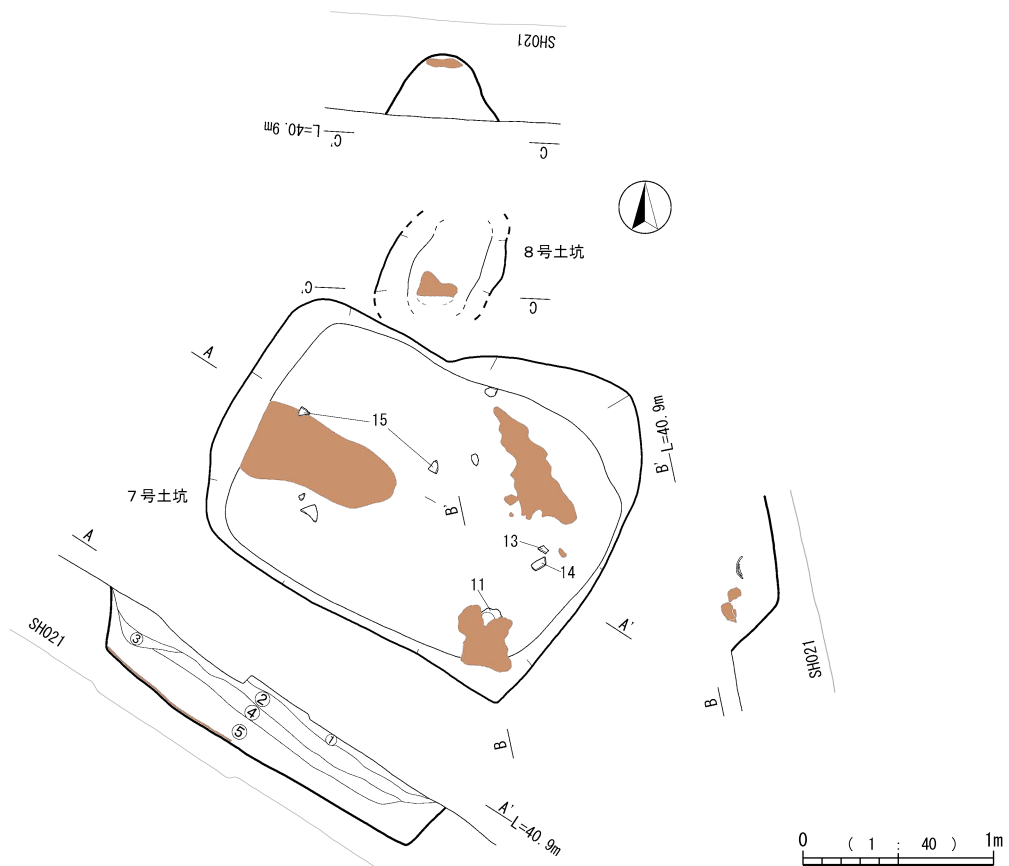
6号土坑



埋土

- ①黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質，粘性あり，固くしまる。径1cm大の池田降下軽石，径0.1～1mm大の褐色粒子・粗砂を微量含む。
- ②黒褐色土 10YR2/2 シルト質，粘性あり，固くしまる。径0.1～0.5mm大の白色粒子・粗砂を含む。
- ③黒褐色土 7.5YR3/2 粘性あり，固くしまる。径1～5mm大の白色パミスを極少量，径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。

7号・8号土坑



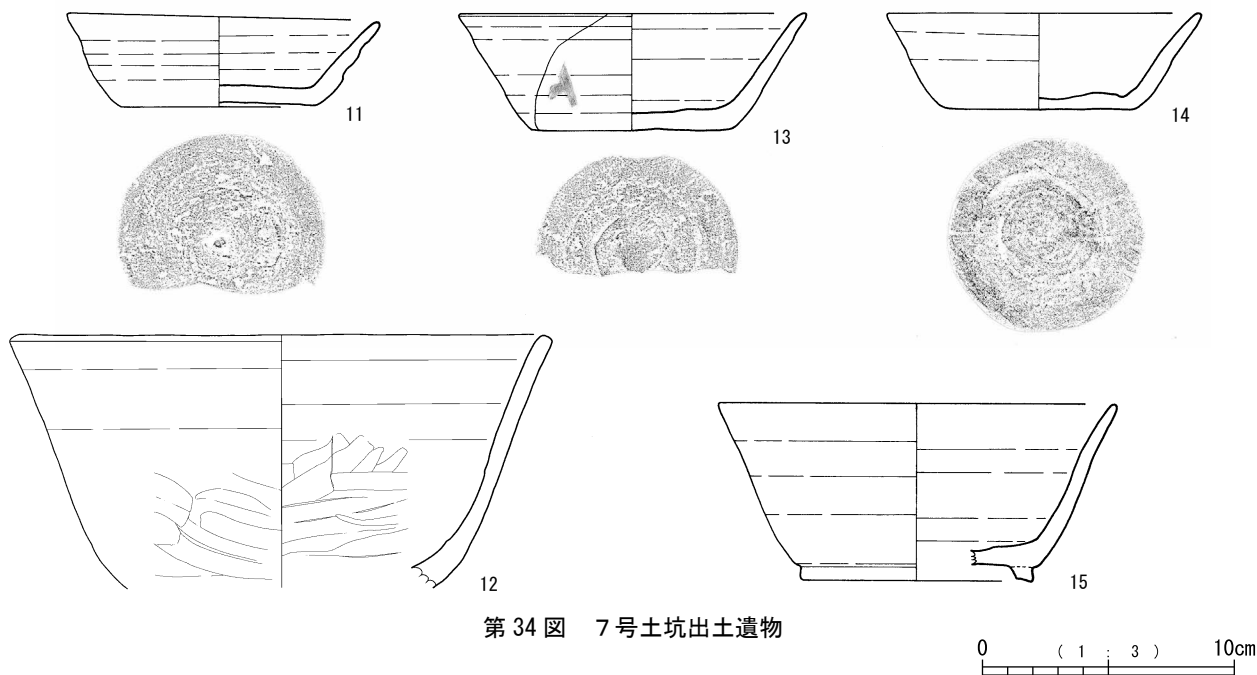
埋土 (7号土坑)

- ①黒褐色土 10YR2/3 弱粘性，しまりやや弱い，径0.2～1.5cm大の池田降下軽石を5%，径0.1cm大の白色・橙色粒子を10%含む。
 - ②黒褐色土 10YR2/3 弱粘性，しまりやや弱い，径0.2～1.5cm大の池田降下軽石を7%，径0.1cm大の白色・橙色粒子を10%含む。
 - ③黒褐色土 10YR2/2 弱粘性，しまりやや弱い，径0.2～1cm大の池田降下軽石を5%，径0.1cm大の白色・橙色粒子を10%含む。
 - ④黒褐色土 10YR2/3 弱粘性，しまりやや弱い，径0.2～3cm大の池田降下軽石を5%，径0.1cm大の白色・橙色粒子を10%含む。
 - ⑤黒褐色土 10YR2/2 シルト質，粘性あり，固くしまる。径0.1～1cm大の褐色粒子を微量含む。紫コラ由来の火山灰を多量に含む為，土色がやや薄い白紫色を呈する。
- ※焼土・炭範囲褐色土 7.5YR4/4 粘性ややあり，やや固くしまる。径0.5～2cm大の池田降下軽石を微量，径0.1～0.5cm大の褐色・白色粒子を含む。炭化物を少量含む。

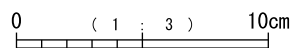
埋土 (8号土坑)

- ①黒褐色土 10YR2/3 シルト，粘性ややあり，やや強くしまる。径0.5～1cm大の白色パミス，径0.5mm以下の黄褐色粒子を含む。径0.1～1mm大の赤褐色粒子を少量含む。
 - ②黄褐色土 10YR5/6 明黄褐色土ブロック (10YR6/6) が混ざる。シルト，粘性・しまりややあり，径0.5～1cm大の白色パミスを微量含む。
- ※焼土ないし黄褐色土化した土塊と考えられる。

第33図 6～8号土坑



第34図 7号土坑出土遺物



測る。平面形は方形を呈するが、東側がやや張り出す。断面形は鉢状を呈し、埋土は、5つに分層した。土坑の南東側では埋土上位から中位にかけて焼土塊が出土した。

埋土中から土師器の坏・甕・鉢、墨書土器、須恵器の坏・碗、成川式土器が出土した。11は、土師器の坏である。体部外面にナデによるくぼみが残る、口径約12.4cm、底径7.7cm、器高3.5cmを測る。12は、土師器の鉢である。口径約20.6cmであり、胴部から口縁部に向かって緩やかに外反する。内外面ともナデ調整を行うが、胴部にはナデ調整後にケズリを行う。13は、墨書土器で、包含層出土遺物と接合した。口径約13.7cm、底径8cm、器高4.6cmを測る。体部外面にナデによるくぼみ残り、文字は「十」と考えられる。14は、須恵器の坏であり、焼土塊の直下から出土した。ほぼ完形で口径12.8cm、底径7.6cm、器高3.9cmを測る。体部外面にナデによるくぼみ残る。底面は渦巻き状のヘラ切り痕が残るが、ナデ仕上げを行っている。体部内面と見込み部分の境はくぼませている。15は、須恵器の碗である。口径約16.0cmであり、体部は直線的に立ち上がるが、口縁部でやや外反する。

8号土坑 (第33図)

X-17区Ⅲa層で検出した。古墳時代の竪穴建物跡であるSH21の埋土観察用のベルトで検出した。SH21を切っており、南側は7号土坑が近接するが、7号土坑の完掘後に8号土坑を検出したため、切り合い関係は不明である。ベルトで観察された部分のみのため、長軸の長さ及び平面形は不明である。短軸63cm、検出面からの

深さは32cmを測る。断面形は鉢状を呈し、埋土は単層である。埋土の下位から焼土塊が出土し、検出面の深さや焼土塊の出土等の点では7号土坑と共通する。

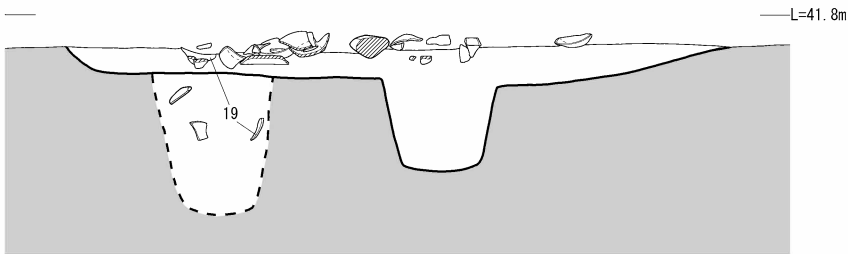
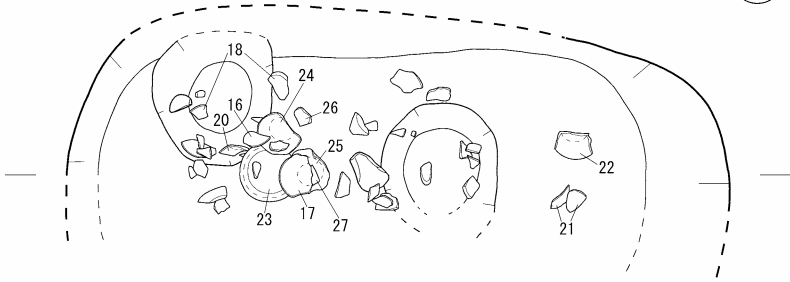
埋土中から成川式土器が出土したが、掲載には至らなかった。

9号土坑 (第35図)

c・d-29区Ⅱ層で検出した。土坑の南北側は攪乱を受けており、さらに南側は先行して掘り下げを行ったため、平面形状は不明である。断面形は皿状を呈し、埋土は単層である。遺物取り上げ後に土坑内からピット2基を検出した。それぞれ大きさは直径30cm程度、土坑の底面からの深さが25～38cmを測る。土坑の埋土とピット内の埋土が同一であり、ピット内から出土した土師器片と土坑の埋土上位から出土した土師器片が接合したことから、土坑に伴うピットと判断した。

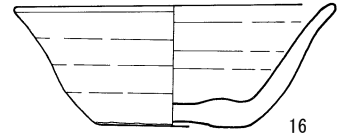
遺物は埋土上位を中心に土師器の坏・皿・甕、黒色土器、墨書土器、須恵器の坏が出土した。16・17・23～25は、重なって出土した。特に16～22は土師器の坏、23は土師器の皿、24～27は墨書土器である。16は、完形の坏であり、口径12.8cm、底径6.2cm、器高4.9cmを測り、底部から体部にかけて厚みがあり、口縁部はやや外反する。17・18・21・22には赤色塗布が見られる。23は、完形の皿であり、口径14.4cm、底径11.6cm、器高2.3cmを測る。赤色塗布が見られ、底部と体部の境にはケズリ跡を残す。24～27は、外面に「万」もしくは「石」が墨書されている。24・25は、体部の立ち上がりが丸みを帯び、体部外面にナデによるくぼみ残る。26・27は、体部の立ち上がりが直線的である。

9号土坑

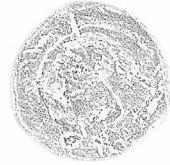


埋土

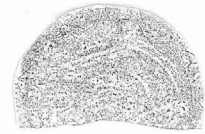
黒褐色土 10YR2/2 シルト、粘性・しまり弱い、径0.5~2mm大の灰白色粒子、径0.1~1.5mm大の橙色粒子を多く含む。粗砂が混じる。II層ベース



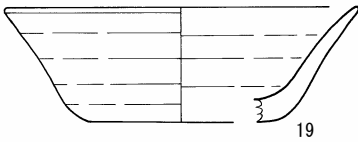
16



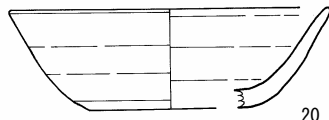
17



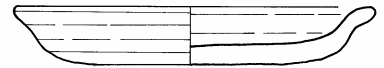
18



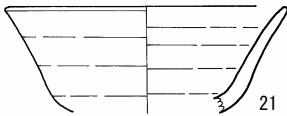
19



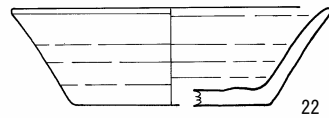
20



23



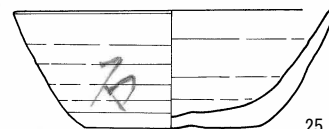
21



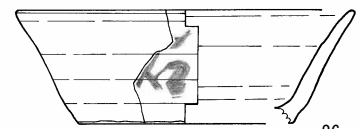
22



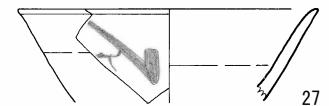
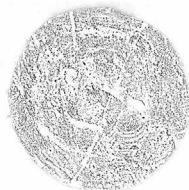
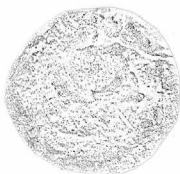
24



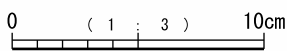
25



26

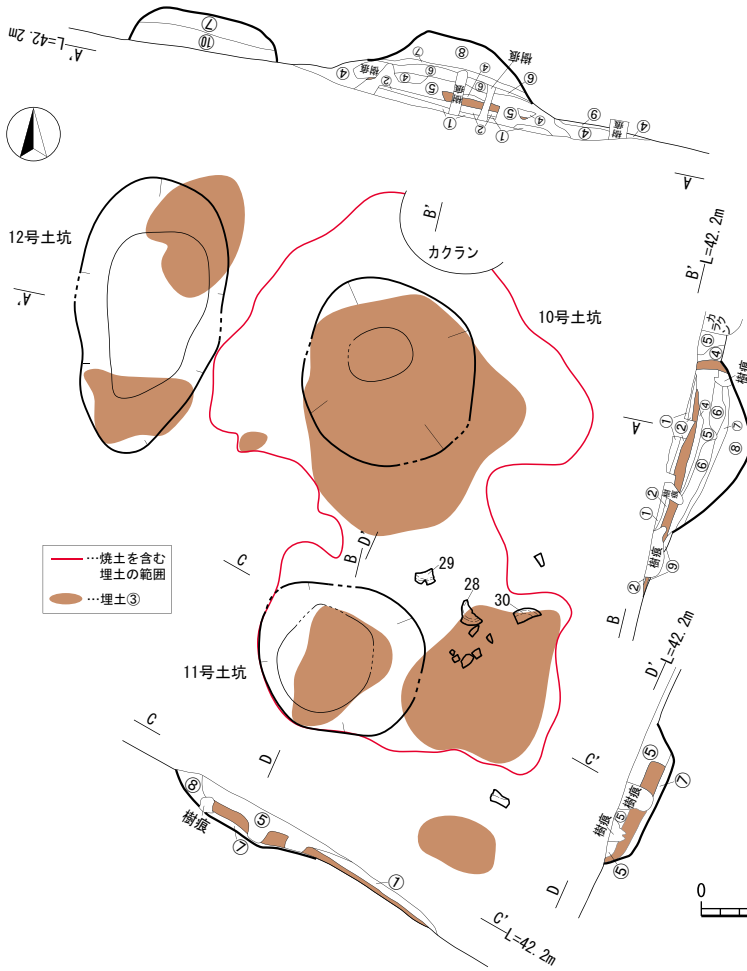


27



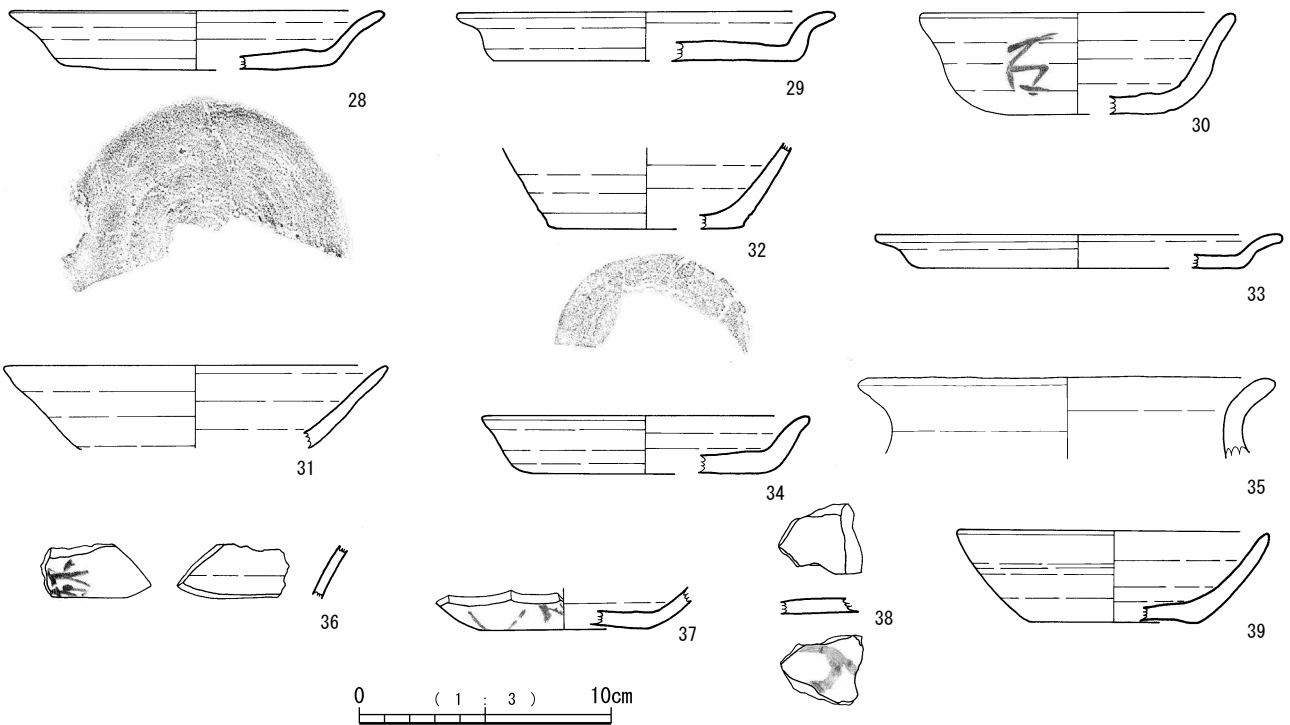
第35図 9号土坑

10号・11号・12号土坑



埋土

- ①にぶい黄褐色 (10YR5/3) 及び淡橙色 (5YR8/4) の混土 シルト質、粘性ややあり、堅くしまる。径 5 cm 以下の淡橙色の硬化したブロックを含む。
- ②黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性弱い、よくしまる
- ③明赤褐色土 5YR5/8 シルト質、粘性なし、固くしまる。被熱し赤色化している。焼土
- ④にぶい黄褐色土 10YR5/4 シルト質、粘性弱い、よくしまる。土性は③と同じだが、被熱していない。
- ⑤褐色土 10YR4/4 シルト質、粘性ややあり、ややしまる。①・③・④のブロックを 30% 含むため、植物等により攪乱された可能性がある。
- ⑥明褐色土 7.5YR5/8 シルト質、粘性なし、固くしまる。土性は③と同じで、被熱しているが、赤色化していない。
- ⑦黒褐色土 10YR3/1 シルト質、粘性なし、固くしまる。灰がベースでシルト質土と混ざる。
- ⑧黒褐色土 10YR3/1 シルト質、粘性あり、ややしまる。
- ⑨黒色土 10YR2/1 シルト質、粘性なし、固くしまる。部分的に③・④の直下にある。
- ⑩茶褐色土 シルト質、粘性あり、しまりあり、径 3 ~ 10 mm 大の焼土片を含む。II 層ベース



第 36 図 10 ~ 12 号土坑

焼土を伴う土坑（第 36 図）

10～12号土坑は当初、f・g-28区Ⅲa層で検出した焼土域の下部で確認した掘り込みとして調査した。そのため、遺構内出土の一括遺物については、出土位置が焼土中なのか、土坑の埋土中なのかは不明である。埋土についても焼土を中心に観察を行っており、10～12号土坑で共通する。焼土域はⅢa層中で検出し、南北方向に約360cm、東西方向に約270cmの範囲に広がる。埋土③は焼土であり、10～12号土坑の掘り込み内や埋土の上位で検出されたほか、土坑の周辺からも検出されている。

調査時の「焼土域」から出土した遺物は、土師器の坏・碗・皿・蓋・甕、黒色土器、墨書土器、須恵器である。28～30は、11号土坑のすぐ東側の焼土中から出土した。28・29は土師器の皿であり、口径は28が約14.8cm、19は約15cmを測る。30は土師器の坏で、体部は丸みを帯びる。外面に「万」もしくは「石」と墨書が施される。31・32は土師器の坏、33・34は土師器の皿、35は土師器の甕である。36～38は、墨書土器である。36は横位で「杯」、37は「万」と考えられ、38は底面に文字が確認できる。39は、須恵器の坏である。口径約12.4cm、底径約6.8cm、器高3.6cmを測り、体部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる。

10号土坑（第 36 図）

f・g-28区Ⅲa層で検出した。大きさは長軸102cm、短軸94cm、焼土を検出した面からの深さは41cmを測る。平面形は楕円形、断面形は鉢形を呈し、焼土を含み埋土は8つに分層した。

11号土坑（第 36 図）

f-28区Ⅲa層で検出した。大きさは長軸102cm、短軸83cm、焼土を検出した面からの深さは20cmを測る。平面形は楕円形、断面形は皿形を呈し、焼土を含み埋土は3つに分層した。

12号土坑（第 36 図）

f-28区Ⅲa層で検出した。大きさは長軸156cm、短軸77cm、焼土を検出した面からの深さは19cmを測る。平面形は楕円形、断面形は皿形を呈し、埋土は2つに分層した。

（3）畝間状遺構（第 37・38 図）

畝間状遺構はC～H-1～6区のⅢa～Ⅲb層、W～Y-16・17区のⅢa層、Z～b-18～22区のⅢa層で検出した。埋土の状況（紫コラの有無等）や周辺から検出された遺構等から時期判定を行った。広域で検出したため、C～H-1～6区を北区、W～Y-16・17区及びZ～b-18～22区を南区として説明する。

北区では畝間状遺構を192条検出した（第15・37図）。方向はC～G-2・3区では西北西から東南東、C～G-3～5区では西南西から東北東、H-5・6区では西北西から東南東となっており、多くのものがほぼ東西方向となっている。規模は、平均で長軸155cm、短軸22cm、検出面からの深さは4cmである。畝間状遺構の間隔はD-2区では50cm程度であるが、遺構の密度が低い箇所では100～150cm程度となる。埋土は黒褐色土から暗褐色土で、弱粘性で、全体的に堅くしまる。全体の6割にあたる127条では、含有率は異なるが紫コラを含む。埋土中から縄文土器が出土したが、掲載には至らなかった。

南区では畝間状遺構を26条検出した（第16・17・38図）。方向は、ほぼ南北方向となっている。Z～b-18～22区では、東西方向に伸びる溝状遺構7及び古道7に切られている。規模は平均で長軸410cm、短軸42cm、検出面からの深さは約10cmであり、北区に比べると規模が大きい。畝間状遺構の間隔は約150cmである。埋土は記録がなかったため不明であるが、自然科学分析を行った畝間状遺構（SN17）からは紫コラが確認されている（第38図）。埋土中から成川式土器が出土したが、掲載には至らなかった。

3 遺物

（1）土師器坏（第 39・40 図 40～72）

土師器の坏は一括遺物を含め757点出土し、その内33点を図化した。16～39区のⅡ・Ⅱ～Ⅳ層・Ⅳ層まで出土し、29～30区から半数近くが出土した。底径は6～7cm前後のものが多く、形状などから次の3類に分類した。

I類：体部が大きく開き外反するもの

II類：体部が外反せずそのまま立ち上がるもの

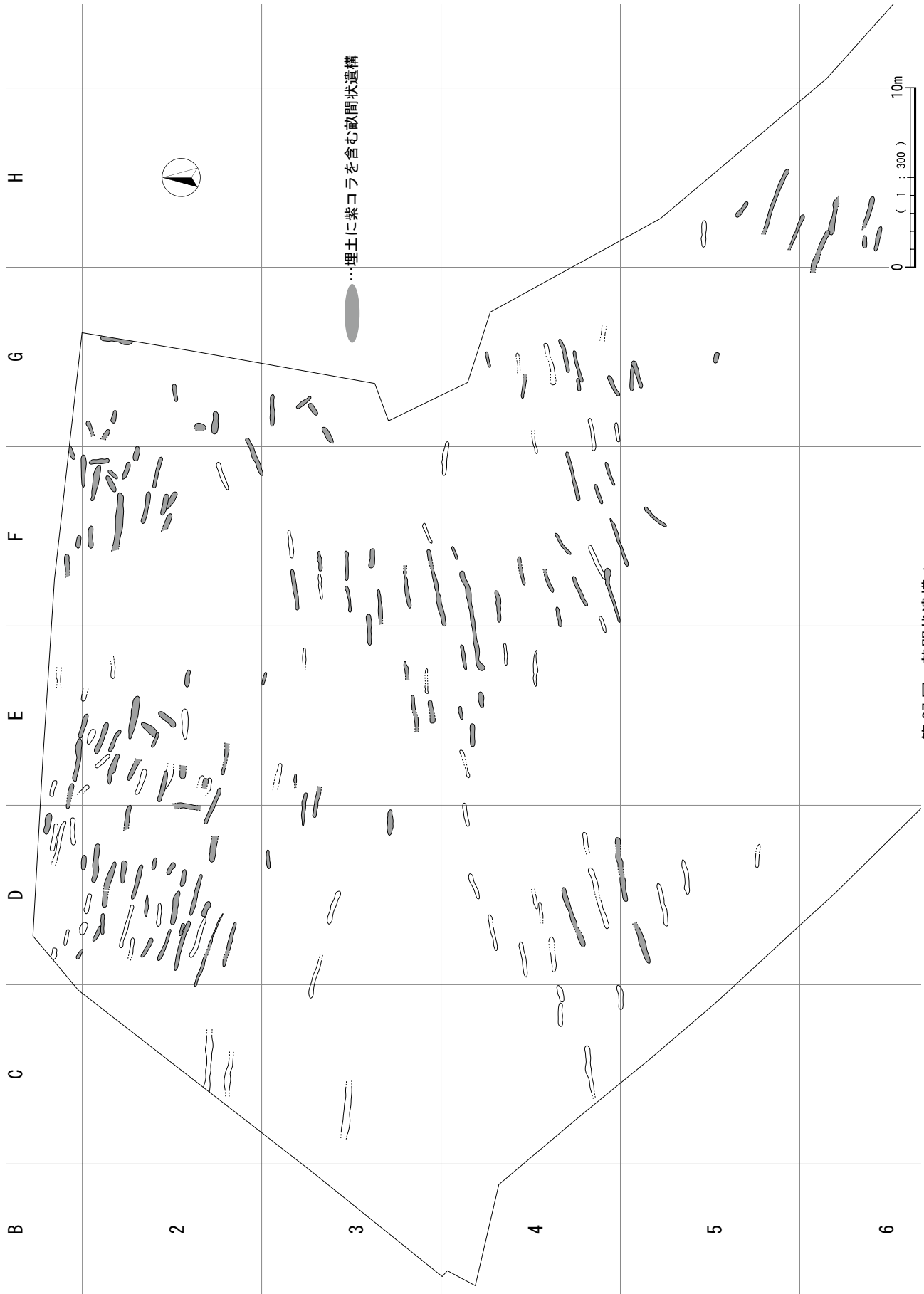
III類：体部がやや丸みを帯び、充実高台を持つもの

I類（第 39 図 40～44）

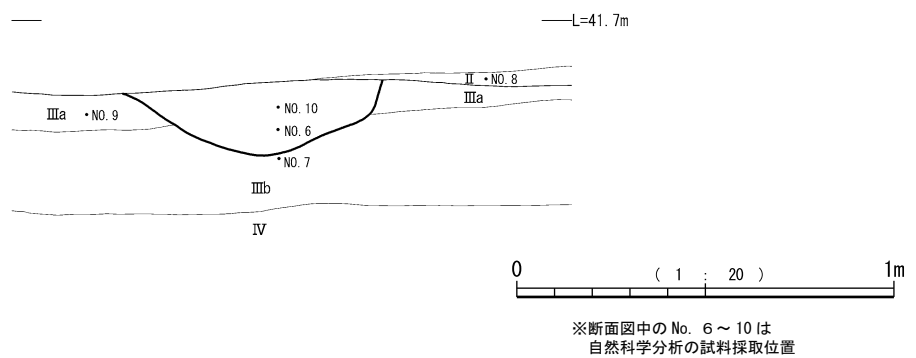
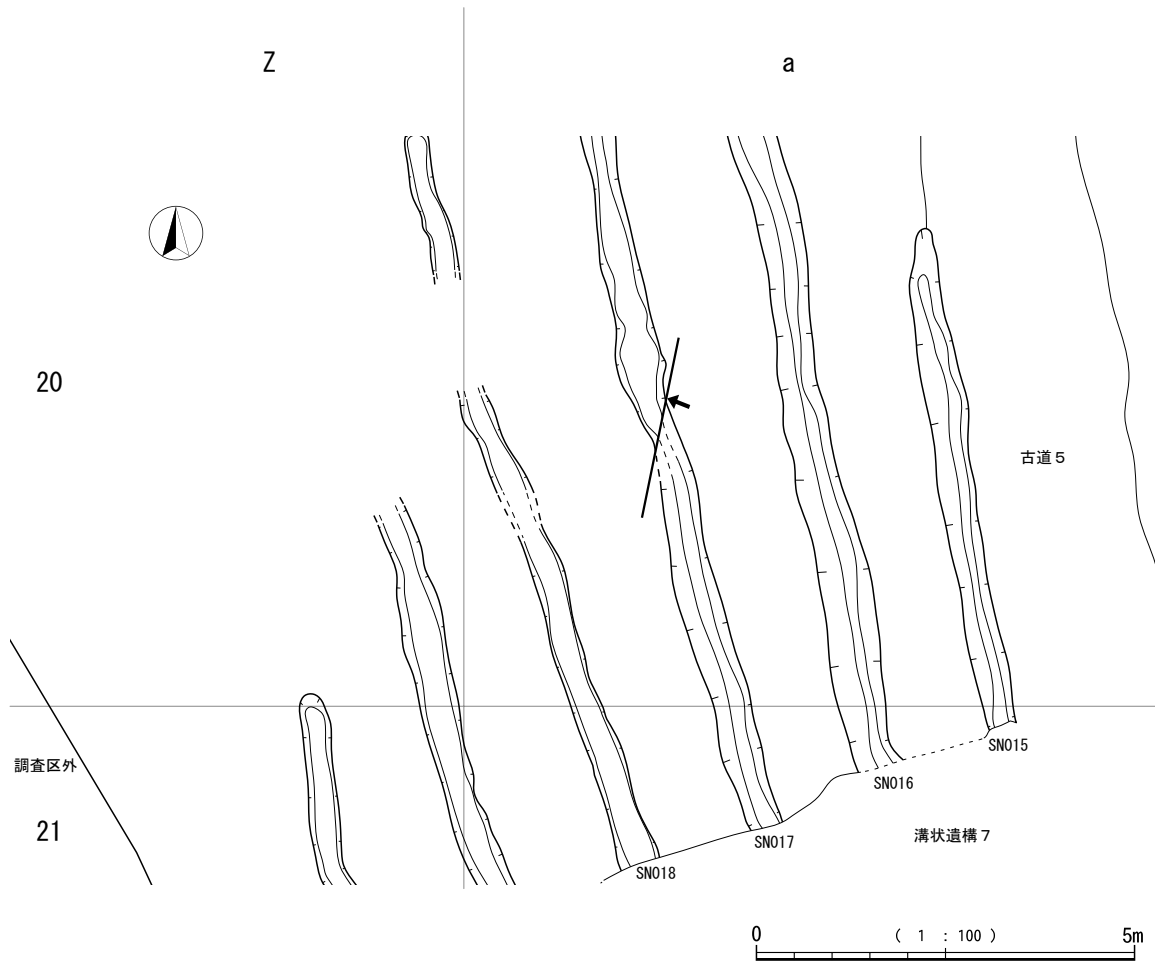
40～42の底面は、いずれもヘラ切りである。40は口縁から底部にかけて1/3程度残存し、口径約13.6cm、底径約7.2cmである。ケズリ痕を一部残し、口縁部の一部に赤色顔料の塗布が見られる。外面・内面ともに煤の付着の痕らしきものが見られる。41は1/5程度の残存で、口径約14.0cm、底径約7.8cmである。切り離した後、丁寧なナデでケズリ痕を消している。外面には、煤の付着が見られる。42はケズリ痕を残し、内面にロクロの回転に伴う押さえのくぼみが残る。外面の口縁付近から立ち上がりにかけてと内面の口縁付近に赤色塗布らしきものが一部残存している。43・44はいずれも底部から広く外反する。底部はヘラ切りであり、切り離れた後のケズリを残す。43は、内面にナデ調整を施す。

II類（第 39・40 図 45～68）

45は、底径約7.1cmである。胎土は他の坏とは異なり



第37図 畝間状遺構 1



第38図 畝間状遺構2

全体的に赤褐色を呈し、ケズリの痕を残す。46は、口径約12.4cm、底径約6.6cmである。全体的にナデ調整で丁寧な仕上がりである。中央部が押さえによりややくぼみが見られる。47は、口径約12.3cm、底径7.2cmである。ケズリ痕を残し、押さえにより中央部にややくぼみが見られる。48は、口径約13.2cm、底径約8.0cmである。他の坏と比較し、胎土が異なり、全体的に赤褐色である。切り離し後のケズリ痕は、ナデ調整で消してある。また、外面内面ともにナデ調整で丁寧に仕上げている。49は、口径約12.9cm、底径約7.9cmである。1/5程度の残りであるが、ケズリ痕を残し、内面にはロクロ痕が残るがナデ調整で仕上げている。50は、口径約12.3cm底径約6.6cmである。ケズリ痕をナデ調整を施し、消している。内面は、立ち上がり部分に丁寧なナデを施す。51は、口径約12.2cm、底径約7.6cmであり、切り離し後のケズリ痕が残り、内面には、ロクロ痕が残る。52は口径約12.6cm、底径約6.8cmである。須恵器の焼きを模倣したものであり、切り離し後のケズリ痕をナデ調整で消してある底部に煤の付着が見られる。53は、口径約12.0cm、底径約6.8cmである。ロクロ痕が残り、ケズリ痕を残す。54は、口径約16.0cmである。外面に煤の付着が見られ、ケズリ痕をナデ調整により消している。55は外面にロクロ痕が残り、ケズリ痕はナデ調整で消されている。内面は、丁寧なナデ調整により仕上げている。56は、底径約7.6cmである。ケズリ痕を残すが一部ナデ調整を施し、消したような痕が見られる。見込み部分と内面に一部煤付着が見られる。57は、底径約6.4cmを測る。外面に煤の付着が見られ、底面に縦横の刻書らしきものが残る。58は、底径約8.0cmである。外面にケズリ痕を残すが内面はナデ調整により、丁寧に仕上げている。断面との色の違いから赤色塗布と見られる。

59は、底径約7.0cmである。外面はケズリ痕をナデ調整で消し、内面を丁寧なナデ調整で仕上げている。60は、底径約8.0cmである。全体的にナデ調整で仕上げられ、ケズリ痕が消されている。外面に赤色塗布が見られる。61は、底径約6.2cmである。外面底部に赤色塗布らしきものが見られる。62は、底径約7.4cmである。一部ケズリ痕をナデ調整で消している。63は、底径約6.6cmである。一部にケズリ痕を残すが全体的にナデ調整で仕上げている。外面底部に煤の付着が見られる。64は、底径約6.0cmである。ケズリ痕を残し、中央部にかけて傾斜している。65は、底径約6.0cmである。焼き色が白く他の土師器と比較すると雑な作りである。66は、底径約5.8cmである。ケズリ痕を残し、内面はロクロ痕が残るが丁寧な作りである。67は、底径約7.0cmである。ケズリ痕を残し、内面は、ナデ調整でロクロ痕を消している。68は、底径約6.6cmである。ケズリ痕を残し、67と同様にナデ調整を施し、ロクロ痕を消している。

Ⅲ類 (第40図69～72)

69は、底径約5.6cmである。底部外面にケズリ痕を消している。切り離しの痕跡は、丁寧にナデ消されている。70の器面は、立ち上がりから全体的に丸みを帯びており、上部約2cm前後から薄くなり、外反している。内面の上部から中部にかけて一部煤付着が見られる。71は口径約12.8cm、底径約8.0cmである。丸みを帯び、丁寧な作りであり赤色塗布が見られるが、見込み部分には見られない。内面には煤が見られる。72は、底径約5.2cmである。底部から直線的に大きく開く。内外面ともにロクロ痕が残り、ケズリ痕を残す。

(2) 土師器壺 (第41図73～79)

土師器の壺は39点出土し、そのうち7点を図化した。17・18区、20～23区、27～31区、33・36区のⅡ～Ⅳ層で出土した。中でも29区から出土が顕著である。

73は口縁部であり、口径は約11.4cmを測る。直線的な体部で、口縁部がやや外反している。内外面共に一部煤の付着が見られる。74・75・77・79はいずれも底部であり、高台が高く、外へ「ハ」の字状に張り出す高台を持つ。また、貼付け部分には丁寧なナデ調整が施される。74は、高台内部にロクロの回転に伴う押さえのくぼみが残る。75は、他の高台より高く、高台の貼り付け部分を丁寧なナデ調整を施し、仕上げている。76は残存する部分が少ないが、腰～底部の部分であると見られる。全体的に丁寧なナデ調整を施し、直線的な体部を持つと考えられる。77は、底部に煤の付着が見られる。78は高台が低く、外への張り出しはあまりない。摩擦が激しいが、畳付部分と高台の貼付け部分は丁寧なナデが施されており、赤色顔料らしきものが見られる。79は、74と同様に外面の高台内部にロクロの回転に伴う押さえのくぼみが強く残る。

(3) 土師器皿 (第41図80～88)

土師器の皿は小皿を含め32点出土し、9点を図化した。16・17区、22・23区、26～30区のⅡ～Ⅳ層まで4層で出土した。中でも29・30区に多く出土した。形状などから次の4類へ分類した。

I類：立ち上がりが外反しているもの

II類：立ち上がりが外反し、大きく開いているもの

III類：立ち上がりが直線的なもの

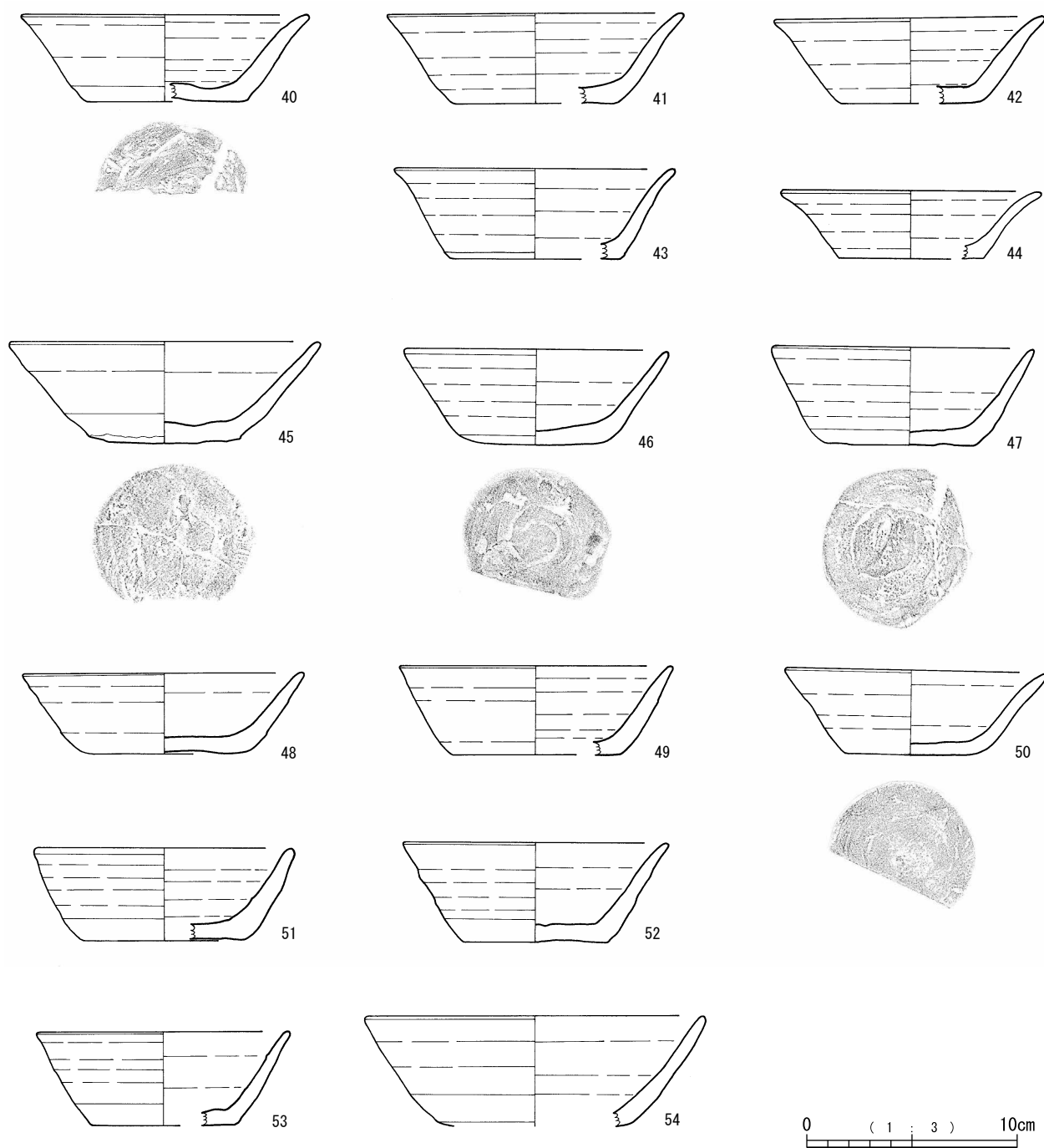
IV類：立ち上がりが直線的で大きく開いているもの

I類 (第41図80・81)

80・81は口径約15.0cmであり、底径は、それぞれ12.4cmと12.2cmを測る。いずれもヘラ切り調整あり、須恵器の模倣と見られる。

II類 (第41図82)

82は口縁部と底部の残りが1/6程度と少ないが、口



第39図 土師器(坏-1)

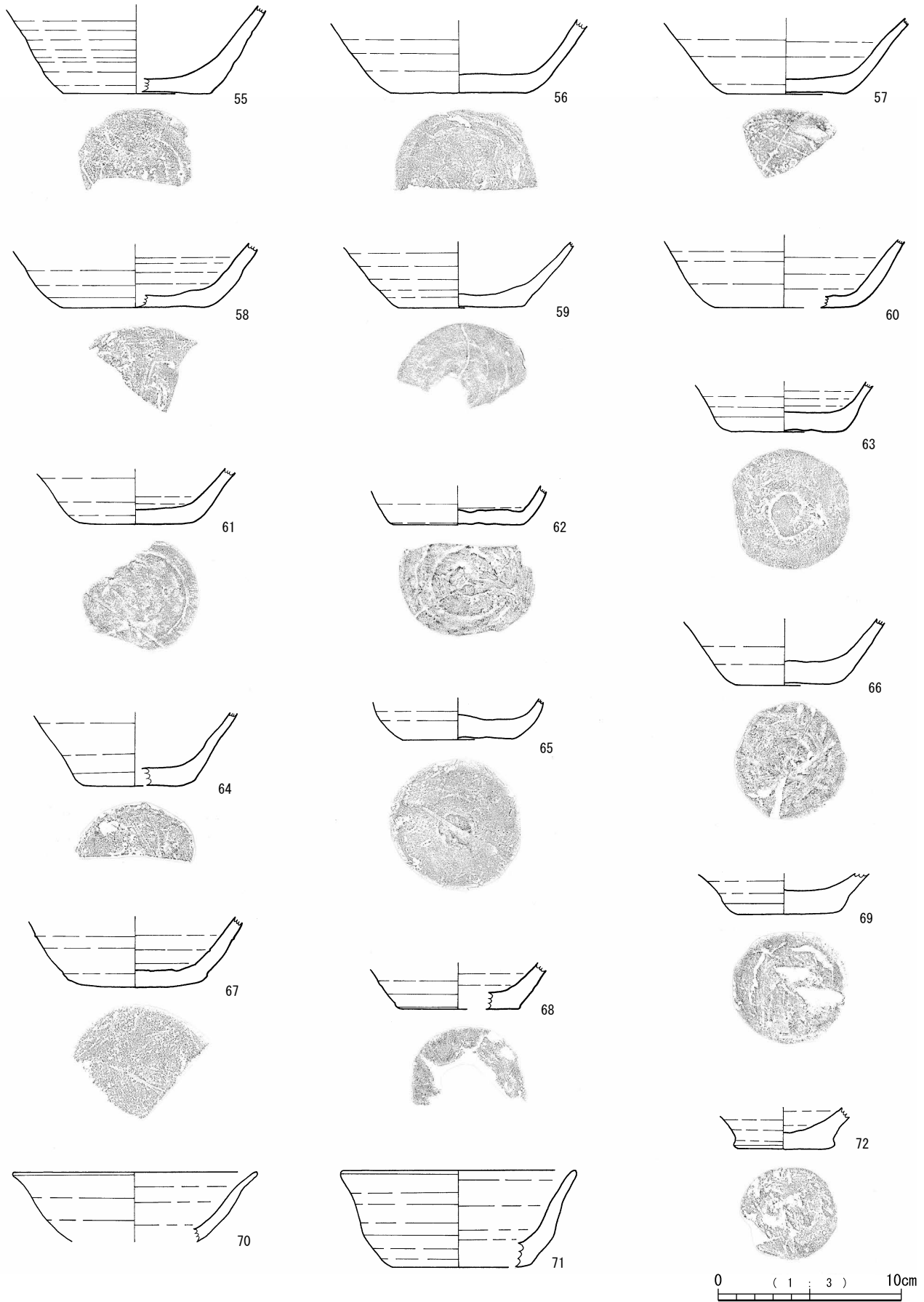
径約14.6cm, 底径約12.0cmである。

Ⅲ類(第41図83・84)

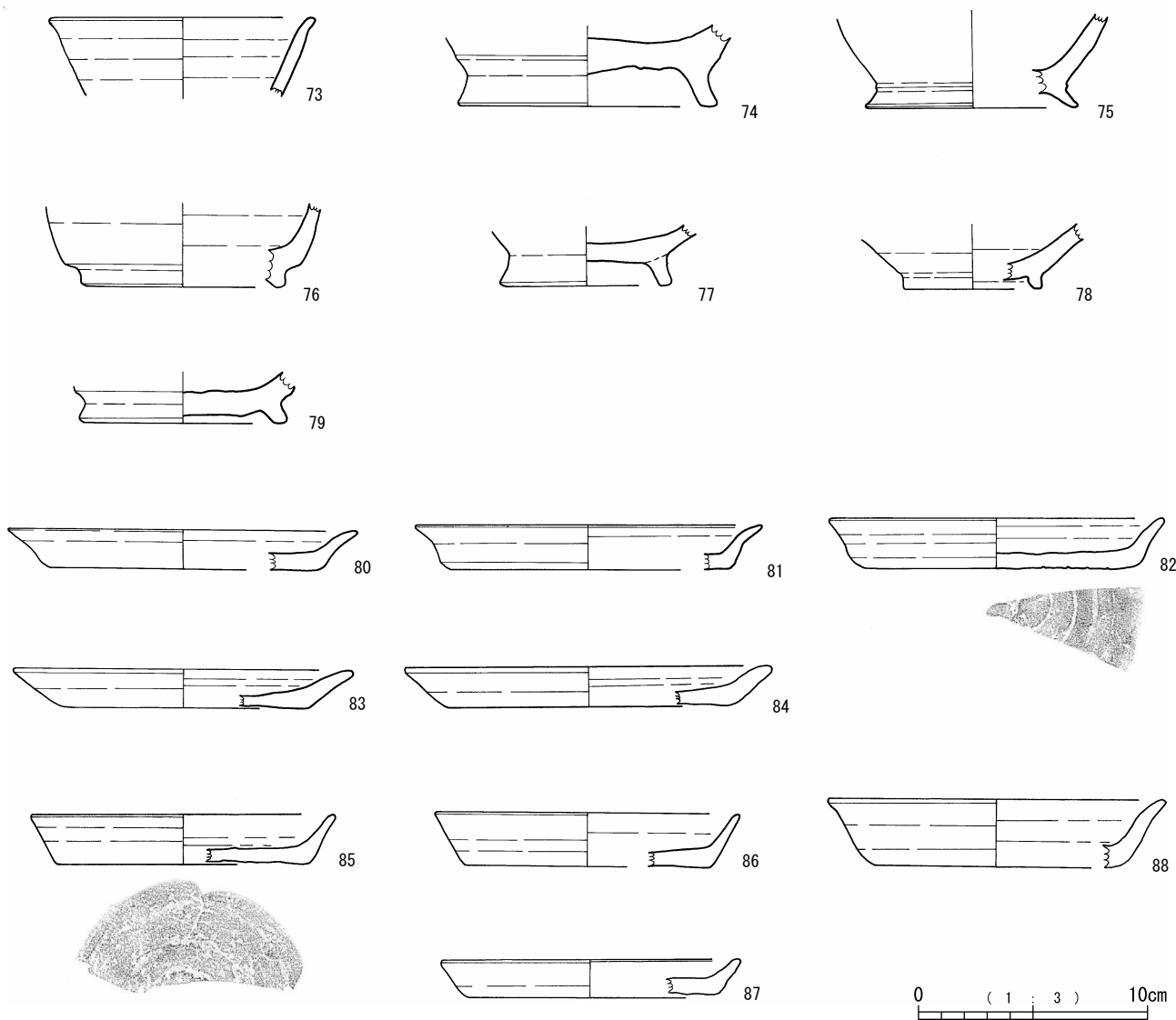
83は口径約14.8cm, 底径約11.0cmである。84は残存部分が少なく, 計測ができなかった。ともに丁寧なナデ調整であるが, 83の口縁部付近に赤色塗布らしきものが見られ, 84は, 見込み部分にハケ目のような痕が残る。

Ⅳ類(第41図85～88)

85・86ともに残存部分は多くないが, 85は口径約13.1cm, 底径約11.0cm, 86は口径約13.2cm, 底径約10.6cmである。いずれもヘラ切り調整があり, 底部と体部の立ち上がり部分は丁寧なナデ調整が施されているが, 86のみわずかにケズリの痕を残す。87の外面には, 赤色塗布が見られる。



第 40 图 土師器 (坏-2)



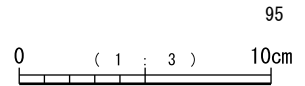
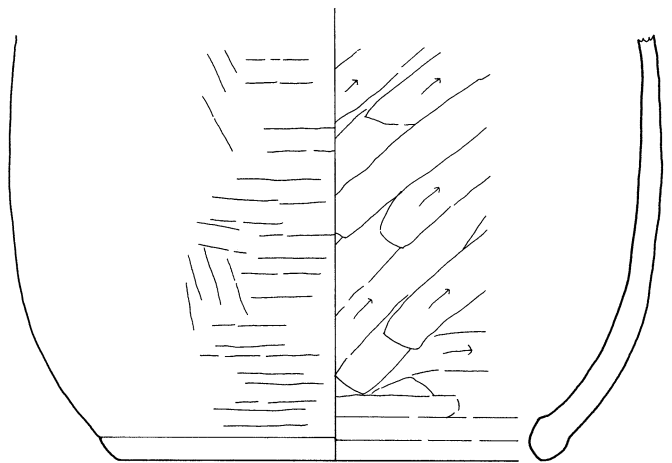
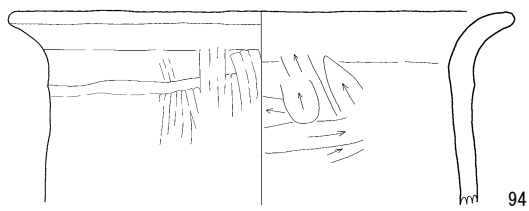
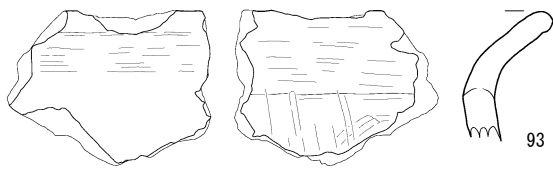
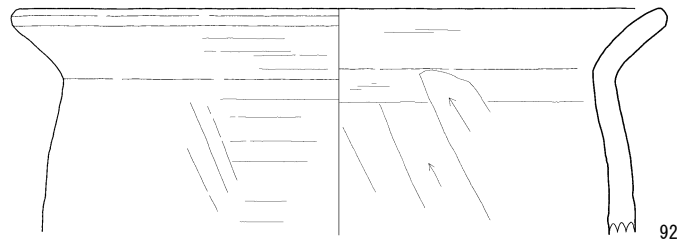
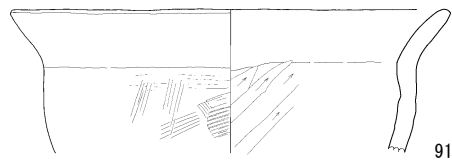
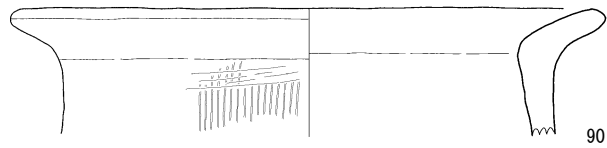
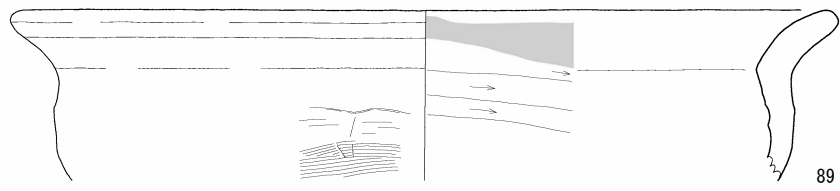
第41図 土師器(埴・皿)

(4) 土師器甕(第42図89~94)

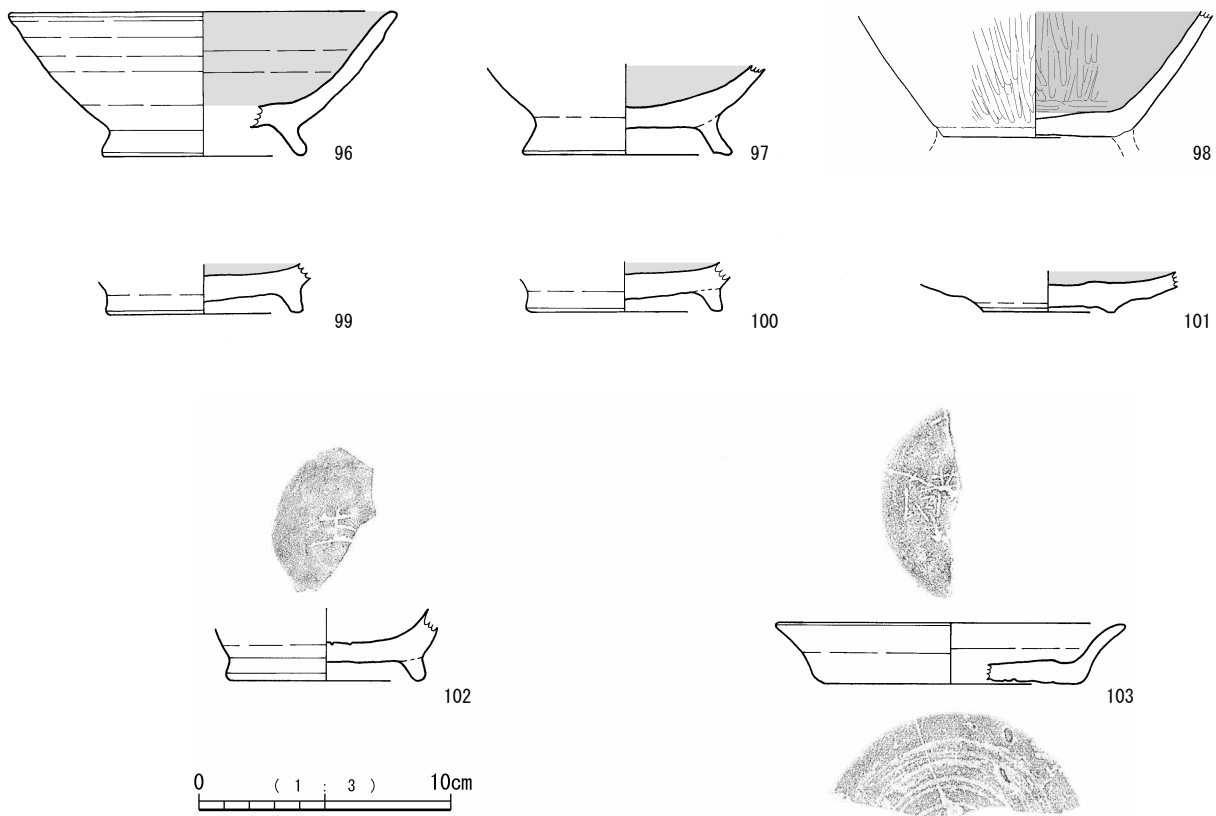
土師器の甕は672点出土し、そのうち6点を図化した。14~36区Ⅱ~Ⅳ層で出土した。口縁部は直線的に伸びるものと外反して伸びるものがあり、口縁部内面の稜が明瞭なものと不明瞭なものがある。胴部は、底部から直立するものと膨らみを持つ形状のものがある。底部は出土していないため、形状は不明である。出土数が少ないため細分類は行わなかった。

89は、口縁部内面に横位のナデ調整を行っている。胴部は横位のハケメが見られ、口唇から口縁はナデ調整によりハケメが消されている。内面は横位のケズリを施し、口縁部に煤の付着が見られる。90は、他の5点と異なり硬く焼けている。口縁部が大きく外反し、口縁部内面は横位、胴部外面は縦位にハケメが施されている。後にナデにより、口唇から口縁部外面はハケメを消して

いる。内面は、ケズリにより成形されている。89・91の口縁部は緩やかに外反し、胴部形状は膨らみを持つものである。共にケズリにより稜が作出されている。91の口縁部は、全体的にナデ調整が見られる。胴部にランダムなハケメが見られるが口唇から口縁部にかけてナデ調整によりハケメが消されている。胴部内部には、左右斜位からのケズリが施されている。92は口縁部が緩やかに外反し、胴部はやや膨らみを持ち、口縁部内面から外面は、ナデ調整が行われ、胴部内面はケズリが施され、胴部内面に煤の付着が見られる。93は、92と比較し大きく外反している。口縁部内外面ともにナデ調整が施されている。94は、胴部が直線的な深いタイプのものである。口縁部はナデ調整が行われ、胴部には強縦位のハケメが残る。内面は、縦位と横位のケズリが施される。



第 42 図 土師器 (甕・甑)



第43図 黒色土器・刻書土器

(5) 甑 (第42図95)

土師器の甑は1点出土した。Ⅲ a層の包含層出土遺物と中世の遺構である古道13の遺構内出土遺物が接合したものである。95は底径約16.2cmを測り、残存高が16.8cmであり、上辺部が約24.8cmである。底部と外面は、横位ナデによる調整が施されている。内面は、下側からケズリが施される。胎土には、多くの金雲母と砂粒を含む。

(6) 黒色土器 (第43図96～101)

黒色土器は120点出土し、そのうち6点を図化した。いずれも埴である。15・16区、19～36区Ⅱ～Ⅳ層で出土した。

98は体部が直線的に立ち上がり、外面は、ミガキ調整を施す。内面は丁寧なナデとミガキ調整を施す。高台部分が欠損しており、高台内面部は、煤の付着が見られる。96・97・100は高台が高く外へ張りだし、「ハ」の字状の高台を持ち内面にミガキを施している。96は口径約15.6cm、底径約8.0cmで器高5.7cmであり、1/3程度が残存している。体部が直線的に立ち上がり、口縁部がやや外反している。また、外面には、全体に黒色塗

布または、煤の付着が見られ、ミガキが施されている。99は底径が約7.6cmであり、高台が低く、外への張り出しはあまりない。内面をミガキによって仕上げている。101は高台がかなり低く、張り出しはなく、外面と畳付部分はナデによって調整が行われている。内面のミガキは、短いものと長いものの工具痕が円柱状に残るが外面には見られない。

(7) 刻書土器 (第43図102・103)

刻書土器は2点出土した。102は、表土での出土であるが、掲載した埴である。「正」または「主」ととれる刻書が刻まれている。底部であり、底径約7.6cmである。約1/4程度の残存である。全体的によくナデられており、高台を貼り付けた痕跡が残る。畳付は、やや光沢をもち、なめらかである。

103は、y-18区のⅣ層から出土した。口縁部～底部にかけて約1/3程度の残存であり、口径約13.8cm、底径約10.0cmである。付近には、1号掘立柱建物跡の遺構があり、Ⅰ類の皿である。見込みには、「満」の文字が刻まれている(永山修一氏教示)。内面の立ち上がりには、ロクロの回転に伴うおさえのくぼみが強く残る。底部に

は、ヘラ切りの痕跡が強く残る。

(8) 墨書土器 (第44図104～138)

墨書土器は包含層から35点出土したが、主に一括遺物が多い。7・17・21・28～30・33・35・36区からも出土しているが、特に29～30区から多く出土している。器種は、坏、埴、皿などである。完全に判別できるものが少なく、その中で文字の判別が可能なものや文様等などが明瞭なものを図化した。以下、部位毎に説明する。

口縁部 (第44図104～119)

16点を図化した。104は、坏の口縁部～底部である。「万」もしくは「石」と読める文字が確認できる。外反せず、底部の外面下部にケズリ痕を残す。105は、「万」もしくは「石」の文字が確認できる。やや外反する口縁部であり内面は黒色であり、丁寧なミガキが施されている。106も同様に「万」もしくは「石」と考える。107も同様と考える。108は、「万」の文字と考える。109は外面に「火」偏の部分が書かれているが、その他は不明である。110は坏の口縁部から底部であり、体部に「嘉」もしくは「帚」の異体字が横位に書かれていると考えられる。いずれの口縁部も回転ナデ調整により仕上げている。111は、墨がにじみ文字が判別できない。内面には、煤が付着している。111～116・118は文字もしくは文様等の一部と見られるが、いずれも判別が難しい。ナデ調整などが施されて丁寧な作りである。

胴部 (第44図120～129)

10点を図化した。122は坏、124は埴の一部であると思われる。いずれも文字の判別は不明である。129は外面ににじみが一部見られるが、葉のような文様が見られ、また、細い線で平仮名らしきものを書いている。内面には、大小の線を横から流した波状の文様と一条の縦線が見られる。

底部 (第44図130～136)

7点を図化した。130は皿のヘラ切りの底部で、底面に「田代」と思われる文字が書いてあるが、詳細は不明である。131も同じく坏の底部であるが、ケズリ痕をナデ調整で消している。内面は、丁寧なナデ調整が施されている。外面と底部に太めの墨書で二条の線が見られるが、文字の一部と考えられる。132は坏の底部であり、全体的に赤褐色である。外面にケズリ痕を残し、内面は見込み部分にロクロの押さえが見られ、中央部分がへこみ丁寧なナデ調整で仕上げている。

その他 (第44図137・138)

137・138は、ともに蓋の一部と思われる。

(9) 土錘 (第45図139～159)

土錘は、21点を図化した。21区～31区でⅡ、Ⅲa、Ⅲb層から出土した。完形品19点と破損品2点を図化した。

全て断面は、円形で球形に近いものから円柱状に近いものまで様々である。横幅と長さの比率から以下に示すⅠ類、Ⅱ類の二つに分類した。

Ⅰ類：長さが横幅の2倍未満のもの

Ⅱ類：長さが横幅の2倍以上のもの

Ⅰ類 (第45図139～150)

球形に近いものから短い円柱状のもの2つに区別できる。球形に近いものは140～144で、短い円柱状のものが139・146～150である。

Ⅱ類 (第45図151～159)

4cm以下のものと4cm以上のものに2つに区別できる。4cm以下のものは151～156・158で、4cm以上のものが157・159である。159以外は中央に膨らみのある形状である。

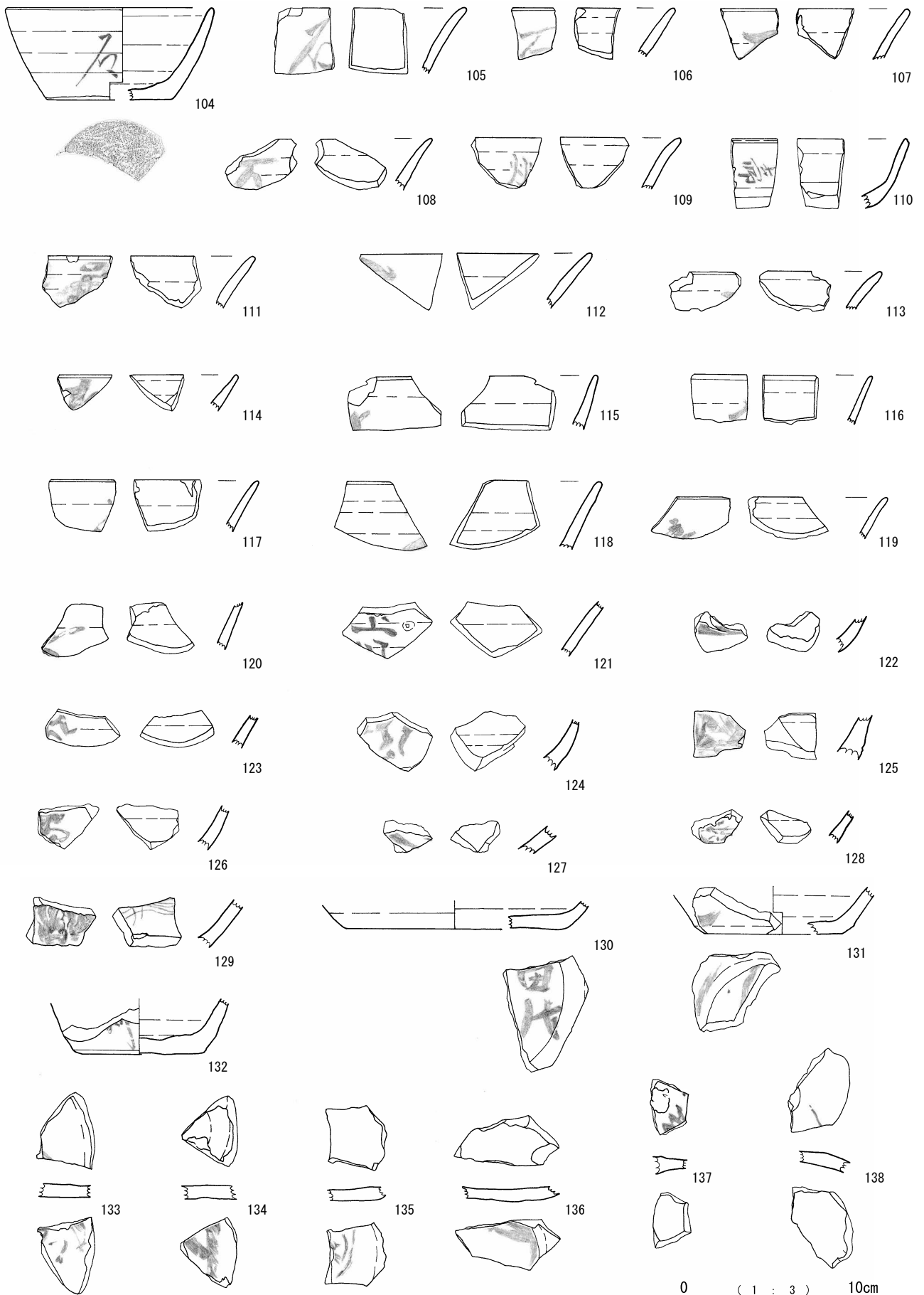
(10) 須恵器 (第46・47図160～179)

須恵器は190点が出土し、そのうち20点を図化した。17～18区、20～37区のⅡ～Ⅲa・Ⅲb層で出土した。坏・壺・甕・蓋が出土した。

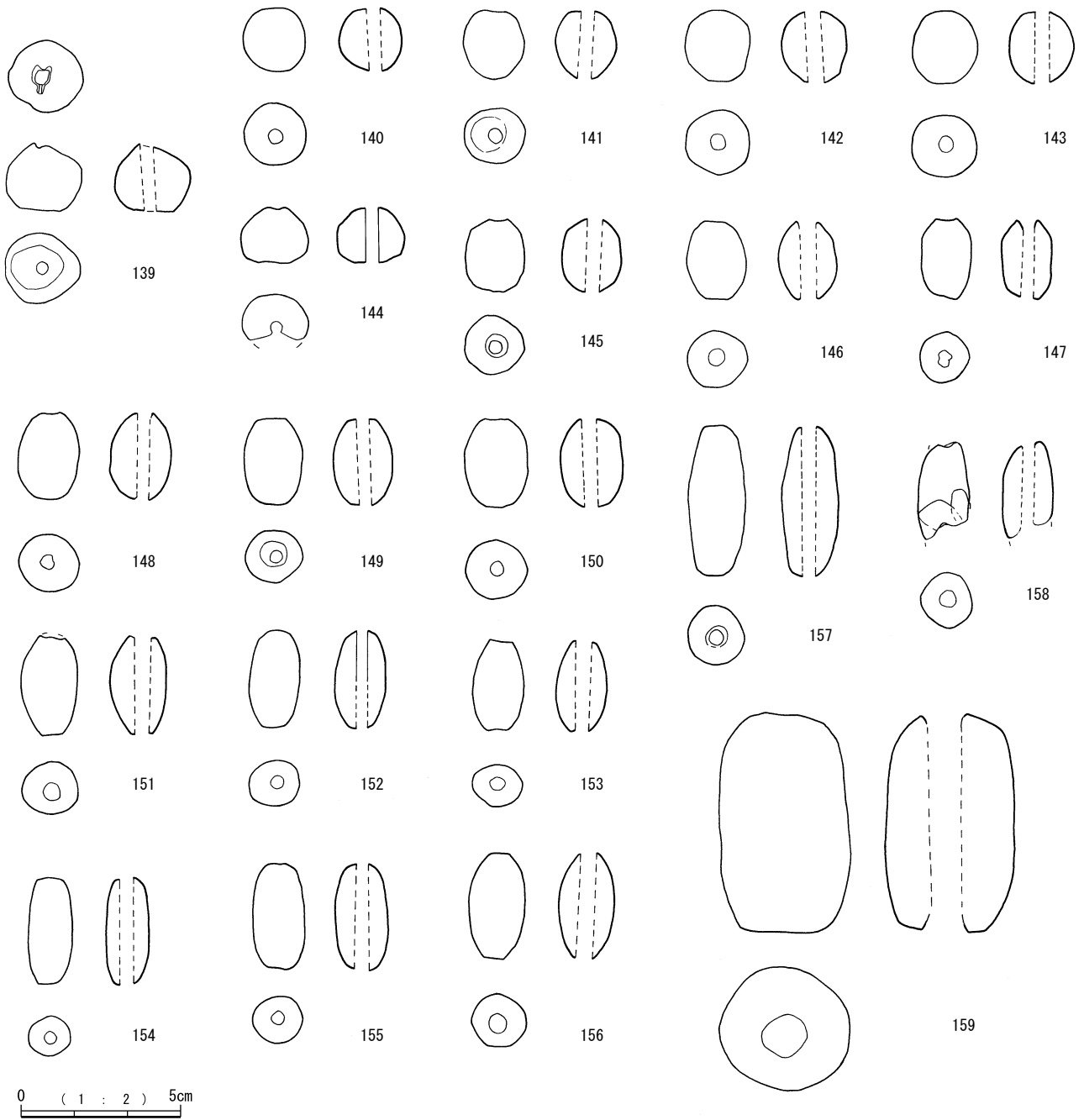
160は蓋の摘み部分で、口径は3.0cmである。焼成時に付着したと見られる自然釉が若干見られ、底部は丁寧なナデ調整を施している。161は、口径約15.0cmの蓋である。攪乱内から4点ほど出土したが接合できなかった。



写真1 墨書土器 (両面) 掲載番号129



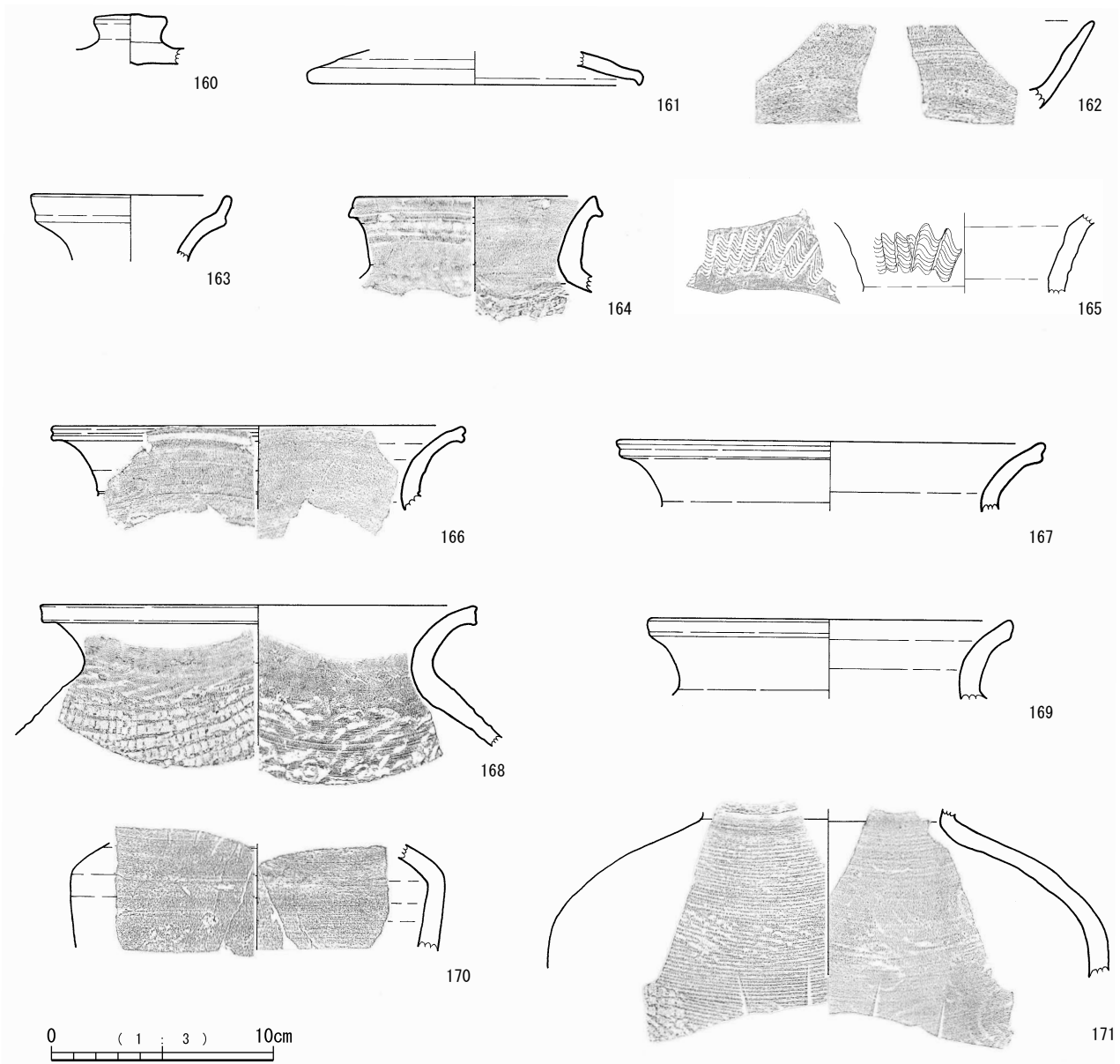
第 44 图 墨書土器



第45図 土製品（土錘）

内面部に付着物が見られた。162は坏の口縁部で、底部を欠いている。内外面にロクロ痕を残し、外反しないものと考えられる。胎土に白色粒を多く含む。163は、口径約9.0cmの小壺の口縁部である。稜線付近で外反して、その後直立する。外面に自然釉が見られる。164は、口径約10.6cmの甕の口縁部である。外反し、口唇部から口縁部にかけてやや広がりを持つ。内外面ともに丁寧なナデ調整により仕上げてある。165は壺の一部と見られるが、残存部が少なく全体像を把握することが困難であるが、外面には波状の文様が、細かく規則的に描かれてい

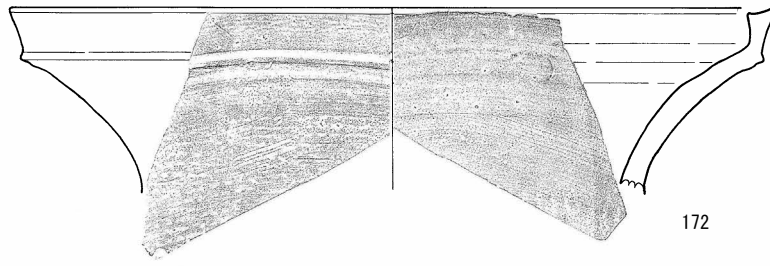
る。166は、口径約16.6cmの甕の口縁部である。口縁部は一条の沈線が入り、内面部の下部には自然釉のはげた痕が見られる。167は、口径約19.2cmの甕の口縁部である。全体的に摩耗しているが口縁部は、一条の沈線が入り自然釉の付着が見られる。168は、口径19.4cmの甕の口縁部である。外面肩部には、格子状のタタキが施され、自然釉が見られ、内面は、青海波状の当て具痕が見られる。169は、口径約16.2cmの甕の口縁部である。内面に自然釉がかかる。170は壺の肩部であり、内外面ともにナデ調整により、仕上げている。171は壺の肩部で



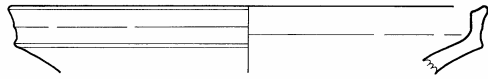
第46図 須恵器 1

あり、外面上部は格子状のタタキが施された後に消された痕が見られ、下部には格子状のタタキが残される。内面には青海波状の当て具痕がナデ消され、薄く残る。口縁部にわずかであるが自然釉がかかり、輪積みの痕がよく残っている。172は、口径約30cmの大型の甕の口縁部である。格子状のタタキが施された後にハケメの調整を稜付近まで施している。稜から口唇部まで丁寧なナデ調整を行っている。173は口径約19.0cmの瓶型壺であり、口縁部には一条の沈線が入り、自然釉の付着が見られる。口唇部から口縁部の間に一条の稜線が見られる。174は、口径約38.2cmの甕の口縁部である。外面は、灰

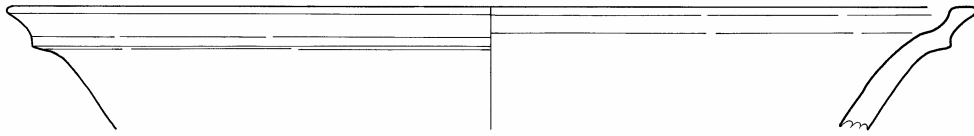
赤色であり、口唇部から口縁部外面にかけて自然釉の付着が見られる。175は甕の口縁部で、口径約34.2cmの大型の甕である。全体的に灰色が強い。176は、甕の頸部であり、外面には格子状のタタキが施され、内面には青海波状の当て具痕が残し、自然釉がかかる。177は、底径約10.6cmの壺の底部である。高台を持ち、体部は直立に近い立ち上がりである。外面は丁寧なナデ調整が施されている。178は瓶型壺の底部で、底径約11.4cmである。ケズリの痕を残し、内面は凹凸が見られる。179は瓶型壺の底部である。底面に同心円文痕が見られる。内面には、ロクロ痕が残し、凹凸も見られる。



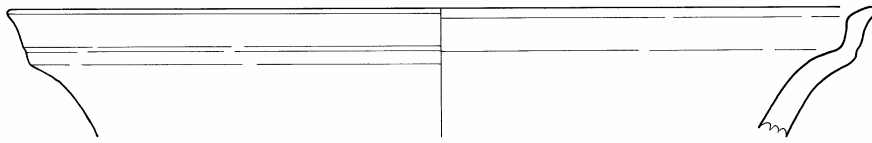
172



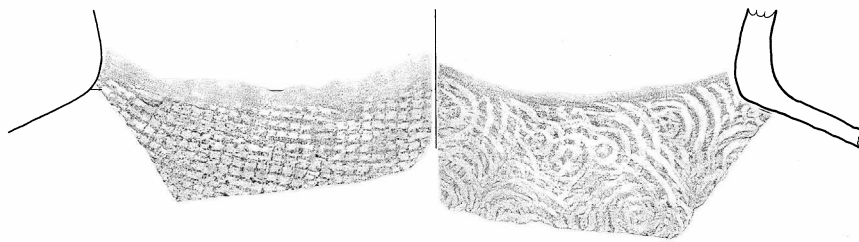
173



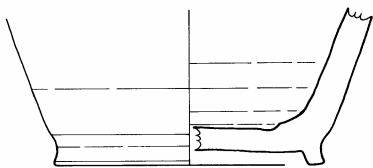
174



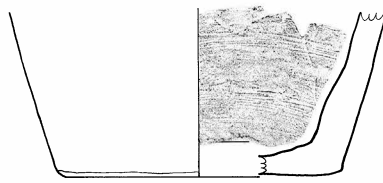
175



176



177



178



179



0 (1 : 3) 10cm

第 47 図 須恵器 2

第2節 中世の調査成果

1 調査の概要

中世の調査は、調査範囲全域で行った。遺物包含層はⅡ・Ⅲ層であるが、古代の遺物出土量に比べると僅少であった。また、古代の調査と同様に、Ⅱ層の残存状況が悪かったことから、遺物や遺構は調査範囲の中央から南側での発見が大半を占める。

遺構の多くはⅢ層で検出したが、Ⅲ層からは古代や古墳時代の遺構も検出しており、遺物の出土状況や埋土の状況等から時期判定を行った。

遺物は、遺物包含層であるⅡ層の残存状況が悪かったことや後世の攪乱等の影響により、出土量も僅少で、小片が多かった。

調査の結果、遺構は掘立柱建物跡18棟、土坑8基、溝状遺構25条、古道15条が検出された。遺物は、土師器、須恵器、瓦質土器、青磁、白磁、染付、陶器、製塩土器、石製品、滑石製石鍋、鉄製品、古銭が出土した。

遺構配置図を第48～55図に示し、遺構の一覧表や遺物の観察表は、第4章の章末に掲載する。なお、鉄製品は遺構内・包含層とも、それぞれまとめて掲載する。

2 遺構

(1) 掘立柱建物跡(第56～71図)

掘立柱建物跡は18棟検出された。遺構の検出面が古代や古墳時代の遺構と重複するため、遺物の出土状況や埋土の状況、建物の主軸等から時期判定を行った。また、柱痕跡が確認できたものは、平面図に赤線で示した。

9号掘立柱建物跡(第56図)

a-19区Ⅲa層で検出した。規模は桁行3間、梁行2間で、主軸はN-75°-Wを示す。建物の中央部分を南北方向に伸びる古道8に切られており、P7-P8間の柱穴を確認することができなかった。柱間寸法は、桁行が1間174～187cm、梁行が1間160～187cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸20～30cm、短軸19～26cm、検出面からの深さは13～43cmである。埋土中に微量の紫コラが含まれるが、埋土の特徴から中世の遺構と判断した。

埋土中から成川式土器が出土したが、掲載には至らなかった。

10号掘立柱建物跡(第57図)

b・c-21・22区Ⅲa層で検出した。規模は桁行3間、梁行2間で、主軸はN-13°-Eを示す。柱間寸法は、桁行が1間152～186cm、梁行が1間162～208cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸21～31cm、短軸19～28cm、検出面からの深さは11～21cmである。

埋土中から遺物は確認されなかった。

11号掘立柱建物跡(第57図)

c-22区Ⅲa層で検出した。規模は桁行2間、梁行2間で、主軸はN-12°-Eを示す。柱間寸法は、桁行が1間198～207cm、梁行が1間116～172cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸19～27cm、短軸17～25cm、検出面からの深さは5～15cmである。埋土中から遺物は確認されなかった。

12号掘立柱建物跡(第58図)

f-27・28区Ⅲa層で検出した。遺構の北東側は調査範囲外のため、桁行は北東側へ伸びる可能性もある。確認できた規模は桁行2間、梁行2間で、南側に廂をもつ。主軸はN-0°-W-Eを示す。柱間寸法は、桁行が1間186～207cm、梁行が1間180～190cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸21～48cm、短軸19～33cm、検出面からの深さは22～48cmである。埋土中に微量の紫コラが含まれるが、埋土の特徴から中世の遺構と判断した。

埋土中から遺物は確認されなかった。

13号掘立柱建物跡(第59図)

d-29・30区Ⅲa層で検出した。南側の梁行の柱穴は確認できなかったが、規模は桁行2間、梁行2間で、主軸はN-5°-Eを示す。柱間寸法は、桁行が1間177～203cm、梁行が1間158～193cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸16～25cm、短軸13～21cm、検出面からの深さは6～41cmである。

埋土中から土師器の坏や甕が出土した。180はP2から出土した土師器の坏である。体部は直線的に立ち上がり、口縁部でやや外反する。口径11.8cm、底径6.8cm、器高4.6cmを測る。内外面とも筋状に煤が付着する。

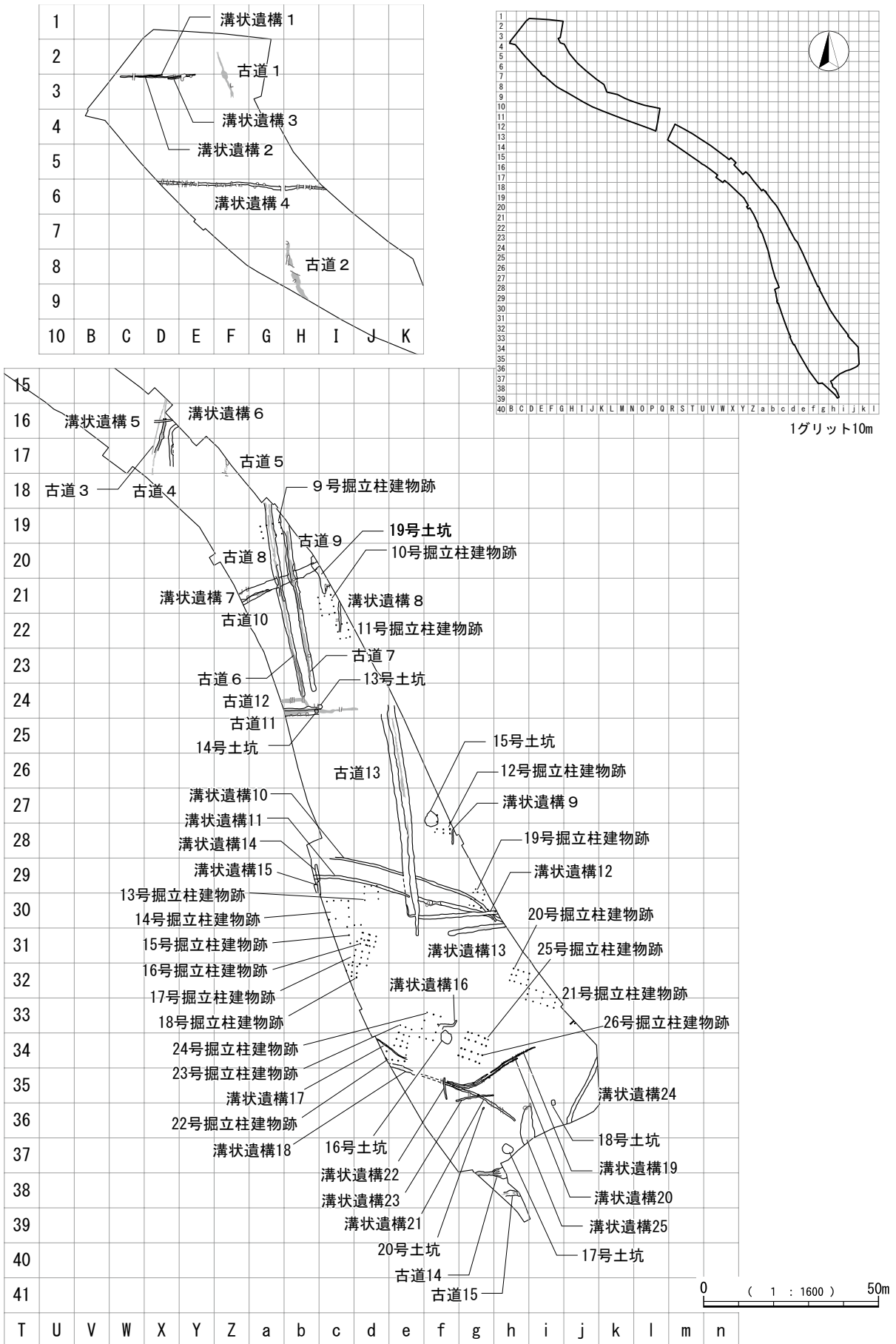
14号掘立柱建物跡(第60図)

c-30区Ⅲb層で検出した。遺構の西側は調査範囲外のため、桁行は西側へ伸びる可能性もある。確認できた規模は桁行3間、梁行2間で、主軸はN-83°-Wを示す。柱間寸法は、桁行が1間192～216cm、梁行が1間195～262cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸20～28cm、短軸18～24cm、検出面からの深さは18～36cmである。

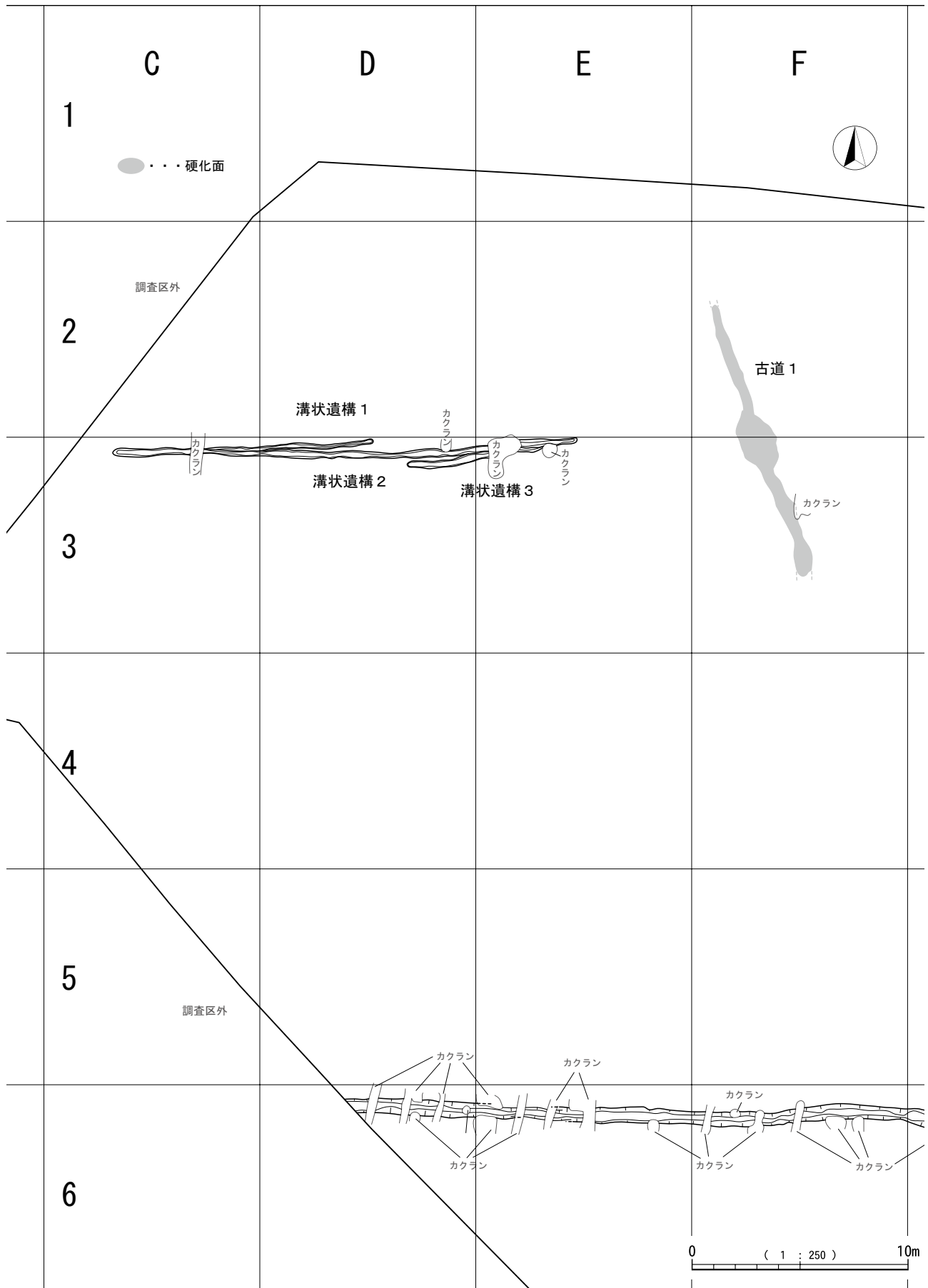
埋土中から土師器の甕が出土したが、掲載には至らなかった。

15号掘立柱建物跡(第61図)

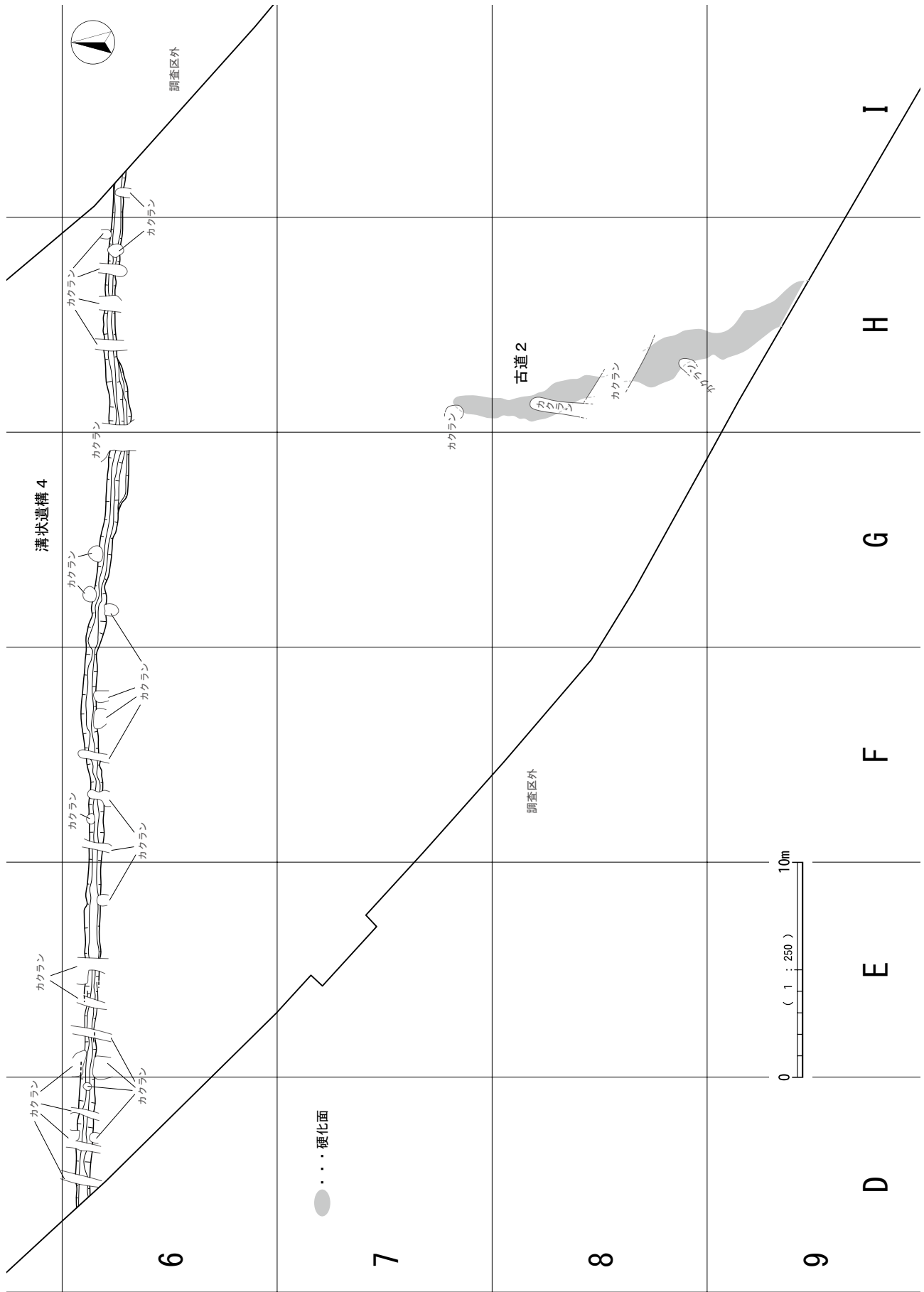
c・d-30・31区Ⅲb層で検出した。南東側は16号掘立柱建物跡と重複するが、柱穴の切り合いがないため、新旧関係は不明である。規模は桁行2間、梁行2間で、主軸はN-6°-Eを示す。柱間寸法は、桁行が1間



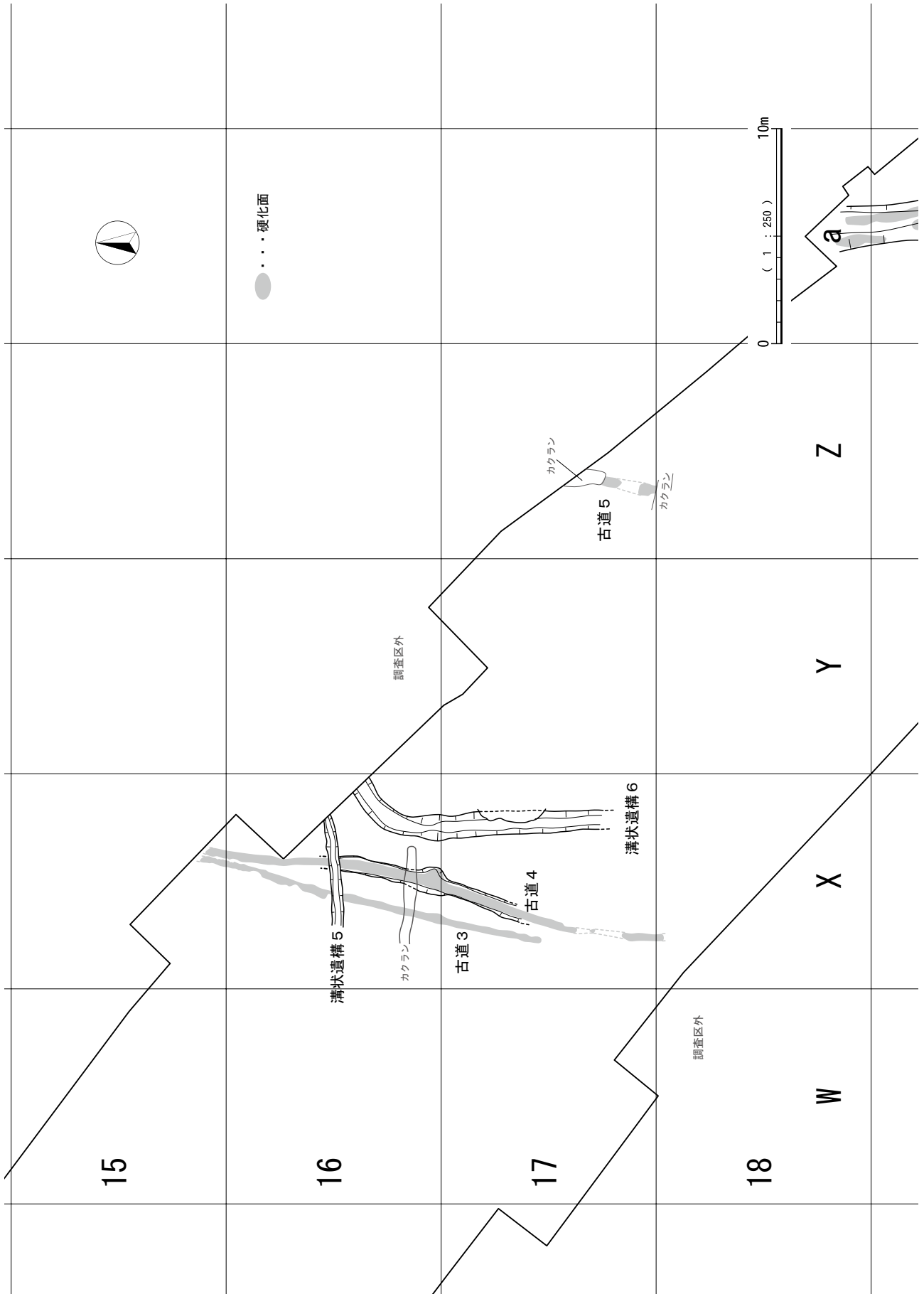
第 48 図 中世の遺構配置図 (全体)



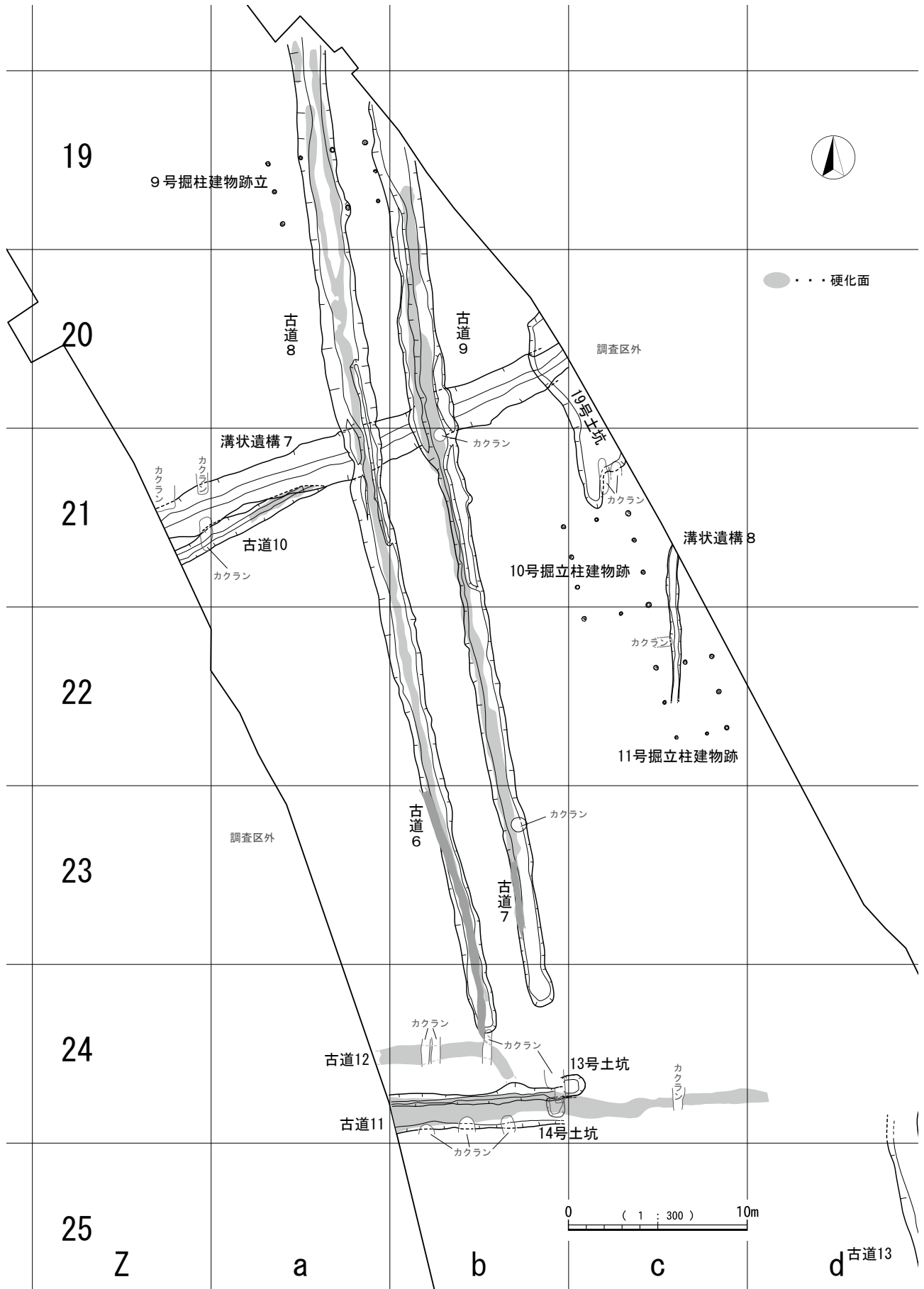
第 49 図 中世の遺構配置図 1



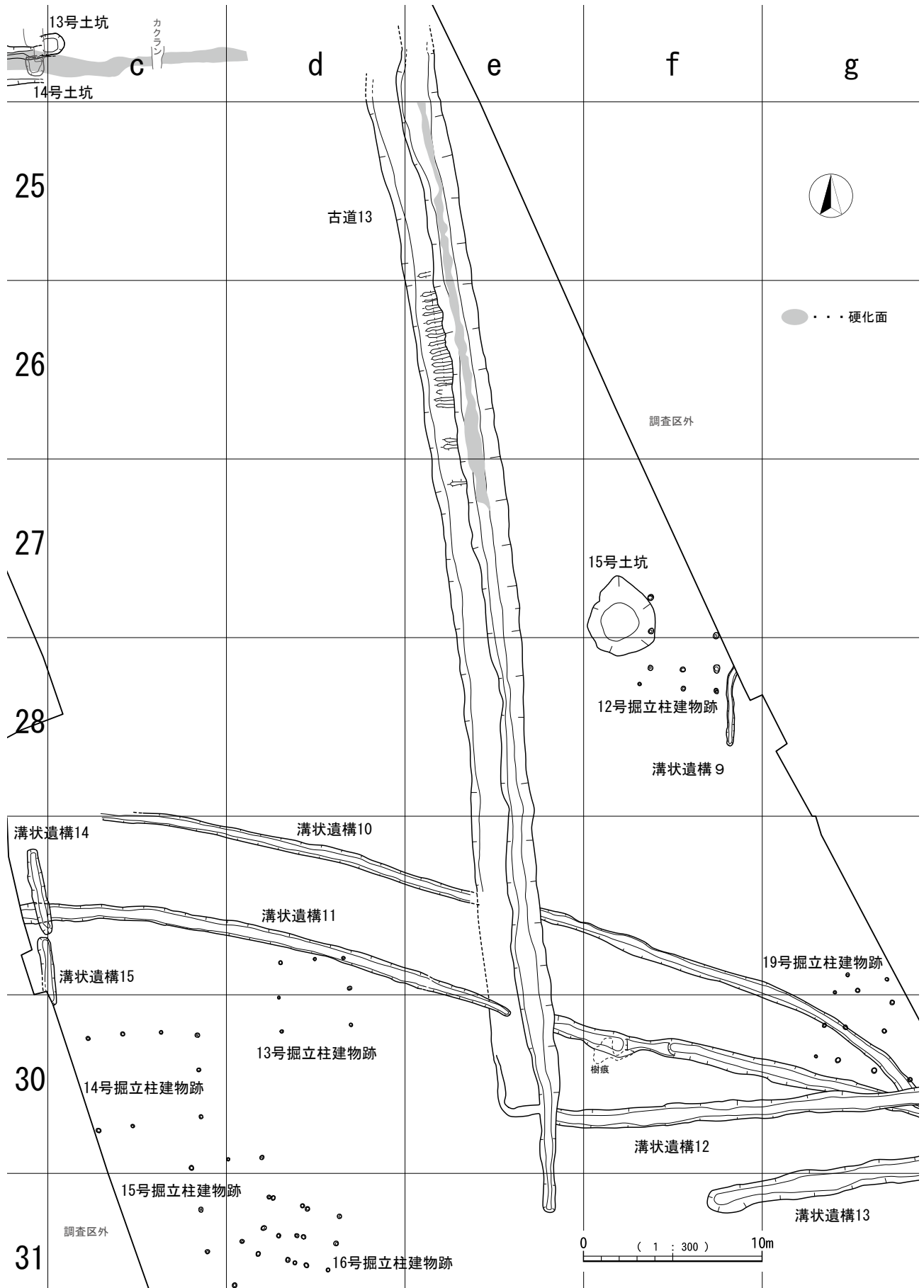
第50図 中世の遺構配置図2



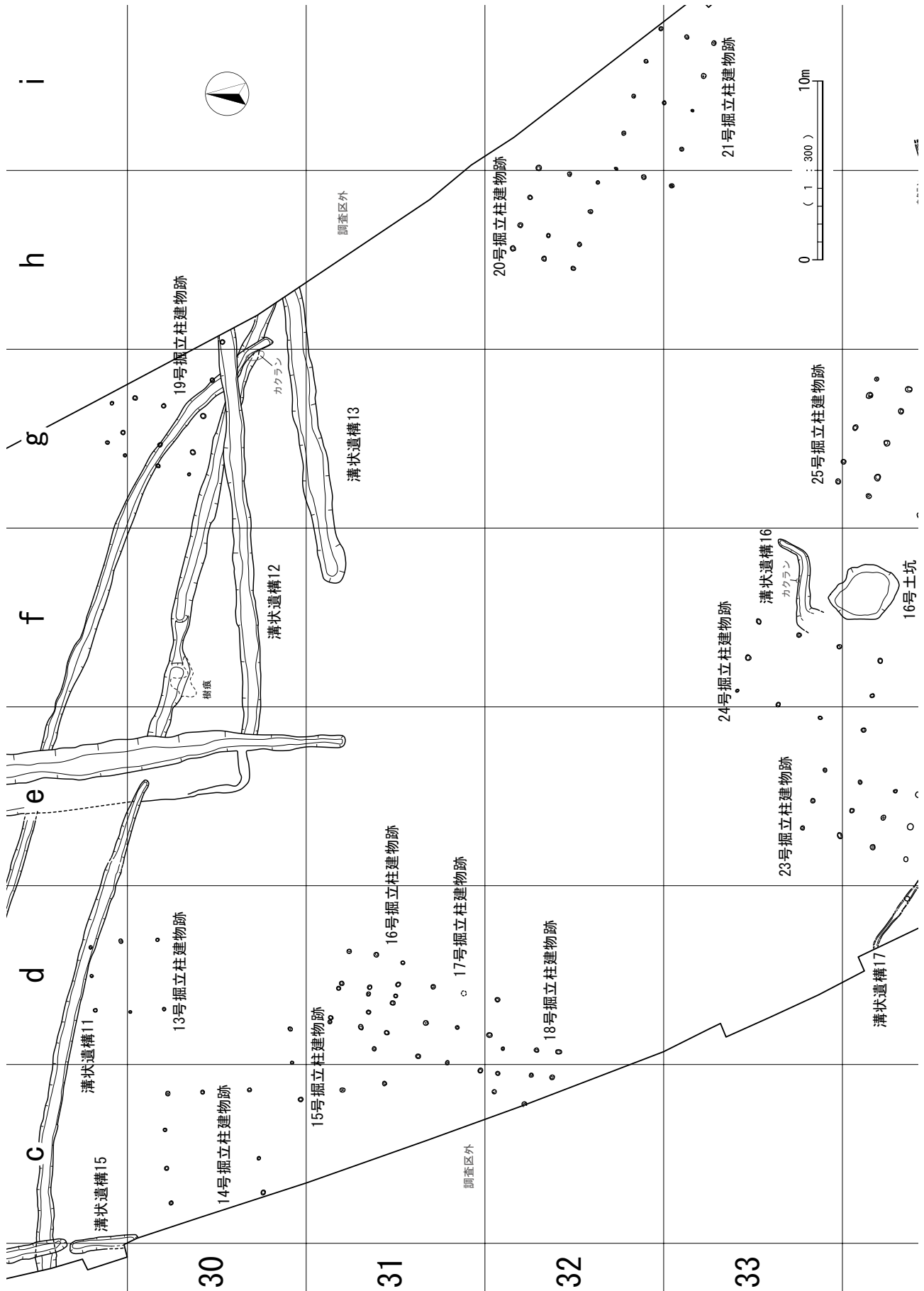
第 51 図 中世の遺構配置図 3



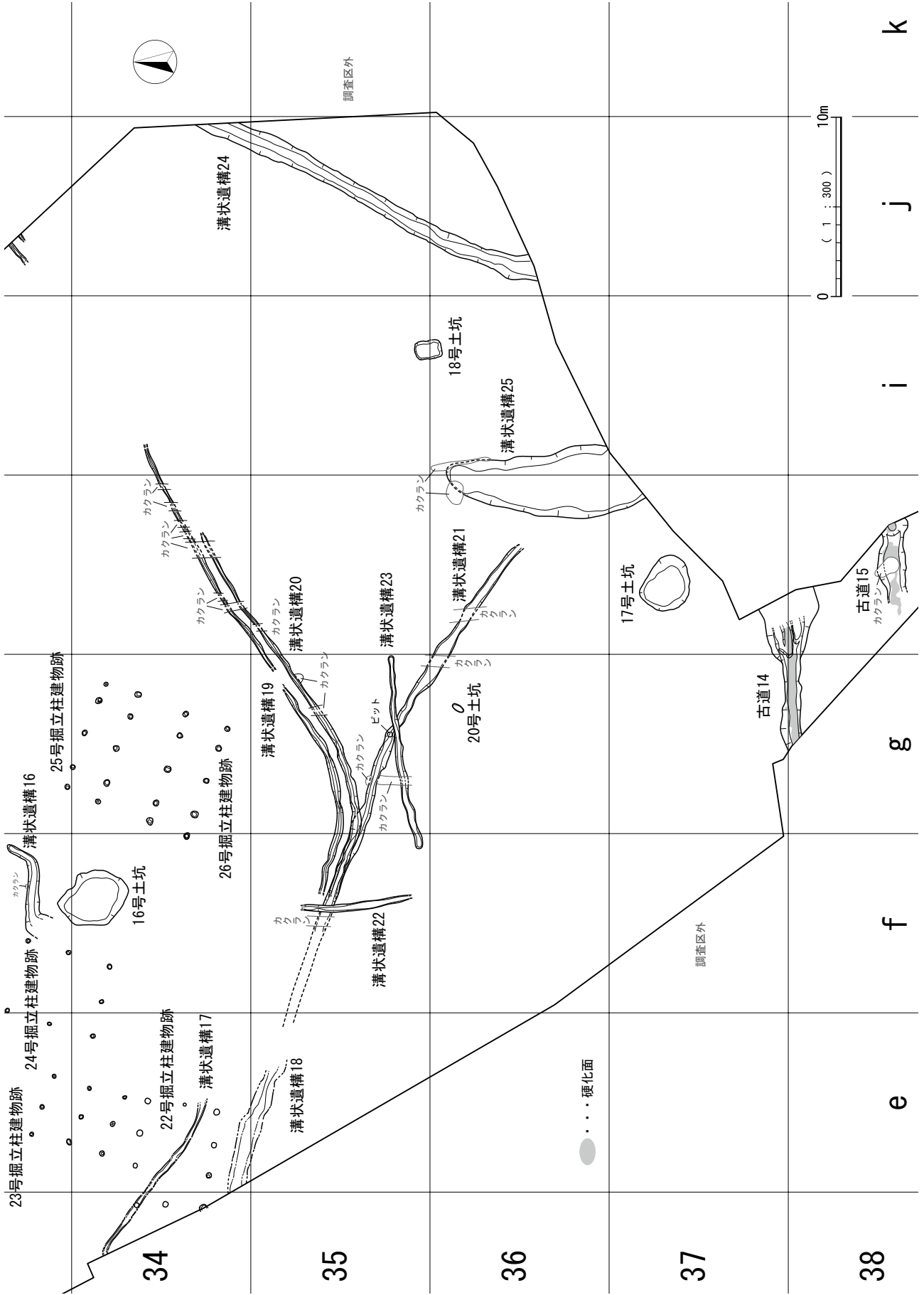
第52図 中世の遺構配置図4



第 53 図 中世の遺構配置図 5

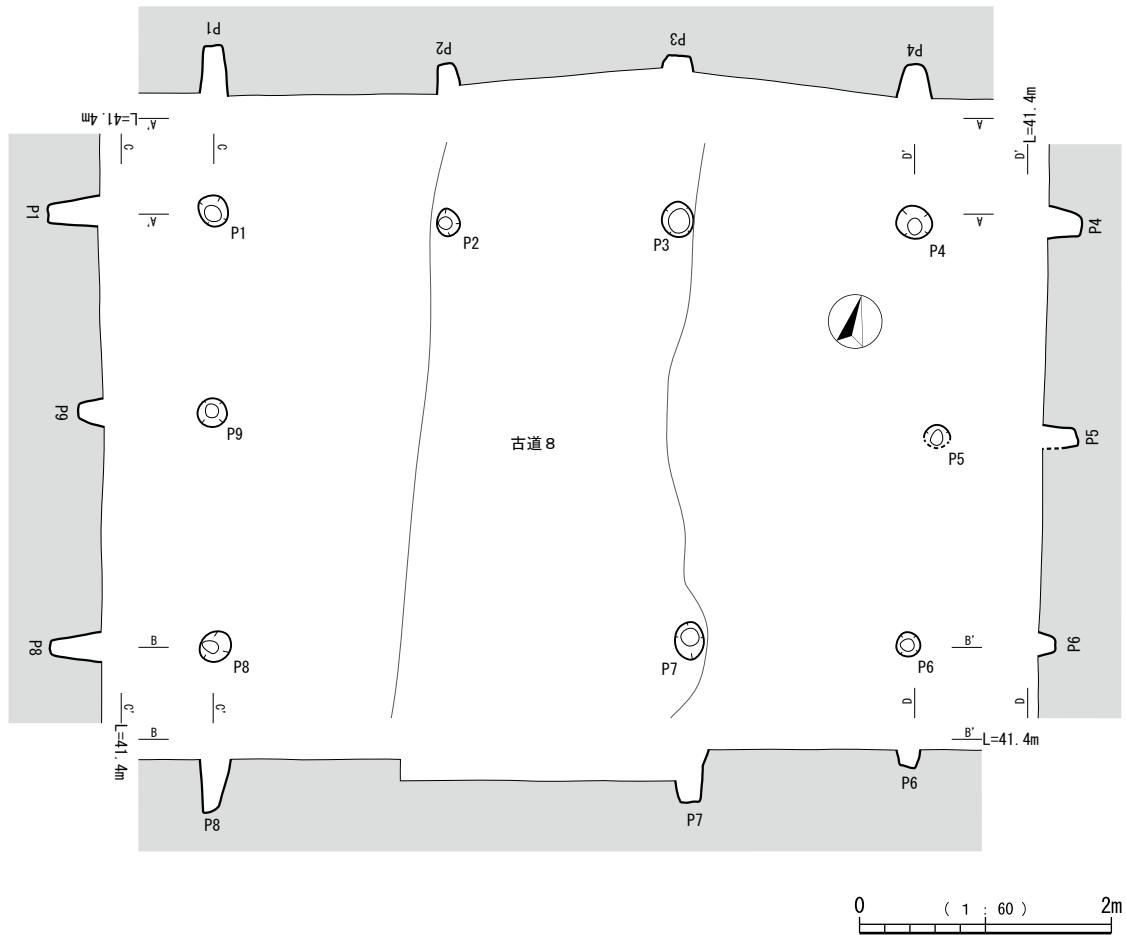


第 54 図 中世の遺構配置図 6



第 55 図 中世の遺構配置図 7

9号掘立柱建物跡



埋土

P1～P9 黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性弱い、よくしまる、径1mm大の赤色粒子・黄白色粒子、径1～2mm大の鉱物を5%程度含み、径1cm大の紫コラを5%程度含む。

第56図 9号掘立柱建物跡

223～240cm、梁行が1間190～212cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸19～29cm、短軸16～23cm、検出面からの深さは12～39cmである。

埋土中から土師器の坏が出土したが、掲載には至らなかった。

16号掘立柱建物跡（第61図）

d-31区Ⅲb層で検出した。北西側が15号掘立柱建物跡と重複するが、柱穴の切り合いがないため、新旧関係は不明である。P2・3、P12・13、P9・8は隣接していることから、建て替えと考えられる。規模は桁行2間、梁行2間で、主軸はN-80°-Eを示す。柱間寸法は、桁行が1間170～235cm、梁行が1間140～180cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸20～30cm、短軸18～24cm、検出面からの深さは6～48cmである。

埋土中から土器の小片が出土したが、掲載には至らなかった。

17号掘立柱建物跡（第62図）

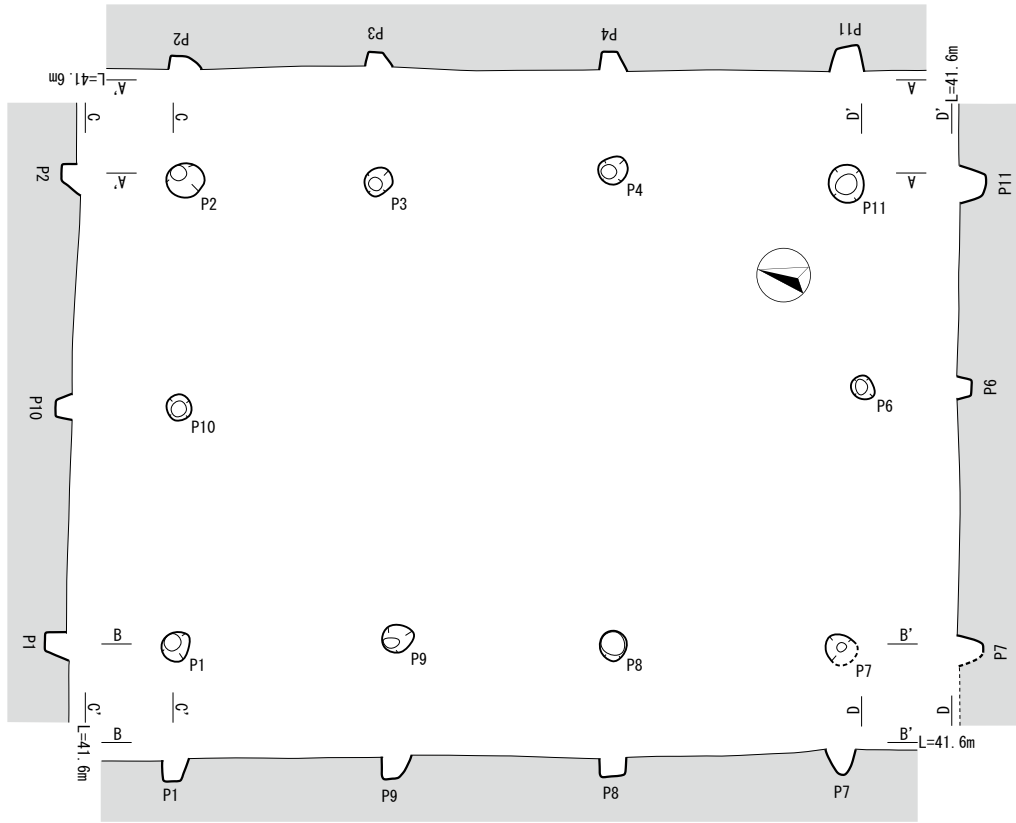
c・d-31区Ⅲb層で検出した。16号掘立柱建物跡のすぐ南西側に位置する。規模は桁行2間、梁行2間で、主軸はN-75°-Eを示す。柱間寸法は、桁行が1間191～208cm、梁行が1間168～190cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸21～28cm、短軸18～25cm、検出面からの深さは12～37cmである。

埋土中から遺物は確認されなかった。

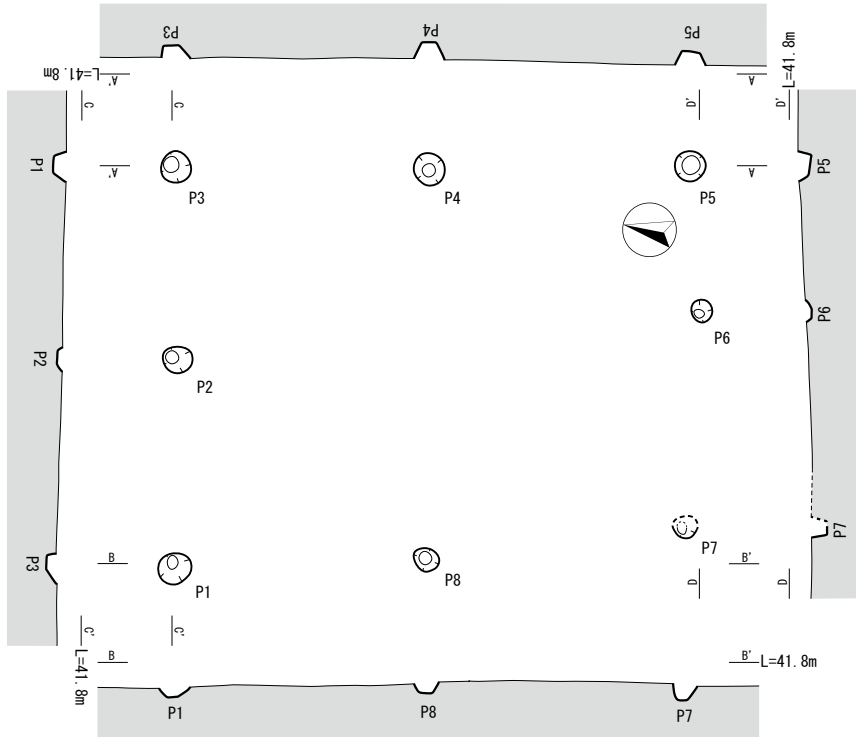
18号掘立柱建物跡（第62図）

c・d-32区Ⅲb層で検出した。遺構の南西側は調査範囲外のため、全体像は不明である。確認できた規模は桁行2間、梁行2間で、主軸はN-8°-Wを示す。柱間寸法は、桁行が1間117～190cm、梁行が1間106～167cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸18～32cm、短軸16～26cm、検出面からの深さは22～38cmである。

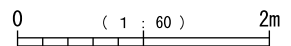
10号掘立柱建物跡



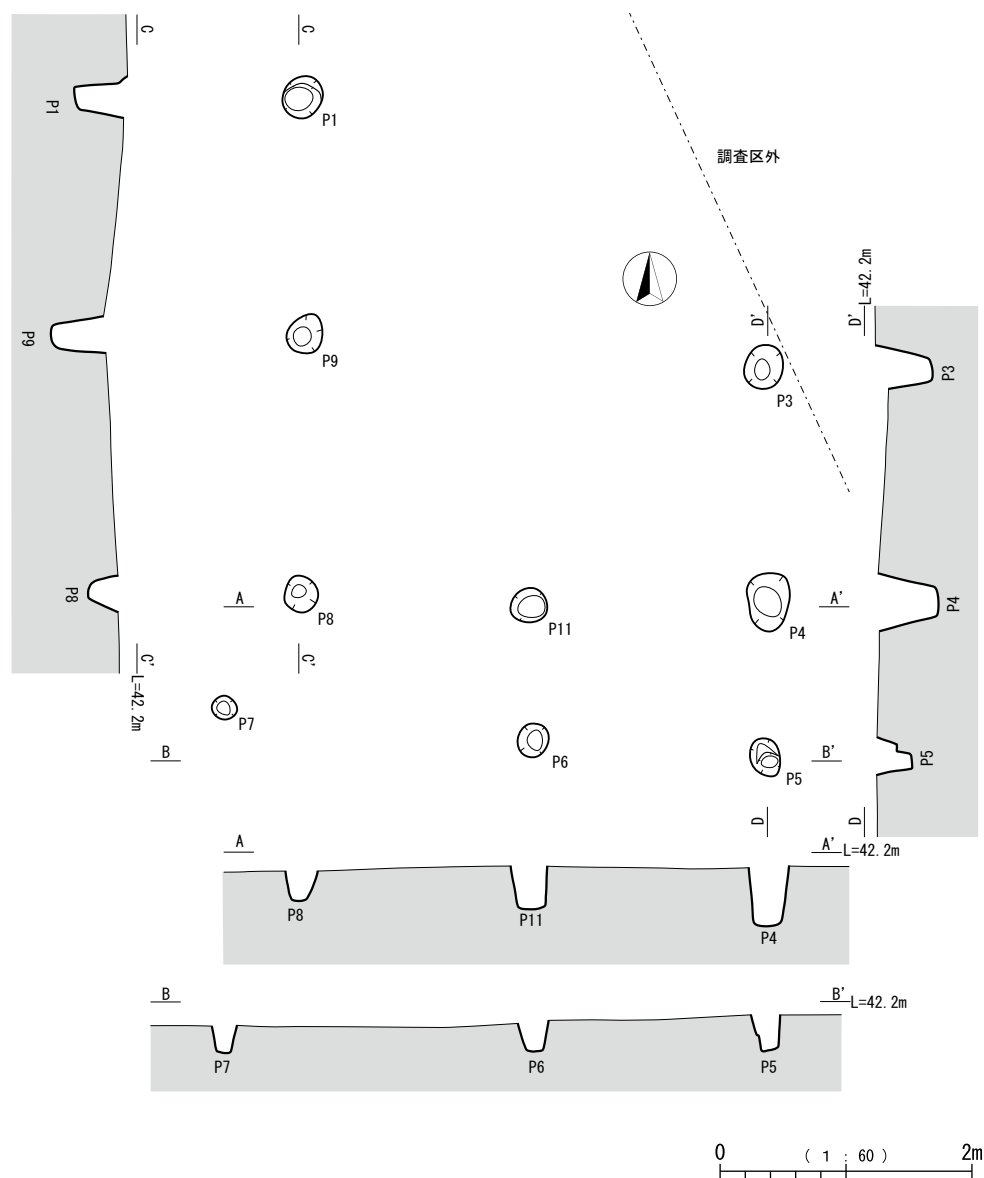
11号掘立柱建物跡



第 57 图 10・11号掘立柱建物跡



12号掘立柱建物跡



埋土 (10号掘立柱建物跡)

- P1 黒褐色土 7.5YR3/2 シルト質, 粘性弱い, ややしまる, 1mm以下の黄褐色・白色粒子を10%程度含む。
 P2 黒褐色土 10YR2/3 シルト質, 粘性弱い, しまる, 1mm以下の褐色粒子を10%程度含む。
 P3 黒褐色土 10YR2/3 シルト質, 粘性弱い, しまる, 1mm以下の褐色粒子を10%程度含む。
 P4 黒褐色土 7.5YR3/2 シルト質, 粘性弱い, ややしまる, 1mm以下の黄褐色・白色粒子を10%程度含む。
 P6 黒褐色土 7.5YR3/2 シルト質, 粘性弱い, ややしまる, 1mm以下の黄褐色・白色粒子を10%程度含む。
 P7 黒褐色土 10YR2/3 シルト質, 粘性弱い, しまる, 1mm以下の褐色粒子を10%程度含む。
 P8 黒褐色土 7.5YR3/2 シルト質, 粘性弱い, ややしまる, 1mm以下の黄褐色・白色粒子を10%程度含む。
 P9 黒褐色土 7.5YR3/2 シルト質, 粘性弱い, ややしまる, 1mm以下の黄褐色・白色粒子を10%程度含む。
 P10 黒褐色土 7.5YR3/2 シルト質, 粘性弱い, ややしまる, 1mm以下の黄褐色・白色粒子を10%程度含む。
 P11 黒褐色土 7.5YR3/2 シルト質, 粘性弱い, ややしまる, 1mm以下の黄褐色・白色粒子を10%程度含む。

埋土 (11号掘立柱建物跡)

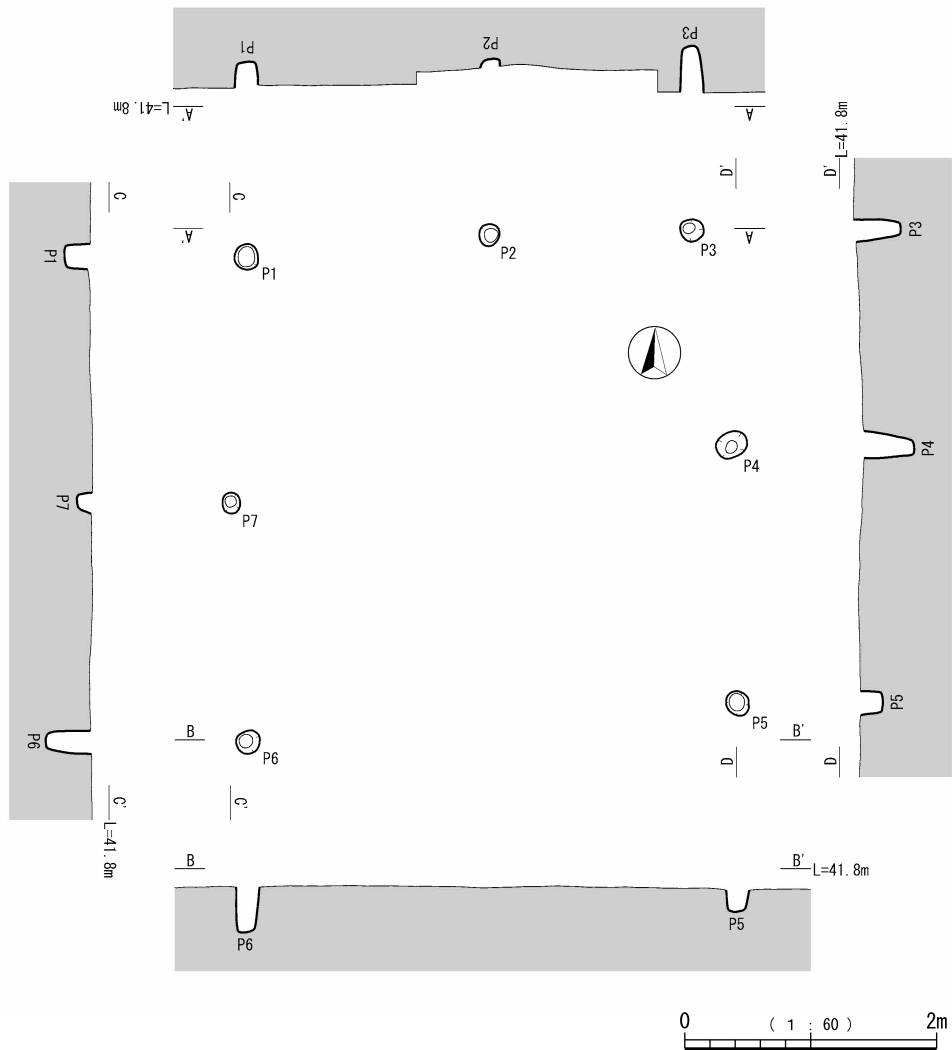
P1 ~ P8 暗褐色土 (10YR3/3) をベースに, 径2cm程のⅢa層土・黒褐色土 (10YR3/1) がブロック状に20%前後含まれる。シルト質壤土, 粘性あり, しまりあり, 径1mm大の粗砂を20~30%含む。

埋土 (12号掘立柱建物跡)

P1 ~ P11 黒褐色土 10YR2/3 シルト質, 粘性弱い, よくしまる, 径1mm大の赤色・黄白色粒子, 径1~2mmの鉱物を5%程度含み, 径1cm大の紫コラを5%程度含む。※P2・P10は欠番

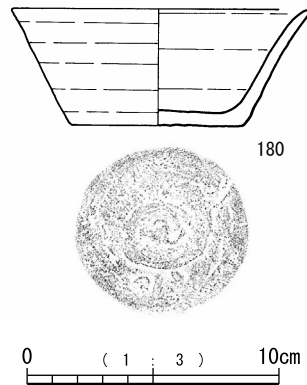
第58図 12号掘立柱建物跡

13号掘立柱建物跡



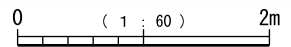
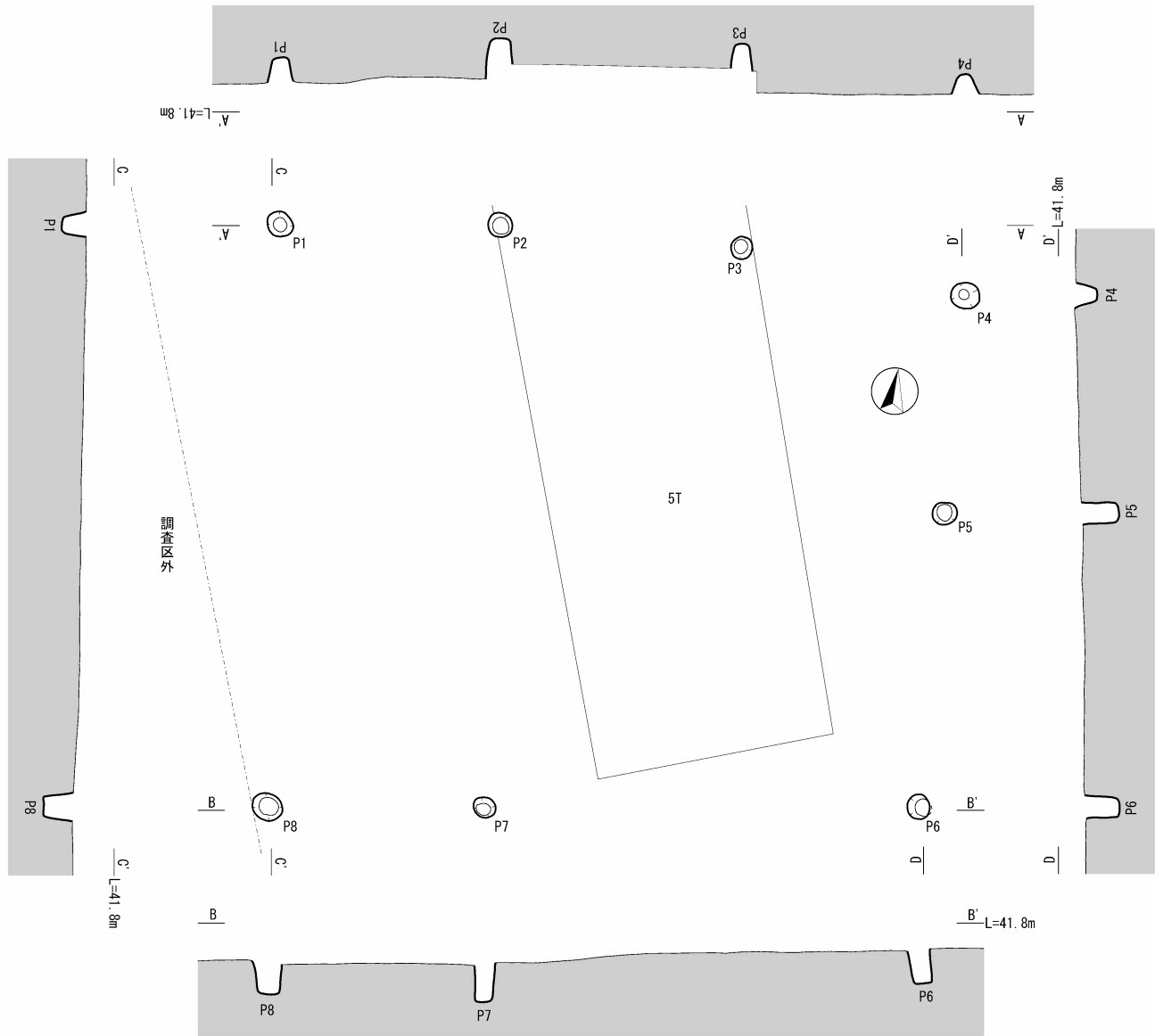
埋土

- | | | | | |
|----|------|---------|------------------|---|
| P1 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | シルト質、粘性あり、しまり弱い、 | にふい黄褐色土(10YR4/3)ブロック混じり、径0.1~0.5mm大の褐色粒子、粗砂を微量含む。II層ベース |
| P2 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | シルト質、粘性あり、しまり弱い、 | 径0.1~0.5mm大の褐色粒子を微量含む。II層ベース |
| P3 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | シルト質、粘性あり、しまり弱い、 | 径0.1~0.5mm大の褐色粒子を含む。II層ベース |
| P4 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | シルト質、粘性あり、しまり弱い、 | 径0.1~1mm大の褐色粒子、粗砂を含む。II層ベース |
| P5 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | シルト質、粘性あり、しまり弱い、 | 径0.1~0.5mm大の褐色粒子、粗砂を含む。II層ベース |
| P6 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | シルト質、粘性あり、しまり弱い、 | 径0.1~0.5mm大の褐色粒子、粗砂を含む。II層ベース |
| P7 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | シルト質、粘性あり、しまり弱い、 | 径0.1~0.5mm大の褐色粒子、粗砂を含む。II層ベース |



第59図 13号掘立柱建物跡

14号掘立柱建物跡

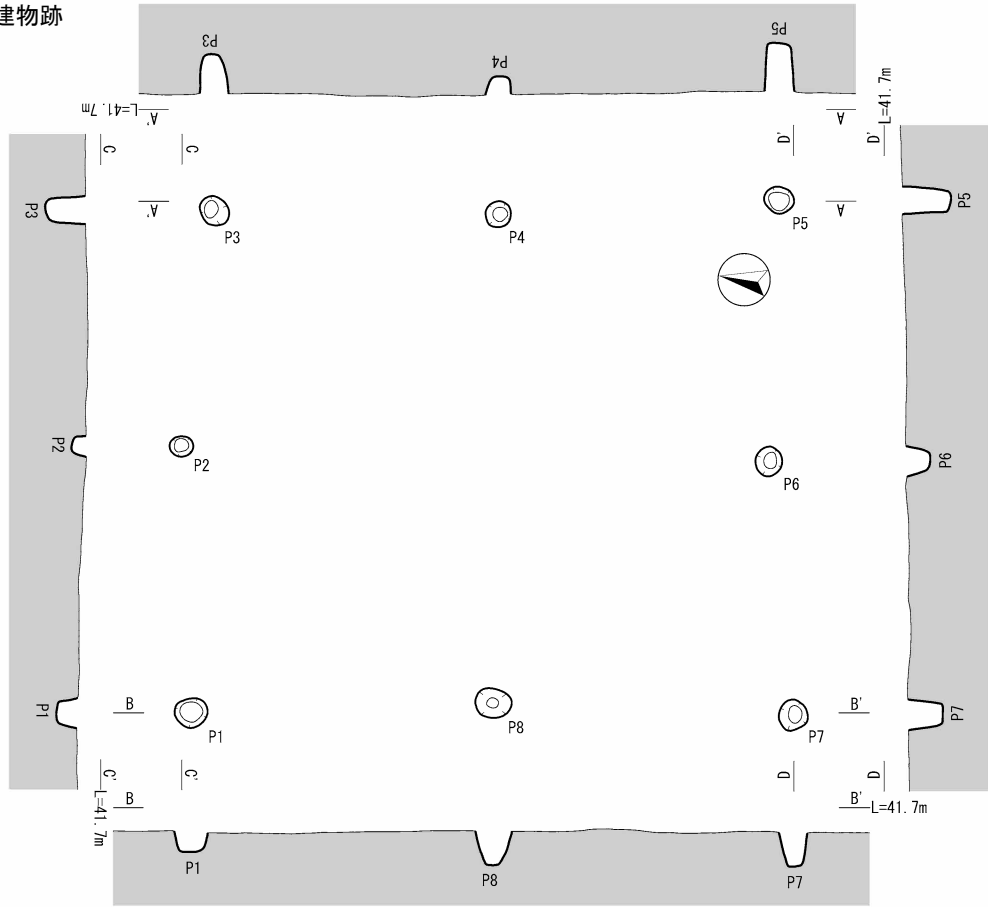


埋土

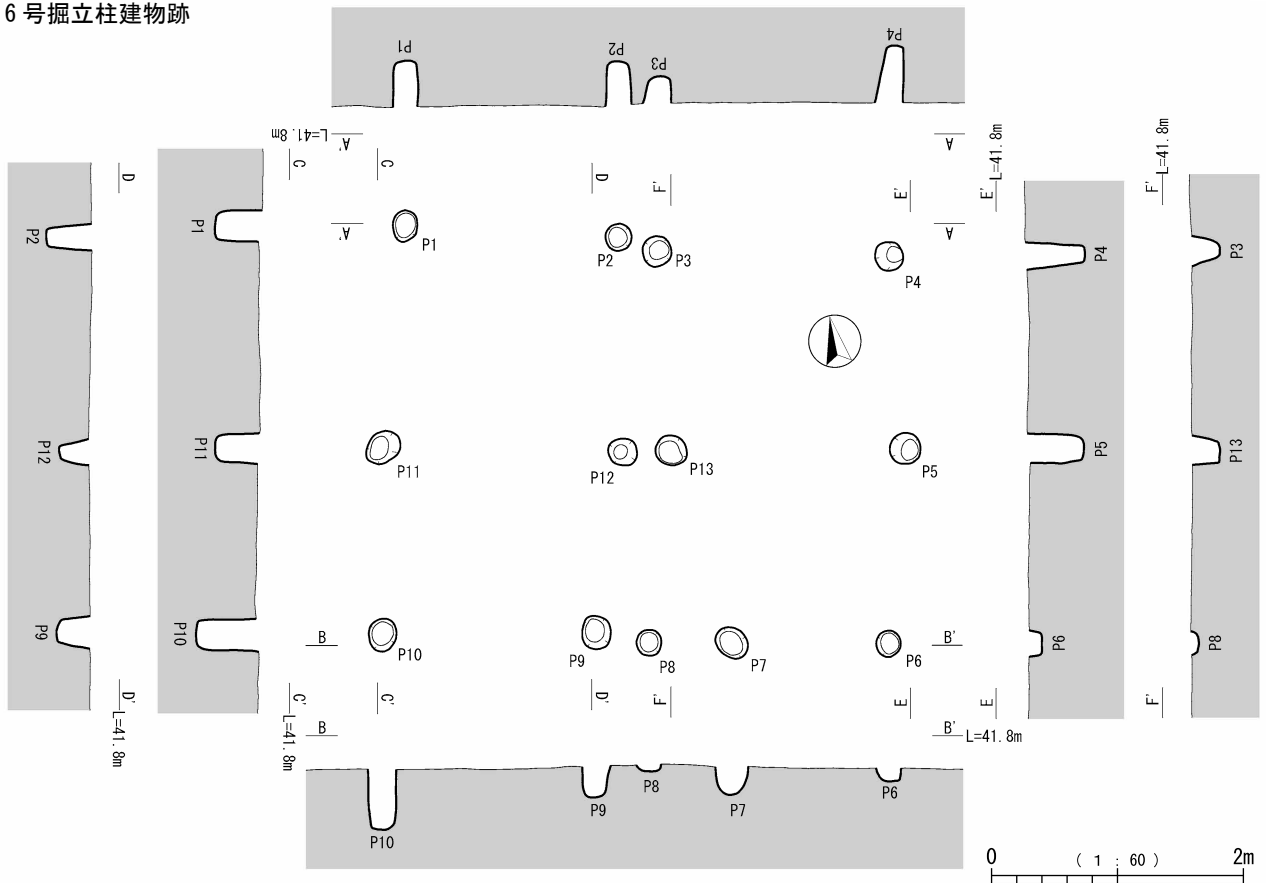
- P1 黒褐色土 10YR2/2 シルト質，粘性ややあり，しまり弱い，径0.1～0.5mm大の褐色粒子を微量含む。II層ベース
- P2 黒褐色土 10YR3/2 シルト質，粘性ややあり，しまり弱い，径0.1～0.5mm大の白色・褐色粒子を含む。II層ベース
- P3 黒褐色土 10YR3/2 シルト質，粘性ややあり，しまり弱い，径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。II層ベース
- P4 黒褐色土 10YR2/2 シルト質，粘性ややあり，しまり弱い，径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。II層ベース
- P5 黒褐色土 10YR2/3 シルト質，粘性ややあり，しまり弱い，径0.1～0.5mm程度の褐色粒子を含む。II層ベース
- P6 黒褐色土 10YR2/3 粘性ややあり，しまり弱い，径0.1mm～0.5mm大の褐色粒子を含む。
- P7 黒色土 10YR2/1 シルト質，粘性あり，しまり弱い，径0.1～0.5mm大の褐色・白色粒子を含む。II層ベースで黒みが強い。
- P8 黒色土 10YR2/1 シルト質，粘性あり，しまり弱い，径0.1～0.5mm程度の褐色・白色粒を含む。II層ベース

第60図 14号掘立柱建物跡

15号掘立柱建物跡

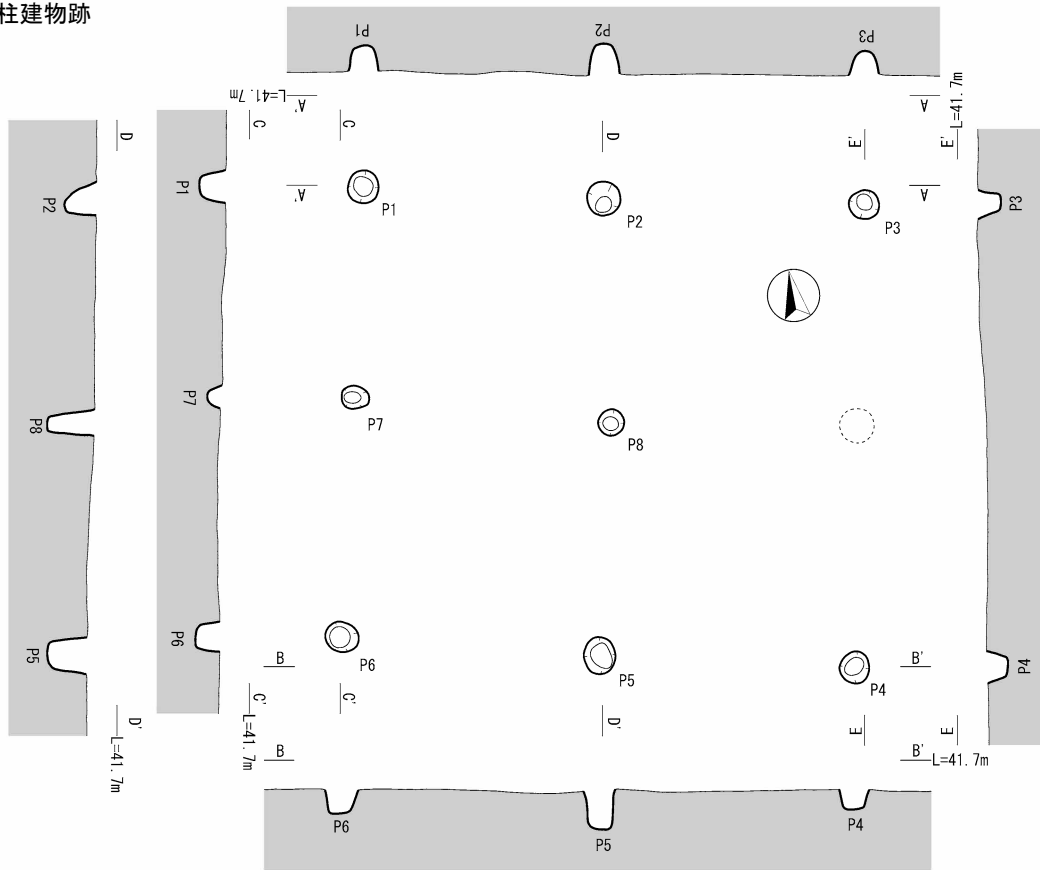


16号掘立柱建物跡

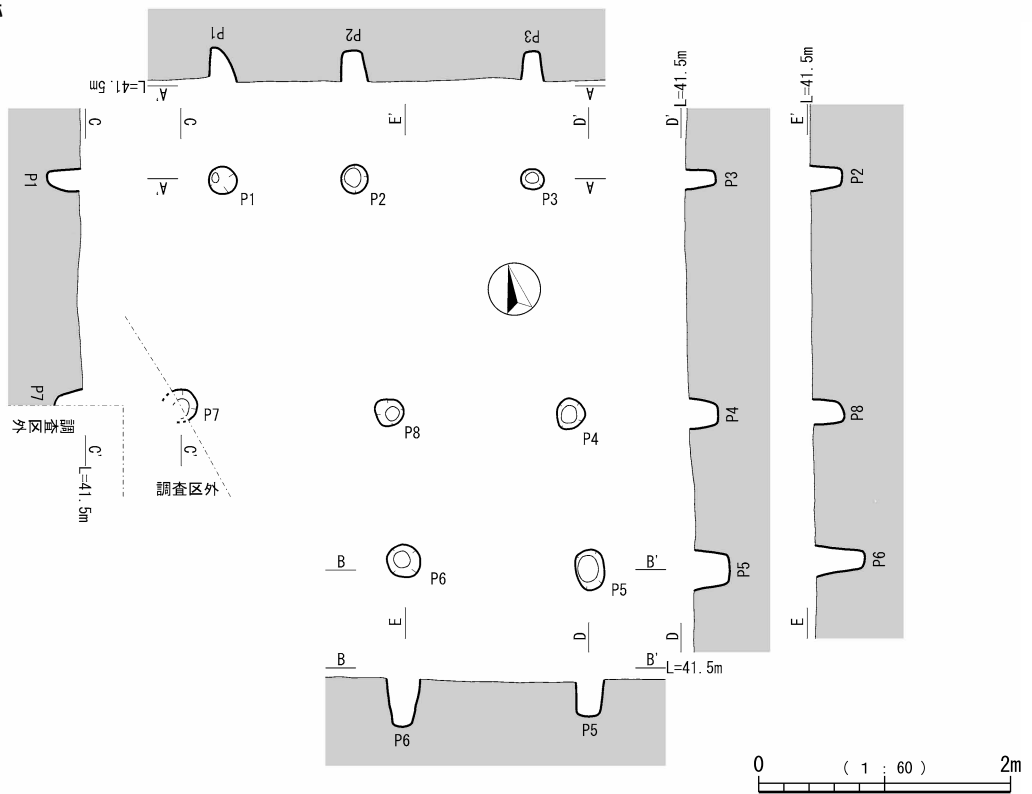


第 61 图 15・16号掘立柱建物跡

17号掘立柱建物跡



18号掘立柱建物跡



第 62 図 17・18号掘立柱建物跡

埋土 (15号掘立柱建物跡)

- P1 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性ややあり、しまりは弱い、径0.5～1mm大の白色・褐色粒子、粗砂を含む。Ⅲ層ベース
P2 黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性ややあり、しまりややあり、径0.5～1mm大の白色・褐色粒子、粗砂を含む。Ⅲ層ベース
P3 暗褐色土 10YR3/3 シルト質、粘性ややあり、しまり弱い、径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。Ⅲ層ベース
P4 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性ややあり、しまり弱い、径0.1～0.5mm大の褐色・白色粒子、粗砂を含む。Ⅲ層ベース
P5 黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～1mm大の褐色粒子、粗砂を含む。
P6 黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性ややあり、しまりややあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。Ⅲ層ベース
P7 黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性あり、しまりややあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。
P8 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～1mm大の褐色粒子、粗砂を含む。Ⅲ層ベース

埋土 (16号掘立柱建物跡)

- P1 黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性あり、しまり弱い、径0.1～0.5mm大の褐色・黄色粒子を微量含む。
P2 黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性あり、ややしまりあり、径0.5～1mm大の褐色粒子を微量含む。
P3 黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子・粗砂を含む。
P4 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1mm大の白色・褐色粒子を微量含む。
P5 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1mm大の褐色粒子を微量含む。
P6 黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性あり、ややしまりあり、径0.1mm大の白色粒子を微量含む。
P7 黒褐色土 7.5YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.5～1mm大の褐色粒子を微量含む。
P8 暗褐色土 7.5YR3/3 シルト質、粘性あり、ややしまりあり、径0.5～1mm大の白色粒子を微量含む。
P9 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1mm大の褐色・白色粒子、粗砂を含む。
P10 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の白色粒子と粗砂を含む。
P11 黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。
P12 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。
P13 暗褐色土 10YR3/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。

埋土 (17号掘立柱建物跡)

- P1 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりは弱い、径0.1mm大の白色粒子を含む。
P2 黒褐色土 10YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりは弱い、径0.1mm大の白色粒子を微量含む。
P3 暗褐色土 10YR3/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子、粗砂を含む。
P4 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまり弱い、径0.5～1mm大の黄色・褐色粒子を含む。
P5 暗褐色土 10YR3/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子、粗砂を含む。
P6 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりは弱い、径0.1mm大の白色粒子を微量含む。
P7 黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。
P8 黒褐色土 10YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の白色粒子を微量含む。

埋土 (18号掘立柱建物跡)

- P1 黒色土 7.5YR2/1 シルト質、粘性あり、しまりは弱い、径0.1～0.5mm大の褐色粒子と粗砂を含む。
P2 黒褐色土 10YR3/2 シルト質、粘性あり、しまりは弱い、径0.5～1mm大の白色・褐色粒子、粗砂を含む。
P3 暗褐色土 10YR3/3 シルト質、粘性あり、しまりあり、径0.1～0.5mm大の白色・褐色粒子を含む。
P4 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりは弱い、径0.1～0.5mm大の褐色粒子と粗砂を含む。
P5 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりは弱い、径0.1～0.5mm大の褐色粒子と粗砂を少量含む。
P6 黒色土 7.5YR2/1 シルト質、粘性あり、しまりは弱い、径0.1～0.5mm大の褐色粒子を含む。
P7 黒色土 7.5YR2/1 シルト質、粘性あり、しまりは弱い、径0.1mm大の白色粒子と粗砂を含む。
P8 黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質、粘性あり、しまりは弱い、径0.1～0.5mm大の白色粒子と粗砂を含む。

埋土中から遺物は確認されなかった。

19号掘立柱建物跡 (第63図)

g・h-29・30区Ⅲb層で検出した。遺構の東側は調査範囲外のため、桁行は東側へ伸びる可能性もある。確認できた規模は桁行3間、梁行2間で、北側と西側に廂をもつ。主軸はN-74°-Eを示す。柱間寸法は、桁行が1間205～219cm、梁行が1間167～237cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸17～31cm、短軸16～28cm、検出面からの深さは13～30cmである。

埋土中から土師器の坏や甕、坏の底部を転用した紡錘車が出土したが、掲載には至らなかった。

20号掘立柱建物跡 (第64図)

h-32区Ⅲb層で検出した。規模は桁行2間、梁行2間で、東側に廂をもつ。主軸はN-75°-Eを示す。柱間寸法は、桁行が1間165～193cm、梁行が1間165～180cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸20～31cm、短軸19～30cm、検出面からの深さは

は17～29cmである。

埋土中から土師器の坏が出土したが、掲載には至らなかった。

21号掘立柱建物跡 (第65図)

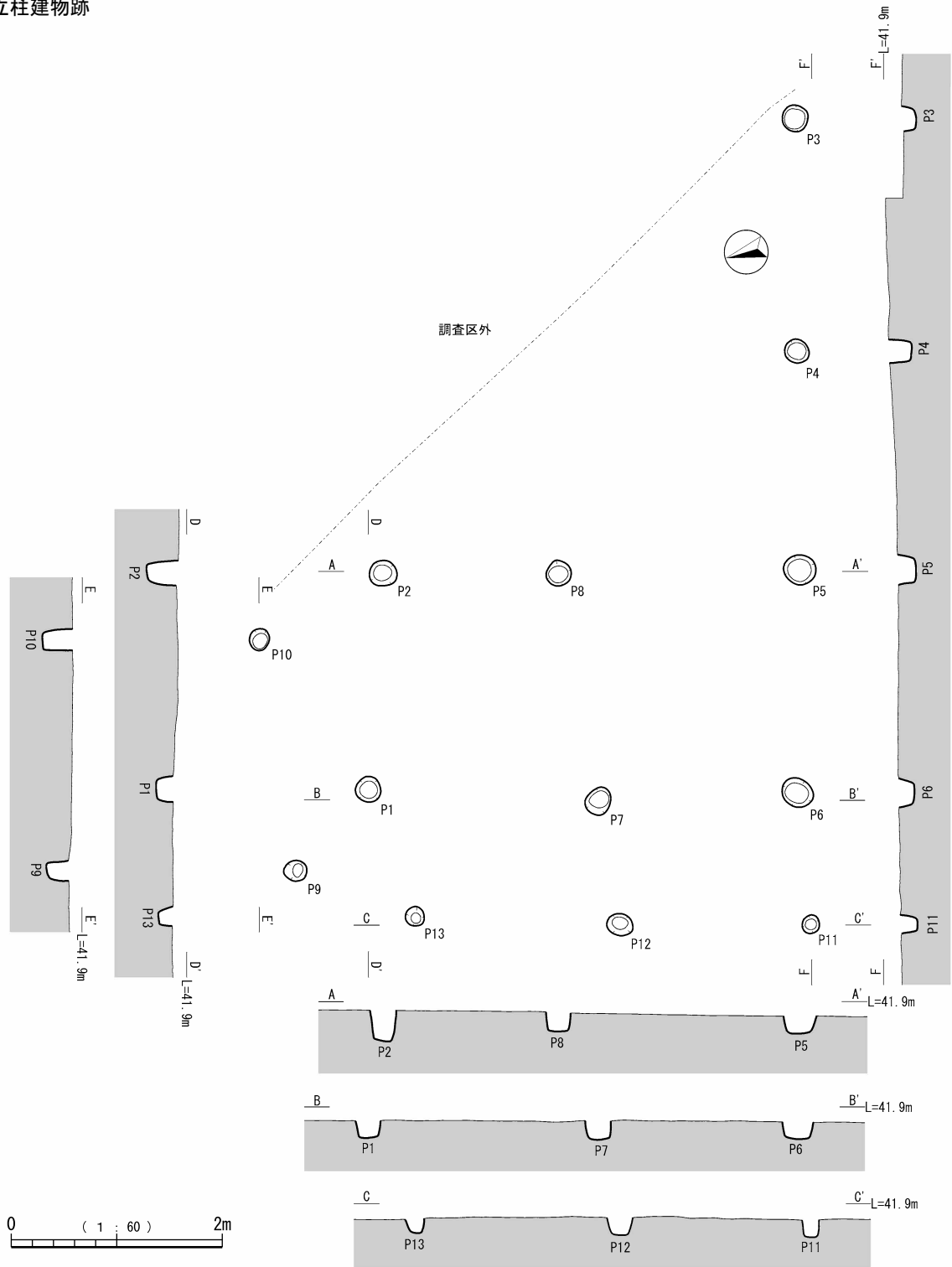
h・i-32・33区Ⅲb層で検出した。規模は桁行4間、梁行2間で、主軸はN-76°-Eを示す。柱間寸法は、桁行が1間193～225cm、梁行が1間152～172cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸14～27cm、短軸11～24cm、検出面からの深さは10～24cmである。

埋土中から遺物は確認されなかった。

22号掘立柱建物跡 (第66図)

d・e-34区Ⅲb層で検出した。遺構のすぐ西側は調査範囲外である。規模は桁行3間、梁行2間で、主軸はN-80°-Eを示す。柱間寸法は、桁行が1間173～223cm、梁行が1間165～210cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸17～43cm、短軸16～32cm、

19号掘立柱建物跡

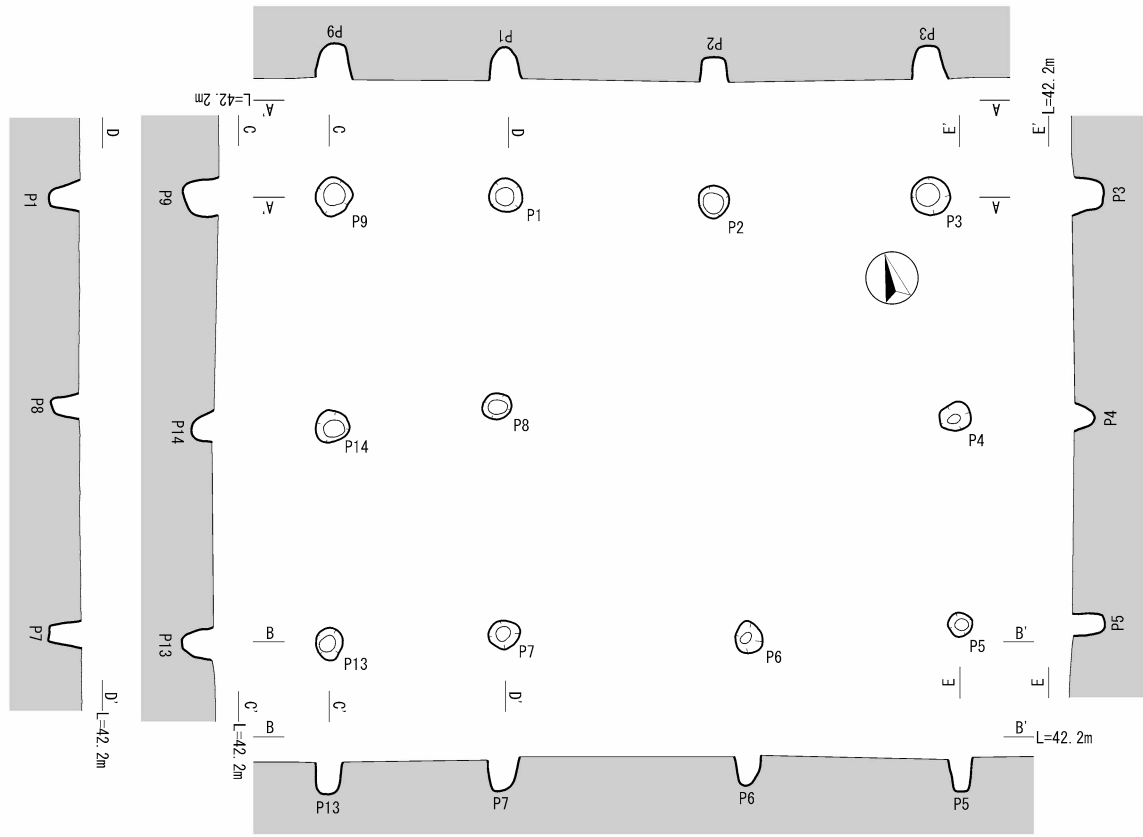


埋土

- P1 黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質，粘性弱い，しまりあり，径0.1～2mm大の橙色粒子，径0.1mm以下の白色粒子を少量，径3mm以下の黄色粒子を極少量含む。
- P2 黒色土 7.5YR1.7/1 シルト質，粘性弱い，しまりややあり，径0.1～2mm大の橙色粒子，径0.1mm以下の白色粒子を少量含む。
- P3 黒褐色土 10YR2/2 シルト質，粘性弱い，しまりあり，径0.1～1mm大の橙色・白色粒子を少量含む。また埋土上位に径6cm大の池田湖火山灰ブロック及び径1cm大の池田降下軽石を極少量含む。
- P4 黒褐色土 10YR2/2 シルト質，粘性弱い，しまりややあり，径0.1～2mm大の橙色・白色粒子を少量含む。
- P5 黒褐色土 10YR2/2 シルト質，粘性弱い，しまりややあり，径0.1～3mm大の橙色粒子，径0.1mm以下の白色粒子を少量含む。径5mm大の池田降下軽石と炭化物を僅かに含む。
- P6 黒色土 7.5YR2/1 シルト質，粘性弱い，しまりややあり，径0.1mm大の橙色・白色粒子を少量含む。また埋土上位に径7cm大の池田湖火山灰ブロックを極少量含む。
- P7 黒褐色土 10YR2/2 シルト質，粘性弱い，しまりややあり，径0.1～1mm大の橙色・白色粒子を少量含む。また径2cm大の池田降下軽石とブロック状のⅢ層土を含む。
- P8 黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質，粘性弱い，径0.1mm大の橙色・白色粒子を微量含む。部分的に池田湖火山灰のブロックや径1cm大の池田降下軽石を僅かに含む。
- P9 黒色土 7.5YR1.7/1 シルト質，粘性弱い，しまりややあり，径1mm大の橙色・白色粒子を微量，径1cmの池田降下軽石を僅かに含む。
- P10 黒色土 7.5YR1.7/1 シルト質，粘性弱い，しまりややあり，径0.1～1mm大の橙色・白色粒子を微量，径1cm大の池田降下軽石を極僅かに含む。
- P11 黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質，粘性弱い，しまりややあり，径0.1～1mm大の橙色粒子，径0.1mm以下の白色粒子を少量，径2cm大の池田降下軽石を僅かに含む。
- P12 黒色土 7.5YR1.7/1 シルト質，粘性弱い，しまりややあり，径0.1mm以下の橙色・白色粒子を少量，径3mm大の池田降下軽石を極僅かに含む。
- P13 黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質，粘性弱い，しまり強い，径0.1～1mm大の白色粒子を少量含む。埋土下位に径5mm以下の池田降下軽石を少量含む。

第 63 図 19号掘立柱建物跡

20号掘立柱建物跡



埋土
P1～P14 黒色土 10YR1.7/1 やや粘性あり、しまりあり。黒に茶色（皿層）のブロックが混じる。

0 (1:60) 2m

第64図 20号掘立柱建物跡

検出面からの深さは8～57cmである。

埋土中から土師器の坏・皿・甕が出土したが、掲載には至らなかった。

23号掘立柱建物跡（第67図）

e-33・34区Ⅲb層で検出した。規模は桁行2間、梁行2間で、主軸はN-6°-Eを示す。柱間寸法は、桁行が1間180～225cm、梁行が1間157～184cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸20～34cm、短軸19～25cm、検出面からの深さは13～34cmである。

埋土中から土器の小片が出土したが、掲載には至らなかった。

24号掘立柱建物跡（第68図）

e・f-33・34区Ⅲb層で検出した。規模は桁行3間、梁行2間で、主軸はN-16°-Wを示す。柱間寸法は、桁行が1間235～252cm、梁行が1間191～209cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸19～33

cm、短軸15～28cm、検出面からの深さは17～44cmである。

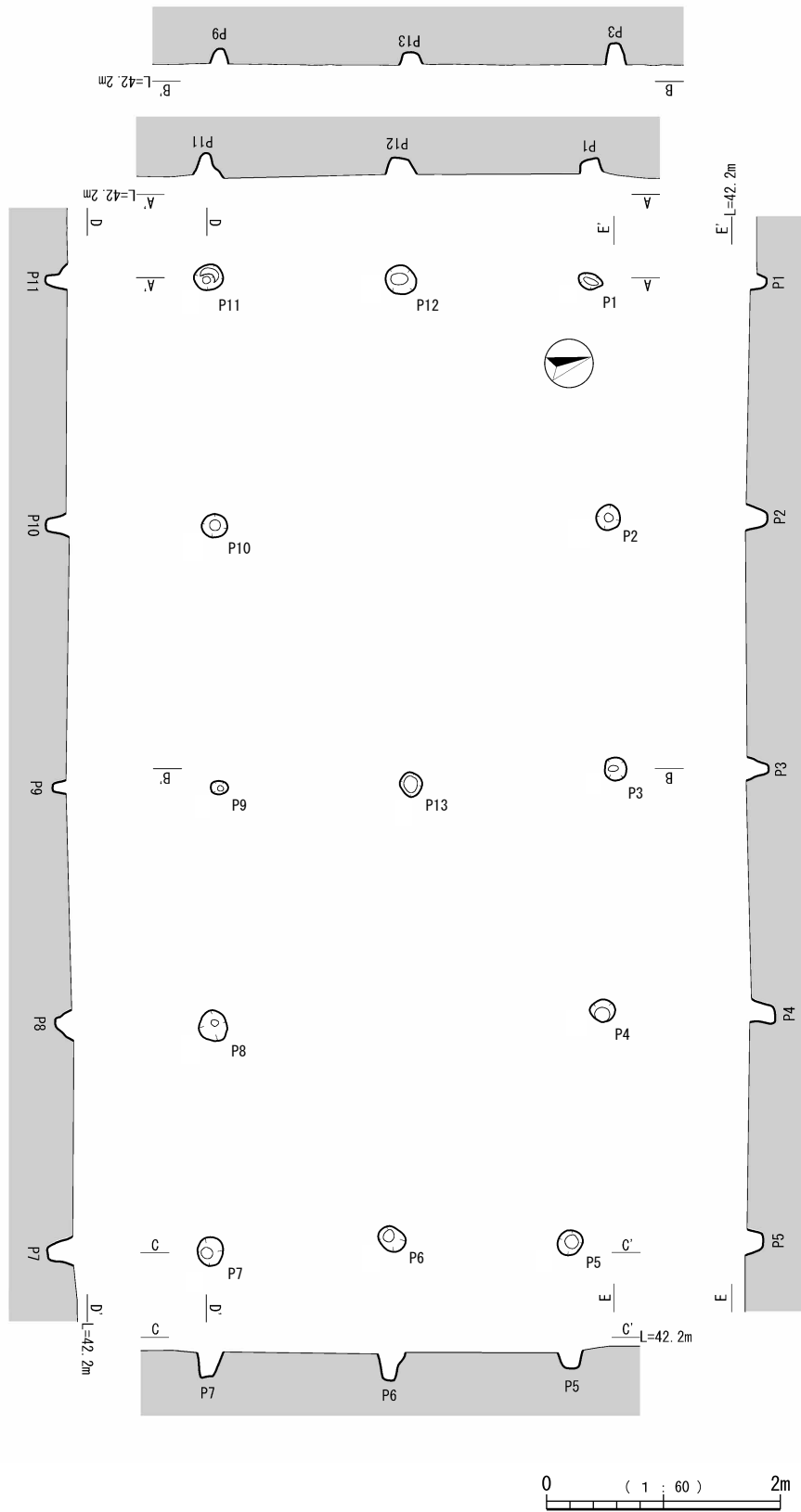
埋土中から遺物は確認されなかった。

25号掘立柱建物跡（第69・70図）

g-33・34区Ⅲb層で検出した。規模は桁行2間、梁行1間で、東西方向に廂をもつ。主軸はN-71°-Eを示す。柱間寸法は、桁行が1間198～204cm、梁行が1間196～207cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸23～39cm、短軸21～32cm、検出面からの深さは20～71cmである。

埋土中から土師器の小皿・須恵器・青磁・白磁・陶器が出土した。181・182はP5、183～185はP6から出土した土師器の小皿である。底部はすべて糸切りである。181は完形で、口径9.2cm、底径7.2cm、器高1.2cmを測り、平面形は楕円形となる。186は須恵器の壺の肩部であり、自然釉がかかる。187は須恵器の壺の底部であり、高台を持ち緩やかに立ち上がる。188は青磁の碗の高台である。畳付まで施釉される。189・190は陶器の壺である。

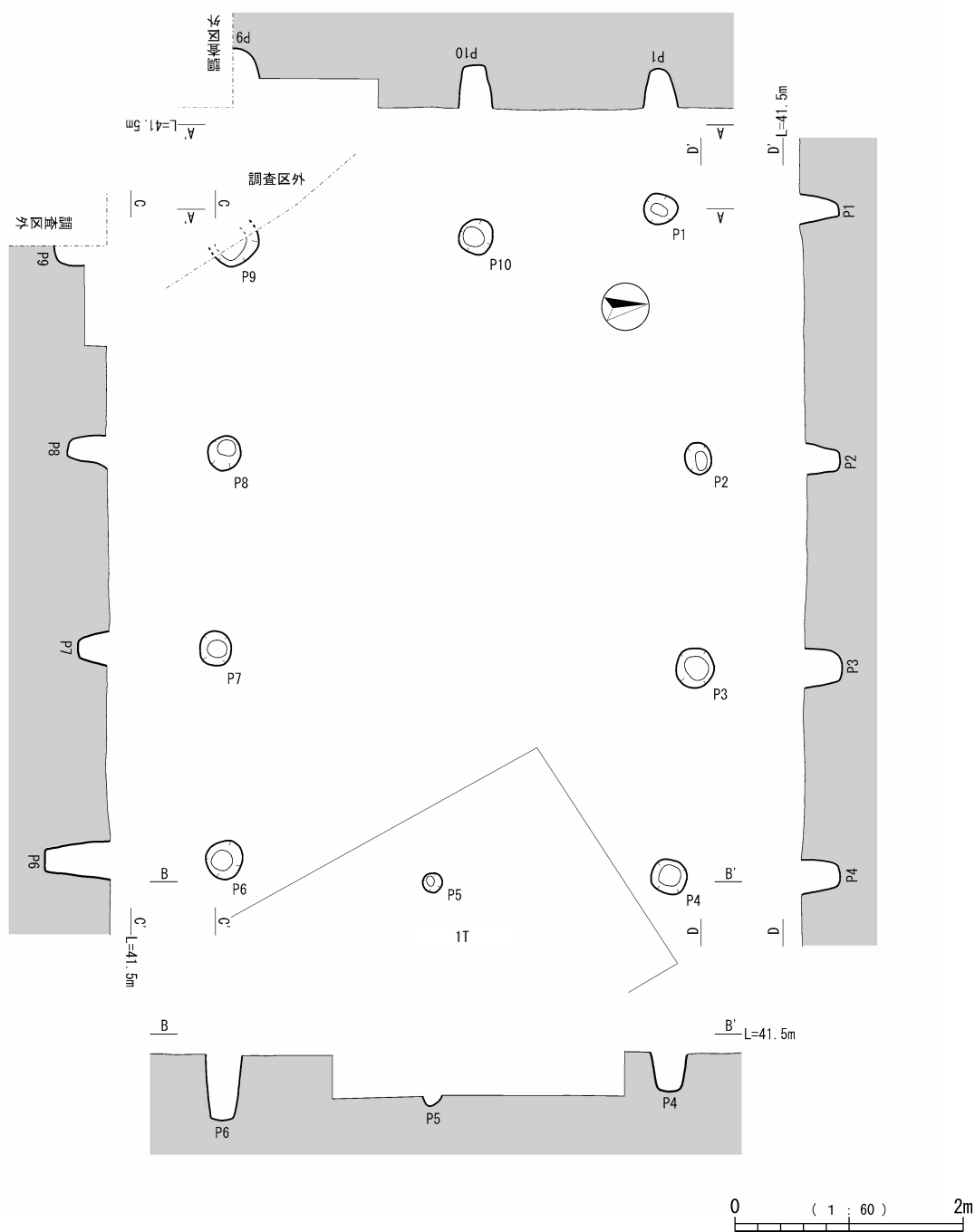
21号掘立柱建物跡



埋土
 P1 ~ P13 黒色土 10YR1.7/1 やや粘性があり、しまりあり。黒に茶色のブロックが混じる。単一層である。

第 65 図 21 号掘立柱建物跡

22号掘立柱建物跡

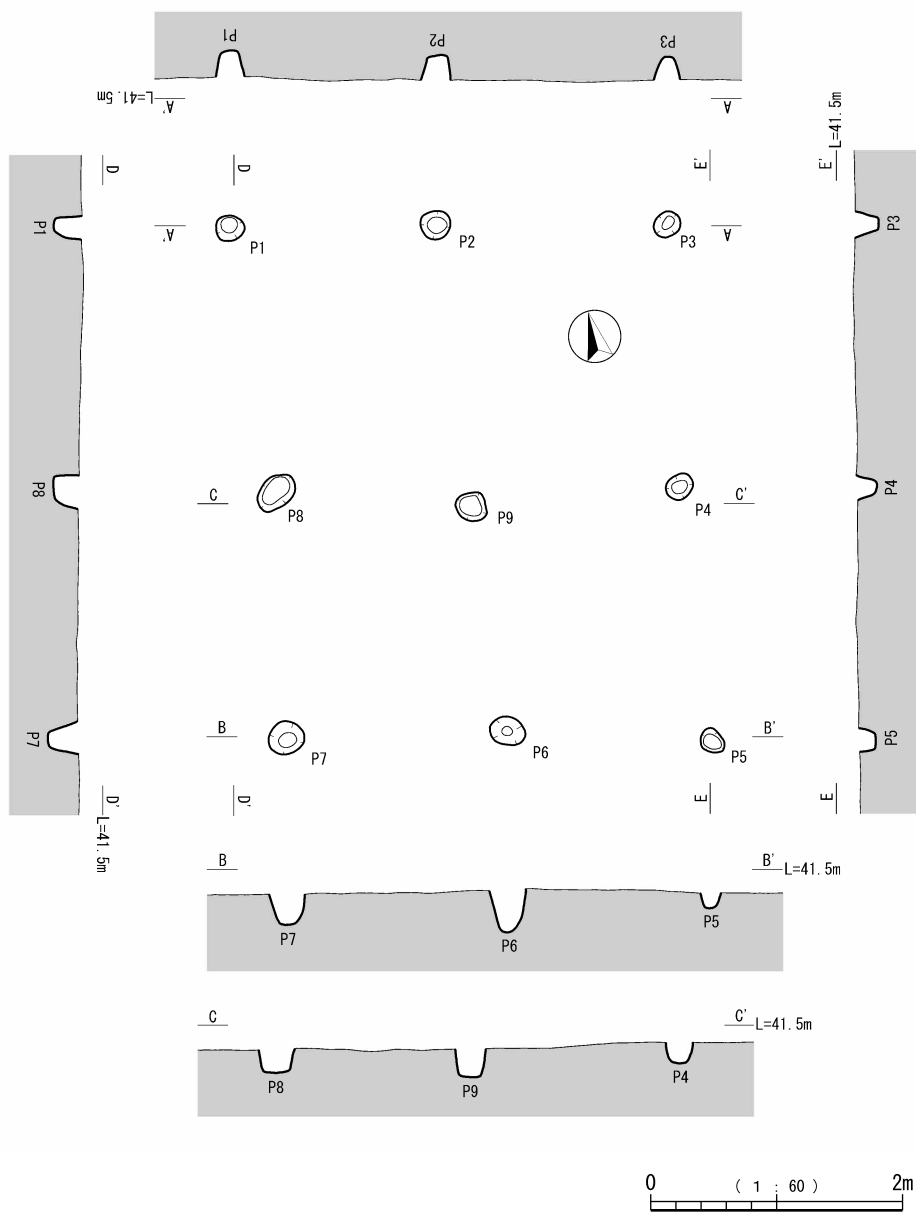


埋土

- | | | | |
|-----|------|---------|--|
| P1 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | シルト質, 粘性あり, ややしまる, 径0.1mm~0.5mm大の黄色粒子を10%含む。 |
| P2 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | シルト質, 粘性あり, ややしまる, 径0.5mm大の白色, 黄色粒子を10%含む。 |
| P3 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | シルト質, 粘性あり, ややしまる, 径0.1~0.5mm大の黄色・褐色粒子を5%含む。 |
| P4 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | シルト質, 粘性あり, ややしまる, 径0.1~0.5mm大の黄色粒子を10%含む。 |
| P5 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | シルト質, 粘性あり, しまりあり, 径0.1~0.5mm大の粗砂, 白色粒子を10%含む。 |
| P6 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | シルト質, 粘性あり, しまりあり, 径0.1~0.5mm大の粗砂, 褐色粒子を10%含む。 |
| P7 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | シルト質, 粘性あり, ややしまる, 径0.1~0.5mm大の黄色, 褐色粒子を5%含む。 |
| P8 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | シルト質, 粘性あり, しまりあり, 径0.1~0.5mm大の粗砂, 褐色粒子を10%含む。 |
| P9 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | シルト質, 粘性あり, ややしまる, 径0.5mm大の白色, 黄色粒子を10%含む。 |
| P10 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | シルト質, 粘性あり, しまりあり, 径0.5mm大の白色, 黄色粒子を10%含む。 |

第66図 22号掘立柱建物跡

23号掘立柱建物跡

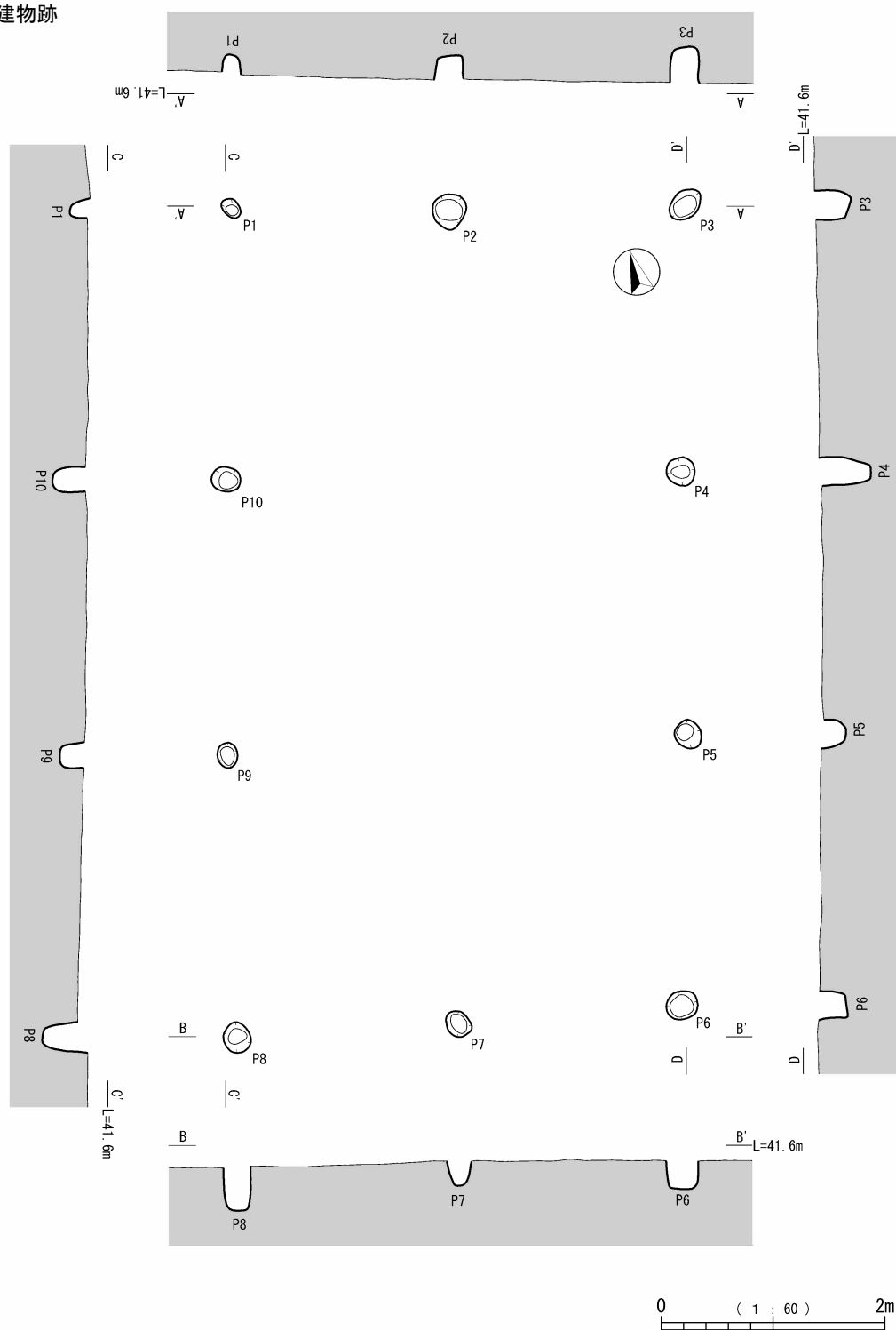


埋土

P1・P3～P7・P9 暗褐色土 10YR3/3 黒色土 (10YR2/2) が混ざる。シルト質、粘性弱い、しまり弱い、径0.3mm大の黄色粒子を5%、径0.3mm大の白色粒子を3%含む。
 P2 暗褐色土 10YR3/3 シルト質、粘性弱い、しまり弱い、径0.3mm大の黄色粒子を5%、径0.3mm大の白色粒子を3%含む。
 P8 黒色土 10YR2/2 シルト質、粘性弱い、しまり弱い、径0.3mm大の黄色粒子を5%、径0.3mm大の白色粒子を3%含む。

第 67 図 23号掘立柱建物跡

24号掘立柱建物跡

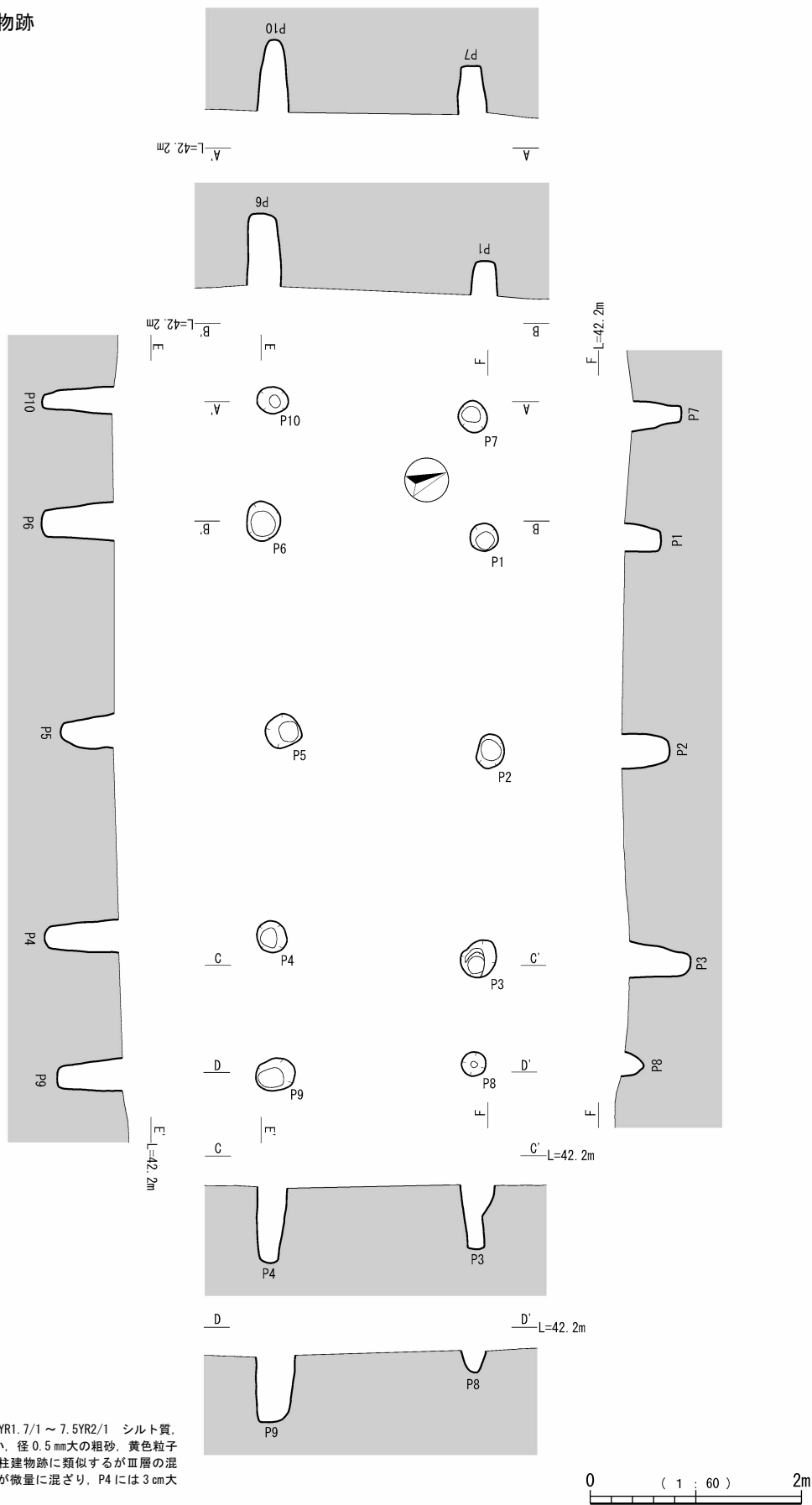


埋土

- P1 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、弱粘性あり、ややしまりあり、径10～25mmの黄褐色土ブロック（Ⅲ層ベース）が15%程度入り、黄色粒子を5%程度含む。
- P2 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、弱粘性あり、しまりは弱い、径10～25mmの黄褐色土ブロック（Ⅲ層ベース）が15%程度入り、黄色粒子を5%程度含む。
- P3 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、弱粘性あり、しまりは弱い、径10～25mmの黄褐色土ブロック（Ⅲ層ベース）が15%程度入り、黄色粒子を5%程度含む。
- P4 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、弱粘性あり、ややしまりあり、径50mm大の黄褐色土ブロック（Ⅲ層ベース）が底面付近に5%程度入り、黄色粒子を5%程度含む。
- P5 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、弱粘性あり、ややしまりあり、径10～25mm程度の黄褐色土ブロック（Ⅲ層ベース）が15%程度入り、黄色粒子を5%程度含む。
- P6 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、弱粘性あり、しまりは弱い、径10mm大の黄褐色土ブロック（Ⅲ層ベース）が10%程度入り、黄色粒子を5%程度含む。
- P7 黒褐色土 10YR2/3 シルト質、弱粘性あり、ややしまりあり、径0.1～0.5cm程度の黄褐色土ブロック（Ⅲ層ベース）が15%程度入り、黄色粒子を5%程度含む。
- P8 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、弱粘性あり、ややしまりあり、径0.1～0.5cm程度の黄褐色土（Ⅲ層ベース）が15%程度入り、黄色粒子を5%程度、10mm大の白色パミスが3%程度含む。
- P9 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、弱粘性あり、しまりは弱い、径0.1～0.5cm程度の黄褐色土（Ⅲ層ベース）が15%程度入り、黄色粒子を5%程度、5mm大のパミスが3%程度含む。
- P10 黒褐色土 10YR2/2 シルト質、弱粘性あり、しまりは弱い、径0.1～0.5cm程度の黄褐色土（Ⅲ層ベース）が15%程度入り。埋土下位は黄褐色土の比率が30%位になり、よくしまる。

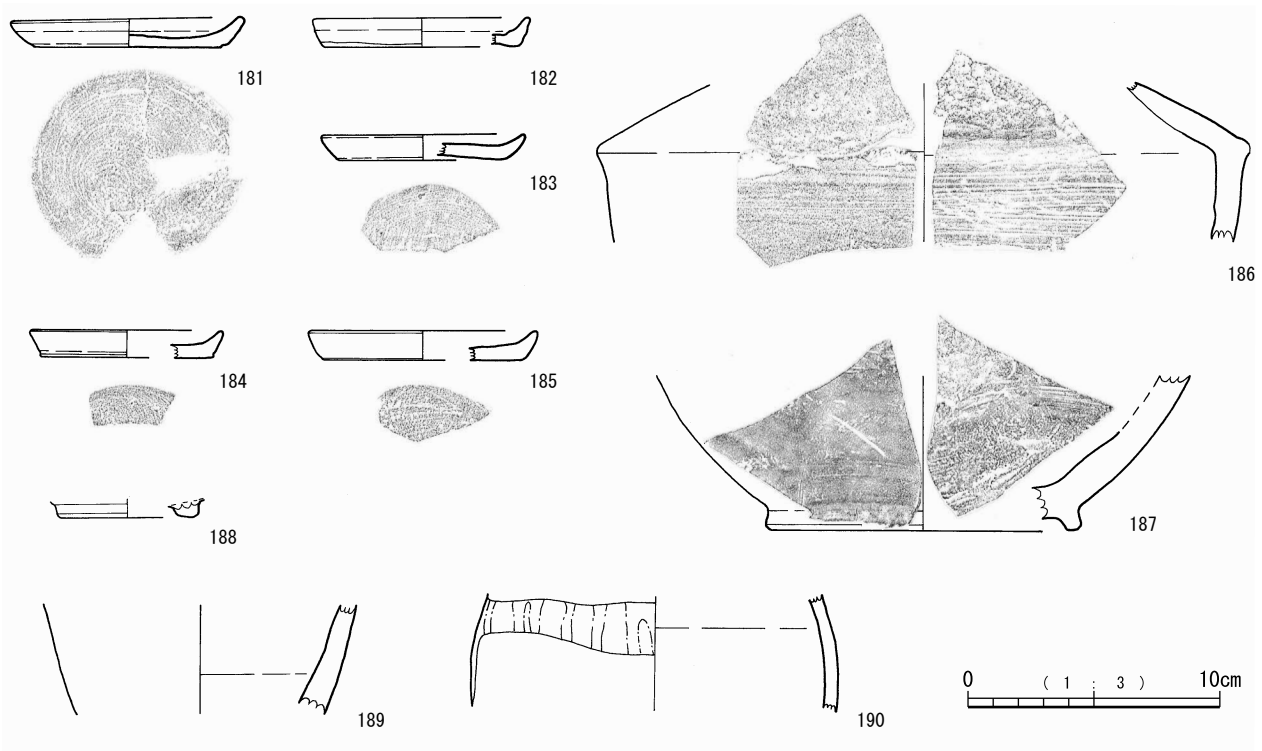
第 68 図 24号掘立柱建物跡

25号掘立柱建物跡



埋土
 P1～P10 黒色土 7.5YR1.7/1～7.5YR2/1 シルト質、
 粘性あり、しまりは弱い、径0.5mm大の粗砂、黄色粒子
 を10%含む。26号掘立柱建物跡に類似するが皿層の混
 じりが少ない。炭化物が微量に混ざり、P4には3cm大
 の炭化物が混入する。

第 69 図 25号掘立柱建物跡 1



第70図 25号掘立柱建物跡2

26号掘立柱建物跡（第71図）

f・g-34区Ⅲb層で検出した。規模は桁行2間、梁行1間で、東西方向に廂をもつ。主軸はN-71°-Eを示す。柱間寸法は、桁行が1間192～202cm、梁行が1間226～228cmである。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は長軸29～41cm、短軸24～37cm、検出面からの深さは51～71cmである。

埋土中から土師器の坏・皿、須恵器の甕、青磁、白磁が出土した。191はP3から出土した青磁の碗である。溝状遺構24の出土遺物と接合した。全面に施釉し、ヘラ描きの蓮弁文を施す。192はP2から出土した白磁の皿である。口径約9.4cm、底径約4.5cm、器高2.0cmを測り、外面は腰部以下は無釉である。

(2) 土坑（第72～76図）

土坑は8基検出した。遺構の検出面が中世や古墳時代の遺構と重複するため、遺物の出土状況や埋土の状況、周辺から検出された遺構等から時期判定を行った。

13号土坑（第72図）

b・c-24区Ⅲb層で検出した。14号土坑に隣接し、南側は古道11を切っており、西側は攪乱を受けている。大きさは長軸方向は不明だが、短軸114cm、検出面からの深さは39cmを測る。平面形は楕円形と考えられ、断面形は鉢状を呈し、埋土は2つに分層した。

埋土中から成川式土器が出土したが、掲載には至らな

かった。

14号土坑（第72図）

b-24区Ⅲb層で検出した。古道11の下部で検出したため、土坑の上面は削平されている。また、土坑の北西側は古道11の溝状に一段深くなった部分により削平され、北東側は攪乱を受けている。大きさは長軸方向は不明だが、短軸96cm、検出面からの深さは36cmを測る。平面形は楕円形と考えられ、断面形は鉢状を呈し、埋土は3つに分層した。

埋土中から成川式土器が2点、鉄製品が出土した。

15号土坑（第73図）

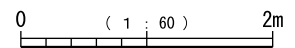
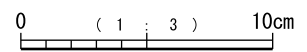
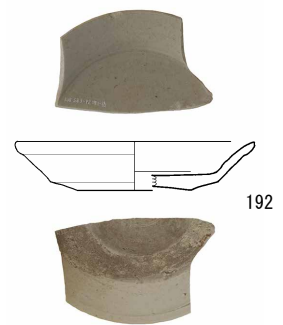
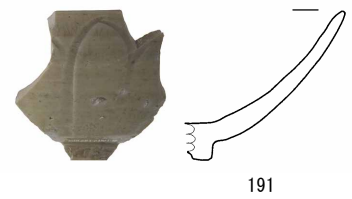
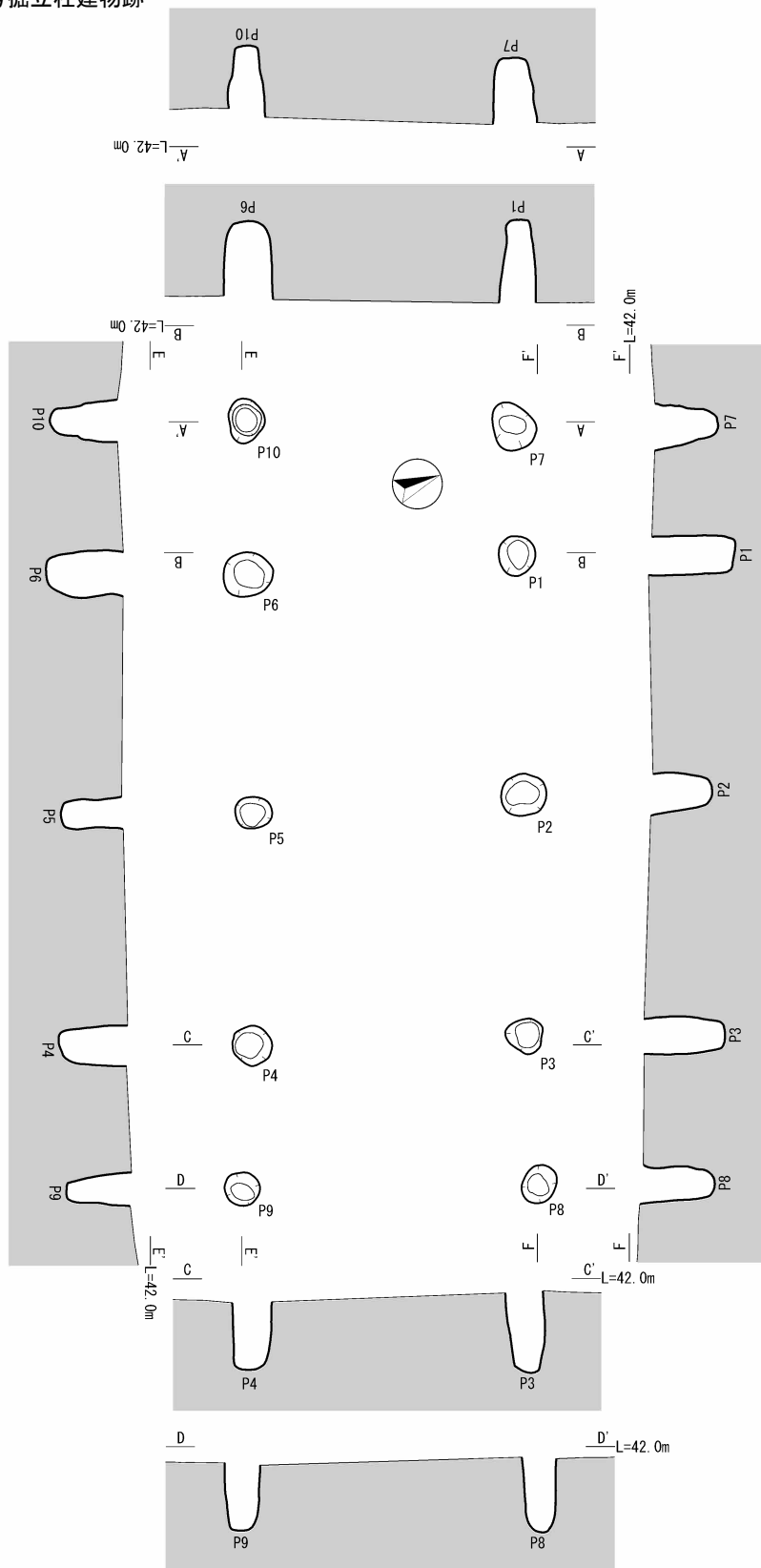
f-27・28区Ⅲa層で検出した。大きさは長軸444cm、短軸362cm、検出面からの深さは42cmを測る。平面形は不定形で、断面形は皿状を呈し、埋土は3つに分層した。

埋土中から成川式土器、土師器の坏・皿・甕、黒色土器、製塩土器、須恵器の甕、陶器、鉄製品が出土した。193は土師器の坏に「万」もしくは「石」が墨書されている。194は製塩土器の胴部であり、内面に布目の圧痕が観察される。195は備前産の播鉢である。

16号土坑（第74図）

f-33・34区Ⅲ層で検出した。大きさは長軸400cm、短軸299cm、検出面からの深さは30cmを測る。平面形は不

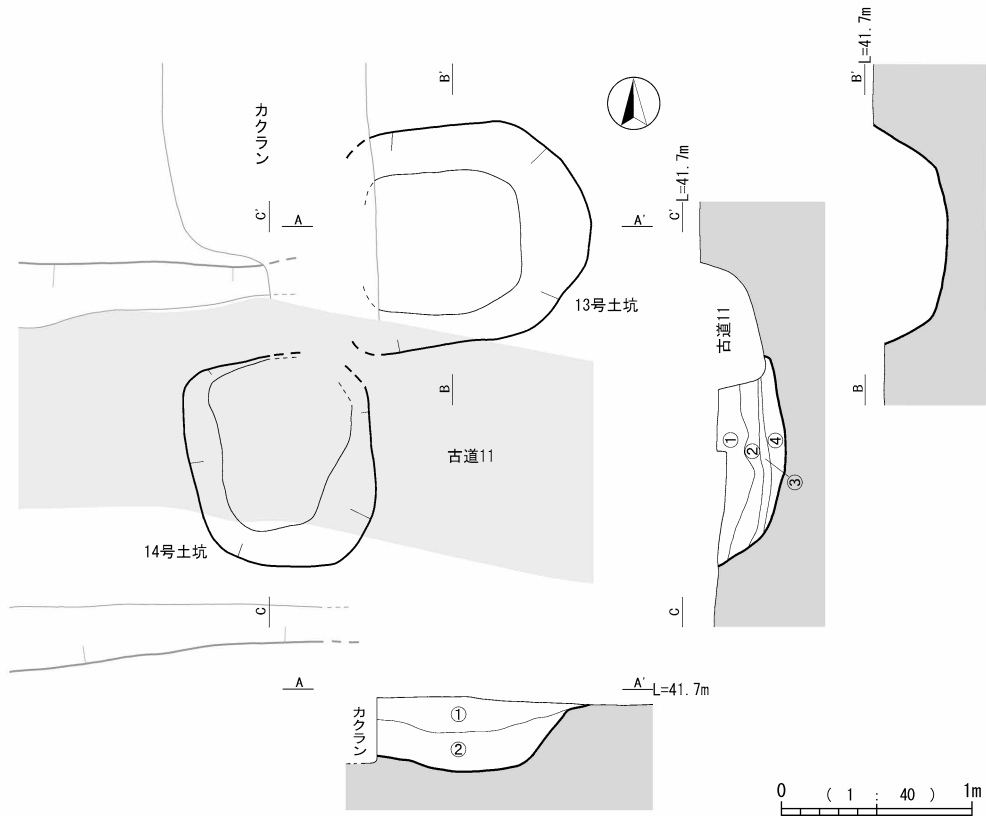
26号掘立柱建物跡



埋土
 P1～P10 黒色土 7.5YR1.7/1～7.5YR2/1 シルト質、粘性あり、しまりは弱い、径0.5mm大の粗砂、黄色粒子を10%含む。※部分的に腐植質土、皿層ブロックが混在。

第71図 26号掘立柱建物跡

13号・14号土坑



埋土 (13号土坑)

- ①黒色土 10YR2/1 シルト質、粘性あり、しまりあり、径1mm大の赤色粒子と鋳物片を多く含む。Ⅱ層土ベース
- ②黒色土 10YR2/1 シルト質、粘性あり、しまりあり、径1mm大の赤色粒子と鋳物片を含む。径1cm以下のパミス若干含む。①よりやや灰色味増す。Ⅱ層土ベース

埋土 (14号土坑)

- ①灰黄褐色土 10YR4/2 シルト質、弱粘性、しまりあり、径1～10mm大のパミス10%、径5mm以下の鋳物片を40%、径1mmの赤色粒子を5%程度含む。
- ②褐灰色土 10YR4/1 シルト質、弱粘性、しまりあり、ベースは①と同質だが褐灰色(10YR5/1)シルト質土が層中に混じり合うことで色味が変化している。また、同シルト質土がブロック状にまとまる範囲では、鉄分の酸化したような褐色を帯びている。
- ③黒褐色土 10YR3/2 シルト質、弱粘性、しまり弱い、径1mmの赤色粒子、径1～5mm大のパミス5～10%含む。
- ④褐灰色土 10YR4/1 シルト質、粘性あり、しまりあり、径1mm大の赤色粒子・パミス5%含む。径1～3cm程度のブロック状の土塊を部分的に含む。

第72図 13・14号土坑

定形で、断面形は皿状を呈し、埋土は2つに分層した。

埋土中から土師器・黒色土器・青磁・陶器が出土した。196は青磁の碗である。底径約5.6cmであり、高台内面まで施釉する。

17号土坑 (第75図)

h-37区Ⅲ層で検出した。大きさは長軸155cm、短軸120cm、検出面からの深さは21cmを測る。平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈し、埋土は3つに分層した。

埋土中から成川式土器・土師器・青磁・東播系須恵器が出土した。197は青磁の碗である。

18号土坑 (第75図)

i-35・36区Ⅲ層で検出した。大きさは長軸150cm、短軸100cm、検出面からの深さは17cmを測る。平面形は楕円形で、断面形は鉢状を呈し、埋土は2つに分層した。

埋土中から遺物は確認されなかった。

19号土坑 (第76図)

b・c-20・21区Ⅱ層で検出した。東側は調査範囲外へ広がると考えられる。また、中世の溝状遺構7を切っている。大きさは長軸952cm、短軸142cm、検出面からの深さは50cmを測る。平面形は不定形で、断面形は皿状を呈し、埋土は3つに分層した。

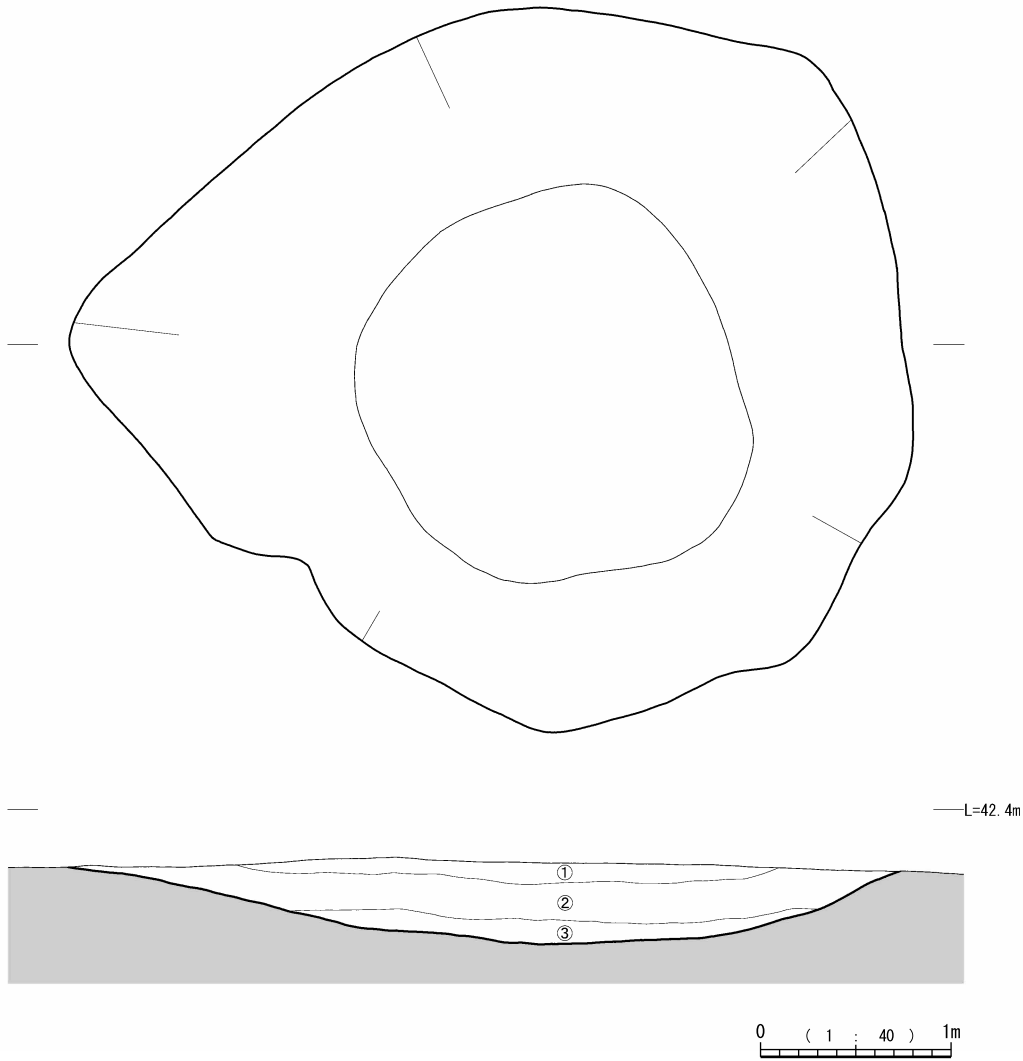
埋土中から縄文土器、成川式土器、土師器の坏・甕、黒色土器、須恵器の甕、青磁、陶器が出土した。198・199は青磁の碗、200は備前産の播鉢である。

20号土坑 (第76図)

g-36区Ⅲ層で検出した。大きさは長軸70cm、短軸34cm、検出面からの深さは8cmを測る。平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈し、埋土は単層である。

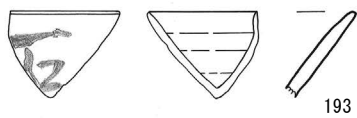
埋土中から完形の土師器の坏が出土した。201は口径14.5cm、底径7.6cm、器高4cmを測り、底部は糸切りで、体部はやや丸みを帯びながら立ち上がる。底部外面を中

15号土坑



埋土

- ①黒褐色土 7.5YR2/2 粘性なし、しまり弱い、径1mm大の黄色バミス・白色粒子を少量含む。②に比べてやや明るい。II層ベース
- ②黒褐色土 7.5YR2/2 粘性ややあり、しまりは弱いが①よりやや強い。径1mm大の黄色バミス・白色粒子を少量含む。II層ベース
- ③黒褐色土 7.5YR3/2 粘性ややあり、しまりは弱い①よりやや強い。径1mm大の黄色バミス・白色粒子を微量含む。池田湖火山灰が少量混じる。II層ベース



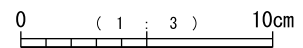
193



194

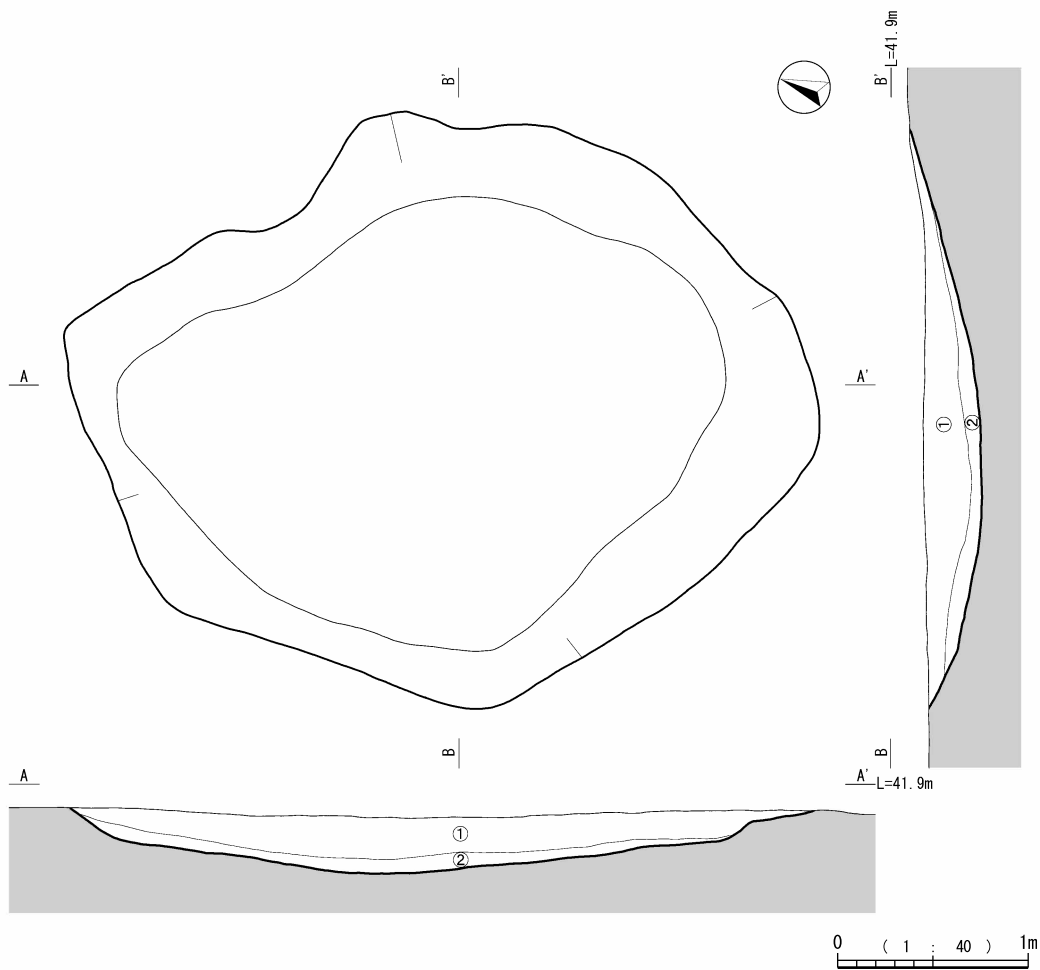


195



第73図 15号土坑

16号土坑



埋土

- ①黒色土 7.5YR1.7/1 シルト質、やや粘性あり、しまり弱い、径0.1～0.5mm大の黄褐色粒子を10%、径0.5mm大の白色粒子を5%を含む。
 ②黒褐色土 7.5YR2/2 シルト質、やや粘性あり、しまりあり、径0.1mm大の黄褐色粒子を10%、径1cm大の白色バミス極微量含む。Ⅲ層ベース

第74図 16号土坑

心に墨が付着している。

(3) 溝状遺構 (第77～91・97図)

溝状遺構は、調査区のほぼ全域にわたって25条検出した。全長が数mのものから50mを超えるもの、検出面からの深さも10数cmと浅いものから1mに近いものまで様々であった。溝状遺構の長軸がほぼ南北あるいは東西に延びる傾向にあるが、調査区の南端で検出された溝状遺構は北東から南西、または北西から南東へ延びる。

なお、溝状の掘り込み内から硬化面を帯状に検出した遺構については古道とし、溝状遺構とは区別して分類した。また、溝状遺構と古道は近接あるいは切り合い関係にあるものが多いため、遺構実測図は同じ挿図にまとめて掲載した。

溝状遺構1 (第77図)

C・D-3区のⅢ層で検出した。長さはほぼ東西方向に約7.3m、幅0.15～0.25m、検出面からの深さは0.1

mを測る。C・D・E-3区では溝状遺構1～3が重複しながら東西に延びる。C-3区では東側に延びる溝状遺構2により切られる。

埋土中から遺物は確認されなかった。

溝状遺構2 (第77図)

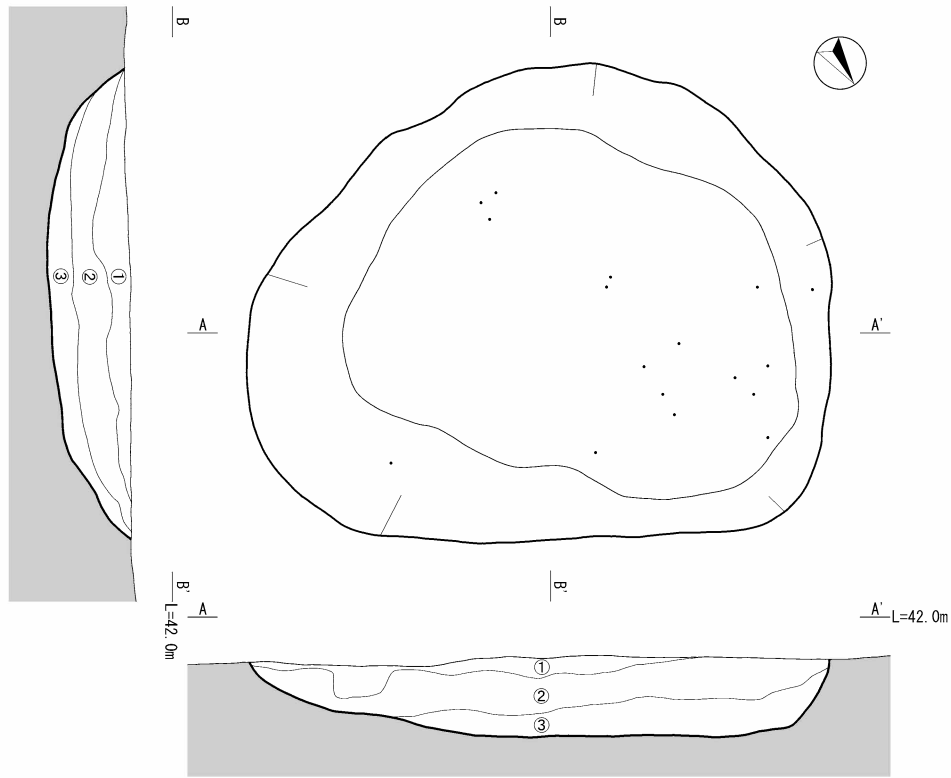
C～E-3区のⅢa層、溝状遺構1の南側で検出した。長さはほぼ東西方向に21.29m、幅0.38mを測る。検出面からの深さは0.1mに満たない。西側では溝状遺構1を、東側では溝状遺構3を切ることから、両遺構より本遺構が新しいと考えられる。

埋土中から遺物は確認されなかった。

溝状遺構3 (第77・97図)

D・E-3区のⅢa層、溝状遺構2の東側に並行して検出したが、北側は溝状遺構2により切られる。長さはほぼ東西方向に6.21m、幅は0.31m、検出面からの深

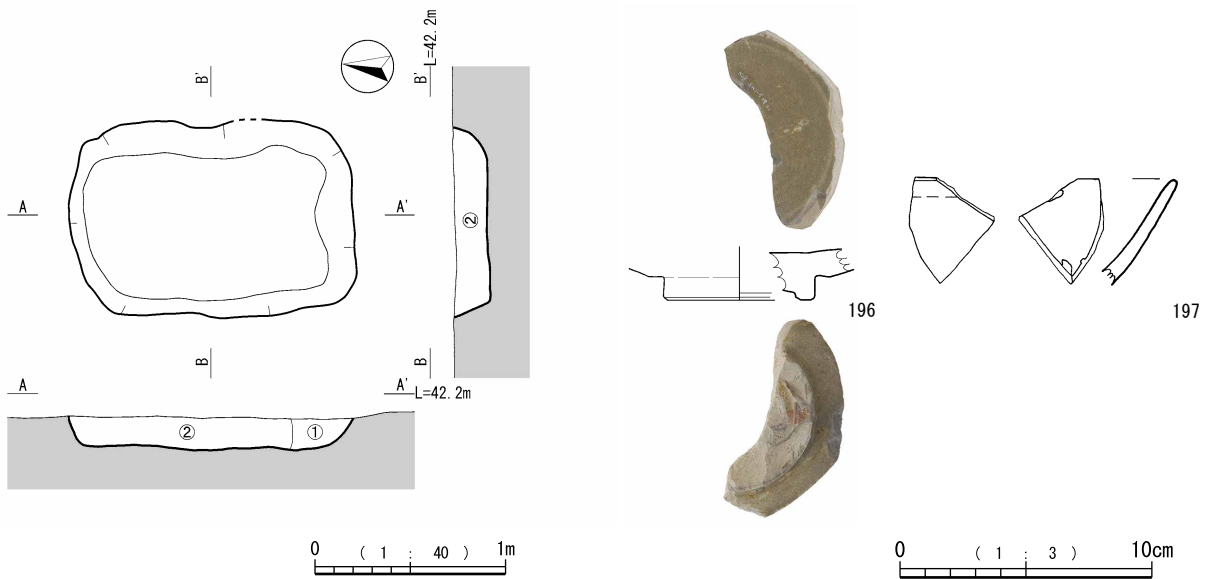
17号土坑



埋土

- ①黒褐色土 10YR2/3 シルト質、やや粘性あり、やや固くしまる。径1mm大の灰白色粒子を極微量、径0.1mm大の褐色粒子を微量含む。
- ②暗褐色土 10YR3/4 シルト質、粘性弱い、全体的にしまり弱い、径0.1～0.3mm大の褐色・白色粒子を含み、Ⅲ層土が混在する。
- ③黒褐色土 10YR2/3 シルト質、粘性弱い、やや固くしまる。径1cm大の軽石を極微量、褐橙・白色粒子を微量含む。②より腐植質が発達している為か全体的に黒味が強い。

18号土坑

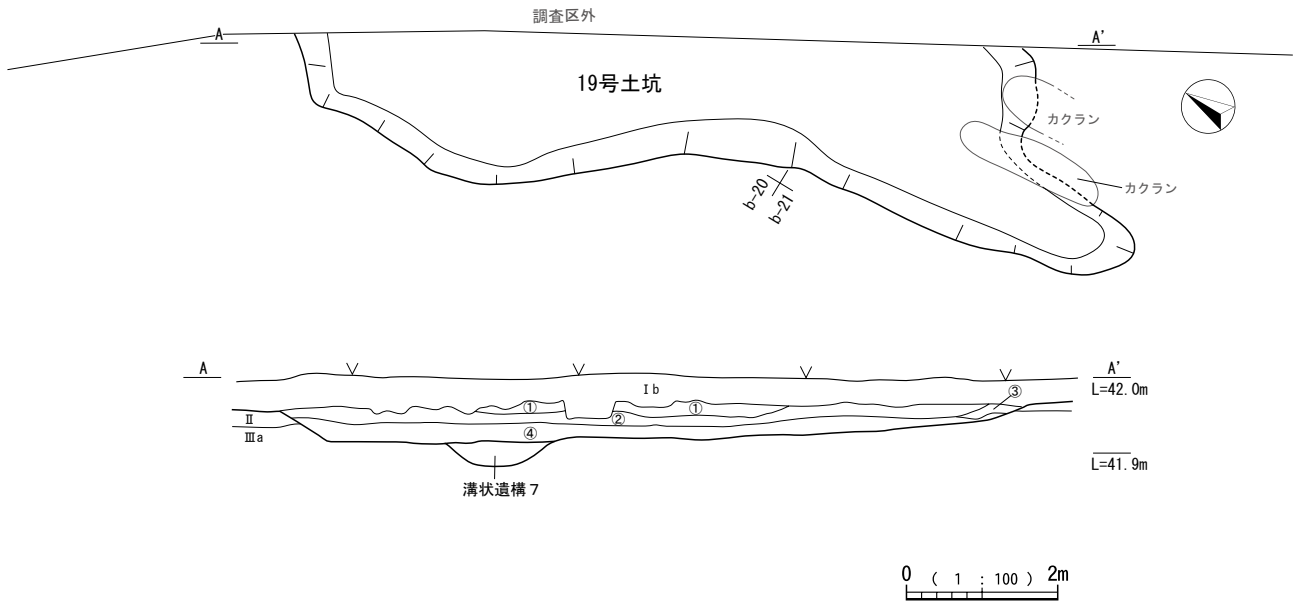


埋土

- ①黄褐色土 10YR5/6 シルト質、粘性弱い、しまりあり、Ⅲ a・Ⅲ b 層土がブロック状に混じり合い、黒～黒褐色土 (10YR2/1～10YR2/2) がブロック状に若干含まれる。Ⅲ層ベース
- ②黒色土 10YR2/1 シルト質、粘性あり、しまりあり、Ⅲ層土と黒褐色土 (10YR2/2) がブロック状に混じり合う。Ⅱ層ベース

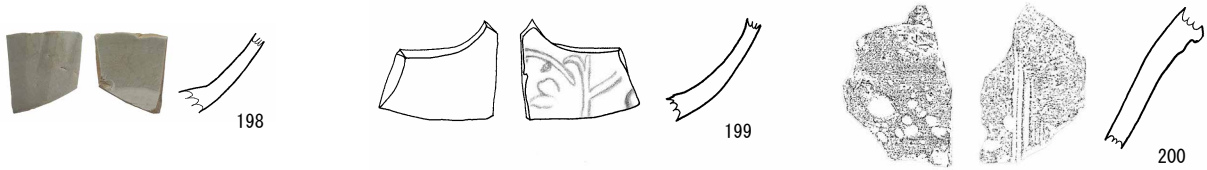
第75図 17・18号土坑

19号土坑

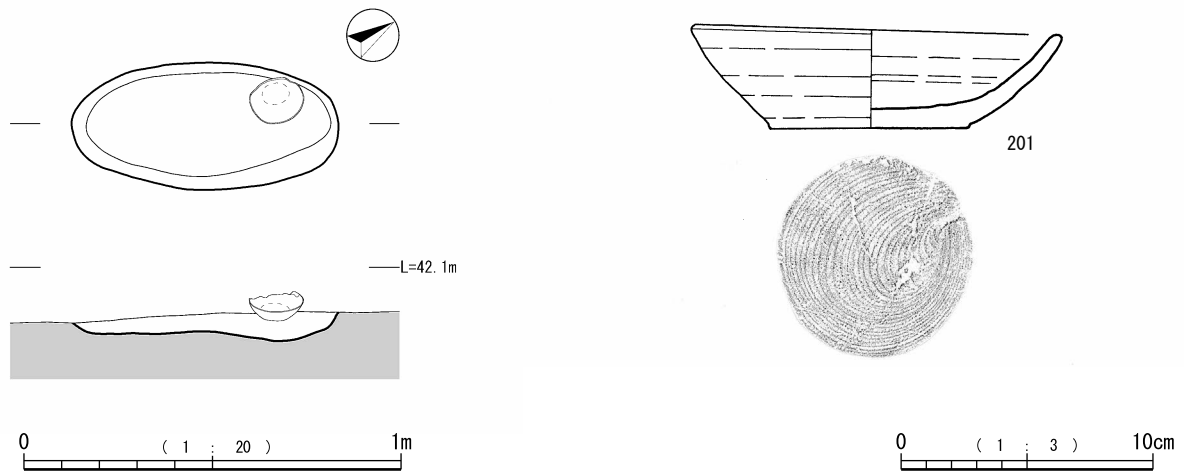


埋土

- ①黒褐色土 10YR2/2 ややしまる。径1~5mm大の白色粒子・褐色粒子、径0.1~1mm大の褐色粒子を含む。
- ②黒褐色土 7.5YR2/2 ややしまる。径1cm大の白色バミス、径0.5~1mm大の褐色粒子を含む。
- ③黒色土 7.5YR1.7/1 ややしまる。径0.1~1mm大の白色粒子・褐色粒子を含む。炭化物が混じる。
- ④黒色土 7.5YR2/2 ややしまる。径1~5mm大の白色バミス、径0.1~1mm大の褐色粒子を含む。



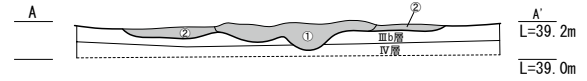
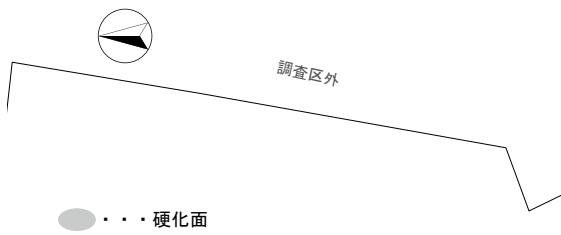
20号土坑



埋土

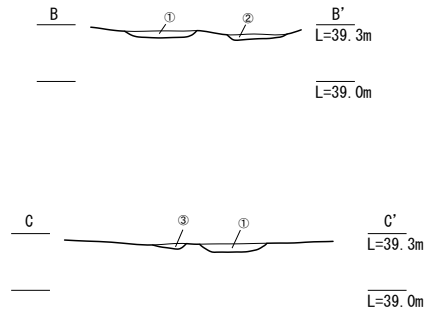
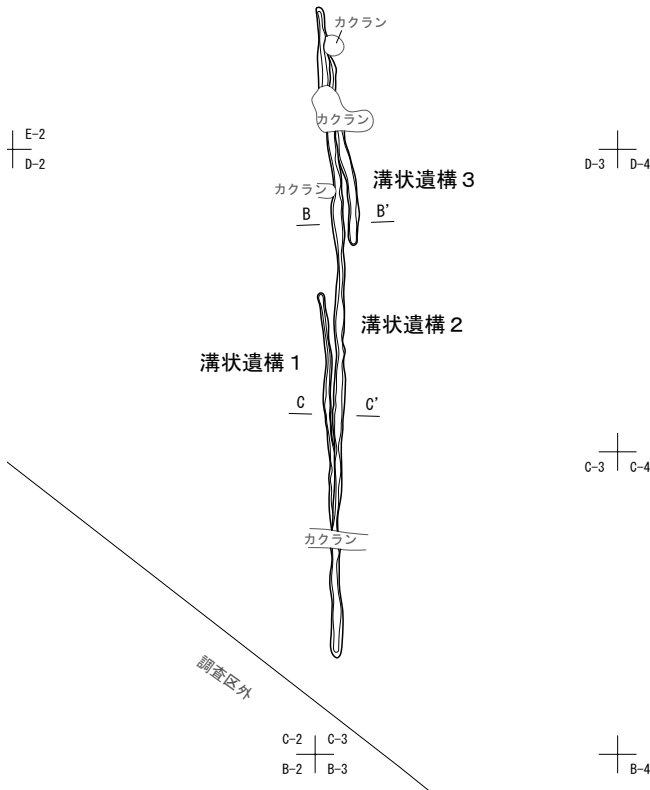
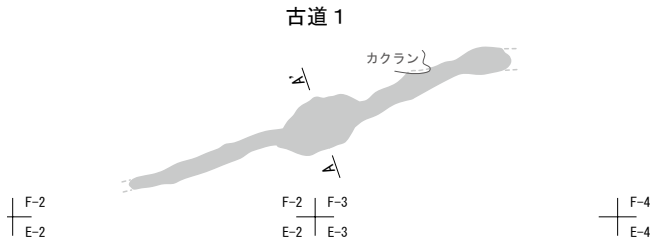
- 黒褐色土混り 7.5YR1.7/1 ~ 10YR2/3 シルト質、粘性あり、しまり弱い、径0.5mm~1.5cm大の白色バミス、径0.1mm大の褐色粒を10%含む。II層ベース

第76図 19・20号土坑



A-A' 断面埋土

- ① 黒褐色土 7.5YR3/2 粘性僅かにあり、しまり極めて強い。1~2mm大のオレンジパミス2%、1~2mm大の軽石を10%、2~5mm大の軽石も混じる。10cm以上の紫コラのブロックを7%含む。
- ② 黒色土 10YR2/1 粘性弱く、しまり強い。1~2mm大のオレンジパミス2%、1~2mm大の軽石を10%、2~5mm大の軽石を1%含む。下位部分は特に固くしまる。

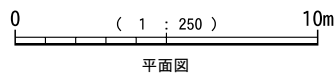
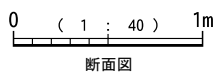


B-B' 断面埋土

- ① 黒色土 5YR1.7/1 粘性・しまり弱い。1~2mmのオレンジパミス3%、5~10mmのIII a層土のブロックを5%含む。
- ② 黒褐色土 7.5YR2/2 粘性・しまり弱い。1~2mmのオレンジパミス5%、5~10mmのIII a層土のブロックを5%含む。

C-C' 断面埋土

- ① 黒色土 5YR1.7/1 粘性・しまり弱い。1~2mmのオレンジパミス3%、5~10mmのIII a層土のブロックを5%含む。
- ③ 赤褐色土 2.5YR7/1 粘性・しまり弱い。1~2mmのオレンジパミス5%、5~10mmのIII a層土のブロックを3%含む。



第77図 溝状遺構1~3, 古道1

さは0.1 mに満たない。

埋土中から陶磁器や鉄製品が出土した。202は、約4分の1程度が残存している。全体の形状が推測できないが、容器の蓋及び紡錘車などが考えられる。器厚は薄く1.5mmで傘状の形が推定できる。推測する径は、3.5～4 cmである。

溝状遺構4（第78図）

D～I-6区のⅢa層で検出した。ほぼ東西に延び、両端ともさらに調査区境を越えて延びると考えられる。長さ48 m、幅1.03 m、検出面からの深さ0.75 mを測る。耕作に伴うと考えられる小規模な攪乱を多く受ける。

埋土中から縄文土器や成川式土器が出土したが、掲載には至らなかった。

溝状遺構5（第79図）

X-16区のⅢb層、東側の調査区境から西側へ5.09 m検出したが、西端部は攪乱により検出できなかった。本来はさらに西へと延びる遺構であると考えられる。幅は0.5 m程度、検出面からの深さは0.15 m程度である。古道3・4を切るように検出した。

埋土中から成川式土器、土師器の坏・甕が出土したが、掲載には至らなかった。

溝状遺構6（第79・90図）

X-16・17区のⅢb層で検出した。X-17区では南北に延びるが、X-16区では北東方向へ向きを変えて調査区外へと続く。南方向へさらに延びると考えられるが、検出できなかった。長さは11.09 m、幅0.83 m、検出面からの深さ0.30 m程度を測る。

埋土中から成川式土器、土師器の坏（底部ヘラ切り）・皿・甕、瓦質土器、染付、陶器が出土した。203は染付であり、内面は無釉である。小片のため器種が判然としないが、壺と考えられる。

溝状遺構7（第81・90図）

Z～b-20・21区のⅢa層で検出した。古道8・9にほぼ直交し、両古道に切られるが、床面は残る。南南西から東北東の方向へ24.25 m延び、東北東端は19号土抗に切られる。西端では古道10を切りながら調査区外へと延びる。幅約2.5 m、検出面からの深さは0.25～0.3 mを測る。畝間に紫コラを確認した畝間状遺構を切っている。

埋土中から縄文土器、成川式土器、土師器の坏（底部ヘラ切り）・甕、黒色土器、須恵器の甕・壺・甃、青花が出土した。204は須恵器の壺の口縁部で、口径約17 cmである。205は須恵器の甃の胴部であり、自然釉がかかる。206は染付の皿の口縁部である。

溝状遺構8（第83図）

c-21・22区のⅢa層で検出し、c-21区の調査区境からc-22区に向かってほぼ南北に9.17 mの長さを測る。幅は概ね0.5～0.6 mで、検出面からの深さは0.1 mに満たない。南側はさらに延びると考えられるが、検出できなかった。掘り込み内にも明確な硬化面は確認できなかった。

埋土中から成川式土器が出土したが、掲載には至らなかった。

溝状遺構9（第83図）

f-28区のⅢa層で検出した。ほぼ南北方向に延び、調査区境付近で幾分北東方向へ向きを変え、調査区外へと続く。長さ4.33 m、幅は約0.4 m、検出面からの深さは0.1 mにも満たない。掘り込み内に明確な硬化面は確認されなかった。

埋土中から遺物は確認されなかった。

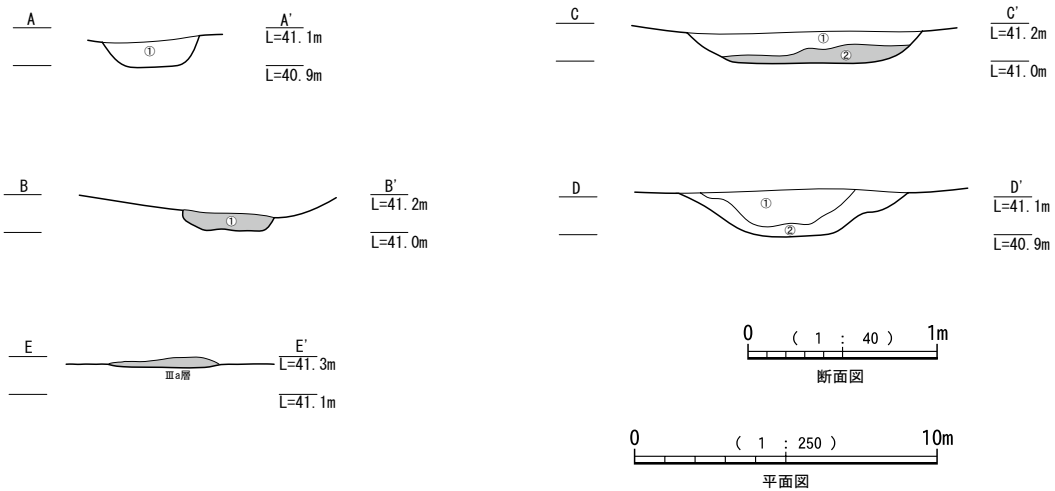
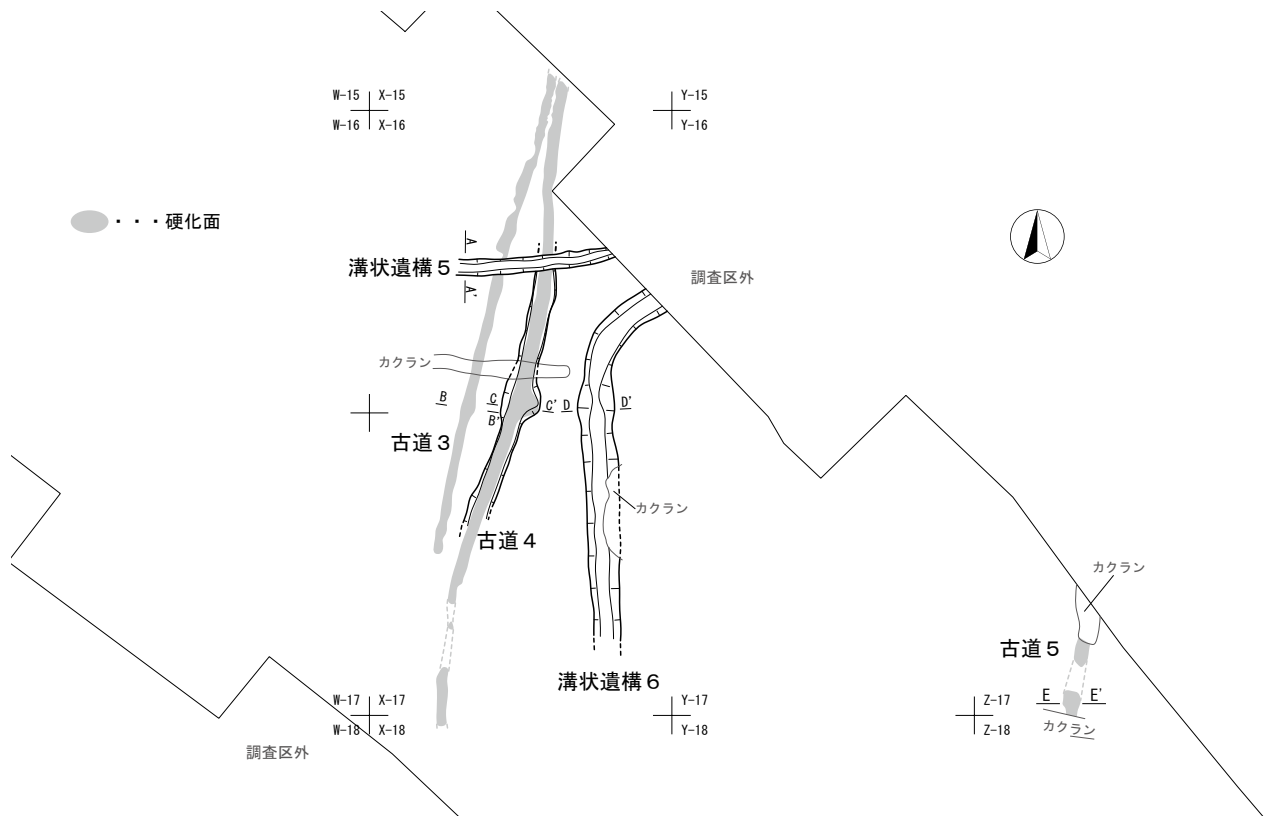
溝状遺構10（第84・85・90・97図）

c～h-28～30区のⅡ層からⅢa層にかけて検出した。c-28区とc-29区の境付近から南東方向へ緩い弧を描くようにh-30区まで延びる。e-29区では古道13に切れ、g-30区では溝状遺構11を切り、溝状遺構12には切られながら3条の溝状遺構が交わる。溝状遺構11との切り合い関係については、第84図に示した。本遺構の西端は試掘トレンチのため検出できなかったが、さらに調査区外へ延びると考えられる。e-29区で本遺構は途切れるが、本来は連続していたと考えられる。検出が不十分で古道13との関係性を把握できなかった。途切れた部分も含め長さ約52 m、幅0.6～0.8 m、検出面からの深さは0.2～0.3 mを測る。

埋土中から縄文土器、成川式土器、土師器の坏（底部ヘラ切り・糸切り）・皿・蓋・甕、黒色土器、須恵器の坏・甕、陶器、鉄製品が出土した。207は、土師器の坏である。体部は直線的に立ち上がり、底部はやや厚みがある。208・209は、土師器の甕である。208は、内面の粘土の貼り付け箇所が剥がれている。210は、下半のみが残存していると考えられる鉄鏃の中茎である。中位で厚さ2.5～3 mm、幅7 mm程度であり、断面形がやや扁平な長方形を呈する。

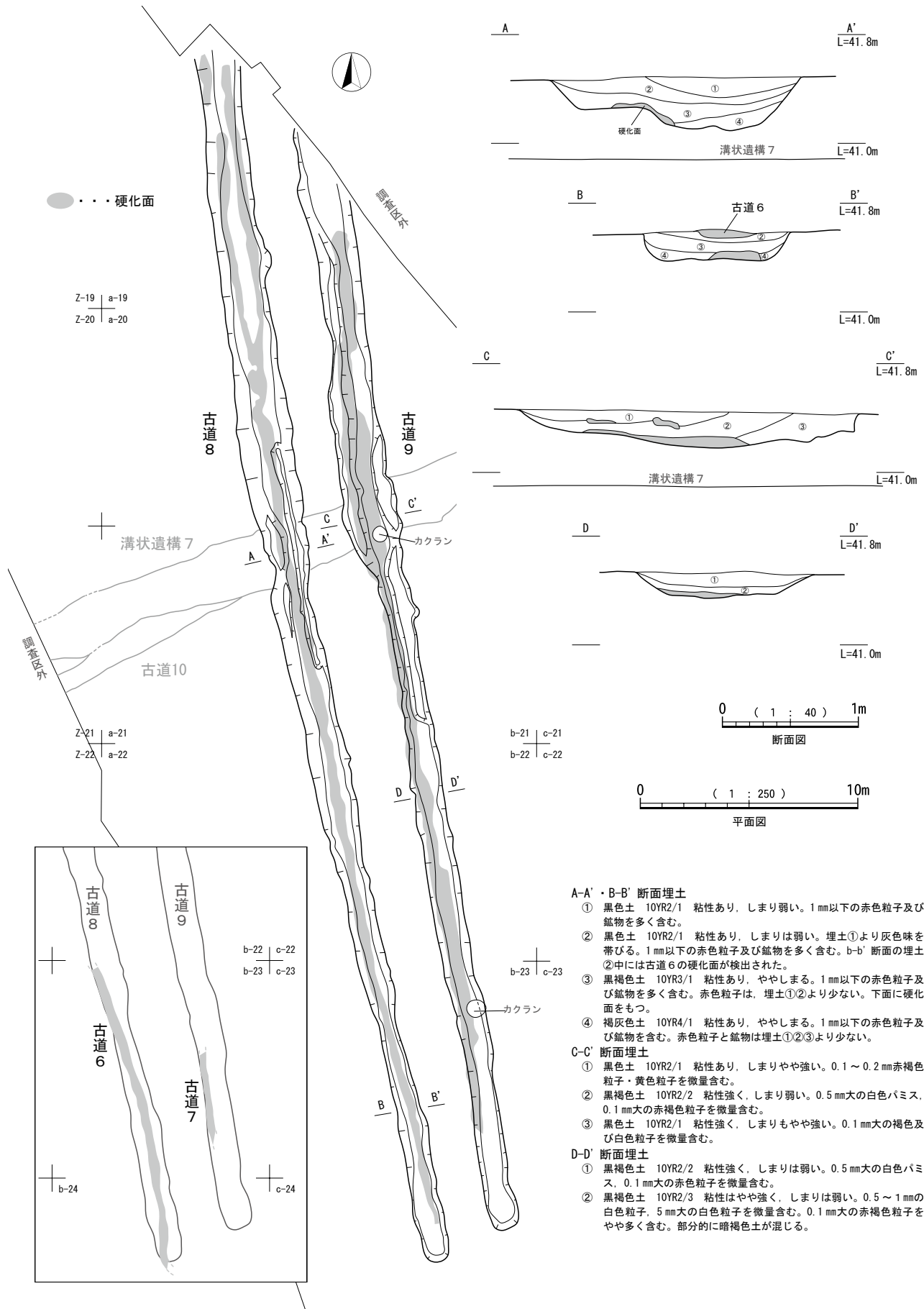
溝状遺構11（第84・85・90・91図）

b～h-29・30区のⅡ層からⅢa層にかけて検出した。溝状遺構10の南側に並行して延び、g-30区で溝状遺構10・12と交わった後、調査区外へと続くと考えられる。調査区境のb-29区では溝状遺構14に切られるが、さらに西側の調査区外へと続くと考えられる。また、古道

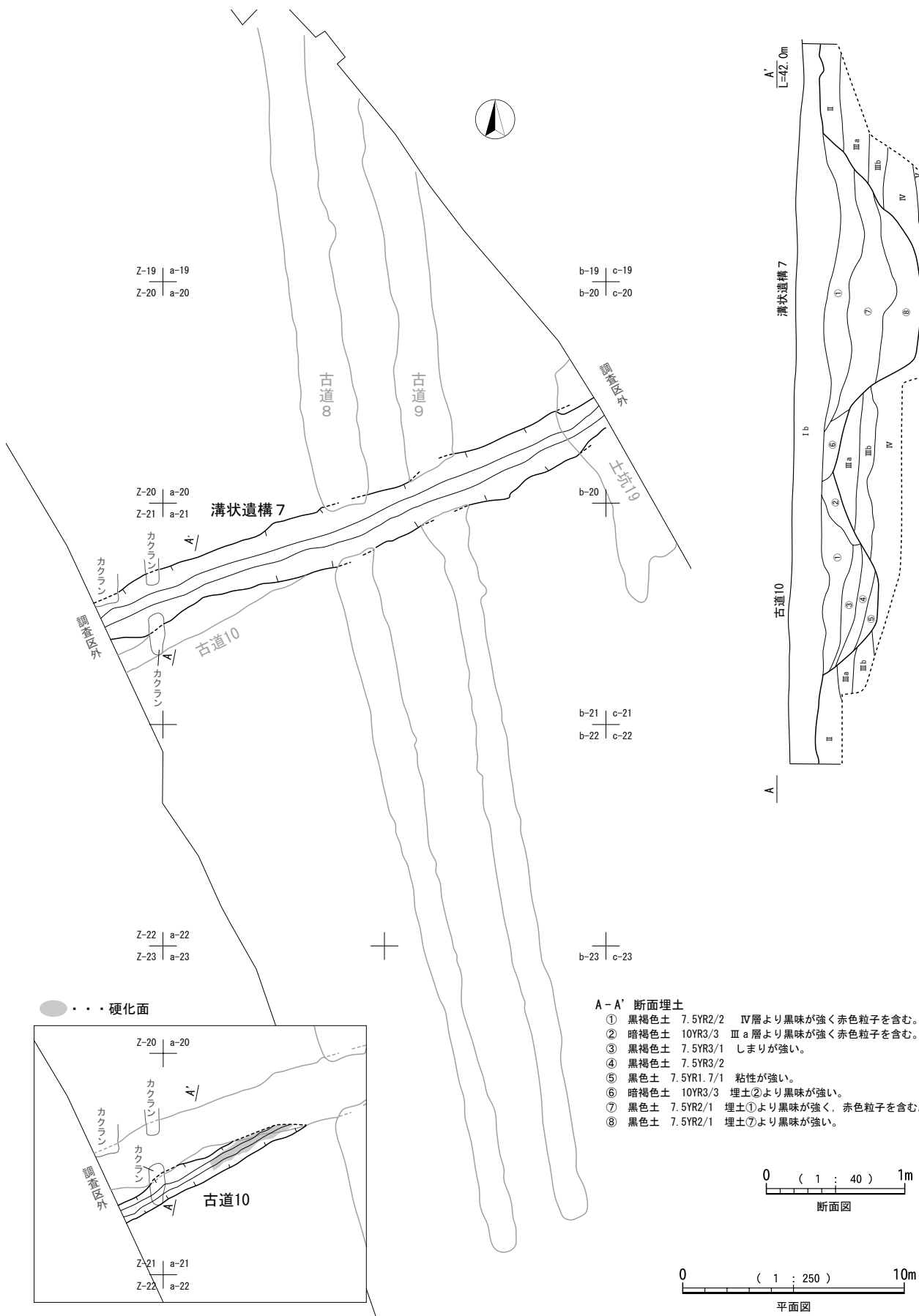


- A-A' 断面埋土**
 ① 黒褐色土 10YR2/2 粘性弱く、しまりややあり。0.5mm大の赤色・白色粒子を5%程度含む。
- B-B' 断面埋土**
 ① 暗褐色土 10YR3/3 粘性弱く、固くしまる。0.5mm大の赤色・白色粒子・鉱物を20%、5～10mmの小礫を少量含む。
- C-C' 断面埋土**
 ① 黒褐色土 10YR2/2 粘性弱く、ややしまりあり。II層土をベースとした0.5mm大の赤色粒子を少量含む。
 ② 暗褐色土 10YR3/3 粘性弱く、固くしまる。硬化面 0.5mm大の赤色・白色粒子・鉱物を20%程度、5mm～10mmの小礫を少量含む。
- D-D' 断面埋土**
 ① 黒褐色土 10YR2/2 粘性弱く、しまりややあり。II層土をベースとした0.5mm大の赤色粒子を少量含む。
 ② 黒褐色土 10YR2/3 粘性・しまりともやや弱い。0.5mm大の赤色・白色粒子・鉱物を20%程度含む。
- E-E' 断面埋土**
 黒褐色土 10YR2/2 粘性はなく、しまりは強い。1～2mmのオレンジパミス2%含む。

第 79 図 溝状遺構 5・6, 古道 3～5

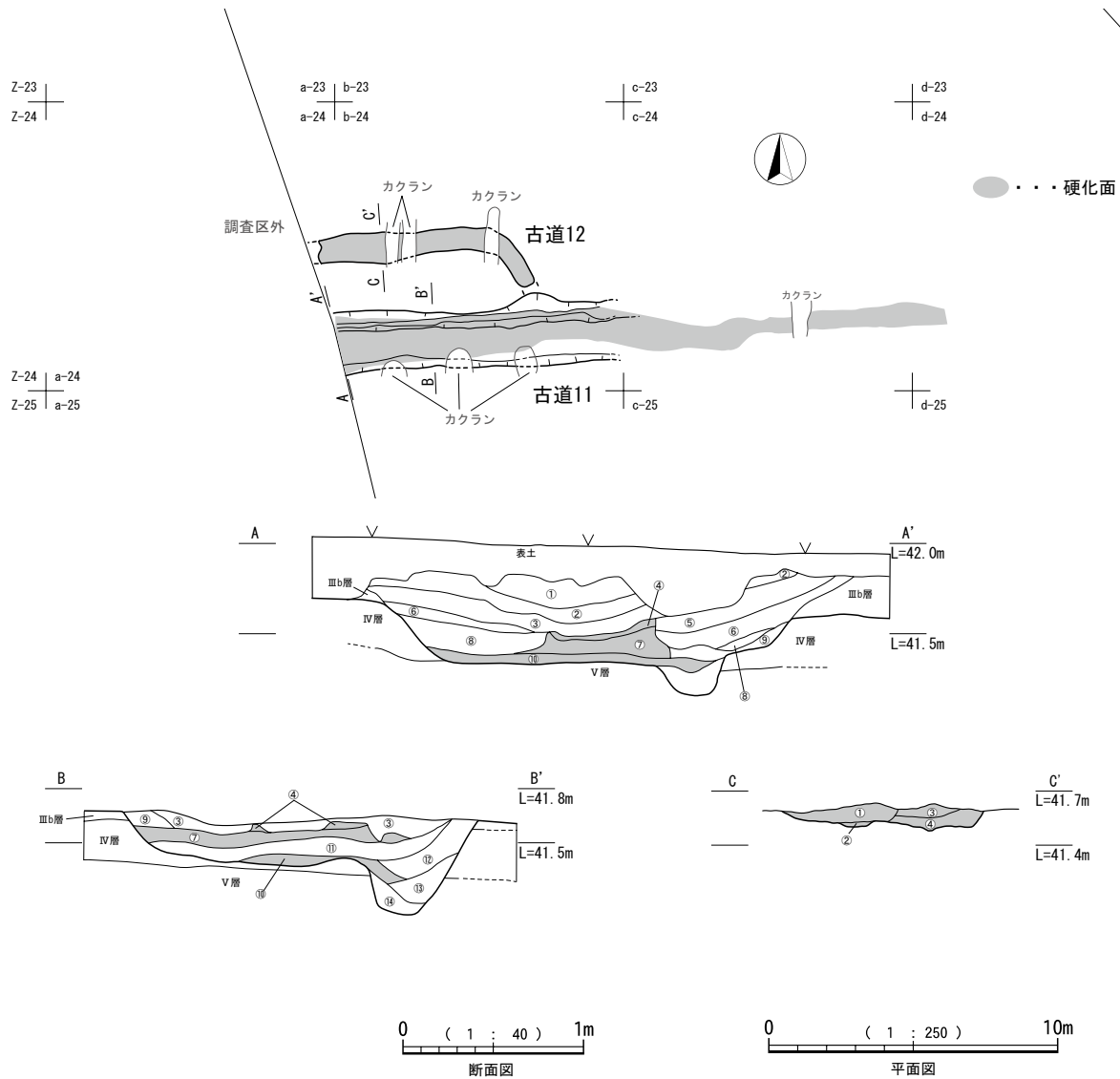


第80図 古道6~9



- A-A' 断面埋土**
- ① 黒褐色土 7.5YR2/2 IV層より黒味が強く赤色粒子を含む。
 - ② 暗褐色土 10YR3/3 III a層より黒味が強く赤色粒子を含む。
 - ③ 黒褐色土 7.5YR3/1 しまりが強い。
 - ④ 黒褐色土 7.5YR3/2
 - ⑤ 黒色土 7.5YR1.7/1 粘性が強い。
 - ⑥ 暗褐色土 10YR3/3 埋土②より黒味が強い。
 - ⑦ 黒色土 7.5YR2/1 埋土①より黒味が強く、赤色粒子を含む。
 - ⑧ 黒色土 7.5YR2/1 埋土⑦より黒味が強い。

第 81 図 溝状遺構 7, 古道 10



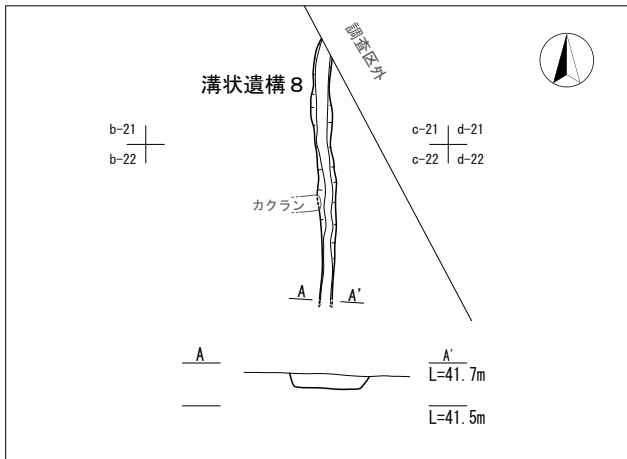
A-A'・B-B' 断面埋土

- ① 黒褐色土 10YR2/3 粘性弱く、しまる。1mm大の赤色粒子・鉱物片を20～30%含む。
- ② 黒褐色土 10YR2/2 粘性弱く、しまる。1mm大の赤色粒子・鉱物片を10～20%含む。
- ③ 暗褐色土 10YR3/3 粘性弱く、しまる。1～2mmの赤色粒子・鉱物片を微量含む。
- ④ 暗灰色～灰色土 N3/0～N4/0 硬化層 粘性弱く、酸化した鉄分を30～40%含む。1～2mmの赤色粒子・鉱物片を40%含むことからⅡ・Ⅲ層土がベースと考えられる。
- ⑤ 黒褐色土 10YR2/3 粘性・しまりあり。1mm大の赤色粒子・鉱物片を微量含む。
- ⑥ 黒褐色土 10YR2/2 粘性・しまりあり。1mm大の赤色粒子を5%、2mm大の鉱物片を10%含む。
- ⑦ 暗灰色土 N3/0 硬化層 酸化した鉄分を30～40%含む。シルト質が強い部分では固結度が弱くなる。
- ⑧ 黒褐色土 10YR2/3 粘性は弱く、よくしまる。1mm大の赤色粒子を20～30%含む。
- ⑨ 黒褐色土 10YR2/2 粘性・しまりあり。1mm大の赤色粒子・鉱物を含む。
- ⑩ 暗灰色土 N3/0 硬化層 埋土⑦と同じだが、最下位に酸化した鉄分がシート状に堆積している部分もある。
- ⑪ 黒褐色土 10YR2/3 黒褐色土をベースに黒色土と褐色土を含む。粘性あり。1～2mmの赤色粒子・鉱物片を20%含む。硬化層に挟まれ固くしまる。
- ⑫ 黒褐色土 10YR2/3 粘性・しまりあり。1mm大の赤色粒子を20%含む。
- ⑬ 黒褐色土 10YR2/2 粘性強く、しまりややある。1mm大の赤色粒子を20%含む。
- ⑭ 黒褐色土 10YR2/2 粘性強く、しまりややある。V層の黄色バミスを含む。

C-C' 断面埋土

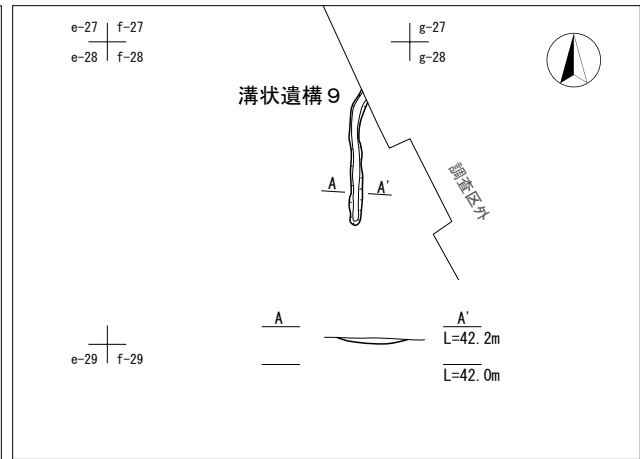
- ① 黒褐色土 10YR2/3 粘性弱く、よくしまる。0.5～2mm大の赤色粒子・黄白色粒子・鉱物を30%程度含む。
- ② 黒褐色土 10YR2/3 埋土①と同じだが、2～3cmの池田降下軽石を40%含む。
- ③ 黒褐色土 10YR2/3 粘性弱く、よくしまる。1mm大の赤色粒子・黄色粒子・鉱物を20%程度含む。埋土①よりやや暗い色調である。
- ④ 暗褐色土 10YR3/3 粘性弱く、しまり強い。埋土①よりしまりは弱い。1mm以下の黄白色粒子・鉱物と0.5mm程度の池田降下軽石を5%程度含む。

第 82 図 古道 11・12



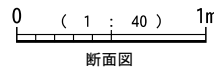
埋土（溝状遺構 8）

黒褐色土 7.5YR2/2 粘性あり、しまり弱い。径1～2mm大の黄色粒子が少量混じる。

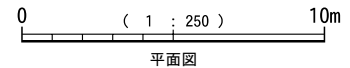


埋土（溝状遺構 9）

黒褐色土 10YR2/2 粘性弱く、ややしまる。径1mm以下の赤色粒子・黄白色粒子・鉱物を15%程度、5～10mm程度の橙色粒子を10%程度含む。炭化物を少量混じる。



断面図



平面図

第 83 図 溝状遺構 8・9

13の影響でe-30区では途切れるが、本来は古道13の東側へと連続していた溝状遺構と考えられる。長さ約54m、幅が0.8～1m、検出面からの深さが0.2～0.4m程である。西側から東側に向かって深くなる傾向があり、部分的には0.5m程になる。溝状遺構10の埋土と類似し、遺構内からの出土遺物も同時期のものと考えられる。

埋土中から縄文土器、成川式土器、土師器の坏（底部ヘラ切り・糸切り）・埴・皿・蓋、甕、黒色土器、須恵器の坏・甕・壺・蓋、青磁、白磁、東播系須恵器、陶器、滑石製石鍋が出土した。211・212は、いずれも土師器の坏である。211は口縁部が外反し、212の底部はヘラ切りである。213・214は土師器の皿であり、立ち上がりが外反する。215は、土師器の蓋である。口径約17cmであり、内外面とも赤色塗布が見られる。216は甑の把手であり、牛角状を呈する。217～219は墨書土器である。いずれも土師器の坏の外面に「万」もしくは「石」が書かれる。220は、土錘である。全面に丁寧なナデ調整を行う。221は須恵器の壺の頸部から肩部であり、外面に格子状のタタキ目を残す。222は須恵器の蓋であり、口径約14cmを測る。223は、東播系須恵器の鉢である。224は青磁の碗であり、蓮弁文が施される。225・226は白磁の碗であり、225は口縁部に玉縁を有する。体部外面の下半は無釉である。227は白磁の皿であり、全面に施釉する。228は、滑石製石鍋である。口縁部は内湾し、口縁部外面に鏝が巡る。

溝状遺構 12（第 84・85・91 図）

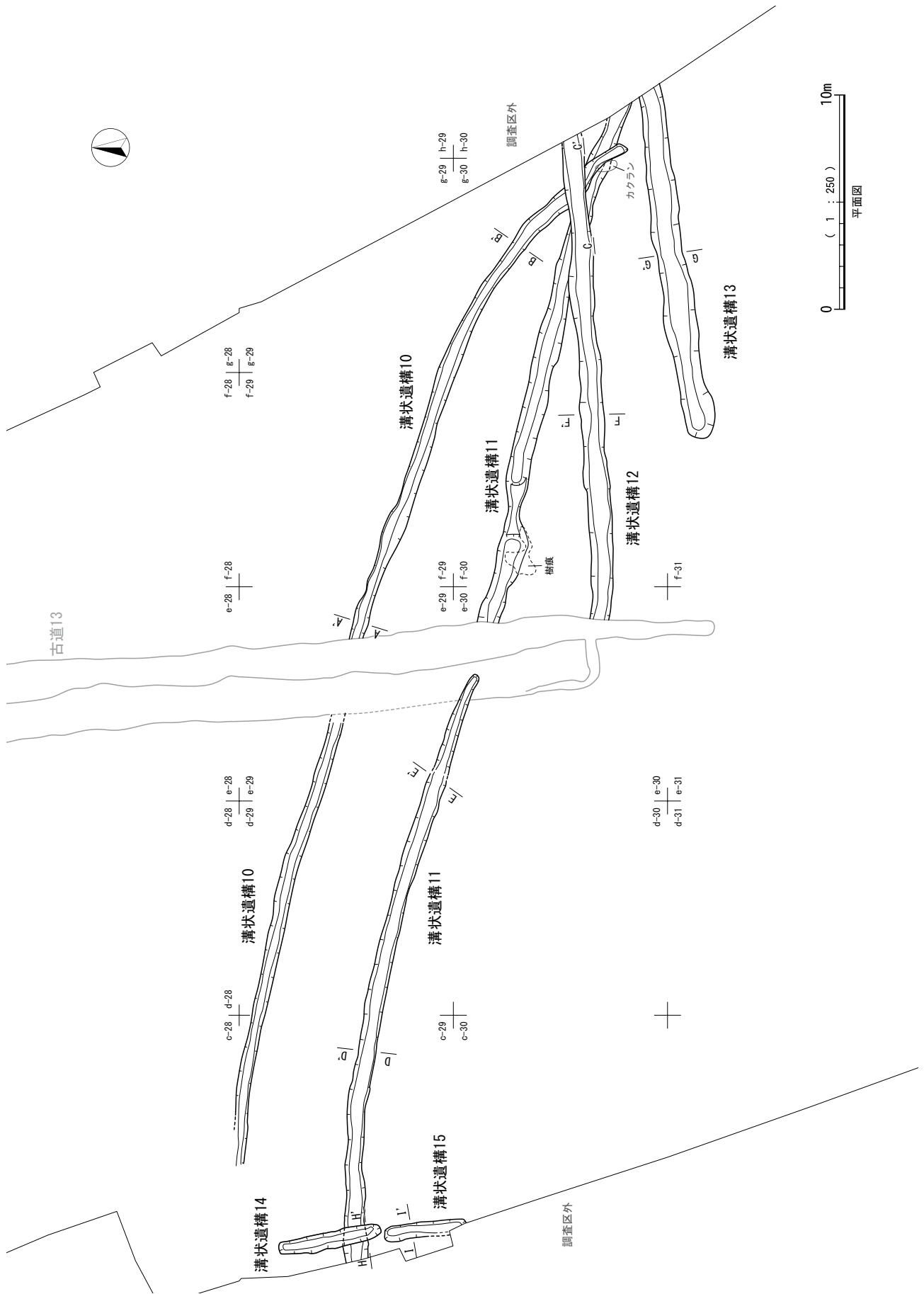
e～h-30区のⅡ層で検出した。東側の調査区境から古道13までほぼ東西に伸び、長さ22m、幅1.1m程、検出面からの深さは0.3～0.4m程を測る。e-30区では溝状遺構10・11を切りながら調査区外へ延びる。切り合い関係から古い順に溝状遺構11、溝状遺構10、溝状遺構12となると考えられる。また、南側には並行して同じように東西に延びる溝状遺構13があり、何らかの関係性を伺わせる。

埋土中から縄文土器、成川式土器、土師器の坏（底部ヘラ切り・糸切り）・埴・皿・甕、黒色土器、須恵器の甕、白磁、陶器が出土した。229は土師器の皿であり、口径約8.8cm、底径約6.2cm、器高1.8cmを測る。底部は、糸切りである。230は黒色土器であり、色調の異なる粘土で高台を貼り付ける。231は、白磁の碗である。

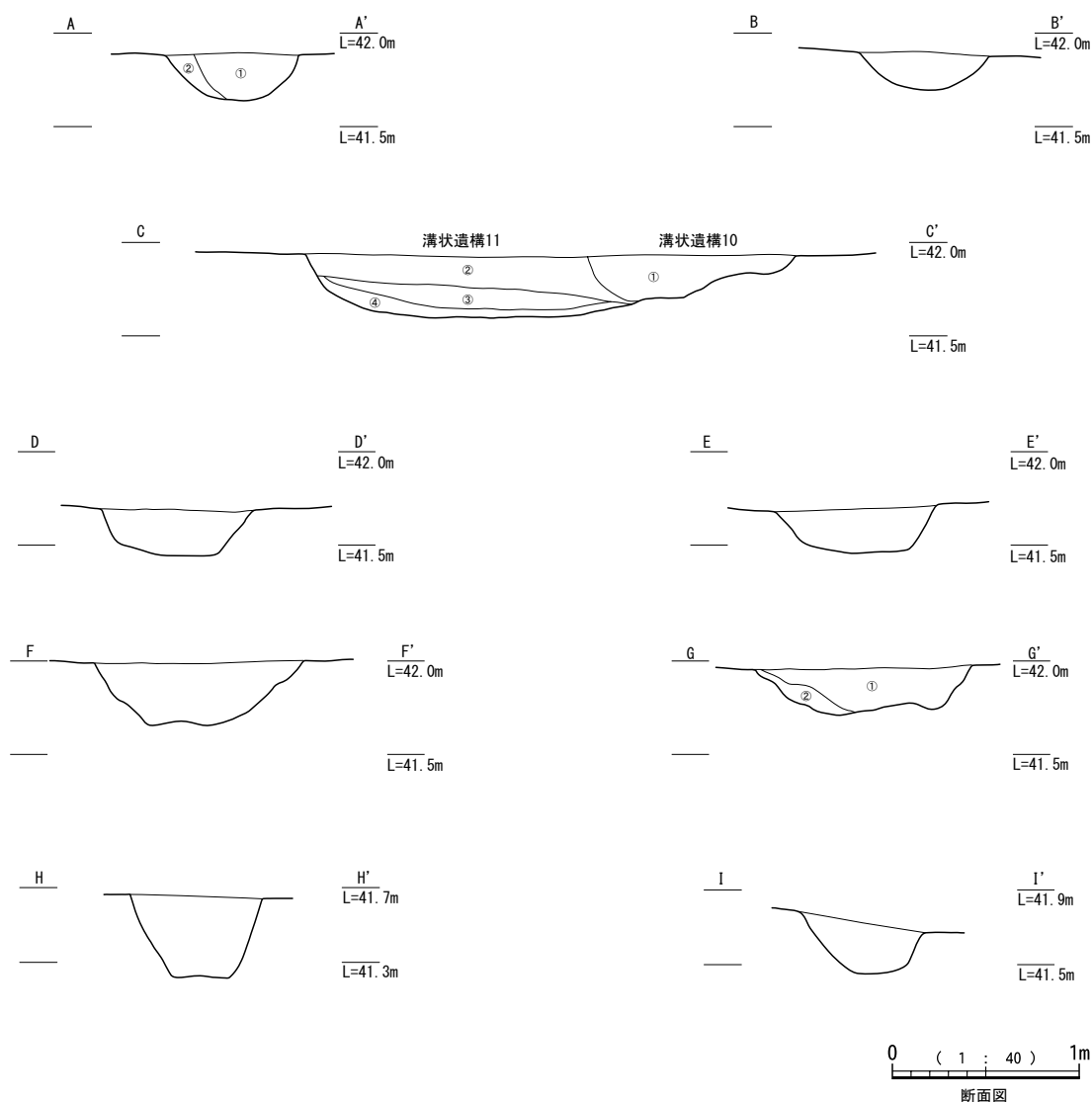
溝状遺構 13（第 84・85・91 図）

f～h-30・31区のⅡ層で検出した。長さ約16m、幅1.1m程、検出面からの深さ0.15～0.3mを測る。東端は調査区外へと続き、北側には溝状遺構12が並行して延びる。

埋土中から縄文土器、成川式土器、土師器の坏（底部ヘラ切り・糸切り）・埴・皿・甕、墨書土器、須恵器の甕、白磁、陶器、土錘が出土した。232は、土師器の甕である。口縁部は直線的に伸び、胎土に白色粒子や金雲母を含む。233は黒色土器の外面に墨書されるが、文字の端部であ



第 84 図 溝状遺構 10 ~ 15 ①



A-A' 断面埋土

- ① 黒褐色土 7.5YR2/2 粘性は弱く、上位のしまりは強いが下位は弱くなる。径2～5mm大の橙色パミスを微量、径0.1～0.2mm程度の橙色粒子と白色粒子を少量含む。
- ② 黒褐色土 7.5YR3/1 粘性は弱く、上位のしまりは弱く、下位のしまりは強い。径0.1～0.2mm程度の橙色・白色粒子を微量含む。また、径2～5mm大の橙色パミスを極微量含む。

B-B' 断面埋土

- ① 黒褐色土 7.5YR2/2 粘性弱く、しまりは強い。径0.1～0.2mm大の橙色・白色粒子を少量、径2～5mm大の橙色パミスを微量、径1～2cm大の白色軽石を極微量含む。

C-C' 断面埋土

- ① 黒褐色土 5YR2/1 粘性は弱く、しまりは強い。径1～5mm大の白色粒子、径1～3mm大の黄色粒子を少量含む。溝状遺構10の埋土である。
- ② 黒褐色土 5YR2/1 粘性は弱く、しまりは強い。径1～5mm大の白色粒子、径1～3mm大の黄色粒子を少量含むが、埋土①よりやや多い。溝状遺構11の埋土である。
- ③ 黒褐色土 5YR2/1 粘性は弱い、埋土②よりさらに弱い。しまりはやや強い。径1～5mm大の白色・黄色粒子を微量含む。
- ④ 黒褐色土 7.5YR2/2 粘性は弱い。しまりはあるが、埋土③より弱い。径1mm程度の白色粒子と径1～3mm大の黄橙色パミスを微量含む。また、径1～2cm大の白色軽石を極微量含む。

D-D'・E-E' 断面埋土

- ① 黒褐色土 10YR2/2 粘性・しまりややあり。赤色粒子が全体的に混じる。

F-F' 断面埋土

- ① 黒褐色土 7.5YR2/2 粘性は弱い。上位のしまりは強いが、下位のしまりは弱い。0.1～0.5mm大の橙色・白色粒子を少量、2～5mm大の橙色パミスを微量、2mm大の白色軽石を極微量含む。

G-G' 断面埋土

- ① 黒褐色土 7.5YR2/2 粘性は弱く、しまりは強い。径1～5mm大の褐色粒子、径0.5～1mm大の橙色粒子を微量含む。
- ② 極暗褐色土 7.5YR2/3 粘性弱い、しまりは強いが①より弱い。径1～5mm大の褐色粒子、径0.5～1mm大の橙色粒子を微量含む。

H-H' 断面埋土

- ① 黒褐色土 10YR2/2 粘性ややあり、しまりあり。赤色粒子・小礫が混じる。溝状遺構11の埋土と似るが、しまりが強い。

I-I' 断面埋土

- ① 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりややあり。赤色粒子・小礫が混じる。溝状遺構11の埋土と似る。

第85図 溝状遺構10～15②

る。234は両端を欠損するが、長さが横幅の2倍以上と考えられる土錘である。235は白磁の皿である。236は、陶器の壺の胴部である。

溝状遺構 14 (第 84・85・91 図)

b・c-29区, 調査区境のⅢa層で検出した。長さ2.6m, 幅0.8m, 検出面からの深さ0.4～0.5m程を計り, 長軸が溝状遺構15とほぼ同じである。また, 溝状遺構11を切る。

埋土中から成川式土器, 土師器の坏(底部ヘラ切り)・甕, 白磁が出土した。237は, 白磁の皿である。底径約5cmであり, 底面は無釉である。

溝状遺構 15 (第 84・85・91 図)

b・c-29・30区のⅢa層で検出した。長さ3.6m, 幅0.6m, 検出面からの深さ0.2～0.3m程である。溝状遺構14と長軸の向きが同じではあるが, 深さが異なることから別遺構とした。埋土はほぼ同じである。

埋土中から成川式土器, 土師器の坏(底部ヘラ切り)・甕, 墨書土器が出土した。238は, 土師器の坏の外面に「万」もしくは「石」が墨書される。

溝状遺構 16 (第 87 図)

f-33区のⅢ層で検出した。鍵型状の溝状遺構で, 長さ5.45m, 幅0.74mを計る。検出面からの深さ0.27mを測るが, 両端では深さがなくなり, 遺構自体が検出できなかった。遺構の中央部分は東西に延びるが, 東端部分は幅が狭くなり北側へ, 西端部分は幅が広くなり南側へと向きを変える。

埋土中から成川式土器が出土したが, 掲載には至らなかった。

溝状遺構 17 (第 87 図)

d・e-34区のⅢ層, 調査区境から南東方向へ9.63mの長さで検出した。幅0.34m, 検出面からの深さは浅く0.1mに満たない。本遺構は22号掘立柱建物跡と重複する。本遺構の検出面のレベルは41.6m程度, 床面のレベルが41.5m前後で, 22号掘立柱建物跡に伴う柱穴の検出レベルが41.4m程度であることから, 切り合い関係はなく, 本遺構が新しいと考えられる。

埋土中から成川式土器, 土師器, 陶器が出土したが, 掲載には至らなかった。

溝状遺構 18 (第 87 図)

e-34・35区のⅢ層, 溝状遺構17の南側で検出した。長さ6.74m, 幅1.55m, 検出面からの深さ0.3mを測る。耕作に関わる攪乱を数多く受ける。e-34区の調査区境から南東方向に延びるが, 途中で検出できなくなった。

長軸の方向が溝状遺構21とほぼ同じであることから何らかの関連性もあると考えられるが, f-35区付近の攪乱により詳細は不明であった。

埋土中から土師器の坏(底部ヘラ切り)・甕が出土したが, 掲載には至らなかった。

溝状遺構 19 (第 87・91 図)

f～j-33～34区のⅢa層で溝状遺構20と並行して検出した。検出されなかった部分も含め長さ41m, 幅0.4m, 検出面からの深さ0.1m程度を測る。f-35区を南東方向に5m程度延びた後, 徐々に幅と深さを失いながら北東方向へ向きを変えて延びる。i-34区で途切れるが, j-33区の調査区境で2m程検出できた。発掘調査時には溝状遺構19・20を合わせて不明遺構として取り扱っていたが, 報告書作成時において形状等が他の溝状遺構と類似することから2条の溝状遺構とした。

溝状遺構19・20の埋土中から成川式土器, 土師器の坏, 黒色土器, 須恵器の甕・壺が出土した。遺物は全て遺構内一括で取り上げていたため, 溝状遺構19・20のどちらから出土したかは不明である。239は須恵器の壺の口縁部から頸部であり, 口径約22.8cmである。

溝状遺構 20 (第 87 図)

f～i-34・35区のⅢa層で検出した。溝状遺構19と並行して延びるが, 検出した長さが幾分短く35.5m程である。幅は0.5m, 検出面からの深さは0.1m程度である。h-34区では細くなり検出できなかったが, 溝状遺構19と同様に調査区境で辛うじて確認した。溝状遺構21と切り合い関係にあり, 本遺構が新しい。

溝状遺構 21 (第 88・91 図)

f～h-35・36区のⅢa層で検出した。北西から南東方向に約30m延び, 溝状遺構20・22・23に切られる。幅は0.74m, 検出面からの深さは最大で0.15m程度で, 東側に向けて徐々に浅くなる。北西端は農業用機械によると考えられる掘削を受けて検出できなかった。g-35区の溝状遺構23と交差する北側で, 本遺構と同じ検出レベルでピットを検出した。切り合い関係からピットが新しいと考えられる。

埋土中から成川式土器, 土師器の坏(底部ヘラ切り)・皿・甕, 黒色土器, 墨書土器が出土した。240は黒色土器であり, 上げ底の底部は径8.0cmを計る。241・242は, 墨書土器である。241は土師器の坏の内面に文字の端部が確認でき, 242は黒色土器の外面に墨書されるが, 判読できない。

溝状遺構 22 (第 87 図)

f-35区のⅢ層で検出した。ほぼ南北方向に6.22m延び,

幅0.3～0.5 m程度、検出面からの深さ0.05 m程度であった。溝状遺構 21 を切る。

埋土中から成川式土器、土師器の坏・皿が出土したが、掲載には至らなかった。

溝状遺構 23 (第 87 図)

f～h-35 区のⅢa 層で検出した。ほぼ東西に 10.87 m 延び、幅 0.42 m、検出面からの深さ 0.1 m 程度である。中央部から両端へ徐々に浅くなり、消滅する。埋土は溝状遺構 21 に近い。

埋土中から成川式土器、土師器の坏（底部ヘラ切り）が出土したが、掲載には至らなかった。

溝状遺構 24 (第 88・91 図)

j-34～36 区のⅢ層で検出した。調査区南東端を南西から北東方向に延び、両端とも調査区外へ延びると考えられる。長さ 19.4 m、幅 0.8～1.2 m、検出面からの深さ 0.2～0.25 m である。

埋土中から成川式土器、土師器の坏（底部ヘラ切り・糸切り）・壙・皿、黒色土器・青磁・白磁・陶器が出土した。243 は白磁の皿、244 は白磁の壺である。243 の口縁部は口禿げである。

溝状遺構 25 (第 89・91 図)

h・i-36・37 区のⅢ層で検出した。調査区南端から北へ長軸をとり、南側は調査区外へ続くと考えられる。長さ約 10 m、幅 2.5～4 m、検出面からの深さ 0.2～0.4 m 程度を測る。本遺構の南側は傾斜地となり、本遺構の深さが南側から北側へと徐々に浅くなる。溝状遺構の床面等から硬化面は確認されなかったが、傾斜地に続く古道の可能性もある。

埋土中から成川式土器、土師器の坏（底部ヘラ切り・糸切り）・皿、陶器が出土した。245～247 は青磁の碗で、245 は口縁部が外反し、246 は直線的である。247 は見込みと高台内面で釉剥ぎを行う。

(4) 古道 (第 77～82・86・89・92～97 図)

古道は 15 条検出したが、そのほとんどが溝状遺構と近接もしくは切り合い関係にある。長さ数 m から 65 m を越えるものまであり、幅も 0.3 m から 2 m に近いものまで様々である。硬化面が帯状に広がるものと溝状の掘り込みに硬化面をもつものを古道として分類した。

なお、帯状に硬化面が広がるものについては、調査の過程で掘り込みを十分把握できなかった可能性もある。

古道 1 (第 77 図)

F-2・3 区のⅢb 層で、北北西から南南東の向きに帯状の硬化面を長さ 13.24 m にわたって検出した。幅は 0.5～0.9 m であるが、中央部は 1.7 m と楕円形状に広が

る。広がった部分の硬化面は中央部と比べると薄くなる。溝状の掘り込みは確認されていない。硬化面には、紫コラのブロックを含む。

埋土中から遺物は確認されなかった。

古道 2 (第 78 図)

H-7～9 区のⅢb 層で長さ 16.57 m、幅 1.91 m の帯状硬化面を検出した。西側では東西に延び、東側では北東へと向きを変え、調査区外へと延びる。数カ所で攪乱を受ける。

埋土中から遺物は確認されなかった。

古道 3 (第 79 図)

X-15～17 区のⅢb 層、古道 4 と並行して長さ 16.66 m、幅 0.38 m で、北北東から南南西に向けて直線的に延びる帯状の硬化面を検出した。北北東側は調査区外へ続くと考えられる。硬化面のレベルは古道 4 のものとはほぼ同じで、溝状の掘り込みをもつ古道であった可能性もある。

埋土中から成川式土器、土師器の甕、須恵器の甕が出土したが、掲載には至らなかった。

古道 4 (第 79・92 図)

X-15～18 区のⅢb 層で検出した。調査区境付近から途中検出できない部分も含め 21.5 m を測る。古道 3 の東側をやや弧状に並行する。溝状の掘り込みの床面に硬化面をもつ。溝状の掘り込みを検出したのは中央部の約 9 m であり、両端は帯状の硬化面のみの検出である。溝状の掘り込みの幅は 0.6～1.2 m、深さは 0.1 m に満たない。帯状の硬化面の幅は約 0.5 m であった。

埋土中から成川式土器、土師器の坏、黒色土器が出土した。248 は黒色土器の壙であり、底径 6.4 cm を測る。

古道 5 (第 79 図)

Z-17・18 区のⅢa 層で検出した帯状の硬化面である。調査区境からほぼ南へ延び、途中途切れる部分も含め長さ約 2.5 m、幅 0.6 m であった。さらに南へと延びると考えられるが、検出できなかった。

埋土中から遺物は確認されなかった。

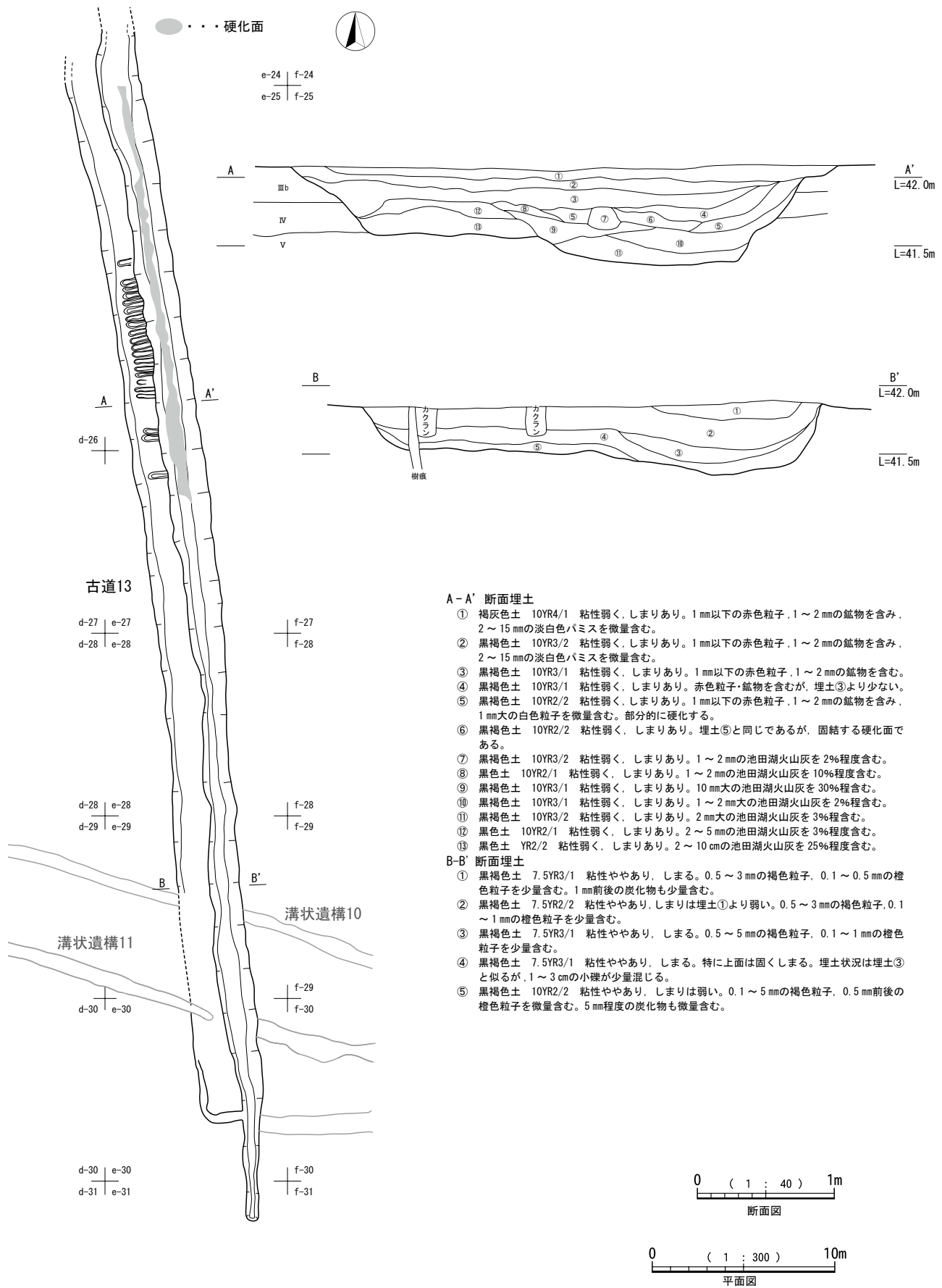
古道 6 (第 80 図)

b-23・24 区のⅢa 層、古道 8 の上位で帯状の硬化面を検出した。端部で方向が違うことから古道 8 とは異なる古道としたが、同じ掘り込み内の帯状の硬化面である可能性も考えられる。長さ約 14 m、幅 0.4 m 程を測る。

埋土中から遺物は確認されなかった。

古道 7 (第 80 図)

b-23 区のⅢa 層で検出した。古道 6 が古道 8 の上位



第86図 古道13

に延びるように古道9の上位に延びる帯状の硬化面である。長さ約4m、幅0.3～0.35mを測る。古道6と性格を同じくすると考えて古道9と異なる遺構としたが、同じ遺構の可能性もある。

埋土中から遺物は確認されなかった。

古道8 (第80・92図)

a・b-18～24区のⅢa層で、古道9と並行して検出した。長さ約57mを測る溝状の掘り込みの床面に硬化面をもつ。幅は1～2.5m、深さは0.2～0.3m程で、南端では0.1mに満たない。長軸が幾分西側に傾くが、ほぼ南北に延びる古道である。南側のb-23・24区では、古道6と重複する。溝状遺構7とは直交し、その上部を切る。b-24区以南ではⅢ層が削平を受け、表層下はⅣ層となるため、検出はできなかった。重複する古道6は硬化面のみを検出であるが、古道8との方向に幾分の差があることから別遺構とした。しかし、その関係性については詳細な調査記録がないことから不明である。

埋土中から縄文土器、成川式土器、土師器の坏(底部ヘラ切り)・甕、墨書土器、須恵器の坏・甕・鉢、青磁、白磁、陶器が出土した。249は土師器の坏であり、体部は直線的に立ち上がる。250・251は、墨書土器である。250は土師器の鉢の口縁部に縦位の線が書かれる。251は土師器の坏の外面に墨書されるが、判読できない。252は、須恵器の坏もしくは埴である。口径約12.0cmで、内面は灰褐色を呈する。253は東播系須恵器の鉢である。254は青磁の碗で、細蓮弁文を施す。255は白磁の碗であり、外面の体部下半及び見込みは無釉である。256は常滑産の大甕、257は、備前産の播鉢である。258は陶器の壺で、浅黄色の釉がかかる。

古道9 (第80・92図)

a・b-19～24区のⅢa層で検出した。古道8と並行し、長さ約50m、幅1～2.5m、深さ0.2～0.3mで規模もほぼ同じである。南端では古道7と重複し、b-20・21区では溝状遺構7と直交し、その上部を切る。古道8と同様にb-24区以南では検出できなかった。紫コラが堆積した畝間状遺構を切った溝状遺構7を、古道8・9がさらに切る。古道8・9は長軸の向きと規模を同じくすることから2条1組の遺構と考えられる。

埋土中から縄文土器、成川式土器、土師器の坏(底部ヘラ切り)・埴・甕、黒色土器、須恵器の甕、陶器が出土した。259は土師器の埴で、底径約7.8cmを測る。260・261は土師器の甕で、260は外反しながら伸びる。262は墨書土器であるが、文字の端部のため判読できない。263は、青磁の碗である。口縁部は玉縁状であり、内面に文様を施す。264は、染付の皿である。265は、瓦質土器の火鉢である。口径約14.9cmの浅鉢で、スタン

プ文を施し、脚は欠損する。

古道10 (第81図)

Z・a-21区のⅢa層で、溝状遺構7に切られ、長さ約7m、幅0.9m、深さ0.4m程の検出であった。長軸の向きが溝状遺構7よりも幾分北寄りの方向へ延びる。溝状の掘り込みをもち、北東側の床面に長さ約3mの硬化面が確認されたが、南西側では確認されなかった。

埋土中から成川式土器、土師器の坏、陶器が出土したが、掲載には至らなかった。

古道11 (第82・93図)

b～d-24区のⅢa層で検出した。約21mの長さで、b-24区の調査区境からほぼ東に延びる。その内、調査区境から東側への約9.5mでは幅1.5m程の掘り込みを確認できたが、残りの約11.5mは帯状の硬化面のみを検出であった。本来は硬化面をもつ掘り込みはさらに東側へ延び、古道13と直交することも考えられる。掘り込みの深さは検出面から0.2～0.3m程であるが、掘り込みの北側にはさらに幅0.4～0.5m、深さ0.2～0.3mの一段低い掘り込みをもつ。一段目の掘り込みの床面には鉄分が多く集積し、赤色化している部分もあった。

埋土中から縄文土器、成川式土器、土師器の坏・甕、須恵器の甕・壺、青磁、陶器、古銭が出土した。266は須恵器の甕の底部であり、底径約20.2cmを測る。267・268は、青磁の碗である。267は口縁部にやや厚みがあり、268は畳付きから高台内面にかけて釉剥ぎを行う。269は、土瓶の口縁部である。270は、径2.4～2.5cmの銅銭である。裏面に文字等はなく、付着物も観察できない。2分の1程度が残存している。文字は右に「通」の字と、下に「宋」の字が確認できる。このことから、「皇宋通宝」・「聖宋通宝」・「大宋通宝」のいずれかであることが推定される。初鑄年に幅がある。

古道12 (第82図)

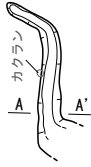
a・b-24区のⅢa層で幅1m程度の帯状の硬化面を検出した。a-24区の調査区境から東へ約6m延びた後、南東に向きを変えて2m程延びる。その先の古道11と接する付近は攪乱により検出できなかった。硬化面のレベルと古道11の硬化面のレベルがほぼ同じであることから、本遺構も掘り込みをもっていた可能性も考えられるが、詳細については不明である。

埋土中から遺物は確認されなかった。

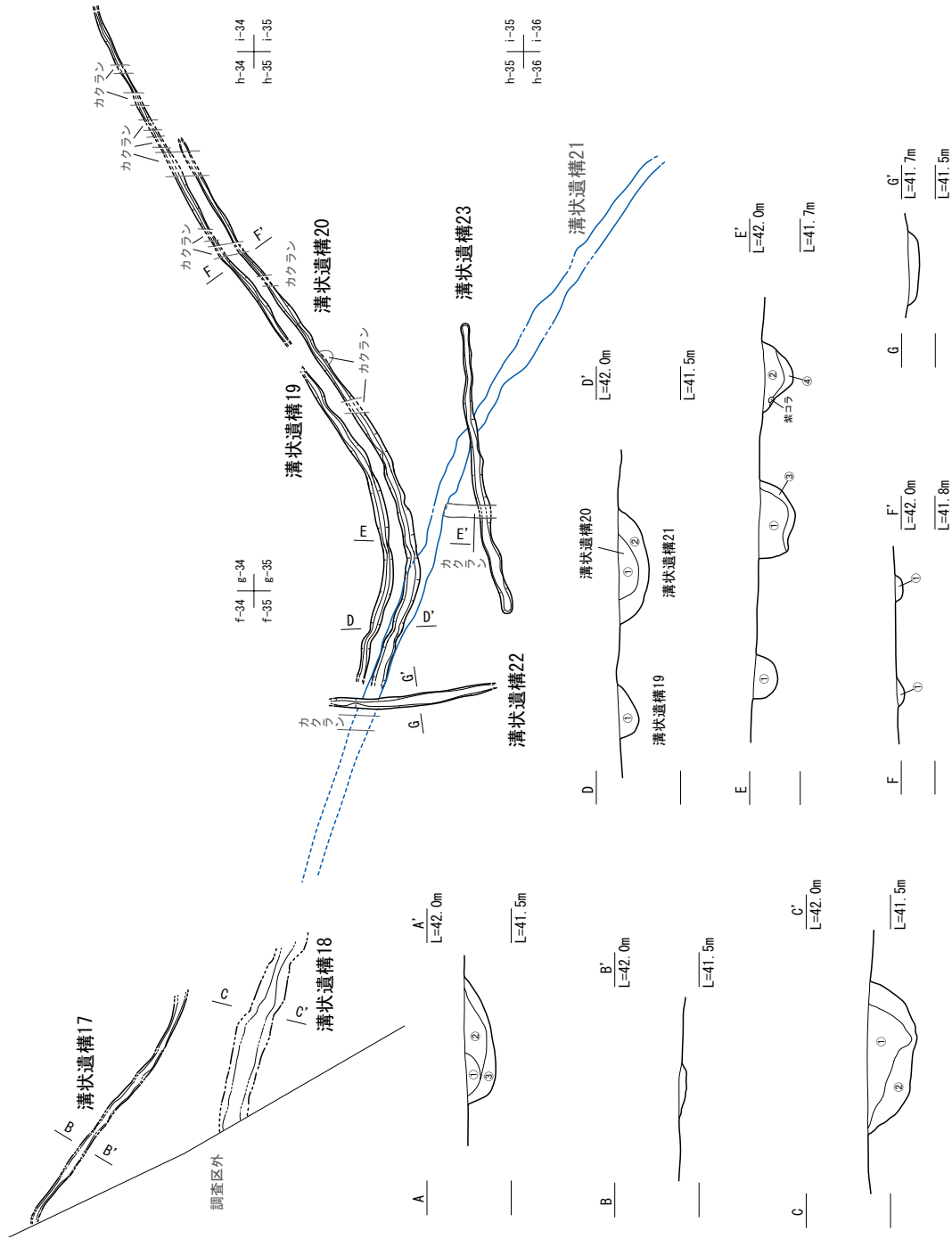
古道13 (第86・93～97図)

d・e-24～31区のⅢb層で検出した。溝状の掘り込みをもち、長軸の方向が幾分西を向くが、ほぼ南北に延びる古道である。長さ約66m、幅3.9m程を測るが、

溝状遺構16



調査区外



A-A' 断面埋土

- ① 褐灰色土 10YR4/1 粘性ややあり、しまりあり。1mm次の粗砂・赤色粒子を10～20%含む。
- ② 黒褐色土 10YR3/1 粘性・しまりあり。1mm次の粗砂・赤色粒子を10～20%含む。埋土①より粘性が強い。
- ③ 埋土②とⅢa層の混土 粘性ややあり、しまりあり。1mm次の粗砂・赤色粒子を5%程度含む。

B-B' 断面埋土

- 黒色土 10YR2/1 粘性あり、やや固くしまる。5mm次の白色粒子、0.1～0.3mmの褐色粒子を微量含む。

C-C' 断面埋土

- ① 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、やや固くしまる。0.1～10mmの白色パミス、0.1～0.3mmの褐色粒子を10%含む。
- ② 黒褐色～褐色土 10YR3/2～4/4 粘性あり、やや固くしまる。0.1～0.5mmの白色パミスを10%、0.1～0.5mmの褐色粒子を6%含む。

D-D'・F-F'・F-F' 断面埋土

- ① 黒色土 10YR1.7/1 粘性あり、やや固くしまる。1mm次の褐色粒子を10%含む。
- ② 黒褐色土 10YR3/1～2/3 粘性あり、やや固くしまる。0.1～1mm次の白色・褐色粒子を10～20%含む。
- ③ 埋土①とⅢa層がブロック状に混じる。粘性・しまりあり。
- ④ 埋土②とⅢa層がブロック状に混じる。

G-G' 断面埋土

- 暗褐色土 10YR3/3 粘性・しまりあり。2cm次の明茶褐色土(Ⅲa層)と黒褐色土がブロック状に20%程度含まれる。



断面図



平面図

第87図 溝状遺構16～20・22・23

南端では細くなる。溝状遺構も含め最も長い遺構である。北側の約23mで硬化面を確認した。本来は南側にも硬化面が伸びていたと考えられる。深さは0.3～0.5m程度であるが、東側にはさらに0.1～0.2m低い掘り込みをもつ。断面A-A'付近では一段高い床面から洗濯板状の凹凸を部分的に確認した。十分検出できていない古道11の東側部分を延長すると古道13と直交する点、両古道とも二段掘りの掘り込みをもつという点では古道11と古道13は何らかの関係性をもつと考えられる。また、溝状遺構10・11・12と交わるが、その切り合い関係は調査記録が不十分で詳細は不明である。

埋土中から縄文土器、成川式土器、土師器の坏（底部ヘラ切り）・壺・皿・蓋・甕、黒色土器、須恵器の坏・甕・壺、東播系須恵器、陶器、石製品、古銭が出土した。271～274は、土師器の坏である。271は体部から直線的に立ち上がり、口径約14.6cmを測る。底部付近はケズリ痕を残す。272は底部を切り離した後、ケズリ等を行っていない。273・274は厚みのある底部から、体部が直線的に立ち上がる。273は見込みに線刻が見られる。275は土師器の壺であり、高台の端部のみ外側へ広がる。276は、土師器の皿である。口径約12.4cm、底径約10cm、器高2.3cmを測り、立ち上がりは直線的で、底部はヘラ切りである。277～279は黒色土器の壺であり、底径約6.8～8.4cmの高台を貼り付ける。280は土師器の甕の底部であり、内面は丁寧なナデ調整を行う。281～286は、墨書土器である。281・282は土師器の坏の口縁部、283・285・286は胴部、284は底面の、いずれも外面に墨書する。283は「新」、284は「万」である。287は須恵器の坏であり、口径約12.8cmで、口縁部は直線的に開く。288は、須恵器の壺の頸部である。肩部に向かって器壁は薄くなり、外面には格子状のタタキ目、内面には同心円状の当て具痕が残る。289～294は、須恵器の甕である。289は頸部であり、櫛描波状文を施す。290～294は胴部であり、291～293は内面に同心円状の当て具痕、294は内面に平行タタキが見られる。また、290・294は、自然釉がかかる。295・296は須恵器の壺の底部である。297は須恵器の甕の胴部である。自然釉がかかり、胴部に穿孔を施す。298～300は、土錘である。301～308は、青磁の碗である。301は口径約14.2cmで、口縁部は外反する。302・303は口縁部は外反し、外面に片彫りの蓮弁文を施す。304・305は、胴部に蓮弁文を施す。306～309は底部であり、306は見込みと高台内面の釉を削る。307は底径5.8cm、308は底径6.2cmを測り、見込みに草花文や印花を施し、高台内面の釉を削る。309は内外面とも無文であり、畳付きから高台内面は無釉である。310は、青磁の皿である。口縁部は内湾し、蓮弁文を施す。311は、青磁の盤である。312は白磁の碗であり、底径約8.2cmを測る。高台は幅広で厚み

があり、外面は無釉である。313・314は、青花である。313は口径約12.2cmを測り、外面に唐草文を施し、見込みは釉剥ぎを行う。314は、青花の皿である。見込み及び体部外面に施文し、高台は斜めに面取りされる。315は、備前産の播鉢である。316は、滑石製品と考えられる玉である。完全品である。直径1cmの球形を呈し、上部に孔をあけ、その両端に平坦面をつくり、鈴のような形に仕上げている。孔は径1mmと細く、一方向から開けられている。全体を研磨して製作していると考えられるが、擦痕は観察できない。全体が光沢を帯び研磨でできた後も明瞭でない。製作の最終仕上げで光沢が出るまで磨いたことによる、または使用による摩滅のためと考えられる。孔の両端に平坦面を作出した箇所は光沢を帯びていない。317は、4分の1～5分の1が残存していると考えられる。いくつか割れ、また曲がっているため全体の形状を推測しがたいが、推定径2cm程度、高さ8.2mm程度、厚み1.5mm程度のリング状の形状が推定できる。318は、径2.2cmの洪武通宝である。裏面に文字等はなく、附着物も観察できない。

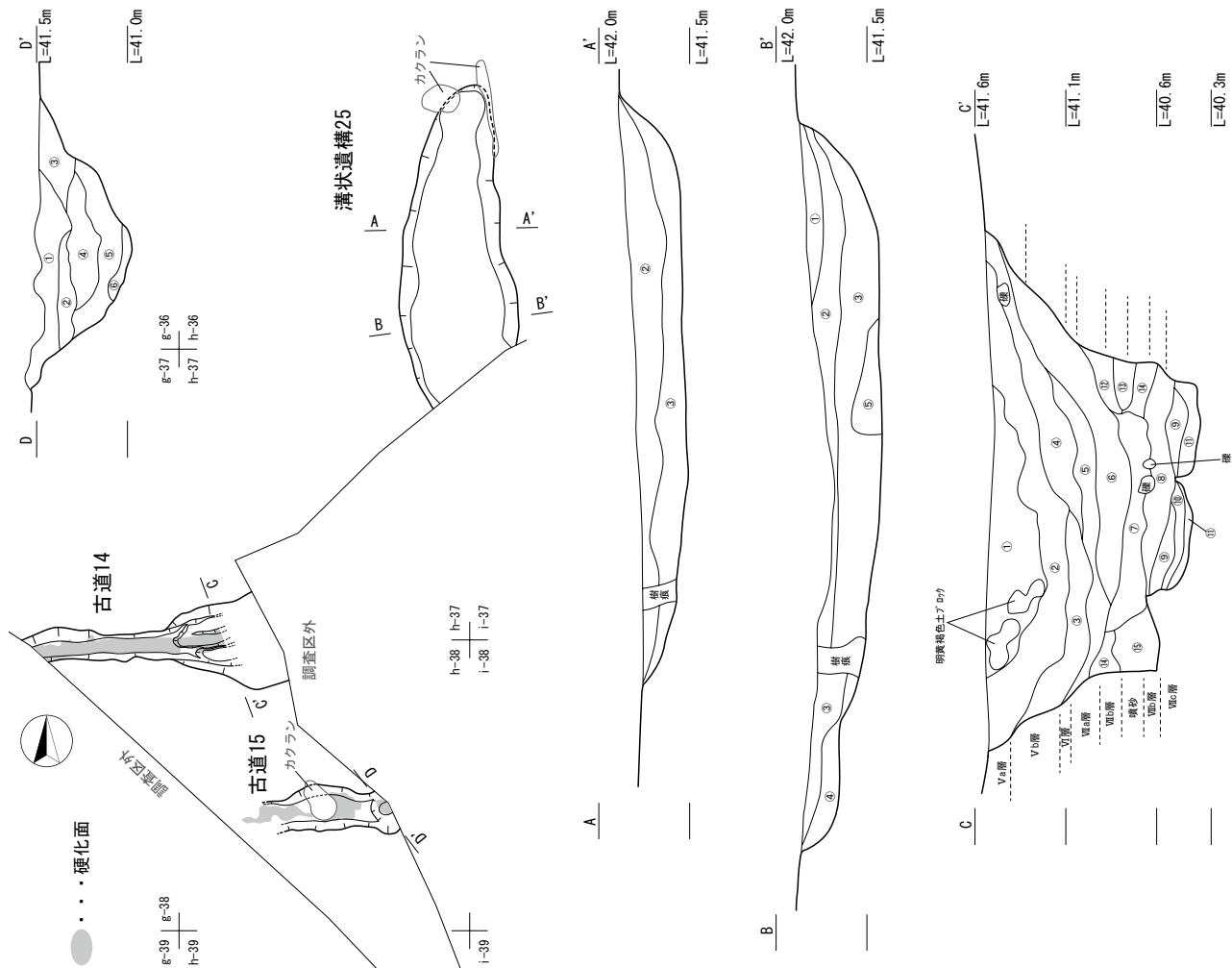
古道14（第89・96図）

g・h-37・38区のIV層で検出した。掘り込みをもつ古道で、東西に約7m延び、調査区外へ続くと考えられる。西側では掘り込みの幅が約1mであるが、東側では3m程度と極端に広がる。深さは西側では0.1m程度であるが、東側では1mを越す。帯状の硬化面の幅は0.5mほどであった。東西端はさらに調査区外へ続くと考えられる。遺構の東端のさらに東側は斜面となり、ここから登る古道と考えられる。なお、東端部分は安全上の問題で上端のみの検出である。

埋土中から成川式土器、土師器の甕、須恵器、青磁、白磁、青花、陶器が出土した。319は、青磁の碗である。口縁部が直口し、やや玉縁状となる。320・321は、青磁の皿の口縁部である。321は、体部外面に蓮弁文を施す。322は青磁の碗の底部であり、見込み及び高台内面は釉を削る。323は、青磁の皿の底部である。324は、白磁の碗である。口縁部は玉縁状となる。325は青花の碗であり、胴部外面に芭蕉葉文を施す。326は備前産の播鉢、327は口縁部が玉縁状を呈する播鉢であり、黒褐色の釉がかかる。

古道15（第89図）

調査区の最南端、h-38区のIV層で検出した。掘り込みをもつ古道で、長さ約4m、幅約1.5mを測る。西側では0.1m、東側では0.3mの深さである。西側では溝状の掘り込みを検出できなかった。硬化面は掘り込みの検出面よりさらに西側で検出されていることから、硬化面を伴う掘り込みも西側へ延びると考えられる。古道



- A-A'・B-B' 断面埋土
- ① 黒褐色土 10YR2/3 粘性あり、ややしまる。0.2～1mm 大の褐色・灰白色粒を 10% 含む。
 - ② 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、ややしまる。0.2～1mm 大の褐色・白色粒を 5% 含む。
 - ③ 黒褐色土 10YR2/3 粘性・しまりと弱い。0.1～0.5mm 大の粗砂・褐色粒・白色粒子を 10% 含む。
 - ④ 暗褐色土 10YR3/3 粘性あり、やや固くしまる。0.1mm 大の褐色粒子を 5% 含む。
 - ⑤ 黒褐色土 7.5YR3/2 粘性弱い。1～1.5mm 大の白色粒子を 10%、1.5mm s 大の地田パミスを微量含む。

C-C' 断面埋土

- ① 暗褐色土 10YR3/4 粘性・しまりあり。1mm 以下の赤色粒・白色粒・磁物を 10% 程度含む。明瞭褐色土のブロックを含む。
- ② 黒褐色土 10YR2/3 粘性弱く、しまりあり。1mm 以下の赤色粒・白色粒・磁物を 3% 程度。5mm 大の白色軽石を 1% 程度含む。1cm 大の V 層（池田湖火山灰）が微量混ざる。
- ③ 暗褐色土 10YR3/4 粘性弱く、しまりあり。1mm 以下の赤色粒・白色粒・磁物を 5% 程度含む。1cm 大の白色軽石を微量含む。1cm～5cm の V 層（池田湖火山灰）が 3% 程度混ざる。
- ④ 暗褐色土 10YR3/3 粘性弱く、しまり強い。1mm 以下の赤色粒・白色粒・磁物を 1% 程度含む。3mm 大の白色軽石を微量含む。
- ⑤ 黒褐色土 10YR2/3 粘性・しまりあり。1mm 以下の赤色粒・白色粒・磁物、5mm 大の真白色軽石を微量含む。
- ⑥ 10YR2/3 粘性・しまりあり。埋土⑤より明るい色層である。1mm 以下の白色粒子を微量。1～5cm 大の白色軽石を 3% 含む。10cm 大の V 層（池田湖火山灰）が 5% 程度混ざる。
- ⑦ 暗褐色土 10YR3/3 粘性強く、しまりあり。0.5cm～5cm 大の白色軽石を 10%、0.5cm～2cm 大の V 層（池田湖火山灰）を 20% 程度含む。
- ⑧ 10YR3/4 粘性・しまりあり。0.5cm～3cm 大の白色軽石を 5%、0.5cm～2cm 大の V 層（池田湖火山灰）を 1% 含む。
- ⑨ 暗褐色土 7.5YR3/4 粘性あり、しまりやや強い。0.5cm～2cm 大の白色軽石を 2%、1cm 大の V 層（アカホヤ火山灰）を 1% 含む。
- ⑩ 褐灰色～褐色土の埋土 10YR4/1～10YR4/4 固くしまる硬化面粘性あり。0.5cm～3cm 大の白色軽石、1cm 大の V 層（アカホヤ火山灰）を微量含む。
- ⑪ にぶい黄褐色土 10YR4/3 粘性・しまりあり。0.5cm～1cm 大の白色軽石を微量。0.5cm～3cm の V 層（アカホヤ火山灰）を 10% 含む。
- ⑫ 暗褐色土 10YR3/3 粘性・しまりあり。0.5cm～1cm 大の白色軽石を微量。0.5cm～2cm の V 層（アカホヤ火山灰）を 3% 含む。
- ⑬ 明瞭褐色土 10YR6/8 粘性あり、しまりやや弱い。V 層（アカホヤ火山灰）を微量含む。
- ⑭ V a 層（池田降下軽石）と埋土⑤の埋土。
- ⑮ にぶい黄褐色土 10YR4/3 粘性あり、しまりやや弱い。0.5cm 大の白色軽石を微量含む。

D-D' 断面埋土

- ① 暗褐色土 10YR3/4 粘性やや弱い、しまりやや強い。1mm 以下の赤色粒・白色粒・磁物を 3% 程度含む。
- ② 灰黄褐色土 10YR4/2 粘性あり、固くしまる。硬化面 1mm 以下の赤色粒・白色粒・磁物を 10% 程度。1cm 大の白色軽石を 1% 程度含む。
- ③ 褐色土 10YR4/4 粘性・しまりあり。径 1mm 以下の赤色粒・白色粒・磁物を 3% 程度。1cm 大の白色軽石を 1% 程度含む。
- ④ 暗褐色土 10YR3/4 粘性やや弱い、しまりあり。1mm 以下の赤色粒・白色粒・磁物を 5% 程度。5mm 大の白色軽石を 1% 含む。
- ⑤ 暗褐色土 10YR3/3 粘性あり、しまりやや強い。1mm 以下の赤色粒・白色粒・磁物を 5% 程度。0.5cm～3cm 大の白色軽石を 5% 含む。
- ⑥ 暗褐色土 10YR3/3 粘性あり、固くしまる。硬化面 0.5cm～3cm の池田降下軽石を 10% 含む。

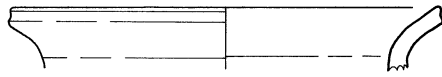
第 89 図 溝状遺構 25, 古道 14・15

溝 6

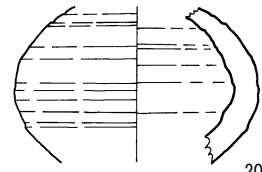


203

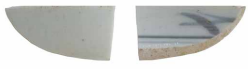
溝 7



204

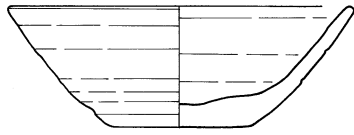


205

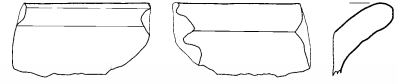


206

溝 10

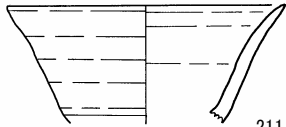


207

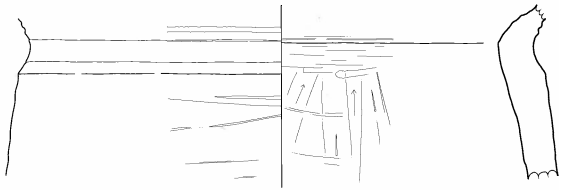


208

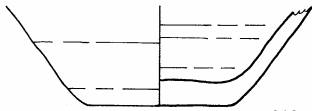
溝 11



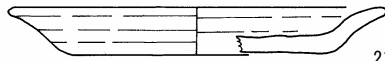
211



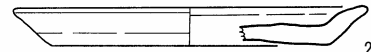
209



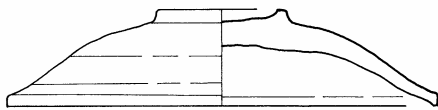
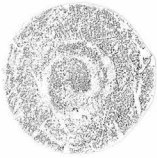
212



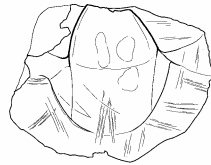
213



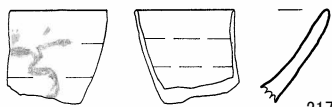
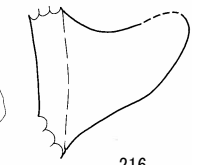
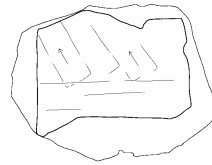
214



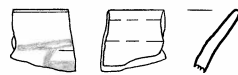
215



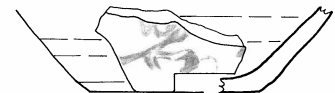
216



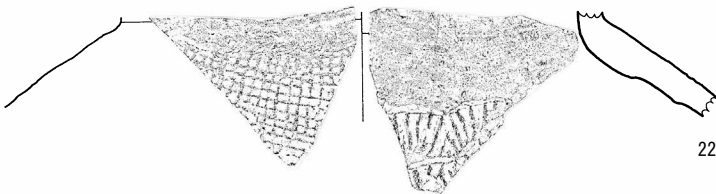
217



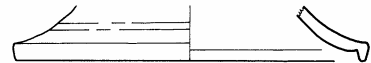
218



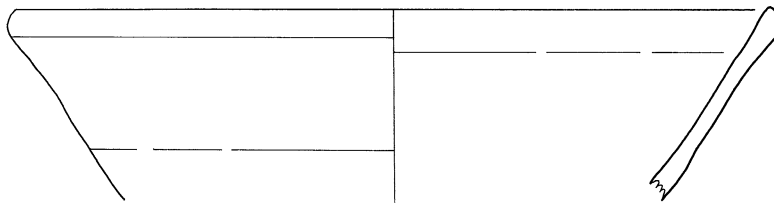
219



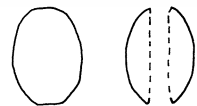
221



222



223



220



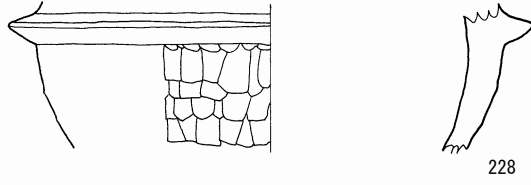
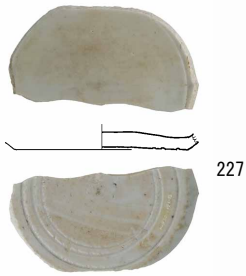
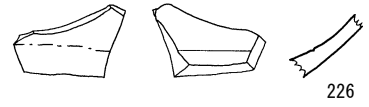
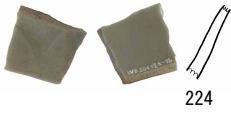
0 (1 : 3) 10cm

0 (1 : 2) 5cm

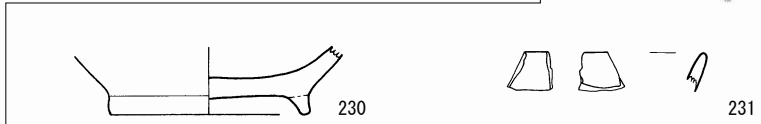
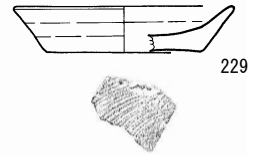
220

第 90 图 溝状遺構出土遺物 1

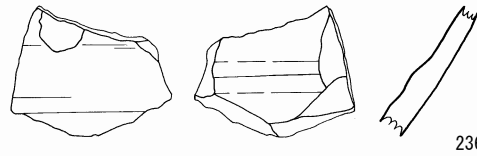
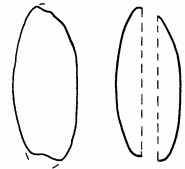
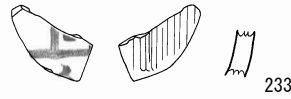
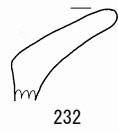
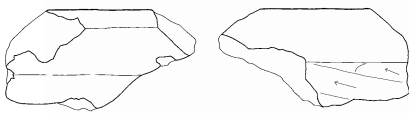
溝 11



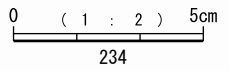
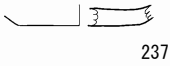
溝 12



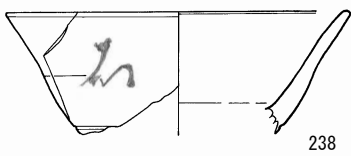
溝 13



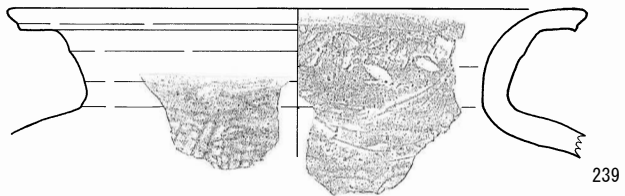
溝 14



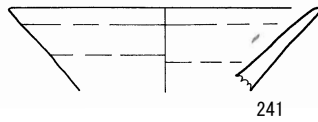
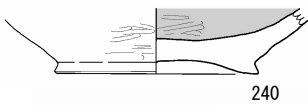
溝 15



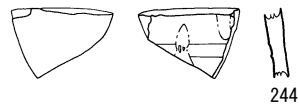
溝 19・20



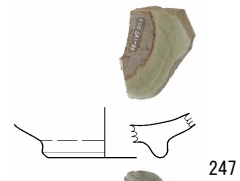
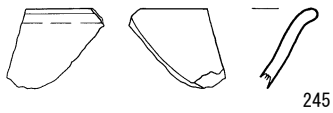
溝 21



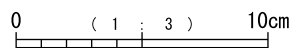
溝 24



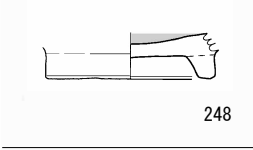
溝 25



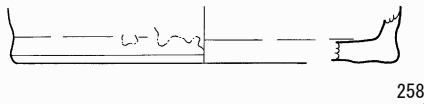
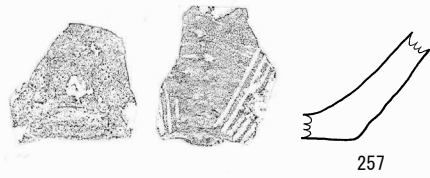
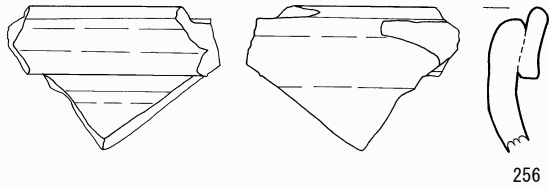
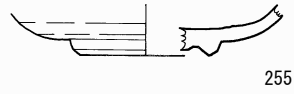
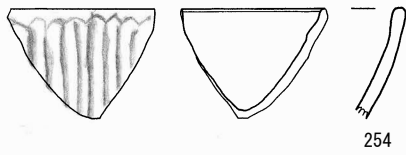
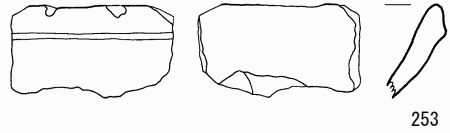
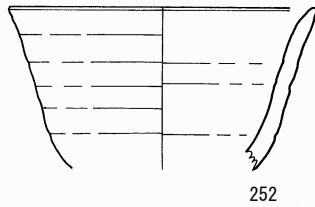
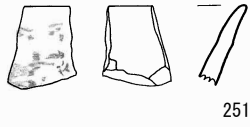
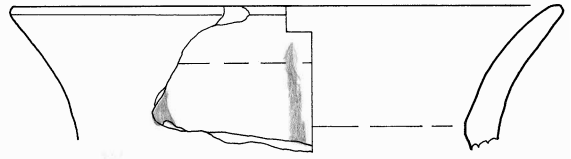
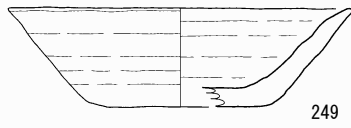
第 91 図 溝状遺構出土遺物 2



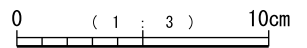
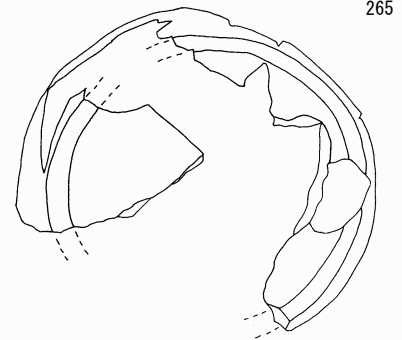
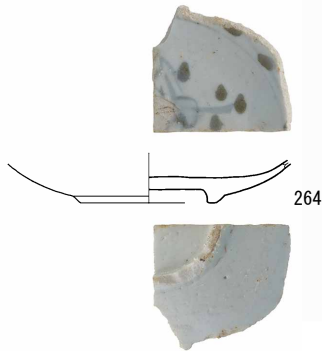
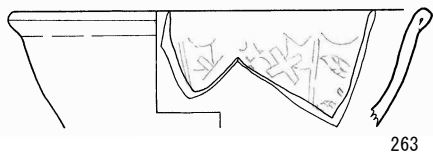
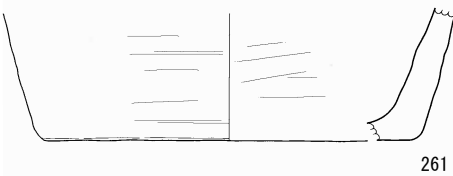
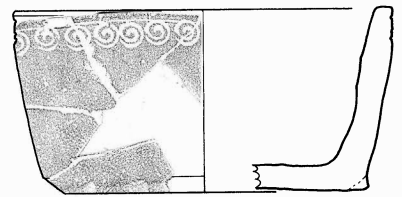
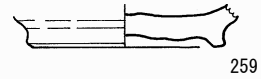
古道4



古道8

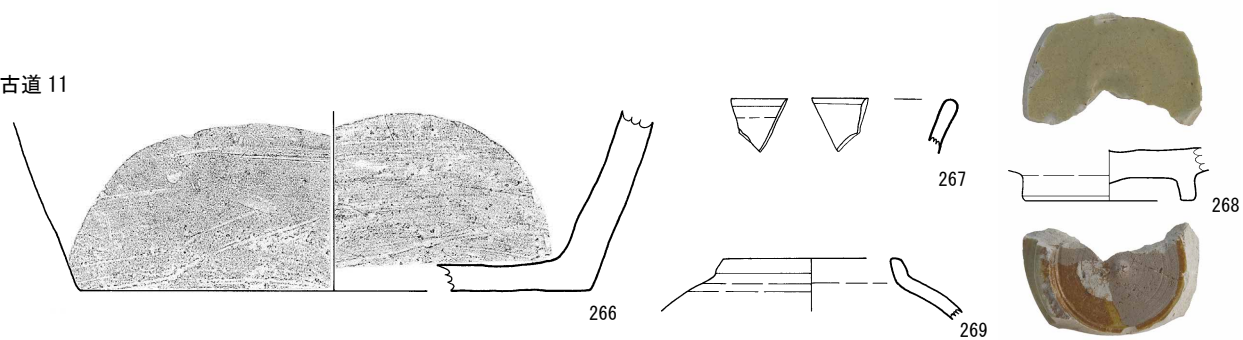


古道9

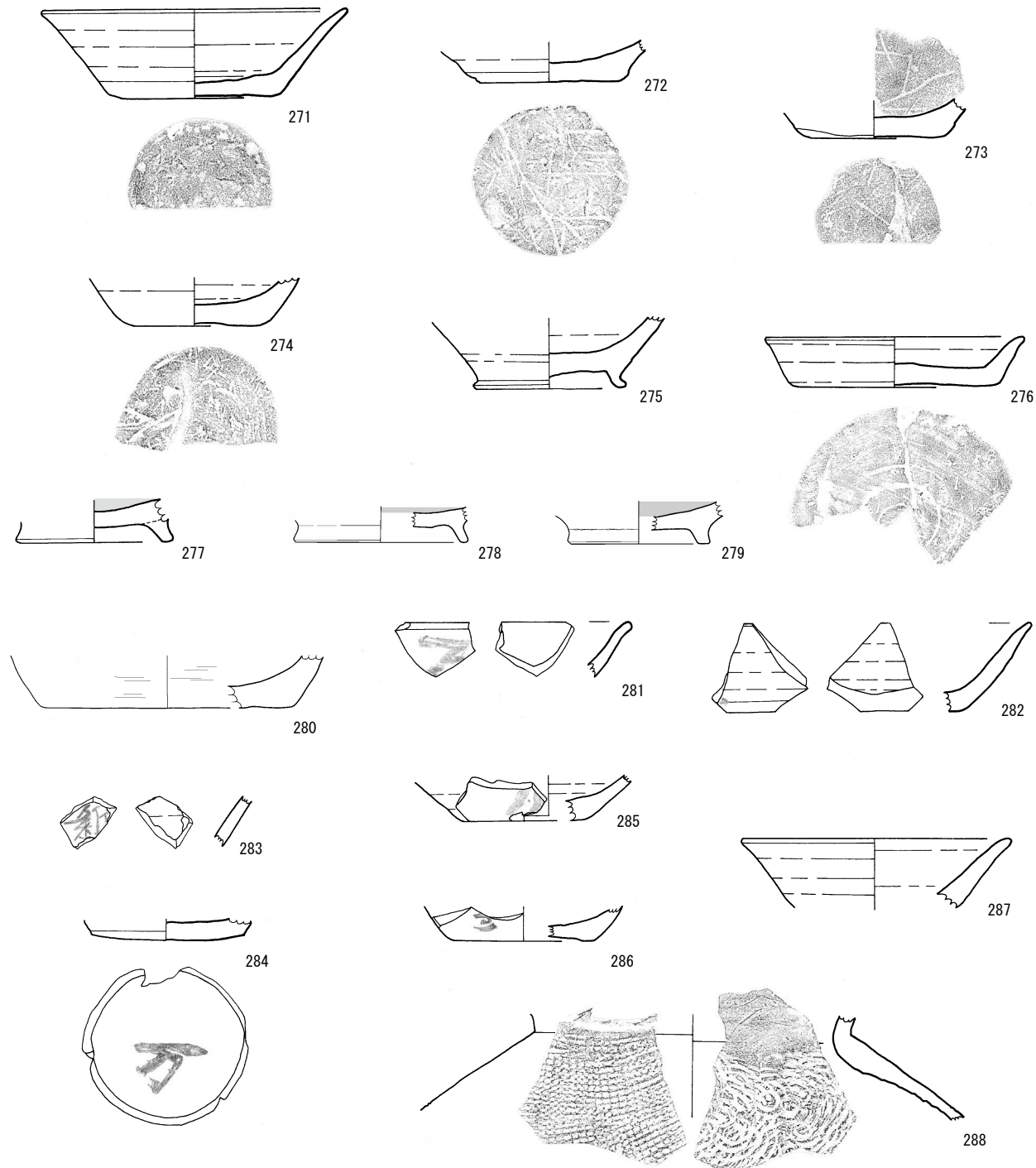


第92図 古道出土遺物1

古道 11



古道 13



第 93 図 古道出土遺物 2

古道 13



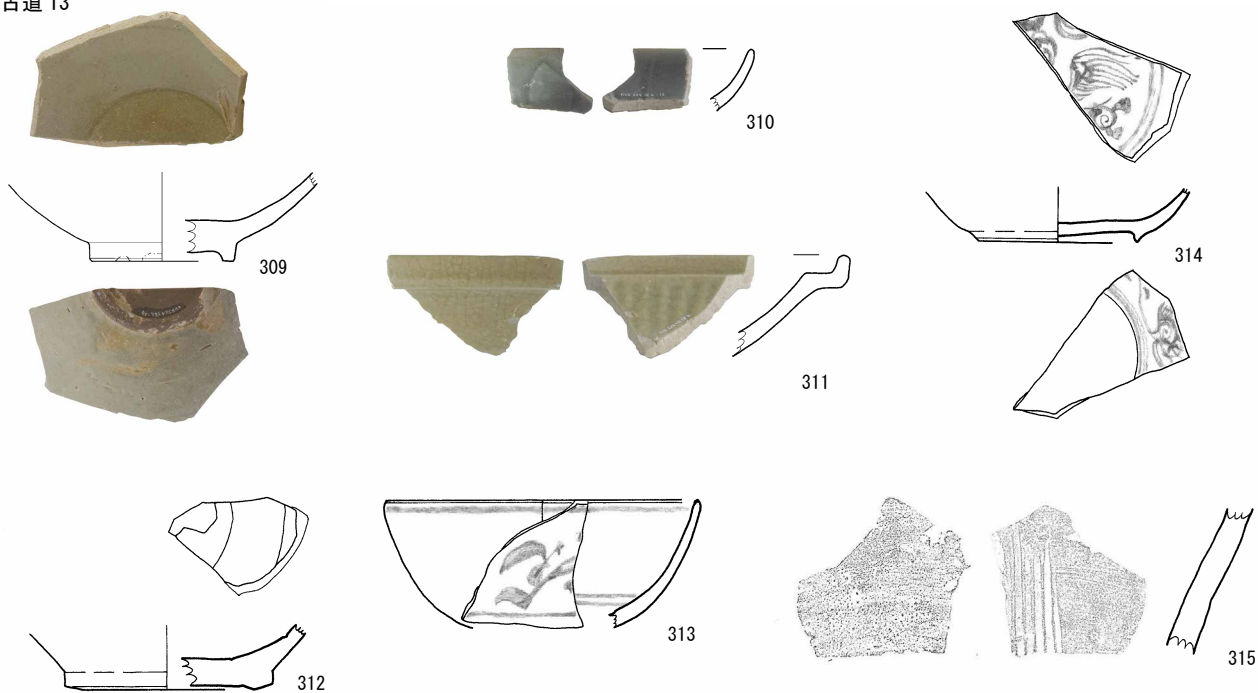
第 94 図 古道出土遺物 3

古道 13

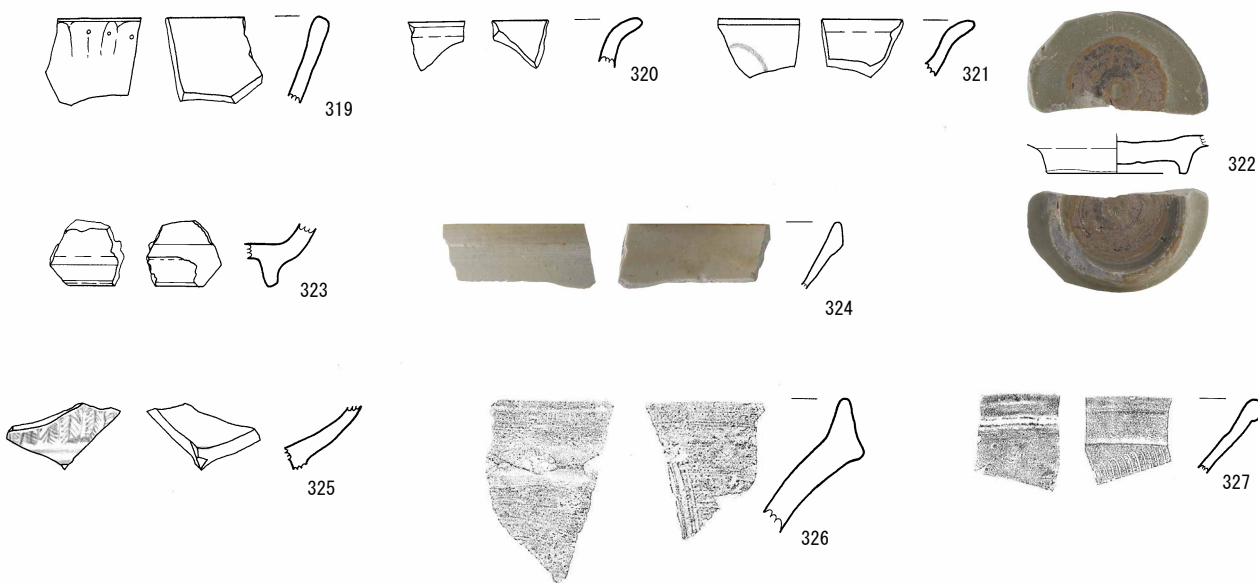


第 95 図 古道出土遺物 4

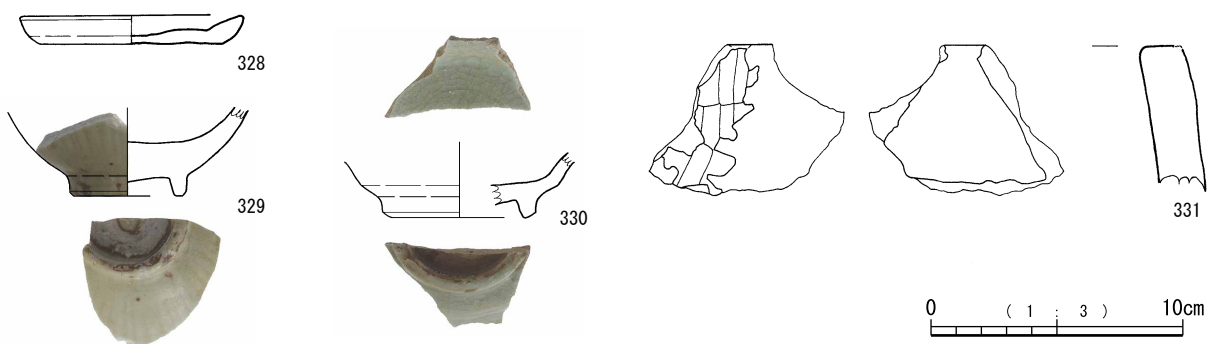
古道 13



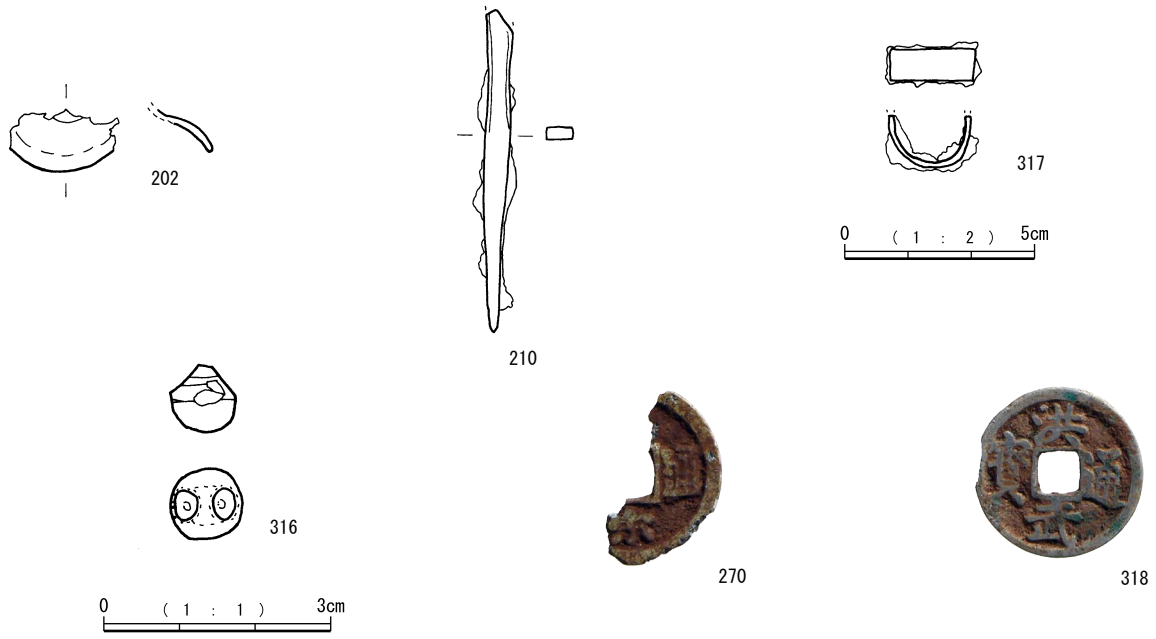
古道 14



柱穴



第 96 图 古道・柱穴出土遺物



第 97 図 溝状遺構・古道出土鉄製品・古銭



写真 2 遺構内出土の鉄製品

14と同じように東から傾斜面を上ってくる古道と考えられる。

埋土中から成川式土器、陶器が出土したが、掲載には至らなかった。

(5) 柱穴 (第96図)

古代・中世の遺物包含層であるⅡ～Ⅳ層では、多くの柱穴も検出した。特に、調査範囲の南端にあたるd～i-33～37区で多く検出した。ここでは柱穴からの出土遺物のみ掲載する。

328はg-34区Ⅲb層で検出したP 65から出土した土師器の小皿である。口径約8.8cmを測り、底部は糸切りである。329はi-34区Ⅲb層で検出したP 511から出土した青磁の碗である。腰高で高台内面は蛇の目釉剥ぎを行う。体部外面には細蓮弁文を施す。330はh-34区Ⅲb層で検出したP 40から出土した青磁の皿である。高台内面は蛇の目釉剥ぎを行う。331はi-34区Ⅲb層で検出したP 502から出土した滑石製石鍋片である。

3 遺物

(1) 青磁 (第98・99図 332～360)

青磁は29点を図示した。ほとんどが一括で取り上げた遺物である。出土状況は、35～38区にかけて多く出土している傾向が見られる。332・333は、碗であり、332は、口縁部、333は、腰部である。ともに蓮弁文が描かれているが鎬部分の稜が明確に描かれていない。また、332は、蓮弁文が口縁部近くまで描かれている。334は、碗の口縁部、335は同じく碗の胴部から底部である。残存部分が少ないがともに蓮弁文の稜が明確な鎬蓮弁文を描いている。335は、碗の底部から胴部であり、外面には、鎬蓮弁文が底部から描かれる。また、高台部分を内側に削り取り内部に釉薬をつけていない。336は、皿の底部である。外面には、釉薬が見られない。337は、碗の口縁部から胴部であり、明確ではないが外面にへら描き蓮弁文が描かれているが簡略化された形であり、連続ではなく個別に口唇部まで余裕を残して描かれている。338は、大きめの碗の底部であり、見込み部分には、花印文が見られる。見込み部分に目跡が3ヶ所見られ、高台中央部にわずかに釉薬が残る。339は、碗の底部であり、338と同様に見込み部分に目跡が3ヶ所見られる。340は碗の底部であり、厚手である。見込み部分にわずかであるが中央部が盛り上がっている。341は、碗の底部であり、高台中央部にわずかに釉薬が残っていることからドーナツ状のものに置いたと考えられ、さらに、見込み部分に別の焼き物を乗せた跡が見られる。338～341は、メンコのように意識的に割って使用したのではないと思われる。342と350は同一個体とみられ、内面部に印花模様が描かれている。343は、内

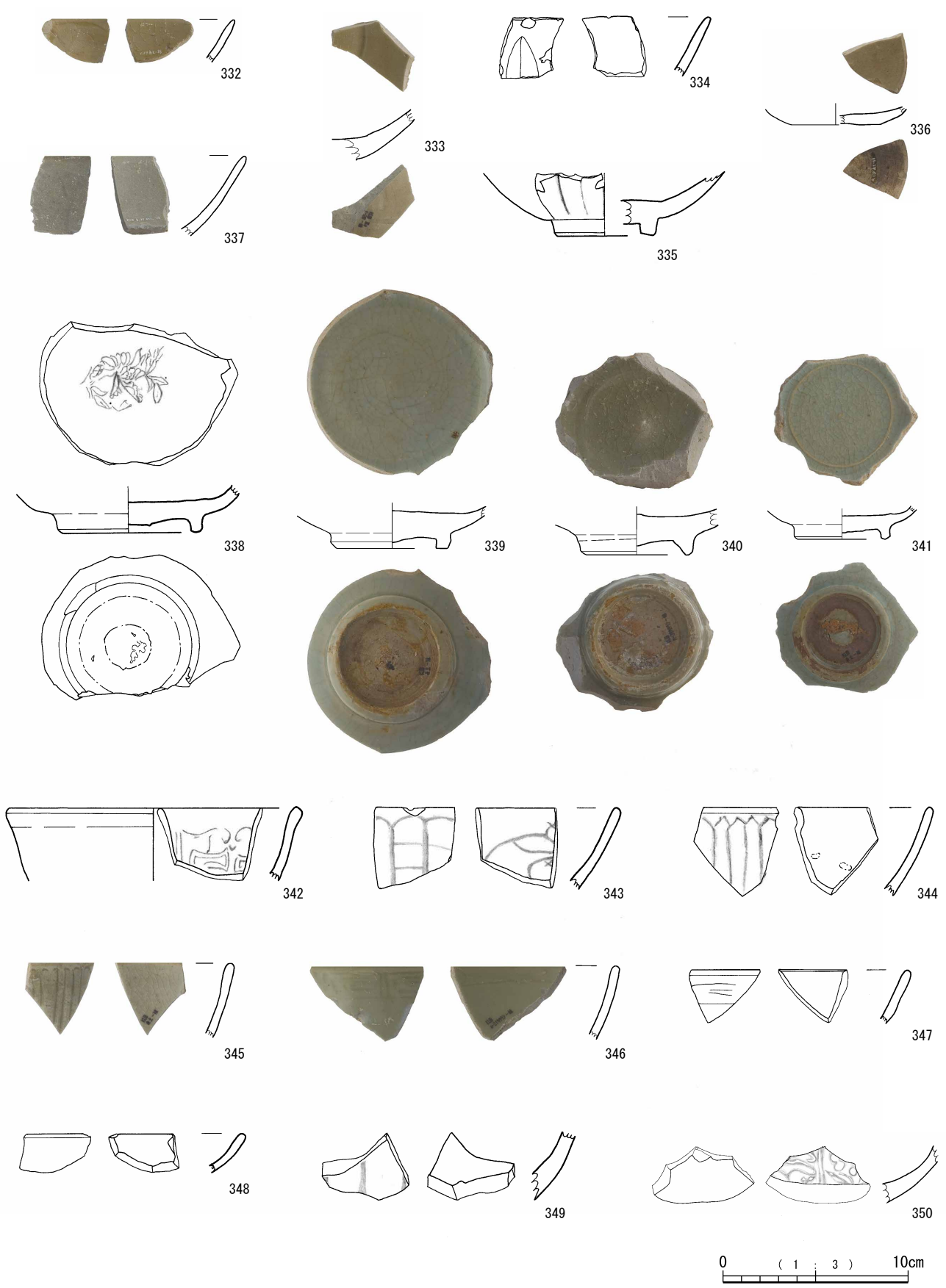
面にへら描きの蓮弁文が描かれている。また外面にも鎬蓮弁文様が描かれている。344は、剣先蓮弁文が描かれ、345は、碗の口縁部であり、剣先蓮弁文の簡略化された文様が描かれている。346・347は、碗の口縁部である。346は、雷文帯が鮮明に描かれているが347は、簡易化されて描かれている。内面は、凹凸が見られる。348は、碗の口縁部、349は碗の腰部で厚手である。350は、碗の腰部であり、内面に印花文様が描かれる。351～355は、碗の底部である。351は、厚手の碗であり高台は、直立し、外には広がらず釉薬を高台内部にもかけてある。見込み部分にはスタンプが見られる。352は内外面ともに高台・見込み部分から、区画部分を作っている。353は、高台部分が高く、釉薬を全面に施し、高台下部を内側に削る。354は高台部分の内部に釉薬をつけていない。355は高台部分に釉薬をつけずに見込み内部にも釉薬が見られない。356・357は、皿の口縁部である。356は、外反し、内面の口唇部付近に文様らしき大小二本の線が見られる。357は、内面上部に二条の細い線と太い線が見られ、中央部に細い線の文様と見られるものがあり、口唇部に刻みのような突起が見られる。358は、盤の口縁部であり、見込み部分に縦の規則正しい文様が見られる。359は、盤の底部であり全面に釉薬がかけてある。360は、Ⅲa層から検出された。1/4の残存状況であるが、合子蓋の一部と見られる。口径約4.4cm、底径約5.4cmで器高は、1.3cmである。黄みがかった白色である。

(2) 白磁 (第99図 361～364)

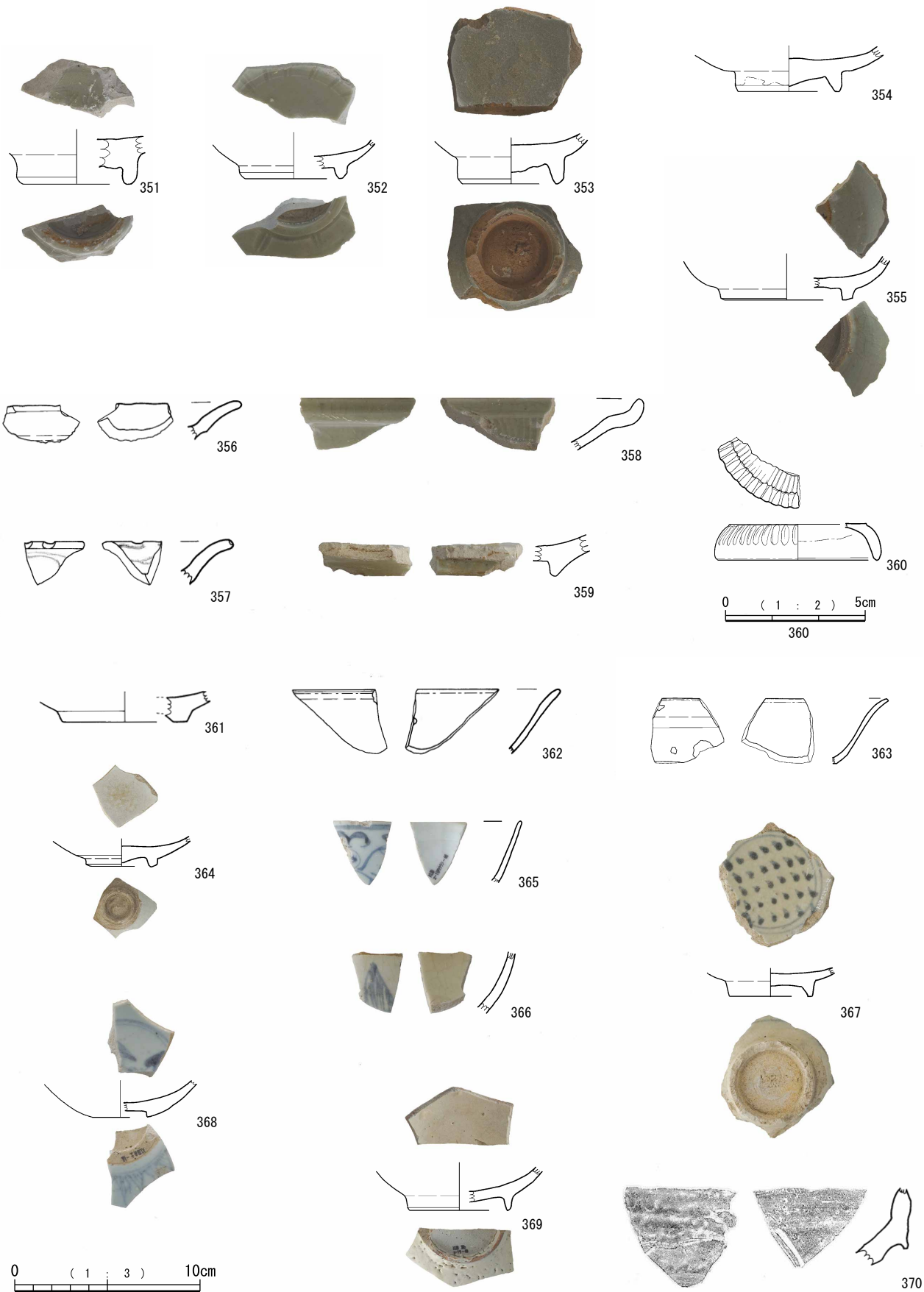
4点を図化したがいずれもあまり残存状況は良くない。361～363は、いずれも碗である。361は、b-27区からの出土で、底部の一部である。高台の畳付が幅広であり、削り出しが浅く、底部の器肉も厚い。また、若干であるが気泡痕とみれるものがある。362は、c-29区、363は、h-38区から出土し、いずれも施釉後に口縁部周辺の釉を掻き取る口禿げを施す。364は、e-30区から出土した皿の底部で底径が3.2cmである。高台を低く削り、中央部分から削り出し、中央部分に突起が見られる。釉を施さない。

(3) 染付 (第99図 365～368)

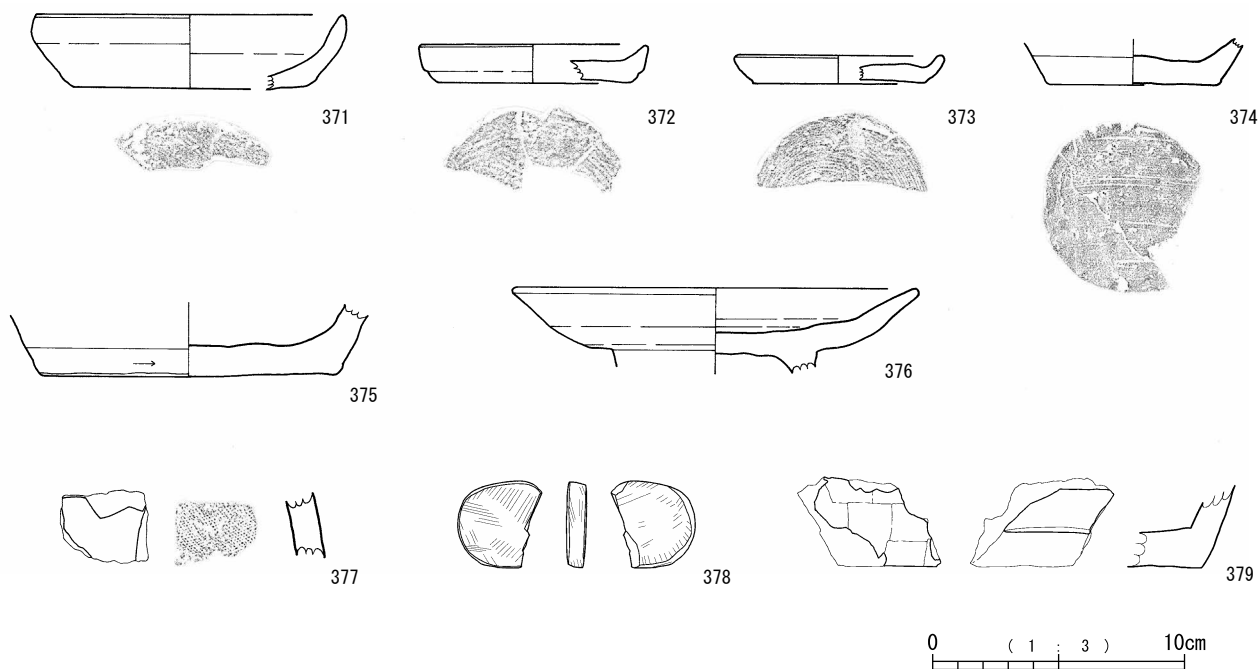
365は、碗の口縁部であり、外面に唐草の文様が描かれる。366は、碗の胴部であり、外側に蕉葉文を描く。367は碗の底部で高台内面を除き全面に施釉している。内外面ともに2条の界線を施す。見込み部分には、点状の描画を5列6行にわたり施す。368は、皿の底部で底径約3.0cmである。外面の底部には、釉がかからない。内外面ともに界線が巡り、外面には波状の文様が施される。



第 98 图 青磁 1



第 99 图 青磁 2 · 白磁 · 染付 · 陶器



第100図 土師器・その他

(4) 陶器 (第99図 369・370)

369は、碗の底部であり、内外面白化粧を施す。370は備前焼のすり鉢の口縁部である。外面に自然釉がかかる。

(5) 土師器 (第100図 371～376)

土師器は、皿と壺が出土した。371は、口径約12.1cm、底径約8.2cmである。底部は立ち上がりから口縁部にかけてやや湾曲している。ケズリ痕を残しており、底部は糸切りである。372は、口径約9.1cm、底径8.0cmである。底面に糸切りを行ったであろう痕跡を見ることができる。373は、口径約8.2cm、底径7.2cmである。底面をナデ調整により、ケズリ痕を消している。374は、底径6.6cmであり、ケズリ痕を残す。372～374はいずれも糸切り底であり、口径も10cm以下であることから小皿とした。

375は、土師器の壺の底部である。底径約10.6cmを測り、底面は、植物ケズリ痕を残している。見込み部分にナデ調整を施し、おさえの痕が残る。376は、高台付の皿の口唇部からゆがみが見られるが底部であると思われ

る。高台取り付け部分が明瞭な痕跡が残り、一部ナデ調整を施している。立ち上がりが広く外反はしていない。内外面はナデ調整が施され、胎土が赤褐色である。石粒等を多く含み白色の胎土の筋が見られる。

(6) 製塩土器 (第100図 377)

377は、胴部であり、内面には布目痕のある素焼きである。製塩壺の一部と見られる。

(7) 石製品 (第100図 378)

378は、一部欠損しているが、約半分程度が残存していると考えられ、残存全面に成形の擦痕が見られる。石材は安山岩であり、縦2.4cm、横3.4cm、厚さ0.8cm、重さ9.0gである。形状等から石帯と考える。

(8) 石鍋 (第100図 379)

379は、Ⅲb層から出土した。残存部分が少なく底部から立ち上がりにかけて一部欠けているが滑石製の石鍋である。

(9) 鉄器 (第 101 図 380 ~ 382)

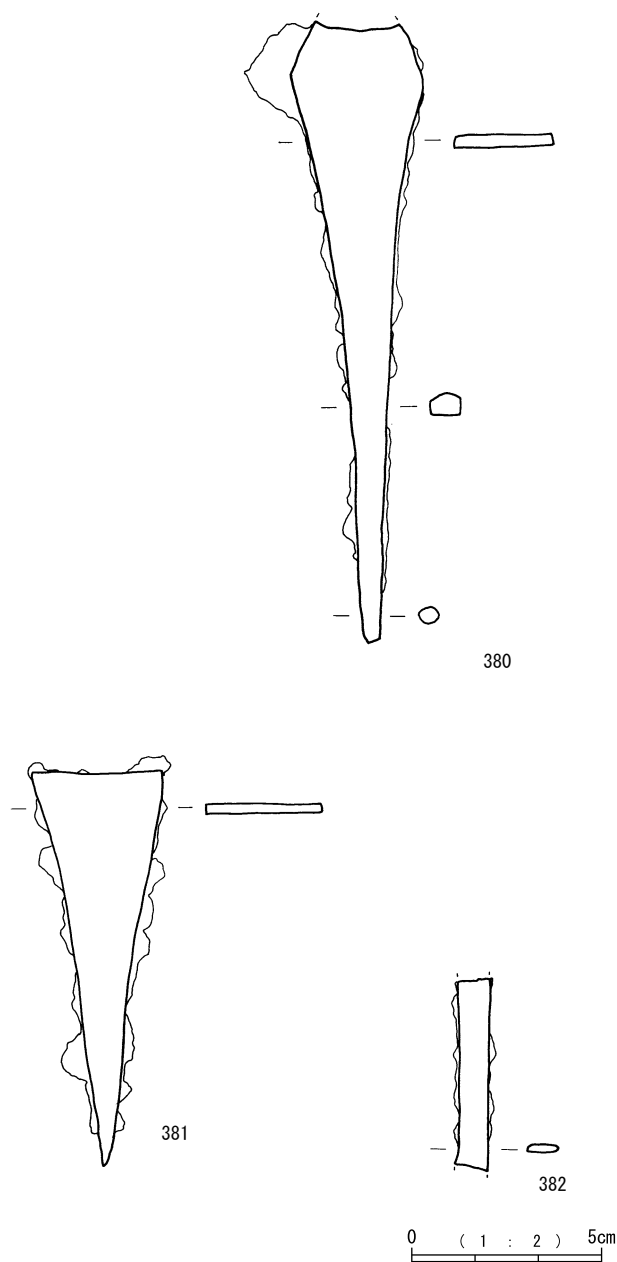
包含層から出土した鉄器は、方頭鎌が C-2 区及び E-2 区から 1 点ずつの計 2 点が出土している。その他の区では、器種を特定できるものの出土はなく破片ばかりであった。そのため、時期ごとに分けて掲載せず鉄製品としてまとめて報告する。実測可能なものについては図化し、その他については写真を文中及び写真図版に掲載する。

380 は、方頭鎌である。E-2 区の III b 層から出土した。刃部先端を欠いている。全長は不明であるが、残存部位から約 17cm 程と推定できる。全体に菱形の形状を呈する。刃部は断面形が扁平であり、最大幅 3.6cm で、厚み 3mm を測る。頸部は片側が膨らみを持ち、五角形状を呈し、厚さ 6mm を測る。茎部の先端は丸く、径 4.5mm を測る。表面の錆が進行しているが、内部はしっかりとしている。中心部から錆が進行しつつある。381 は、方頭鎌である。C-2 区の III a 層から出土した。完全品である。平らな刃部を作り出し、細長い逆二等辺三角形形状を呈する。長さ 10.5cm、刃部の幅 3.4cm、刃部の端部から 1cm の箇所での厚さ 2.5mm を測る。断面形状は方形である。付着物等は観察できなかつた。表面の錆は進行している。382 は、c-23 区の攪乱から出土した。平面形は棒状を呈し、最大長 5.1cm、最大幅 0.8cm、厚さ 0.2cm を測る。器種や時期は不明である。

包含層からは器種を特定できるものの出土は少なく、破片ばかりであり、時期の特定は困難であった。また、鉄滓が数点出土しているが、焼土や炉壁などは出土していない。参考資料として、現代の攪乱層からの出土の鉄製品と機銃弾を写真図版に掲載した。

(10) 古銭 (写真 3)

E-30 区から洪武通宝が 1 点出土した。そのほか遺構内から洪武通宝 1 点と不明の 1 点の 2 点が出土している。383 は、径 2.3cm の洪武通宝である。裏面に文字等はなく、付着物も観察できない。



第 101 図 鉄器



写真 3 包含層出土の古銭

第7表 遺構番号新旧対応表

新	旧	時期
1号掘立柱建物跡	SB26	古代
2号掘立柱建物跡	SB22	古代
3号掘立柱建物跡	SB23	古代
4号掘立柱建物跡	SB21	古代
5号掘立柱建物跡	SB15	古代
6号掘立柱建物跡	SB10	古代
7号掘立柱建物跡	SB6	古代
8号掘立柱建物跡	SB5	古代
9号掘立柱建物跡	SB25	中世
10号掘立柱建物跡	SB20	中世
11号掘立柱建物跡	SB19	中世
12号掘立柱建物跡	SB24	中世
13号掘立柱建物跡	SB16	中世
14号掘立柱建物跡	SB17	中世
15号掘立柱建物跡	SB14	中世
16号掘立柱建物跡	SB11	中世
17号掘立柱建物跡	SB12	中世
18号掘立柱建物跡	SB13	中世
19号掘立柱建物跡	SB18	中世
20号掘立柱建物跡	SB2	中世
21号掘立柱建物跡	SB1	中世
22号掘立柱建物跡	SB9	中世
23号掘立柱建物跡	SB8	中世
24号掘立柱建物跡	SB7	中世
25号掘立柱建物跡	SB4	中世
26号掘立柱建物跡	SB3	中世
1号土坑	SK28	古代
2号土坑	SK29	古代
3号土坑	SK38	古代
4号土坑	SK37	古代
5号土坑	SK16	古代
6号土坑	SK10	古代
7号土坑	SK34	古代
8号土坑	SK47	古代
9号土坑	SK15	古代
10号土坑	SL1-②	古代
11号土坑	SL1-③	古代
12号土坑	SL1-①	古代
13号土坑	SK27	中世
14号土坑	SK30	中世
15号土坑	SK26	中世
16号土坑	SK1	中世
17号土坑	SK2	中世
18号土坑	SK3	中世
19号土坑	SX9	中世
20号土坑	SJ1	中世

新	旧	時期
溝状遺構 1	SD24	中世
溝状遺構 2	SD23	中世
溝状遺構 3	SD25	中世
溝状遺構 4	SD22	中世
溝状遺構 5	SD21	中世
溝状遺構 6	SD19	中世
溝状遺構 7	SD12	中世
溝状遺構 8	SD13	中世
溝状遺構 9	SD17	中世
溝状遺構10	SD 7	中世
溝状遺構11	SD 4	中世
溝状遺構12	SD 8	中世
溝状遺構13	SD 9	中世
溝状遺構14	SD 5	中世
溝状遺構15	SD 6	中世
溝状遺構16	SX 3	中世
溝状遺構17	SX 5	中世
溝状遺構18	SX 7	中世
溝状遺構19	SX 2	中世
溝状遺構20	SX 2	中世
溝状遺構21	SD 3	中世
溝状遺構22	SX 6	中世
溝状遺構23	SD 2	中世
溝状遺構24	SD 1	中世
溝状遺構25	SX 1	中世
古道 1	KM 8	中世
古道 2	KM 9	中世
古道 3	KM 5	中世
古道 4	SD18	中世
古道 5	KM 6	中世
古道 6	KM 1	中世
古道 7	KM 3	中世
古道 8	SD10	中世
古道 9	SD11	中世
古道10	SD15	中世
古道11	KM 4	中世
古道12	KM 2	中世
古道13	SX 8	中世
古道14	SF 1	中世
古道15	SF 2	中世

第8表 古代の掘立柱建物跡計測表

1号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -13° - W 柱穴間距離 (cm)		
No	長軸	短軸	深さ				
P 1	51	48	81	桁行	P10 ~ P 5	510	
P 2	52	50	77		P10 ~ P 3	180	
P 3	52	(44)	40		P 3 ~ P 4	160	
P 4	49	47	53		P 4 ~ P 5	170	
P 5	(51)	43	70		P 1 ~ P 7	500	
P 6	41	40	35		P 1 ~ P 9	170	
P 7	50	(45)	42		P 9 ~ P 8	162	
P 8	45	(44)	61		P 8 ~ P 7	169	
P 9	49	45	62		P10 ~ P 1	373	
P10	50	45	85		P10 ~ P 2	193	
梁行						P 2 ~ P 1	180
						P 5 ~ P 7	380
						P 5 ~ P 6	180
						P 6 ~ P 7	201

2号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -88° - E 柱穴間距離 (cm)		
No	長軸	短軸	深さ				
P 1	(45)	(43)	39	桁行	P 1 ~ P 5	795	
P 2	61	(56)	30		P 1 ~ P 2	190	
P 3	74	65	40		P 2 ~ P 3	190	
P 4	78	72	33		P 3 ~ P 4	206	
P 5	64	56	50		P 4 ~ P 5	214	
P 6	77	(66)	19		P11 ~ P 7	805	
P 7	97	(76)	52		P11 ~ P10	200	
P 8	68	57	43		P10 ~ P 9	180	
P 9	76	(65)	35		P 9 ~ P 8	215	
P10	59	(46)	48		P 8 ~ P 7	215	
梁行						P 1 ~ P11	505
						P 1 ~ P12	270
						P12 ~ P11	230
						P 5 ~ P 7	520
						P 5 ~ P 6	265
						P 6 ~ P 7	255

3号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -87° - E 柱穴間距離 (cm)		
No	長軸	短軸	深さ				
P 1	(60)	53	23	桁行	P 1 ~ P 4	498	
P 2	(66)	56	18		P 1 ~ P 2	152	
P 3	75	(62)	34		P 2 ~ P 3	171	
P 4	68	(66)	37		P 3 ~ P 4	165	
P 5	60	(58)	38		P 9 ~ P 5	674	
P 6	59	(56)	24		P 9 ~ P 8	178	
P 7	66	61	43		P 8 ~ P 7	168	
P 8	67	(57)	32		P 7 ~ P 6	138	
P 9	(59)	57	18		P 6 ~ P 5	192	
P10	74	73	33		P 1 ~ P 9	525	
梁行						P 1 ~ P10	263
						P10 ~ P 9	265

4号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -78° - E 柱穴間距離 (cm)		
No	長軸	短軸	深さ				
P 4	(40)	(34)	36	桁行	P16 ~ P 4	507	
P 5	39	(38)	34		P16 ~ P11	187	
P 6	40	38	34		P11 ~ P12	166	
P 7	39	(38)	34		P12 ~ P 4	153	
P 9	(42)	37	34		P14 ~ P 6	510	
P10	(39)	(38)	12		P14 ~ P 9	177	
P11	50	(36)	54		P 9 ~ P 7	172	
P12	(38)	(34)	40		P 7 ~ P 6	161	
P14	(33)	29	45		P15 ~ P10	194	
P15	45	35	45		P16 ~ P14	365	
梁行						P16 ~ P15	177
						P15 ~ P14	189
						P 4 ~ P 6	370
						P 4 ~ P 5	181
P 5 ~ P 6	190						

5号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N - 3° - W 柱穴間距離 (cm)		
No	長軸	短軸	深さ				
P 1	81	(80)	80	桁行	P12 ~ P 6	1025	
P 2	109	85	108		P12 ~ P 2	225	
P 3	94	85	85		P 2 ~ P 3	217	
P 4	90	84	94		P 3 ~ P 4	177	
P 5	83	75	102		P 4 ~ P 5	207	
P 6	83	70	102		P 5 ~ P 6	200	
P 7	89	82	110		P14 ~ P11	1065	
P 8	76	71	93		P14 ~ P 1	230	
P 9	(87)	76	82		P 1 ~ P10	195	
P10	(84)	(82)	92		P10 ~ P 9	193	
梁行						P 9 ~ P 8	200
						P 8 ~ P11	250
						P12 ~ P14	450
						P12 ~ P13	210
						P13 ~ P14	240
						P 6 ~ P11	480
						P 6 ~ P 7	237
						P 7 ~ P11	235

6号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -88° - E 柱穴間距離 (cm)		
No	長軸	短軸	深さ				
P 1	62	51	57	桁行	P 1 ~ P 5	800	
P 2	68	(54)	50		P 1 ~ P 2	220	
P 3	(60)	52	63		P 2 ~ P 3	181	
P 4	64	58	75		P 3 ~ P 4	182	
P 5	70	62	63		P 4 ~ P 5	204	
P 6	(74)	62	65		P11 ~ P 7	780	
P 7	92	65	64		P11 ~ P10	197	
P 8	61	56	60		P10 ~ P 9	200	
P 9	82	62	56		P 9 ~ P 8	205	
P10	84	70	52		P 8 ~ P 7	180	
梁行						P15 ~ P16	155
						P16 ~ P17	190
						P 1 ~ P11	450
						P 1 ~ P12	210
						P12 ~ P11	243
						P 3 ~ P 9	480
						P 3 ~ P13	251
						P13 ~ P 9	224
						P 5 ~ P 7	465
						P 5 ~ P 6	238
P 6 ~ P 7	228						

7号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -84° - E 柱穴間距離 (cm)		
No	長軸	短軸	深さ				
P 1	40	35	27	桁行	P 1 ~ P 4	535	
P 2	34	29	16		P 1 ~ P 2	173	
P 3	45	42	25		P 2 ~ P 3	186	
P 4	55	47	45		P 3 ~ P 4	175	
P 5	41	40	42		P10 ~ P 5	540	
P 6	55	47	62		P10 ~ P11	177	
P 7	42	38	19		P11 ~ P12	190	
P 8	50	48	27		P12 ~ P 5	177	
P 9	41	41	37		P 9 ~ P 6	550	
P10	34	30	18		P 9 ~ P 8	160	
P11	40	38	29		P 8 ~ P 7	180	
P12	49	43	17		P 7 ~ P 6	205	
梁行						P 1 ~ P 9	400
						P 1 ~ P10	190
						P10 ~ P 9	205
						P 2 ~ P 8	400
						P 2 ~ P11	195
						P11 ~ P 8	205
						P 3 ~ P 7	395
						P 3 ~ P12	195
						P12 ~ P 7	190
						P 4 ~ P 6	380
P 4 ~ P 5	185						
P 5 ~ P 6	192						

8号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N - 0° - W · E 柱穴間距離 (cm)		
No	長軸	短軸	深さ		方向	柱穴間距離 (cm)	
P 1	40	38	38	桁行	P 4 ~ P 9	804	
P 2	54	46	56		P 4 ~ P 2	630	
P 3	60	52	26		P 3 ~ P 2	224	
P 4	52	50	68		P20 ~ P17	634	
P 5	44	40	46		P18 ~ P17	224	
P 6	50	45	42		P21 ~ P26	616	
P 7	52	48	40		P21 ~ P28	206	
P 8	54	53	44		P28 ~ P27	208	
P 9	57	54	58		P27 ~ P26	208	
P10	44	42	18		P22 ~ P25	624	
P11	56	50	46		P22 ~ P23	204	
P12	36	32	46		P23 ~ P24	212	
P13	52	42	54		P24 ~ P25	210	
P14	42	40	40		P 9 ~ P12	612	
P15	45	43	40		P10 ~ P11	216	
P16	46	40	32		P11 ~ P12	204	
P17	30	28	8		P 5 ~ P20	126	
P18	52	48	46		P 6 ~ P21	128	
P19	53	50	36		P 7 ~ P22	116	
P20	52	(46)	56		P 8 ~ P 9	130	
P21	42	40	54		P 2 ~ P 1	126	
P22	42	34	20		P17 ~ P16	142	
P23	42	40	54		P26 ~ P15	140	
P24	54	44	50		P25 ~ P14	148	
P25	64	60	66		P12 ~ P13	124	
P26	56	54	18				
P27	56	52	58				
P28	42	38	40				

第9表 中世の掘立柱建物跡計測表 1

9号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -75° - W 柱穴間距離 (cm)	
No.	長軸	短軸	深さ			
P 1	27	23	41	桁行	P 1 ~ P 4	560
P 2	22	19	23		P 1 ~ P 2	187
P 3	28	26	13		P 2 ~ P 3	184
P 4	29	26	28		P 3 ~ P 4	189
P 5	22	19	24		P 8 ~ P 6	550
P 6	20	19	14		P 7 ~ P 6	174
P 7	30	23	43	梁行	P 1 ~ P 8	347
P 8	27	23	43		P 1 ~ P 9	160
P 9	24	23	21		P 9 ~ P 8	187
					P 4 ~ P 6	337
					P 4 ~ P 5	171
				P 5 ~ P 6	167	

10号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -13° - E 柱穴間距離 (cm)	
No.	長軸	短軸	深さ			
P 1	25	24	18	桁行	P 2 ~ P11	523
P 2	31	27	11		P 2 ~ P 3	152
P 3	24	21	13		P 3 ~ P 4	186
P 4	24	22	16		P 4 ~ P11	186
P 6	21	19	12		P 1 ~ P 7	525
P 7	25	24	21		P 1 ~ P 9	174
P 8	25	22	16		P 9 ~ P 8	170
P 9	26	23	19		P 8 ~ P 7	181
P10	21	19	14		P 2 ~ P 1	319
P11	31	28	21		P 2 ~ P10	181
					P10 ~ P 1	188
				P11 ~ P 7	368	
				P11 ~ P 6	162	
				P 6 ~ P 7	208	

11号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -12° - E 柱穴間距離 (cm)	
No.	長軸	短軸	深さ			
P 1	27	25	8	桁行	P 3 ~ P 5	405
P 2	24	21	5		P 3 ~ P 4	200
P 3	25	24	11		P 4 ~ P 5	207
P 4	27	24	15		P 1 ~ P 7	403
P 5	25	24	12		P 1 ~ P 8	198
P 6	19	17	5		P 8 ~ P 7	206
P 7	20	(18)	13		P 3 ~ P 1	317
P 8	22	19	9		P 3 ~ P 2	152
				梁行	P 2 ~ P 1	165
					P 5 ~ P 7	286
					P 5 ~ P 6	116
					P 6 ~ P 7	172

12号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N - 0° - W · E 柱穴間距離 (cm)	
No.	長軸	短軸	深さ			
P 1	36	31	42	桁行	P 1 ~ P 8	395
P 3	36	31	40		P 1 ~ P 9	188
P 4	48	33	48		P 9 ~ P 8	207
P 5	32	24	30		P 1 ~ P 4	186
P 6	28	24	24	梁行	P 8 ~ P 4	370
P 7	21	19	22		P 8 ~ P11	180
P 8	30	28	24		P11 ~ P 4	190
P 9	34	29	44		P 7 ~ P 5	433
P11	30	27	35		P 7 ~ P 6	247
					P 6 ~ P 5	186

13号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N - 5° - E 柱穴間距離 (cm)	
No.	長軸	短軸	深さ			
P 1	20	18	20	桁行	P 3 ~ P 5	380
P 2	18	16	6		P 3 ~ P 4	177
P 3	19	17	37		P 4 ~ P 5	203
P 4	25	21	41		P 1 ~ P 6	380
P 5	20	19	18		P 1 ~ P 7	195
P 6	20	18	36		P 7 ~ P 6	190
P 7	16	13	12		P 3 ~ P 1	355
				梁行	P 3 ~ P 2	158
					P 2 ~ P 1	193
					P 5 ~ P 6	389

14号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -83° - W 柱穴間距離 (cm)	
No.	長軸	短軸	深さ			
P1	24	20	23	桁行	P1 ~ P4	615
P2	23	-	36		P1 ~ P2	196
P3	20	19	25		P2 ~ P3	216
P4	25	24	18		P3 ~ P4	203
P5	22	19	34		P8 ~ P6	585
P6	22	21	32		P8 ~ P7	192
P7	21	18	34		P1 ~ P8	518
P8	28	23	29		P4 ~ P6	455
				梁行	P4 ~ P5	195
					P5 ~ P6	262

15号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N - 6° - E 柱穴間距離 (cm)	
No.	長軸	短軸	深さ			
P 1	26	23	17	桁行	P 3 ~ P 5	449
P 2	19	16	12		P 3 ~ P 4	226
P 3	25	20	32		P 4 ~ P 5	223
P 4	21	20	15		P 1 ~ P 7	480
P 5	24	21	39		P 1 ~ P 8	240
P 6	24	21	20		P 8 ~ P 7	240
P 7	26	22	27		P 3 ~ P 1	400
P 8	29	22	28		P 3 ~ P 2	190
				梁行	P 2 ~ P 1	212
					P 5 ~ P 7	410
					P 5 ~ P 6	206
					P 6 ~ P 7	201

16号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -80° - E	
No.	長軸	短軸	深さ		柱穴間距離 (cm)	方向
P 1	25	19	37	桁行	P 1 ~ P 4	385
P 2	21	20	36		P 1 ~ P 2	170
P 3	24	23	22		P 2 ~ P 4	215
P 4	23	22	45		P 1 ~ P 3	202
P 5	25	24	43		P 3 ~ P 4	184
P 6	20	18	11		P11 ~ P 5	420
P 7	28	23	23		P11 ~ P12	190
P 8	21	20	6		P12 ~ P 5	225
P 9	27	23	25		P13 ~ P 5	185
P10	26	22	48		P11 ~ P13	230
P11	30	22	35		P10 ~ P 6	405
P12	24	21	24		P10 ~ P 9	170
P13	25	22	23		P 9 ~ P 6	235
				P10 ~ P 8	214	
				P 8 ~ P 6	191	

17号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -75° - E 柱穴間距離 (cm)	
No.	長軸	短軸	深さ			
P 1	26	24	21	桁行	P 1 ~ P 3	399
P 2	27	24	26		P 1 ~ P 2	191
P 3	25	23	19		P 2 ~ P 3	208
P 4	25	23	17		P 6 ~ P 4	409
P 5	28	25	31		P 6 ~ P 5	208
P 6	26	24	18		P 5 ~ P 4	201
P 7	21	18	12		P 7 ~ P 8	206
P 8	21	21	37		梁行	P 1 ~ P 6
				P 1 ~ P 7		168
				P 7 ~ P 6		190
				P 2 ~ P 5		360
				P 2 ~ P 8		177
				P 8 ~ P 5		183
				P 3 ~ P 4		368

18号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N - 8° - W 柱穴間距離 (cm)	
No.	長軸	短軸	深さ			
P 1	22	22	26	桁行	P 3 ~ P 5	313
P 2	23	21	25		P 3 ~ P 4	190
P 3	18	16	23		P 4 ~ P 5	123
P 4	25	22	23		P 2 ~ P 6	306
P 5	32	23	29		P 2 ~ P 8	188
P 6	27	26	38		P 8 ~ P 6	117
P 7	27	-	22		P 1 ~ P 7	180
				梁行	P 3 ~ P 1	247
					P 3 ~ P 2	140
					P 2 ~ P 1	106
					P 4 ~ P 7	308
					P 4 ~ P 8	140
					P 8 ~ P 7	167
					P 5 ~ P 6	147

19号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -74° - E 柱穴間距離 (cm)	
No.	長軸	短軸	深さ			
P 1	24	24	17	桁行	P 1 ~ P 2	205
P 2	26	24	30		P 6 ~ P 3	636
P 3	26	25	14		P 6 ~ P 5	211
P 4	23	22	22		P 5 ~ P 4	208
P 5	31	28	17		P 4 ~ P 3	219
P 6	31	25	15		P 9 ~ P10	221
P 7	27	23	18		P11 ~ P 6	124
P 8	25	23	18		P 1 ~ P 6	408
P 9	22	19	21		P 1 ~ P 7	218
P10	21	18	28		P 7 ~ P 6	189
P11	17	16	16		P 2 ~ P 5	397
P12	25	21	17		P 2 ~ P 8	167
P13	18	17	13		P 8 ~ P 5	237
				梁行	P13 ~ P11	375
					P13 ~ P12	193
				P12 ~ P11	181	

第 10 表 中世の掘立柱建物跡計測表 2

20 号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -75° - E 柱穴間距離 (cm)		
No	長軸	短軸	深さ				
P 1	27	26	26	桁行	P 1 ~ P 3	338	
P 2	26	24	21		P 1 ~ P 2	165	
P 3	31	30	27		P 2 ~ P 3	173	
P 4	24	22	17		P 7 ~ P 5	364	
P 5	20	19	27		P 7 ~ P 6	193	
P 6	25	22	24		P 6 ~ P 5	168	
P 7	26	24	26		P 9 ~ P 1	128	
P 8	24	20	23		P13 ~ P 7	140	
P 9	30	29	29		P 1 ~ P 7	348	
P13	26	21	26		P 1 ~ P 8	165	
P14	26	24	17		P 8 ~ P 7	180	
					梁行	P 3 ~ P 5	343
						P 3 ~ P 4	176
						P 4 ~ P 5	165
				P 9 ~ P13		360	
				P 9 ~ P14		186	
					P14 ~ P13	170	

21 号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -76° - E 柱穴間距離 (cm)	
No	長軸	短軸	深さ			
P 1	22	14	10	桁行	P 1 ~ P 5	822
P 2	22	19	19		P 1 ~ P 2	203
P 3	19	18	19		P 2 ~ P 3	213
P 4	20	20	22		P 3 ~ P 4	207
P 5	21	20	16		P 4 ~ P 5	200
P 6	22	18	24		P11 ~ P 7	834
P 7	24	22	22		P11 ~ P10	210
P 8	27	22	15		P10 ~ P 9	225
P 9	14	11	12		P 9 ~ P 8	203
P10	20	19	19		P 8 ~ P 7	193
P11	24	22	19		P 1 ~ P11	326
P12	25	24	14		P 1 ~ P12	165
P13	21	19	11		P12 ~ P11	165
					梁行	P 3 ~ P 9
				P 3 ~ P13		172
				P13 ~ P 9		163
				P 5 ~ P 7		312
					P 5 ~ P 6	152
					P 6 ~ P 7	155

22 号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -80° - E 柱穴間距離 (cm)		
No	長軸	短軸	深さ				
P 1	30	26	34	桁行	P 1 ~ P 4	595	
P 2	27	22	29		P 1 ~ P 2	223	
P 3	35	32	33		P 2 ~ P 3	182	
P 4	31	29	33		P 3 ~ P 4	184	
P 5	17	16	8		P 9 ~ P 6	545	
P 6	34	31	57		P 9 ~ P 8	182	
P 7	30	27	26		P 8 ~ P 7	173	
P 8	30	27	35		P 7 ~ P 6	185	
P 9	43	-	-		梁行	P 1 ~ P 9	375
P10	33	30	38			P 1 ~ P10	165
				P10 ~ P 9		210	
				P 4 ~ P 5		390	
				P 5 ~ P 6		183	

23 号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -6° - E 柱穴間距離 (cm)		
No	長軸	短軸	深さ				
P 1	23	20	21	桁行	P 3 ~ P 5	415	
P 2	24	-	20		P 3 ~ P 4	210	
P 3	22	21	18		P 4 ~ P 5	204	
P 4	20	-	16		P 2 ~ P 6	405	
P 5	20	19	13		P 2 ~ P 9	225	
P 6	29	-	34		P 9 ~ P 6	180	
P 7	30	25	24		P 1 ~ P 7	410	
P 8	34	25	20		P 1 ~ P 8	215	
P 9	26	24	22		P 8 ~ P 7	200	
					梁行	P 3 ~ P 1	350
						P 3 ~ P 2	184
						P 2 ~ P 1	166
						P 4 ~ P 8	320
						P 4 ~ P 9	170
				P 9 ~ P 8		157	
				P 5 ~ P 7		335	
				P 5 ~ P 6	162		
					P 6 ~ P 7	175	

24 号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -16° - W 柱穴間距離 (cm)		
No	長軸	短軸	深さ				
P 1	19	15	17	桁行	P 3 ~ P 6	720	
P 2	31	28	21		P 3 ~ P 4	235	
P 3	33	22	33		P 4 ~ P 5	235	
P 4	27	24	44		P 5 ~ P 6	246	
P 5	26	22	21		P 1 ~ P 8	740	
P 6	29	25	26		P 1 ~ P10	240	
P 7	25	20	21		P10 ~ P 9	247	
P 8	28	25	38		P 9 ~ P 8	252	
P 9	23	18	21		P 3 ~ P 1	405	
P10	27	22	28		P 3 ~ P 2	209	
					梁行	P 2 ~ P 1	191
						P 6 ~ P 8	395
						P 6 ~ P 7	200
						P 7 ~ P 8	194

25 号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -71° - E 柱穴間距離 (cm)	
No	長軸	短軸	深さ			
P 1	27	25	35	桁行	P 1 ~ P 3	398
P 2	32	24	46		P 1 ~ P 2	200
P 3	39	29	61		P 2 ~ P 3	204
P 4	31	27	71		P 6 ~ P 4	396
P 5	34	28	50		P 6 ~ P 5	198
P 6	37	32	69		P 5 ~ P 4	198
P 7	30	29	47		P 7 ~ P 1	116
P 8	23	21	20		P 3 ~ P 8	95
P 9	37	28	63		P10 ~ P 6	117
P10	29	25	68		P 4 ~ P 9	133
				梁行	P 1 ~ P 6	207
					P 3 ~ P 4	196
					P 7 ~ P10	190
					P 8 ~ P 9	189

26 号掘立柱建物跡

柱穴 (cm)				主軸 方向	N -71° - E 柱穴間距離 (cm)	
No	長軸	短軸	深さ			
P 1	33	30	71	桁行	P 1 ~ P 3	402
P 2	37	34	51		P 1 ~ P 2	197
P 3	31	29	68		P 2 ~ P 3	202
P 4	34	31	56		P 6 ~ P 4	394
P 5	30	26	52		P 6 ~ P 5	198
P 6	40	37	64		P 5 ~ P 4	192
P 7	41	35	52		P 7 ~ P 1	106
P 8	33	24	60		P 3 ~ P 8	126
P 9	29	26	54		P10 ~ P 6	130
P10	37	32	57		P 4 ~ P 9	122
				梁行	P 1 ~ P 6	226
					P 3 ~ P 4	228
					P 7 ~ P10	220
					P 8 ~ P 9	245

第 11 表 古代の遺構内出土遺物観察表

挿図番号	掲載番号	遺構名	取上番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整 (外)	調整 (内)	色調 (外)	色調 (内)	備考
26	1	3号掘立柱建物跡	SB023-P10-2	土師器	坏	口縁～底部	(13.2)	5.4	4.2	ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ヘラ切り
	2	5号掘立柱建物跡	SB015-P12-一括	土師器	埴	口縁～底部	(16.0)	8.6	6.1	ナデ	ナデ	2.5YR5/6 明赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	ヘラ切り
	3	5号掘立柱建物跡	SB015-P10-一括	土師器	坏	口縁～底部	(10.9)	(5.9)	4.6	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐 2.5Y4/1 黄灰	7.5YR5/4 にぶい褐	ヘラ切り
28	4	6号掘立柱建物跡	SB010-P15-1	土師器	坏	口縁～底部	(13.0)	(6.6)	4.9	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヘラ切り
	5	6号掘立柱建物跡	SB010-P14-2	土師器	坏	口縁～胴部	(12.4)	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	
	6	6号掘立柱建物跡	SB010-P12-1	土師器	皿	胴～底部	-	11.2	-	ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR5/4 にぶい褐	
	7	6号掘立柱建物跡	SB010-P14-1	土師器	甗	把手	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	
29	8	6号掘立柱建物跡	SB010-P15-2	須恵器	壺	胴部	-	-	6.0	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄	
	9	6号掘立柱建物跡	SB010-P5-1・P3-1	須恵器	大壺	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐 2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/2 暗灰黄 10YR5/2 灰黄褐	
33	10	6号土坑	SK010-1	土師器	壺	口縁～胴部	(28.0)	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	
34	11	7号土坑	SK034-1	土師器	坏	口縁～底部	(12.4)	7.7	3.5	ナデ	ナデ	2.5YR6/3 にぶい橙 10YR5/3 にぶい黄褐	2.5YR6/3 にぶい橙 10YR5/3 にぶい黄褐	ヘラ切り
	12	7号土坑	SK034-6. x-17-III b-22920	土師器	鉢	口縁～胴部	(20.6)	-	-	ナデ	ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	
	13	7号土坑	SK034-4. X-17-III b-18083	土師器	坏	口縁～底部	(13.7)	8.0	4.6	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐 10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐 2.5Y4/2 暗灰黄	ヘラ切り・墨書
	14	7号土坑	SK034-2・3. SH021-一括	須恵器	坏	完形	12.8	7.6	3.9	ナデ	ナデ	5Y5/2 灰オリーブ	2.5YR5/2 暗灰黄	ヘラ切り
	15	7号土坑	SK034-5・9. X-17-III -一括	須恵器	埴	口縁～底部	(16.0)	(9.2)	7.0	ナデ	ナデ	7.5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	
35	16	9号土坑	SK015-28. d-29-カクラン一括	土師器	坏	完形	12.8	6.2	4.9	ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙 7.5YR4/2 灰褐	10YR6/3 にぶい黄橙	ヘラ切り
	17	9号土坑	SK015-6	土師器	坏	口縁～底部	12.8	(6.3)	3.8	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	2.5YR5/6 明赤褐 5YR6/4 にぶい橙	ヘラ切り
	18	9号土坑	SK015-47・21	土師器	坏	口縁～底部	(12.8)	(7.0)	4.3	ナデ	ナデ	5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙	5YR5/4 にぶい赤褐	ヘラ切り
	19	9号土坑	SK015-32・48	土師器	坏	口縁～底部	(14.0)	(7.0)	(4.5)	ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	
	20	9号土坑	SK015-25	土師器	坏	口縁～底部	(12.8)	(6.6)	(3.9)	ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	
	21	9号土坑	SK015-15	土師器	坏	口縁～胴部	(11.2)	-	-	ナデ	ナデ	5YR5/6 明赤褐	7.5YR6/4 にぶい橙	
	22	9号土坑	SK015-16	土師器	坏	口縁～底部	(12.6)	(7.6)	3.8	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	ヘラ切り
	23	9号土坑	SK015-35	土師器	皿	完形	14.4	11.6	2.3	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR4/4 にぶい赤褐	ヘラ切り
	24	9号土坑	SK015-11・22・40	土師器	坏	完形	12.7	6.4	4.7	ナデ	ナデ	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	ヘラ切り・墨書
	25	9号土坑	SK015-34・37	土師器	坏	完形	12.7	7.1	4.6	ナデ	ナデ	5YR6/4 にぶい橙	5YR5/4 にぶい赤褐	ヘラ切り・墨書
	26	9号土坑	SK015-20	土師器	坏	口縁～胴部	(12.4)	(8.6)	4.5	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	墨書
	27	9号土坑	SK015-33	土師器	坏	口縁～胴部	(11.4)	-	-	ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	墨書
	36	28	10～12号土坑	SL1-2	土師器	皿	口縁～底部	(14.8)	(10.4)	2.3	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR6/4 にぶい黄橙
29		10～12号土坑	SL1-1	土師器	皿	口縁～底部	(15.0)	12.0	1.9	ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	ヘラ切り
30		10～12号土坑	SL1-5	土師器	坏	口縁～底部	(12.4)	(7.0)	4.0	ナデ	ナデ	5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヘラ切り・墨書
31		10～12号土坑	SL1-埋土一括	土師器	坏	口縁～胴部	(15.0)	-	-	ナデ	ナデ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	
32		10～12号土坑	SL1-埋土一括	土師器	坏	胴～底部	-	(7.8)	-	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐 10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐 7.5YR5/4 にぶい褐	ヘラ切り
33		10～12号土坑	SL1-埋土一括	土師器	皿	口縁～底部	16.0	13.0	1.3	ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙 10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙 10YR6/4 にぶい黄橙	ヘラ切り
34		10～12号土坑	SL1-埋土一括	土師器	皿	口縁～底部	12.9	(9.8)	2.3	ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	ヘラ切り
35		10～12号土坑	SL1-埋土一括	土師器	壺	口縁部	15.7	-	-	ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	
36		10～12号土坑	SL1-埋土一括	土師器	坏	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	墨書
37		10～12号土坑	SL1-埋土一括	土師器	坏	胴～底部	-	(6.8)	-	ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヘラ切り・墨書
38		10～12号土坑	SL1-埋土一括	土師器	皿	底部	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	ヘラ切り・墨書
39		10～12号土坑	SL1-埋土一括	須恵器	坏	口縁～底部	(12.4)	(6.8)	3.6	ナデ	ナデ	10Y4/1 灰	2.5Y4/2 暗灰黄	

第 12 表 古代の遺物観察表 1

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	備考
39	40	f - 30	II	2102 2105	土師器	坏	口縁~ 底部	(13.6)	(7.2)	4.1	ナデ ケズリ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐 10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	底部へら切り
	41	-	II	一括	土師器	坏	口縁~ 底部	(14.0)	(7.8)	4.3	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	底部へら切り
	42	d - 29	-	一括	土師器	坏	口縁~ 底部	(12.8)	(7.0)	4.1	ナデ	ナデ	5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	底部へら切り
	43	f - 28	II	一括	土師器	坏	口縁~ 底部	(13.2)	(8.0)	4.3	ナデ ケズリ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	底部へら切り
	44	f - 29	II	2783	土師器	坏	口縁~ 底部	(12.2)	(6.8)	3.2	ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	底部へら切り
	45	g - 31	III a	2651	土師器	坏	口縁~ 底部	(14.8)	(7.1)	4.8	ナデ ケズリ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR5/4 にぶい赤褐	底部へら切り
	46	g - 30	III b	4946	土師器	坏	口縁~ 底部	(12.4)	(6.6)	4.5	ナデ ケズリ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい褐	底部へら切り
	47	f - 28	III a	25602	土師器	坏	口縁~ 底部	(12.3)	(7.2)	4.6	ナデ ケズリ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	底部へら切り
	48	e - 29	II	2170 2168	土師器	坏	口縁~ 底部	(13.2)	(8.0)	3.8	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	底部へら切り
	49	f - 29	II	2296	土師器	坏	口縁~ 底部	(12.9)	(7.9)	4.2	ナデ	ナデ	5YR6/6 橙	5YR5/6 明赤褐	底部へら切り
	50	c - 29	III a III b	1558 2634	土師器	坏	口縁~ 底部	(12.3)	(6.6)	4.1	ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙 2.5YR6/3 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR5/6 明褐	底部へら切り
	51	b - 28	III b	一括	土師器	坏	口縁~ 底部	(12.2)	(7.6)	4.3	ナデ ケズリ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	底部へら切り
	52	Y - 18	IV	一括	土師器	坏	口縁~ 底部	(12.6)	(6.8)	4.7	ナデ ケズリ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	底部へら切り
	53	d - 29	III a	2366	土師器	坏	口縁~ 底部	(12.0)	(6.8)	4.4	ナデ ケズリ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	底部へら切り
	54	d - 29	カク ラン	一括	土師器	坏	口縁~ 底部	(16.0)	-	-	ナデ ケズリ	ナデ	5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	
40	55	c - 29	III a	2409	土師器	坏	底部	-	(8.0)	-	ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	10YR5/3 にぶい黄褐	底部へら切り
	56	e - 34	カク ラン	一括	土師器	坏	底部	-	(7.6)	-	ナデ	ナデ	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	内面煤付着, 底部へら切り
	57	-	表土	一括	土師器	坏	底部	-	(6.4)	-	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	底部へら切り
	58	e - 35	カク ラン	一括	土師器	坏	底部	-	(8.0)	-	ナデ ケズリ	ナデ	5YR6/4 にぶい橙	5YR5/6 明赤褐	底部へら切り
	59	-	表土	一括	土師器	坏	底部	-	(7.0)	-	ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	底部へら切り
	60	d - 33	カク ラン	一括	土師器	坏	底部	-	(8.0)	-	ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐 7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙 10YR6/4 にぶい黄橙	底部へら切り
	61	f - 30	III a	2761	土師器	坏	底部	-	(6.2)	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	底部へら切り
	62	e - 35	カク ラン	一括	土師器	坏	底部	-	(7.4)	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	底部へら切り
	63	f - 30	III a	2754	土師器	坏	底部	-	(6.6)	-	ナデ ケズリ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	底部へら切り
	64	c - 29	III a	2412	土師器	坏	底部	-	(6.0)	-	ナデ ケズリ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	底部へら切り
	65	b - 22	カク ラン	一括	土師器	坏	底部	-	(6.0)	-	ナデ	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	2.5Y5/3 黄褐	底部へら切り
	66	f - 29	II	2794	土師器	坏	底部	-	(5.8)	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	須惠器の模倣, 底部へら切り
	67	f - 29	II	2813	土師器	坏	底部	-	(7.0)	-	ナデ	ナデ	5YR5/8 明赤褐	7.5YR6/3 にぶい褐	底部へら切り
	68	d - 29	カク ラン	一括	土師器	坏	底部	-	(6.6)	-	ナデ ケズリ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	底部へら切り
	69	f - 30	II	2109	土師器	坏	底部	-	(5.6)	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	白色焼き, 面取り, 底部へら切り
41	70	f - 30	II	2097 2098	土師器	坏	口縁部	(12.0)	-	4.1	ナデ	ナデ	7.5YR4/2 灰褐 10YR5/3 にぶい黄褐	10YR3/1 黒褐 2.5Y4/1 黄灰	
	71	c - 29	II	2246	土師器	坏	口縁~ 底部	(12.8)	(8.0)	5.2	ナデ ケズリ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	底部へら切り
	72	h - 35	III b	251	土師器	坏	底部	-	(5.2)	-	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	底部へら切り
	73	c - 29	III a	2420	土師器	坏	口縁部	(11.4)	-	-	ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	内外面煤付着
	74	d - 29	III a	2337	土師器	坏	底部	-	(11.0)	-	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR7/4 にぶい橙	
	75	-	カク ラン	一括	土師器	坏	底部	-	(9.0)	-	ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	白味帯びる焼
	76	-	表土	一括	土師器	坏	胴~ 底部	-	(8.8)	-	ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	
	77	f - 29	II	2787	土師器	坏	底部	-	(7.5)	-	ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	高台貼付
	78	d - 30	カク ラン	一括	土師器	坏	底部	-	(6.0)	-	ナデ	ナデ	5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	
	79	f・e - 30	II	2099 2158 2318	土師器	坏	底部	-	(9.0)	-	ナデ	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙 7.5YR5/3 にぶい褐	
	80	d - 29	III a	一括 2401	土師器	皿	口縁~ 底部	(15.0)	(12.4)	1.6	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	底部へら切り
	81	d - 29	カク ラン	一括	土師器	皿	口縁~ 底部	(15.0)	(12.2)	1.9	ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	底部へら切り
	82	-	表土	一括	土師器	皿	口縁~ 底部	(14.6)	(12.0)	2.2	ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	底部へら切り
	83	-	-	一括	土師器	皿	口縁~ 底部	(14.8)	(11.0)	1.7	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	底部へら切り
	84	f - 29	II	2797	土師器	皿	口縁~ 底部	(16.0)	(12.2)	1.7	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい褐	底部へら切り
85	d - 29	III a	2374	土師器	皿	口縁~ 底部	(13.1)	(11.0)	2.2	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	底部へら切り	
86	X - 10	III	22064	土師器	皿	口縁~ 底部	(13.2)	(10.6)	2.3	ナデ	ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	底部へら切り	

第13表 古代の遺物観察表2

挿入 番号	掲載 番号	出土区	層	取上番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	備考
41	87	b - 20	II	12173	土師器	皿	底部	(12.8)	(10.8)	1.6	ナデ	ナデ	2.5YR5/6 明赤褐	7.5YR6/4 にぶい橙	底部へラ切り
	88	W - 16	III b	22675	土師器	皿	口縁～ 底部	(14.6)	(10.6)	2.9	ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	底部へラ切り 須恵質の土師器
42	89	f - 29	カク ラン	一括	土師器	土師壺	口縁部	(32.6)	-	-	ナデ ハケメ	ナデ ケズリ	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	
	90	X - 17	III b	22660	土師器	土師壺	口縁部	(21.2)	-	-	ナデ ハケメ	ナデ ケズリ	5YR4/4 にぶい赤褐	7.5YR4/3 褐	
	91	d - 31	II	1046	土師器	土師壺	口縁～ 胴部	(26.0)	-	-	ナデ ハケメ	ナデ ケズリ	5YR3/4 暗赤褐	7.5YR4/6 赤褐	
	92	-	表土	一括	土師器	土師壺	口縁部	(20.5)	-	-	ナデ ハケメ	ナデ ケズリ	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐 10YR3/2 黒褐	
	93	f - 30	II	2106	土師器	土師壺	口縁部	-	-	-	ナデ ハケメ	ナデ ケズリ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	
	94	f - 28	III b	14974	土師器	土師壺	口縁～ 胴部	19.0	-	-	ナデ ハケメ	ナデ ケズリ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR6/3 にぶい黄橙	外面に煤あり
	95	f - 29	III a	3171 3272	土師器	甗	胴～ 底部	(16.2)	-	-	ナデ	ナデ ケズリ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	
43	96	d - 32	III b	1438 1382	黒色土器	壺	口縁～ 底部	(15.6)	(8.0)	5.7	ナデ ミガキ	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR3/1 黒葛	高台貼付 外面口唇 部のミガキ有り
	97	e - 29	II	2202	黒色土器	壺	底部	-	8.0	-	ナデ	ミガキ	7.5YR5/4 にぶい褐	N3/0 暗灰	高台貼付
	98	W - 17	III a	23712	黒色土器	壺	胴部	-	(4.9)	-	ミガキ	ミガキ	5YR6/4 にぶい橙	5YR2/1 黒褐	脚部ハガレ
	99	c - 23	III b	15286	黒色土器	壺	底部	-	7.6	-	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	N3/0 暗灰	高台貼付
	100	f - 29	II	2790	黒色土器	坏	底部	-	(7.0)	-	ナデ	ミガキ	10YR5/3 にぶい黄褐	5G3/1 暗緑灰	高台貼付
	101	f - 28	II	14421	黒色土器	壺	底部	-	(5.2)	-	ナデ	ナデ	2.5YR5/6 明赤褐	N3/0 暗灰	
	102	-	表土	一括	刻書土器	壺	底部	-	(7.6)	-	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	
44	103	Y - 18	IV	一括	刻書土器	皿	口縁～ 底部	(13.8)	(10.0)	2.4	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐 5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR4/2 灰褐	底部へラ切り
	104	c - 29	III b	P156 一括	墨書土器	坏	口縁～ 底部	(11.4)	(7.0)	5.1	ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙 5YR6/6 橙	7.5YR5/4 にぶい褐	
	105	f - 29	II	2786	墨書土器	坏か壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR1.7/ 1 黒	黒色土器
	106	c - 28	III b	一括	墨書土器	坏か壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	
	107	d - 29	カク ラン	一括	墨書土器	坏か壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	
	108	g - 33	カク ラン	一括	墨書土器	坏か壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	
	109	e - 29	II	2207	墨書土器	坏か壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	
	110	e - 36	-	一括	墨書土器	坏か壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	
	111	e - 29	カク ラン	一括	墨書土器	坏か壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	
	112	b - 21	III b	一括	墨書土器	坏か壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	
	113	f - 30	II	一括	墨書土器	坏か壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	
	114	g - 30	II	一括	墨書土器	坏か壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR4/4 褐	7.5YR4/4 褐	
	115	-	表土	一括	墨書土器	坏か壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	
	116	-	表土	一括	墨書土器	坏か壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	
	117	c - 28	カク ラン	一括	墨書土器	坏か壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	
	118	d - 29	III a	2648	墨書土器	坏か壺	口縁～ 胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	
	119	d - 34	カク ラン	一括	墨書土器	坏か壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	
	120	IT	表土	一括	墨書土器	坏か壺	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	
	121	f - 30	カク ラン	一括	墨書土器	坏か壺	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙	外面に穿孔あり (未開通)
	122	-	表土	一括	墨書土器	坏か壺	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	
	123	f - 29	II	一括	墨書土器	坏か壺	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	
	124	g - 35	III b	103	墨書土器	坏か壺	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	
	125	e - 30	III b	5256	墨書土器	坏か壺	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	
	126	c - 29	III b	5713	墨書土器	坏か壺	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR4/6 褐	7.5YR4/6 褐	
	127	f・g - 36 37	-	SH1 埋土一括	墨書土器	坏か壺	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR4/6 褐	
	128	d - 33	II	一括	墨書土器	坏か壺	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR6/4 にぶい橙	
	129	d - 30	III a	1124	墨書土器	坏か壺	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	5YR7/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙	両面墨書
	130	X - 17	III b	22649	墨書土器	皿	底部	-	(11.9)	-	ナデ	ナデ	5YR6/6 橙	7.5YR7/4 にぶい橙	底部墨書、赤塗り
	131	g - 30	カク ラン	一括	墨書土器	坏	底部	-	(7.6)	-	ナデ	ナデ	5YR7/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙	外面・底部墨書
	132	c - 29	カク ラン	一括	墨書土器	坏	底部	-	(7.2)	-	ナデ	ナデ	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR6/6 橙	
	133	g - 29	III a	3256	墨書土器	坏か皿	底部	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	底部墨書

第 14 表 古代の遺物観察表 3

挿入番号	掲載番号	出土区	層	取上番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整 (外)	調整 (内)	色調 (外)	色調 (内)	備考	
44	134	f - 29	カクラン	一括	墨書土器	坏か皿	底部	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	底部墨書	
	135	5T	II	一括	墨書土器	坏か皿	底部	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	底部墨書	
	136	c - 21	III a	13742	墨書土器	坏か皿	底部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	底部墨書	
	137	a - 21	III a	一括	墨書土器	蓋	-	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR5/4 にぶい黄橙	10YR5/4 にぶい黄橙		
	138	-	表土	一括	墨書土器	蓋	-	-	-	-	ナデ	ナデ	5YR3/6 暗赤褐	5YR4/4 にぶい赤褐		
46	160	c - 24	II	12247	須恵器	蓋	摘み	-	-	-	-	-	5P4/1 暗紫灰 5PB5/1 青灰	2.5Y4/1 黄灰		
	161	e - 28	カクラン	一括	須恵器	壺	口縁部	(15.0)	-	-	-	-	N4/0 灰	2.5Y5/2 暗灰黄		
	162	X - 16	III b	22042	須恵器	坏	口縁部	-	-	-	-	-	10YR5/2 灰黄 2.5YR4/1 黄灰	2.5YR5/2 暗灰黄 2.5YR4/1 黄灰	薄くて白色粒多く含む	
	163	g - 36	カクラン	一括	須恵器	壺	口縁部	(9.0)	-	-	-	-	2.5Y4/2 暗灰黄	10YR5/2 灰黄褐		
	164	c - 25	III a	12804	須恵器	瓶型壺	口縁部	(10.6)	-	-	-	-	10Y4/1 灰	5Y4/1 灰		
	165	e - 32	-	一括	須恵器	壺	頸部	-	-	-	-	-	N4/0 灰	2.5Y4/1 黄灰	櫛描文	
	166	d - 28	III b	一括	須恵器	壺	口縁部	(16.6)	-	-	-	-	10YR4/1 暗赤灰	2.5Y5/1 黄灰	自然釉	
	167	c - 29	III a	2408	須恵器	壺	口縁部	(19.2)	-	-	-	-	5Y5/2 灰オリーブ	10YR6/2 灰黄褐	自然釉	
	168	-	表土	一括	須恵器	壺	口縁部	(19.4)	-	-	-	格子状 タタキ	青海波状 当具痕	2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y4/1 黄灰	自然釉
	169	d - 23	IV	14633	須恵器	壺	口縁部	(16.2)	-	-	-	-	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y5/2 暗灰黄 10YR4/2 灰黄褐	自然釉	
	170	Y - 18	IV	一括	須恵器	壺	胴部	-	-	-	-	-	5Y5/1 灰	2.5Y4/2 暗灰黄		
47	171	b - 20	III a	17211	須恵器	壺	肩部	-	-	-	格子状 タタキ	青海波状 当具痕	5Y5/1 灰	10YR5/2 灰黄褐	口縁部に自然釉	
	172	Y - 17	III a	23710	須恵器	壺	口縁部	(30.0)	-	-	格子状 タタキ	-	7.5R4/1 褐灰 10YR3/1 黒褐	10YR4/1 褐灰		
	173	e - 35	-	一括	須恵器	壺	口縁部	(19.0)	-	-	-	-	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y3/2 暗灰黄	自然釉	
	174	e - 29	II	一括	須恵器	壺	口縁部	(38.2)	-	-	-	-	2.5YR4/2 灰赤	2.5Y5/2 暗灰黄		
	175	b - 20	III a	一括	須恵器	壺	口縁部	(34.2)	-	-	-	-	N4/0 灰	2.5Y5/1 黄灰		
	176	X - 17	III b	22650	須恵器	壺	頸部	-	-	-	格子状 タタキ	青海波状 当具痕	10YR3/2 黒褐 7.5YR4/2 灰褐	10YR5/1 褐灰 2.5Y4/1 黄灰	自然釉	
	177	X - 16	III a	25294	須恵器	壺	底部	-	(10.6)	-	-	-	2.5Y5/1 黄灰	10Y4/1 灰	高台を持つ	
	178	X - 16 17	III a III b	一括	須恵器	瓶型壺	底部	-	(11.4)	-	-	-	5Y4/1 灰	10YR4/2 灰黄褐		
179	f - 33	カクラン	一括	須恵器	瓶型壺	底部	-	(10.8)	-	-	-	10YR4/1 褐灰	7.5Y4/2 灰オリーブ	底部に同心円状文 自然釉		

第 15 表 古代の遺物観察表 4

挿入番号	掲載番号	出土区	層	取上番号	種別	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重さ (g)	色調	備考
45	139	c - 29	カクラン	一括	土製品	土錘	2.1	2.5	9.2	10YR6/2 灰黄褐	完形
	140	f - 28	III b	13094	土製品	土錘	2.0	2.0	6.2	7.5YR7/2 明褐灰	完形
	141	g - 30	III b	3924	土製品	土錘	2.2	1.8	5.9	7.5YR7/4 にぶい橙	完形
	142	c - 31	II	993	土製品	土錘	2.2	2.0	7.7	5YR6/6 橙	完形
	143	f - 28	III b	18539	土製品	土錘	1.8	2.1	7.3	7.5YR4/2 灰褐	完形
	144	-	表土	一括	土製品	土錘	1.8	2.1	4.4	7.5YR6/4 にぶい橙	一部欠損
	145	g - 31	III a	2869	土製品	土錘	2.5	1.9	6.4	2.5YR4/6 赤褐	完形
	146	f - 29	カクラン	一括	土製品	土錘	2.5	1.9	6.6	7.5YR6/3 にぶい褐	完形
	147	d - 29	カクラン	一括	土製品	土錘	2.8	1.7	5.7	7.5YR7/3 にぶい橙	完形
	148	-	表土	一括	土製品	土錘	2.8	2.0	8.2	7.5YR7/4 にぶい橙	完形
	149	d - 31	II	1045	土製品	土錘	2.3	1.8	7.7	7.5YR6/6 橙	完形
	150	c - 28	III a	13095	土製品	土錘	2.8	2.0	9.3	10YR7/3 にぶい黄橙	完形
	151	f - 27	カクラン	一括	土製品	土錘	3.1	1.8	6.8	10YR6/4 にぶい黄橙	完形
	152	d - 31	IV	一括	土製品	土錘	3.1	1.2	5.0	10YR7/4 にぶい黄橙	完形
	153	g - 29	カクラン	一括	土製品	土錘	2.8	1.6	4.8	10YR6/4 にぶい黄橙	完形
	154	f - 27	III b	14397	土製品	土錘	3.4	1.9	5.5	7.5YR5/3 にぶい褐	完形
	155	e - 26	III b	13088	土製品	土錘	3.5	1.2	6.9	5YR4/4 にぶい赤褐	完形
	156	c - 31	II	1024	土製品	土錘	3.4	1.8	7.9	10YR6/3 にぶい黄橙	完形
	157	f - 30	III a	2915	土製品	土錘	4.8	1.9	11.8	10YR7/1 灰白	完形
	158	-	表土	一括	土製品	土錘	(3.2)	1.6	5.8	10YR7/2 にぶい黄橙	一部欠損
	159	c - 21	III a	13787	土製品	土錘	7.0	4.1	98.5	10YR7/3 にぶい黄橙	完形

第 16 表 中世の遺構内出土遺物観察表 1

挿図 番号	掲載 番号	遺構名	取上番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整 (外)	調整 (内)	色調 (外)	色調 (内)	備考	
	59	13号掘立柱建物跡	SB016-P2-埋土一括	土師器	坏	完形	11.8	6.8	4.6	ナデ	ナデ	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR4/2灰褐	底部ヘラ切り	
70	181	25号掘立柱建物跡	SB004-P5-1・2	土師器	皿	完形	9.2	7.2	1.2	ナデ	ナデ	2.5Y4/1黄灰	2.5Y4/1黄灰	底部糸切り	
	182	25号掘立柱建物跡	SB004-P5-4	土師器	皿	口縁~ 底部	(8.6)	(7.8)	1.1	ナデ	ナデ	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐	底部糸切り	
	183	25号掘立柱建物跡	SB004-P6-3	土師器	皿	口縁~ 底部	(8.0)	(6.6)	1.0	ナデ	ナデ	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	底部糸切り	
	184	25号掘立柱建物跡	SB004-P6-埋土一括	土師器	皿	口縁~ 底部	(7.6)	(6.8)	1.1	ナデ	ナデ	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	底部糸切り	
	185	25号掘立柱建物跡	SB004-P6-埋土一括	土師器	皿	口縁~ 底部	(9.0)	(8.9)	1.2	ナデ	ナデ	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	底部糸切り	
	186	25号掘立柱建物跡	SB004-P4-埋土一括	須恵器	壺	肩部	-	-	-	ナデ	ナデ	2.5Y4/1黄灰 2.5Y6/3にぶい黄	2.5Y4/1黄灰		
	187	25号掘立柱建物跡	SB004-P4-埋土一括	須恵器	壺	底部	-	(12.2)	-	ナデ	ナデ	10YR4/1褐灰	10YR3/1黒褐 10YR5/2灰黄褐	高台付	
73	193	15号土坑	SK026-埋土一括	土師器	坏	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	墨書	
	194	15号土坑	SK026-埋土一括	製塩土器	-	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	布目痕 7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい橙		
76	201	20号土坑	SJ001-001	土師器	坏	完形	14.5	7.6	4.0	ナデ	ナデ	7.5YR6/2灰褐	10YR6/3にぶい黄橙	底部糸切り	
90	204	溝状遺構 7	SD012-埋土一括	須恵器	壺	口縁部	(17.0)	-	-	ナデ	ナデ	2.5Y6/2灰黄 2.5Y4/1黄灰	2.5Y5/2暗灰黄		
	205	溝状遺構 7	SD012-1	須恵器	甗	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	5YR4/1褐灰	5YR5/1褐灰		
	207	溝状遺構 10	SD007-埋土一括	土師器	坏	口縁~ 底部	(13.7)	5.4	4.75	ナデ	ナデ	7.5YR6/4にぶい橙	5YR5/4にぶい赤褐	底部ヘラ切り	
	208	溝状遺構 10	SD007-埋土一括	土師器	壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR5/4にぶい褐	5YR4/6赤褐		
	209	溝状遺構 10	SD007-埋土一括	土師器	壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ・ケズリ	5YR4/8赤褐	5YR4/8赤褐		
	211	溝状遺構 11	SD004-埋土一括、 d-29-カクラン一括	土師器	坏	口縁~ 胴部	(11.0)	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		
	212	溝状遺構 11	SD004-1	土師器	坏	胴~ 底部	-	(6.0)	3.9	ナデ	ナデ	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	底部ヘラ切り	
	213	溝状遺構 11	SD004-埋土一括	土師器	皿	口縁~ 底部	(15.0)	(11.0)	1.8	ナデ	ナデ	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR5/3にぶい褐		
	214	溝状遺構 11	SD004-埋土一括、 e-30-IV-8458	土師器	皿	口縁~ 底部	(14.0)	(10.8)	1.5	ナデ	ナデ	5YR5/4にぶい赤褐 10YR6/3にぶい黄橙	7.5YR5/3にぶい褐 10YR6/3にぶい黄橙		
	215	溝状遺構 11	SD004-6・7・8	土師器	蓋		(17.0)	つまみ (5.2)	3.8	ナデ	ナデ	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙		
	216	溝状遺構 11	SD004-9	土師器	甗	把手	-	-	-	ナデ	ケズリ	5YR4/3にぶい赤褐	5YR4/3にぶい赤褐		
	217	溝状遺構 11	SD004-埋土一括	土師器	坏	口縁~ 胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	5YR7/6橙	5YR7/6橙	墨書	
	218	溝状遺構 11	SD004-埋土一括	土師器	坏	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	墨書	
	219	溝状遺構 11	SD004-埋土一括	土師器	坏	胴~ 底部	-	(6.8)	-	ナデ	ナデ	5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	墨書	
	221	溝状遺構 11	SD004-埋土一括	須恵器	壺	頸~ 肩部	-	-	-	格子状 タタキ	同心円状 当具痕	5Y4/1灰	7.5Y4/2灰オリーブ		
	222	溝状遺構 11	SD004-埋土一括	須恵器	蓋		(14.0)	-	-	ナデ	ナデ	2.5Y4/2暗灰黄	5Y4/1灰		
	223	溝状遺構 11	SD004-埋土一括	須恵器	鉢	口縁部	(29.6)	-	-	ナデ	ナデ	2.5Y5/1黄灰 10YR3/1黒褐	2.5Y5/1黄灰 2.5Y4/1黄灰	東播系	
	91	228	溝状遺構 11	SD004-埋土一括	滑石製品	石鍋	胴部	-	-	-	-	-	-	-	錆付き
		229	溝状遺構 12	SD008-埋土一括	土師器	皿	口縁~ 底部	(8.8)	(6.2)	1.8	ナデ	ナデ	10YR5/3にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐	底部糸切り
		230	溝状遺構 12	SD008-埋土一括	黒色土器	埴	胴~ 底部	-	(7.8)	-	ナデ	ミガキ	7.5YR5/3にぶい褐	N3/0暗灰	高台付
232		溝状遺構 13	SD009-埋土一括	土師器	壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ケズリ	5YR4/2にぶい灰褐	7.5YR4/4褐		
233		溝状遺構 13	SD009-埋土一括	黒色土器	埴	胴部	-	-	-	ナデ	ミガキ	7.5YR4/4褐	10YR1.7/1黒	墨書	
238		溝状遺構 15	SD006-埋土一括	土師器	坏	口縁~ 胴部	(13.6)	-	-	ナデ	ナデ	5YR5/6明赤褐	5YR6/6橙	墨書	
239		溝状遺構 19・20	SX002-埋土一括	須恵器	壺	口縁~ 頸部	(22.8)	-	-	ナデ	ナデ	2.5Y4/1黄灰	7.5Y5/1灰		
240		溝状遺構 21	SD003-埋土一括	黒色土器	埴	胴~ 底部	-	8.0	-	ナデ	ミガキ	10YR6/4にぶい黄橙	N3/0暗灰		
241		溝状遺構 21	SD003-埋土一括	土師器	坏	口縁~ 胴部	(12.2)	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	墨書	
242		溝状遺構 21	SD003-埋土一括	黒色土器	坏	胴部	-	-	-	ナデ	ミガキ	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	墨書	
92	248	古道4	SD18-1.y-18-IV一括	黒色土器	埴	底部	-	6.4	-	ナデ	ミガキ	10YR5/3にぶい黄褐	N3/0暗灰	高台付	
	249	古道8	SD010-埋土一括	土師器	坏	口縁~ 底部	(12.4)	(7.0)	3.9	ナデ	ナデ	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		

第 17 表 中世の遺構内出土遺物観察表 2

挿図 番号	掲載 番号	遺構名	取上番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整 (外)	調整 (内)	色調 (外)	色調 (内)	備考
92	250	古道 8	SD010-埋土一括	土師器	鉢	口縁部	(21.8)	-	-	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	墨書
	251	古道 8	SD010-埋土一括	土師器	坏	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	5YR7/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙	墨書
	252	古道 8	SD010-埋土一括	須惠器	坏 or 壺	口縁~ 胴部	(12.0)	-	-	ナデ	ナデ	10Y4/1 灰	7.5YR4/2 灰褐	
	253	古道 8	SD010-埋土一括	須惠器	鉢	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR6/2 灰黄褐 10Y4/1 灰	10YR6/2 灰黄褐	東播系
	259	古道 9	SD011-埋土一括	土師器	壺	底部	-	(7.8)	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/4 にぶい黄橙	
	260	古道 9	SD011-埋土一括	土師器	壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ケズリ	5YR4/6 赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	
	261	古道 9	SD011-埋土一括	土師器	壺	底部	-	(14.4)	-	ナデ	ケズリ	2.5YR4/4 にぶい 赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	
262	古道 9	SD011-埋土一括	土師器	坏	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	墨書	
93	266	古道 11	KM004-006	須惠器	壺	底部	-	(20.2)	-	ナデ	ナデ	10YR5/1 褐灰	7.5Y4/3 暗オリーブ	
	271	古道 13	SX008-埋土一括	土師器	坏	口縁~ 底部	(14.6)	8.0	4.15	ナデ・ ケズリ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	底部へラ切り
	272	古道 13	SX008-059, SX008- 一括	土師器	坏	胴~ 底部	-	(7.0)	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙 10YR5/3 にぶい黄褐	底部へラ切り
	273	古道 13	SX008-埋土一括	土師器	坏	胴~ 底部	-	(5.6)	-	ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	底部へラ切り・ 總刻
	274	古道 13	SX008-埋土一括	土師器	坏	胴~ 底部	-	6.2	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	底部へラ切り
	275	古道 13	SX008-埋土一括	土師器	壺	胴~ 底部	-	(7.0)	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	高台付
	276	古道 13	SX008-埋土一括 e-29-II-一括	土師器	皿	口縁~ 底部	(12.4)	(10.0)	2.3	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	底部へラ切り
	277	古道 13	SX008-埋土一括	黒色土器	壺	底部	-	(7.0)	-	ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	N3/0 暗灰	高台貼付け
	278	古道 13	SX008-埋土一括	黒色土器	壺	底部	-	(8.4)	-	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	N3/0 暗灰	高台貼付け
	279	古道 13	SX008-埋土一括	黒色土器	壺	底部	-	(6.8)	-	ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR4/1 褐灰	高台貼付け
	280	古道 13	SX008-埋土一括	土師器	壺	底部	(12.0)	-	-	ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	
	281	古道 13	SX008-埋土一括 e-30-II-一括	土師器	坏	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	墨書
	282	古道 13	SX008-埋土一括	土師器	坏	口縁~ 底部	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	墨書
	283	古道 13	SX008-埋土一括	土師器	坏	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	墨書
	284	古道 13	SX008-埋土一括	土師器	坏	底部	-	7.4	-	ナデ	ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR6/3 にぶい褐	墨書・底部へラ切り
	285	古道 13	SX008-埋土一括	土師器	坏	胴~ 底部	-	(5.8)	-	ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	墨書・底部へラ切り
	286	古道 13	SX008-埋土一括	土師器	坏	胴~ 底部	-	6.8	-	ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	墨書・底部へラ切り
	287	古道 13	SX008-埋土一括	須惠器	坏	口縁~ 胴部	(12.8)	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐 2.5Y5/1 黄灰	5YR5/4 にぶい赤褐 2.5Y4/2 暗灰黄	
288	古道 13	SX008-埋土一括	須惠器	壺	頸部	-	-	-	格子状 タタキ	同心円状 当具痕	7.5YR5/1 褐灰	7.5Y4/1 灰・10YR5/1 褐灰		
94	289	古道 13	SX008-一括 SD004埋土一括	須惠器	壺	頸部	-	-	-	ナデ	ナデ	10Y4/1 灰	10Y4/1 灰	
	290	古道 13	SX008-一括 e-29-一括	須惠器	壺	胴部	-	-	-	格子状 タタキ	指頭圧痕	2.5Y5/1 黄灰 5Y5/2 暗灰黄	10YR4/1 褐灰	
	291	古道 13	SX008-埋土一括	須惠器	壺	胴部	-	-	-	格子状 タタキ	同心円状 当具痕	5Y4/1 灰	5Y4/1 灰	
	292	古道 13	SX008-040・埋土一括 SD004-埋土一括	須惠器	壺	胴部	-	-	-	平行 タタキ	同心円状 当具痕	2.5Y6/2 灰黄	10YR6/2 灰黄褐	
	293	古道 13	SX008-埋土一括 SD007-埋土一括 f-29-II-2968	須惠器	壺	胴部	-	-	-	格子状 タタキ	同心円状 当具痕	10YR4/1 褐灰	5Y4/1 灰	
95	294	古道 13	SX8-10・埋土一括 e-29-II-2182, d- 30-カクラン一括	須惠器	壺	胴部	-	-	-	格子状 タタキ	平行 タタキ	10YR6/2 灰黄褐 10YR4/1 褐灰	2.5Y4/1 黄灰	
	295	古道 13	SX008-042・068・ 一括	須惠器	壺	底部	-	(10.2)	-	ナデ	ナデ	7.5YR5/1 褐灰 2.5Y5/1 黄灰	7.5YR5/1 褐灰 2.5Y4/1 黄灰	
	296	古道 13	SX008-埋土一括	須惠器	壺	底部	-	(13.0)	-	ナデ	ナデ	2.5Y5/1 黄灰	10YR5/1 褐灰 2.5Y5/1 黄灰	
	297	古道 13	SX008-埋土一括	須惠器	壺	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	2.5Y5/1 黄灰 10YR5/1 褐灰	5Y4/1 灰	
96	328	P65	P065-一括	土師器	皿	口縁~ 底部	(8.8)	(7.4)	1.1	ナデ	ナデ	7.5YR4/3 褐	10YR4/2 灰黄褐	底部糸切り
	331	P507	P507-埋土一括	滑石製品	石鍋	口縁部	-	-	-	-	-	-	-	

第 18 表 中世の遺構内出土遺物観察表 3

挿図番号	掲載番号	遺構名	取上番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土の色調	釉薬	時期	分類	備考	
70	188	25号掘立柱建物跡	SB004-P4-埋土一括	青磁	碗	-	-	-	5Y7/1 灰白	5Y5/6 オリーブ	-	-	龍泉窯	
	189	25号掘立柱建物跡	SB004-P3-埋土一括	陶器	壺	-	-	-	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5Y6/1 灰	-	-		
	190	25号掘立柱建物跡	SB004-P6-埋土一括	陶器	壺	-	-	-	10YR6/1 褐灰	2.5Y6/2 灰黄	-	-		
71	191	26号掘立柱建物跡	SB003-P3-埋土一括 SD001-埋土一括	青磁	碗	-	-	5.9	5Y7/1 灰白	7.5Y5/2 灰オリーブ	13C 前半	碗Ⅱ a 類	蓮弁文	
	192	26号掘立柱建物跡	SB003-P2-埋土一括	白磁	皿	(9.4)	(4.5)	2.0	5Y8/1 灰白	2.5Y6/2 灰黄	12C 後半	皿Ⅷ類		
73	195	15号土坑	SK026-埋土一括	陶器	播鉢	-	-	-	2.5Y4/1 黄灰	-	-	-	備前	
75	196	16号土坑	SK001-005-埋土1	青磁	碗	-	(5.6)	-	2.5Y7/2 灰黄	5Y5/2 灰オリーブ	-	-	龍泉窯系	
	197	17号土坑	SK002-011-埋土2	青磁	碗	-	-	-	10YR6/2 灰黄褐	2.5Y5/3 黄褐	-	-		
76	198	19号土坑	SX009-埋土一括	青磁	碗	-	-	-	5Y7/1 灰白	10Y6/1 灰	-	-	鎬蓮弁文	
	199	19号土坑	SX009-埋土一括	青磁	碗	-	-	-	7.5Y8/1 灰白	10Y6/2 オリーブ灰	-	-		
	200	19号土坑	SX009-埋土一括	陶器	播鉢	-	-	-	N4/0 灰	-	-	-	備前	
90	203	溝状遺構 6	SD019-埋土一括	染付	壺	-	-	-	5Y8/1 灰白	7.5GY7/1 明緑灰 5B6/1 青灰	-	-		
	206	溝状遺構 7	SD012-埋土一括	染付	皿	-	-	-	5Y8/1 灰白	10GY8/1 明緑灰	近世	-		
91	224	溝状遺構 11	SD004-埋土一括	青磁	碗	-	-	-	7.5Y8/1 灰白	10Y5/2 オリーブ灰	-	-	鎬蓮弁文	
	225	溝状遺構 11	SD004-埋土一括	白磁	碗	-	-	-	5Y8/1 灰白	5Y7/2 灰白	12C	碗Ⅳ類	玉縁	
	226	溝状遺構 11	SD004-埋土一括	白磁	碗	-	-	-	5Y8/1 灰白	5Y6/1 灰	-	-		
	227	溝状遺構 11	SD004-埋土一括	白磁	皿	-	6.8	-	5Y8/1 灰白	5Y7/1 灰白	13 ~ 14C	皿Ⅹ類		
	231	溝状遺構 12	SD008-埋土一括	白磁	碗	-	-	-	5Y8/1 灰白	5Y7/1 灰白	-	-		
	235	溝状遺構 13	SD009-埋土一括	白磁	皿	-	-	-	5Y8/1 灰白	5Y7/1 灰白	-	-		
	236	溝状遺構 13	SD009-埋土一括	陶器	壺	-	-	-	10YR6/1 褐灰	-	-	-		
	237	溝状遺構 14	SD005-埋土一括	白磁	皿	-	(5.0)	-	5Y8/3 淡黄	5Y6/2 灰オリーブ	-	-		
	243	溝状遺構 24	SD001-埋土一括	白磁	皿	-	-	-	10Y8/1 灰白	10GY7/1 明緑灰 5YR5/4 にぶい赤褐	-	-	-	口剥げ
	244	溝状遺構 24	SD001-埋土一括	白磁	壺	-	-	-	7.5Y8/1 灰白	5Y7/1 灰白	-	-		
	245	溝状遺構 25	SX001-015-埋土2	青磁	碗	-	-	-	2.5Y7/1 灰白	2.5Y5/3 黄褐	-	-		
	246	溝状遺構 25	SX001-一括	青磁	碗	-	-	-	7.5YR6/1 褐灰	5GY5/1 オリーブ灰	-	-		
	247	溝状遺構 25	SX001-一括	青磁	碗	-	(4.4)	-	2.5Y8/2 灰白	10Y6/2 オリーブ灰	-	-		
92	254	古道 8	SD010-埋土一括	青磁	碗	-	-	-	N8/0 灰白	7.5Y5/2 灰オリーブ	15 ~ 16C	-	剣先蓮弁文	
	255	古道 8	SD010-埋土一括	白磁	碗	-	-	-	2.5Y8/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	-	-		
	256	古道 8	SD010-埋土一括	陶器	壺	-	-	-	7.5YR4/2 灰褐	-	14C 後半	8 型式	常滑	
	257	古道 8	SD010-埋土一括	陶器	播鉢	-	-	-	5YR4/2 灰褐 10YR4/1 褐灰	-	-	-	備前	
	258	古道 8	SD010-埋土一括	陶器	壺	-	-	-	2.5Y7/2 灰黄	5Y7/4 浅黄	-	-		
	263	古道 9	SD011-埋土一括 表土一括	青磁	碗	(16.8)	-	-	2.5Y7/1 灰白	10Y5/2 オリーブ灰	15 ~ 16C	-	-	陽刻
	264	古道 9	SD011-埋土一括	染付	皿	-	(5.4)	-	7.5Y8/1 灰白	7.5GY7/1 明緑灰	近世	-	-	
	265	古道 9	SD011-埋土一括	瓦質土器	火鉢	(14.9)	(11.0)	7.2	5YR5/3 にぶい赤褐 5YR5/4 にぶい赤褐	-	14C	-	-	
93	267	古道 11	KM004-004	青磁	碗	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	7.5Y6/3 オリーブ黄	-	-		
	268	古道 11	KM004-埋土一括	青磁	碗	-	(6.6)	-	5Y7/1 灰白	7.5Y6/2 灰オリーブ	-	-		
	269	古道 11	KM004-埋土一括	陶器	土瓶	-	-	-	7.5YR4/1 褐灰	10YR3/1 黒褐	近世	-		
95	301	古道 13	SX008-016	青磁	碗	(14.2)	-	-	2.5Y7/1 灰白	7.5GY6/1 緑灰	-	-		
	302	古道 13	SX008-一括	青磁	碗	-	-	-	10YR6/2 灰黄褐	2.5Y5/3 黄褐	-	-	蓮弁文	
	303	古道 13	SX008-1	青磁	碗	-	-	-	5YR5/1 褐灰	5Y4/2 灰オリーブ	-	-	蓮弁文	
	304	古道 13	SX008-一括	青磁	碗	-	-	-	N8/0 灰白	5Y5/3 灰オリーブ	-	-	鎬蓮弁文	
	305	古道 13	SX008-045	青磁	碗	-	-	-	N7/0 灰白	10Y6/2 オリーブ灰	-	-	鎬蓮弁文	
	306	古道 13	SX008-067	青磁	碗	-	(5.0)	-	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y5/3 黄褐	-	-		
	307	古道 13	SX008-006	青磁	碗	-	5.8	-	N8/0 灰白	10GY7/1 明緑灰	-	-	草花文	
308	古道 13	SX008-070	青磁	碗	-	6.2	-	5Y7/1 灰白	5GY6/1 オリーブ灰	-	-	印花		

第 19 表 中世の遺構内出土遺物観察表 4

挿図番号	掲載番号	遺構名	取上番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土の色調	釉薬	時期	分類	備考	
96	309	古道 13	SX008-一括	青磁	碗	-	(5.6)	-	2.5Y7/1 灰白	2.5GY7/1 明オリーブ灰	-	-		
	310	古道 13	SX008-一括	青磁	皿	-	-	-	N7/0 灰白	7.5GY6/1 緑灰	-	-	蓮弁文	
	311	古道 13	SX008-066	青磁	盤	-	-	-	5Y8/1 灰白	5Y6/3 オリーブ黄	14C			
	312	古道 13	SX008-055	白磁	碗	-	(8.2)	-	5Y7/1 灰白	5Y7/2 灰白	12C	椀IV類		
	313	古道 13	SX008-一括	青花	碗	(12.2)	-	-	N8/0 灰白	10Y7/1 灰白 7.5GY5/1 緑灰	16 ~ 17C		漳州窯	
	314	古道 13	SX008-043	青花	皿	-	(6.2)	-	10YR8/1 灰白	10GY8/1 明緑灰 5PB5/1 青灰	16C	小野B 1群		
	315	古道 13	SX008-053	陶器	擂鉢	-	-	-	2.5Y4/1 黄灰	-	-	-	-	備前
	319	古道 14	SF001-埋土一括	青磁	碗	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	5GY6/1 オリーブ灰	-	-	-	
	320	古道 14	SF001-002	青磁	皿	-	-	-	5Y7/1 灰白	5Y5/2 灰オリーブ	-	-	-	
	321	古道 14	SF001-003	青磁	皿	-	-	-	5Y7/1 灰白	7.5GY6/1 緑灰	-	-	-	蓮弁文
	322	古道 14	SF001-埋土一括	青磁	碗	-	(5.4)	-	N6/0 灰	2.5GY5/1 オリーブ灰	-	-	-	龍泉窯系
	323	古道 14	SF001-埋土一括	青磁	皿	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	7.5Y4/2 灰オリーブ	-	-	-	龍泉窯系
	324	古道 14	SF001-埋土一括	白磁	碗	-	-	-	2.5Y8/1 灰白	2.5Y6/2 灰黄	12C	椀IV類	玉縁	
	325	古道 14	SF001-埋土一括	青花	碗	-	-	-	N8/0 灰白	5PB5/1 青灰	16C	小野C群		
	326	古道 14	SF001-埋土一括	陶器	擂鉢	-	-	-	2.5Y5/1 黄灰	-	15C	IV B	備前	
	327	古道 14	SF001-埋土一括	陶器	擂鉢	-	-	-	7.5YR4/1 褐灰	5YR2/1 黒褐	-	-	-	
	329	P511	P511-埋土一括	青磁	碗	-	(4.2)	-	N8/0 灰白	10Y6/2 オリーブ灰	15C		-	蓮弁文
	330	P40	P040-埋土一括	青磁	皿	-	(5.2)	-	N7/0 灰白	7.5GY7/1 明緑灰	-	-	-	

第 20 表 中世の遺構内出土遺物観察表 5

挿図番号	掲載番号	遺構名	取上番号	種別	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重さ (g)	色調	備考
90	220	溝状遺構 11	SD004-埋土一括	土製品	土錘	2.55	1.8	7.0	5YR4/3 にぶい赤褐	
91	234	溝状遺構 13	SD009-埋土一括	土製品	土錘	4.1	1.7	7.9	7.5YR7/2 明褐灰	
95	298	古道 13	SX008-69-埋土	土製品	土錘	2.8	2.0	9.3	10YR7/2 にぶい黄橙	
	299	古道 13	SX008-64	土製品	土錘	2.4	1.8	6.7	10YR5/2 灰黄褐	
	300	古道 13	SX008-63	土製品	土錘	4.35	1.6	7.4	10YR7/3 にぶい黄橙	

第 21 表 中世の遺構内出土遺物観察表 6

挿図番号	掲載番号	遺構名	取上番号	種別	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
97	316	古道 13	SX8	石製品	玉	0.95	0.9	0.8	0.85	

第 22 表 中世の遺構内出土遺物観察表 7

挿図番号	掲載番号	遺構名	取上番号	種別	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚み (cm)	備考
97	202	溝状遺構 3	SD25	鉄製品	-	2.8	1.6	0.2	
	210	溝状遺構 10	SD 7	鉄製品	鉄鏃	8.5	0.7	0.3	
	317	古道 13	SX8	鉄製品	-	2.2	0.8	0.15	

第 23 表 中世の遺構内出土遺物観察表 8

挿図番号	掲載番号	遺構名	取上番号	古銭情報	直径 (cm)	備考
97	270	古道 11	KM4	右に「通」、下に「宋」	2.4 ~ 2.5	
	318	古道 13	SX8	洪武通宝	2.2	

第24表 中世の遺物観察表1

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土の色調	釉薬	時期	分類	備考	
98	332	-	表土	一括	青磁	碗	口縁部	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	2.5Y5/3 黄褐	13～14世紀	大宰府分類青磁碗Ⅱa	鎬蓮弁文	
	333	f - 28	Ⅲa	一括	青磁	碗	腰部	-	-	-	5Y7/1 灰白	5Y5/2 灰オリーブ	13～14世紀	大宰府分類青磁碗Ⅱa	へら描き蓮弁文	
	334	c - 31	カクラン	一括	青磁	碗	口縁～ 胸部	-	-	-	5Y6/1 灰	7.5Y5/2 灰オリーブ	13～14世紀	大宰府分類青磁碗Ⅱb	鎬蓮弁文	
	335	f - 37	カクラン	一括	青磁	碗	腰～ 底部	-	(5.0)	-	7.5Y7/1 灰白	5Y5/2 灰オリーブ	13～14世紀	大宰府分類青磁碗Ⅱb	蓮弁文	
	336	-	表土	一括	青磁	皿	底部	-	(4.8)	-	10YR7/1 灰白	2.5Y5/2 暗灰黄	13～14世紀			
	337	h - 35	カクラン	一括	青磁	碗	口縁～ 胸部	-	-	-	5Y6/1 灰	7.5Y5/1 灰	13～14世紀	大宰府分類青磁碗Ⅳ類	へら描き蓮弁文	
	338	h - 38	カクラン	一括	青磁	碗	底部	-	7.0	-	7.5Y8/1 灰白	7.5Y5/2 灰オリーブ	15～16世紀		見込印花文	
	339	-	表土	一括	青磁	碗	底部	-	5.8	-	7.5Y8/1 灰白	5GY6/1 オリーブ灰	15～16世紀			
	340	h - 38	カクラン	一括	青磁	碗	底部	-	5.4	-	7.5Y7/1 灰白	2.5GY5/1 オリーブ灰	15～16世紀			
	341	-	表土	一括	青磁	碗	底部	-	4.6	-	10YR7/1 灰白	5GY6/1 オリーブ灰	15～16世紀			
	342	d - 20	Ⅲa	一括	青磁	碗	口縁～ 胸部	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	10Y5/2 オリーブ灰	15～16世紀			
	343	f - 36	カクラン	一括	青磁	碗	口縁～ 胸部	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	10Y5/2 オリーブ灰	15～16世紀			
	344	b - 24	カクラン	一括	青磁	碗	口縁部	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	10Y5/2 オリーブ灰	15～16世紀		剣先蓮弁文	
	345	-	表土	一括	青磁	碗	口縁部	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	5Y6/2 灰オリーブ	15～16世紀		剣先蓮弁文	
	346	a - 21	カクラン	一括	青磁	碗	口縁部	-	-	-	10YR6/1 灰	10Y6/2 オリーブ灰	15～16世紀		雷文帯	
	347	h - 34	Ⅲb	一括	青磁	碗	口縁部	-	-	-	10YR6/1 灰	5GY6/1 オリーブ灰	15～16世紀		雷文帯	
	348	c - 32	Ⅲa	一括	青磁	碗	口縁部	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	5GY6/1 オリーブ灰	15～16世紀			
	349	e - 33	カクラン	一括	青磁	碗	胸部	-	-	-	10YR8/1 灰白	10Y5/2 オリーブ灰	15～16世紀			
	350	-	表土	一括	青磁	碗	腰部	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	10Y6/2 オリーブ灰	15～16世紀		印花	
	99	351	-	表土	一括	青磁	碗	底部	-	(5.4)	-	7.5Y6/1 灰	2.5GY5/1 オリーブ灰	15～16世紀		印花
		352	c - 25	Ⅲa	12803	青磁	碗	底部	-	(5.2)	-	7.5Y8/1 灰白	10Y6/2 オリーブ灰	15～16世紀		内外区画文
		353	h - 38	カクラン	一括	青磁	碗	底部	-	(4.8)	-	2.5YR6/4 にぶい橙	2.5GY5/1 オリーブ灰	15～16世紀		見込印花文
		354	d - 20	Ⅲa	一括	青磁	碗	底部	-	(5.4)	-	7.5Y6/1 灰	10Y5/2 オリーブ灰	15～16世紀		
355		h - 37	Ⅲb	395	青磁	碗	底部	-	(6.4)	-	7.5Y7/1 灰白	7.5GY6/1 緑灰	15～16世紀			
356		-	表土	一括	青磁	皿	口縁部	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	10Y5/2 オリーブ灰	15～16世紀			
357		-	表土	一括	青磁	皿	口縁部	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	7.5GY6/1 緑灰	15～16世紀			
358		e - 29	カクラン	一括	青磁	盤	口縁部	-	-	-	7.5Y6/1 灰	10Y5/2 オリーブ灰	15～16世紀			
359		Y - 17	カクラン	一括	青磁	盤	底部	-	-	-	10YR8/1 灰白	5Y6/2 灰オリーブ	15～16世紀			
360		d - 20	Ⅲa	一括	青白磁	合子	蓋	上 (4.4)	下 (5.4)	1.3	10YR8/1 灰白	2.5Y8/3 淡黄				
361		b - 27	カクラン	一括	白磁	碗	底部	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	5Y8/2 灰白	12世紀後半	大宰府分類白磁碗類		
362		c - 29	Ⅲa	一括	白磁	碗	口縁～ 胸部	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	2.5GY7/1 明オリーブ 灰	13世紀	大宰府分類白磁碗Ⅰ区類	口禿げ	
363		h - 38	カクラン	一括	白磁	碗	口縁～ 胸部	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	10Y7/1 灰白	13世紀	大宰府分類白磁碗Ⅰ区類	口禿げ	
364		e - 30	カクラン	一括	白磁	皿	底部	-	3.2	-	7.5Y8/1 灰白	10Y8/2 灰白	15世紀	森田分類皿D群		
365		Z - 18	カクラン	一括	染付	碗	口縁部	-	-	-	7.5Y8/1 灰白	5G7/1 明緑灰	中世		唐草文様	
366		-	表土	一括	染付	碗	胸部	-	-	-	7.5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白 10G5/1 緑灰	16世紀	小野分類染付碗C群	蕉葉文	
367		e - 29	Ⅱ	一括	染付	碗	底部	-	4.5	-	7.5Y8/1 灰白	5Y6/2 灰オリーブ	16世紀	小野分類染付碗C群		
368		-	表土	一括	染付	皿	底部	-	(3.0)	-	7.5Y8/1 灰白	10BG7/1 明青灰	16世紀	小野分類皿C群	蕉葉文	
369		Z - 19	Ⅲb	一括	陶器	碗	底部	-	(5.2)	-	7.5Y6/1 灰	5Y7/2 灰白				
370		e - 29	Ⅱ	一括	陶器	擂鉢	口縁部	-	-	-	7.5YR3/2 灰褐	-			備前	

第 25 表 中世の遺物観察表 2

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調 (外)	色調 (内)	調整 (外)	調整 (内)	備考
100	371	g - 32	Ⅲ a	3408	土師器	皿	口縁～ 底部	(12.1)	(8.2)	2.9	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ナデ	ナデ	底部糸切り
	372	f - 30	Ⅱ	2080 2083	土師器	皿	口縁～ 底部	(9.1)	(8.0)	1.5	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ナデ・ケズリ	ナデ	底部糸切り
	373	h - 38	表土	一括	土師器	皿	口縁～ 底部	(8.2)	(7.2)	1.1	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄橙	ナデ	ナデ	底部糸切り
	374	c - 31	Ⅱ	995	土師器	皿	底部	-	(6.6)	-	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ナデ・ケズリ	ナデ	底部糸切り
	375	d - 23	Ⅱ	13851	土師器	壺	胴～ 底部	-	(10.6)	-	7.5YR5/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ナデ・ケズリ	ナデ	
	376	Y - 18	Ⅳ	一括	土師器	皿	口縁～ 底部	(16.0)	-	-	2.5YR5/6 明赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	ナデ	ナデ	
	377	e - 29	Ⅱ	2201	製塩土器	壺	胴部	-	-	-	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	ナデ	布目痕	
	379	f - 35	Ⅲ b	286	滑石製品	石鍋	底部	-	-	-	-	-	-	-	

第 26 表 中世の遺物観察表 3

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上番号	種別	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
100	378	h - 35	カク ラン	一括	石製品	石帯	3.4	2.4	0.8	9.0	安山岩製

第 27 表 中世の遺物観察表 4

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上番号	種別	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚み (cm)	備考
101	380	E - 2	Ⅲ b	31146	鉄製品	鉄鏃	16.4	3.5	0.8	
	381	C - 2	Ⅲ a	25641	鉄製品	鉄鏃	10.4	3.4	0.25	
	382	c - 23	カク ラン	一括	鉄製品	-	5.1	0.8	0.2	

第 28 表 中世の遺物観察表 5

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上番号	古銭情報	直径 (cm)	備考
写真 3	383	e - 30	Ⅲ b	8184	洪武通宝	2.3	

第5章 自然科学分析

第1節 自然科学分析の概要

久保田牧遺跡から採取された試料について自然科学分析を行った。分析内容は、放射性炭素年代測定5点、樹種同定5点、植物珪酸体分析4点、花粉分析4点、テフラ分析1点である。第29表に、分析試料リストを示す。以下に、各分析項目ごとに試料の詳細、分析方法、分析結果および考察・所見を記載する。

第2節 放射性炭素年代測定

1 はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 (^{14}C) の濃度が放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土器附着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である(中村,2003)。

2 試料と方法

試料は、No.1～No.5の5点である。第30表に試料の詳細および前処理・調整法を示す。測定は加速器質量分析法(AMS法: Accelerator Mass Spectrometry)で行った。

3 測定結果

AMS法によって得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行い、放射性炭素(^{14}C)年代および暦年代(較正年代)を算出した。第30表にこれらの結果を示し、第102図に各試料の暦年較正結果(較正曲線)、第103図に暦年較正年代マルチプロット図を示す。

(1) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を $-25(‰)$ に標準化することで同位体分別効果を補正している。

(2) 放射性炭素(^{14}C)年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、現在(AD 1950年基点)から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5730年であるが、国際的慣例によりLibbyの5568年を使用している。付記した統計誤差(±)は 1σ (68.2%確率)である。 ^{14}C 年代値は下1桁を丸めて表記するのが慣例であるが、暦年較正曲線が更新された場合のために下1桁を丸めない暦年較正用年代値を併記した。

(3) 暦年代(Calendar Years)

放射性炭素(^{14}C)年代を実際の年代値に近づけるために、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動や ^{14}C の半減期の違いを較正している。暦年較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な ^{14}C 測定値および福井県水月湖の年縞堆積物データなどにより作成された較正曲線を使用した。較正曲線のデータはIntCal 20、較正プログラムはOxCal 4.3である。

暦年代(較正年代)は、 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅で表し、OxCalの確率法により 2σ (95.4%確率)で示した。較正曲線が不安定な年代では、複数の値が表記される場合もある。()内の%表示は、その範囲内に暦年代が入る確率を示す。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

第29表 分析内容・試料一覧

試料番号	遺構名・試料内容		年代測定	樹種同定	植物珪酸体	花粉	テフラ
No.1	SH13	炭化材①	○	○			
No.2	SH13	炭化材②	○	○			
No.3	SH14-34	炭化材	○	○			
No.4	SH 8 -15	炭化材	○	○			
No.5	古道11(KM4-5)	炭化材	○	○			
No.6	畝間状遺構	土壌(イ)			○	○	
No.7	畝間状遺構	土壌(ウ)			○	○	
No.8	畝間状遺構	土壌(オ)			○	○	
No.9	畝間状遺構	土壌(キ)			○	○	
No.10	畝間状遺構	火山灰(ア)					○
合計			5点	5点	4点	4点	1点

第30表 放射性炭素年代測定結果

試料 No.	測定No. IAAA-	試料の詳細	種類	前処理 測定法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (年BP)	暦年較正用 年代(年BP)	暦年代(較正年代)	
								1 σ (68.2%確率)	2 σ (95.4%確率)
1	201714	SH13① 棒状	炭化材	AA処理 AMS法	-25.54 ± 0.23	1630 ± 20	1631 ± 22	cal AD 410-436 (37.9%) cal AD 464-475 (9.7%) cal AD 500-509 (6.5%) cal AD 515-531 (14.1%)	cal AD 403-483 (63.6%) cal AD 490-538 (31.9%)
2	201715	SH13② 板状-穿孔有	炭化材	AA処理 AMS法	-27.81 ± 0.19	1610 ± 20	1610 ± 22	cal AD 419-439 (19.4%) cal AD 461-477 (15.3%) cal AD 497-533 (33.6%)	cal AD 416-538 (95.4%)
3	201716	SH14-34	炭化材	AA処理 AMS法	-27.15 ± 0.23	1780 ± 20	1776 ± 22	cal AD 244-255 (14.7%) cal AD 286-326 (53.6%)	cal AD 231-264 (26.0%) cal AD 275-346 (69.5%)
4	201717	SH 8 -15	炭化材	AA処理 AMS法	-27.30 ± 0.25	1710 ± 20	1712 ± 22	cal AD 262-277 (14.4%) cal AD 340-401 (53.9%)	cal AD 255-285 (22.7%) cal AD 326-411 (72.7%)
5	201718	古道11 (KM4-5)	炭化材	AA処理 AMS法	-30.21 ± 0.21	490 ± 20	492 ± 21	cal AD 1420-1440 (68.3%)	cal AD 1409-1445 (95.4%)

4 所見

放射性炭素年代測定の結果、No.1では1630 ± 20年BP (2σの暦年代でAD 403 ~ 483, 490 ~ 538年), No.2では1610 ± 20年BP (AD 416 ~ 538年), No.3では1780 ± 20年BP (AD 231 ~ 264, 275 ~ 346年), No.4では1710 ± 20年BP (AD 255 ~ 285, 326 ~ 411年), No.5では490 ± 20年BP (AD 1409 ~ 1445年)の年代値が得られた。

なお、樹木(炭化材)による年代測定結果は、樹木の伐採年もしくはそれより以前の年代を示しており、樹木の心材に近い部分や転用材が利用されていた場合は、考古学的所見よりも古い年代値となることがある。

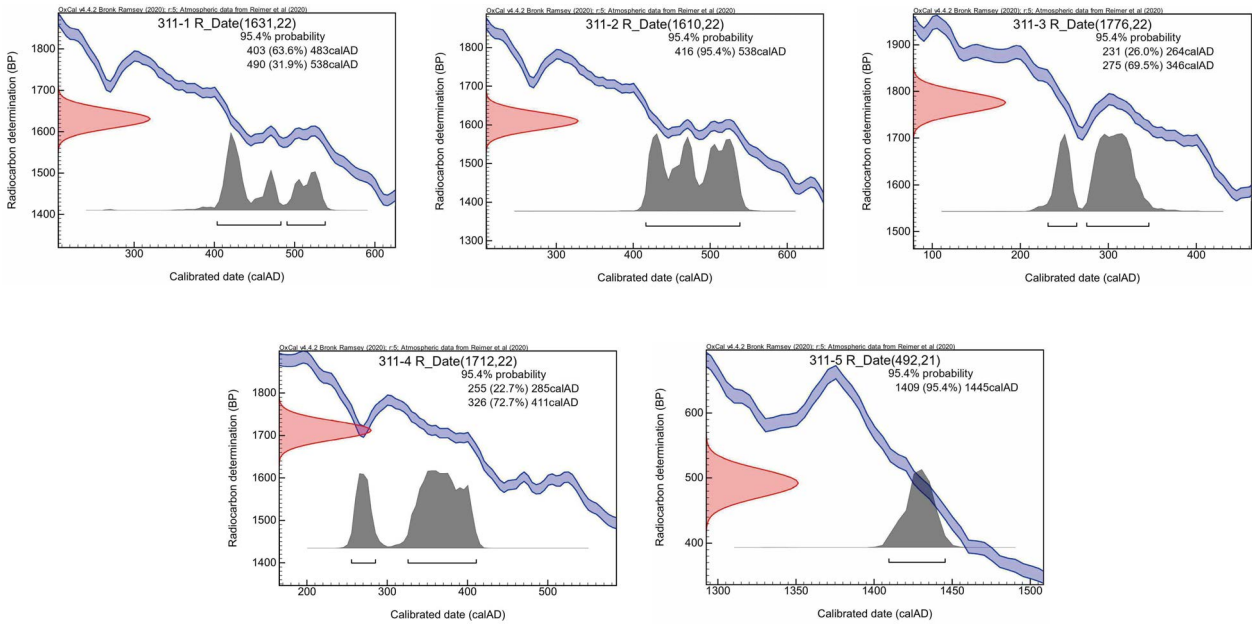
文献

中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編「日本先史時代の¹⁴C年代」. 日本第四紀学会, P.3-20.

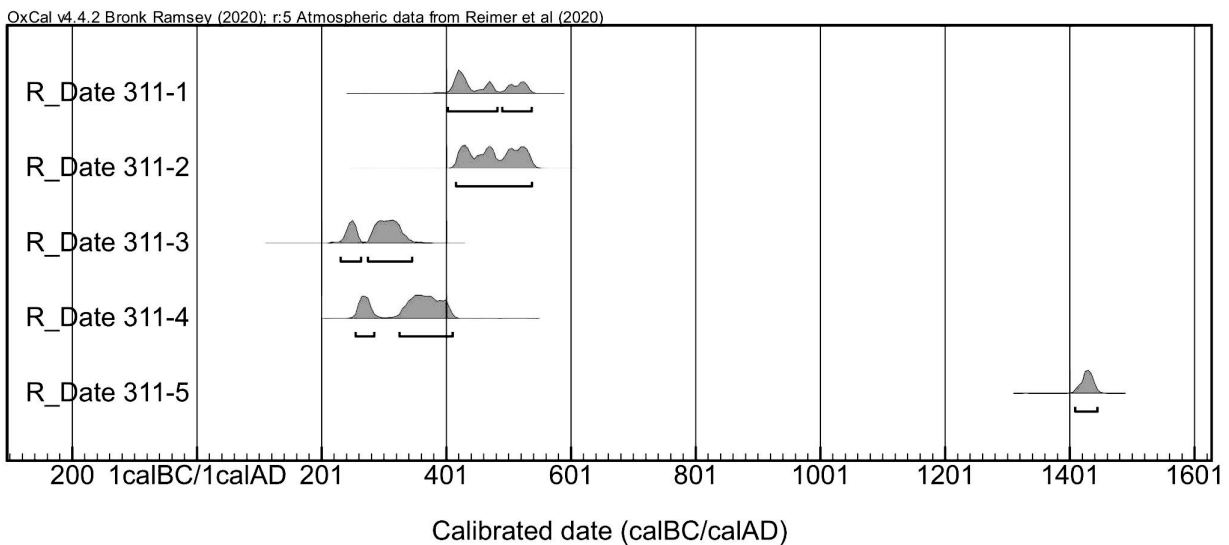
中村俊夫(2003)放射性炭素年代測定法と暦年代較正. 環境考古学マニュアル. 同成社, P.301 - 322.

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337 - 360.

Paula J Reimer et al., (2020) The IntCal 20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0 - 55 kcal BP). Radiocarbon, 62(4), p.1 - 33,



第 102 図 暦年較正結果



第 103 図 暦年較正年代マルチプロット図

第3節 樹種同定

1 はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2 試料

試料は、放射性炭素年代測定に用いられたものと同じの5点 (No.1 ~ No.5) である。

3 方法

以下の手順で樹種同定を行った。

(1) 試料を洗浄して付着した異物を除去

(2) 試料を割折して、木材の基本的三断面 (横断面: 木口, 放射断面: 柾目, 接線断面: 板目) を作成

(3) 落射顕微鏡 (40 ~ 1000 倍) で観察し、木材の解剖学的形質や現生標本との対比で樹種を同定

4 結果

第31表に同定結果を示し、第104・105図に各分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった木材構造の特徴を記す。

(1) カヤ *Torreya nucifera* Sieb. et Zucc. イチイ科

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材であり、早材から晩材への移行は緩やかで晩材部の幅は狭く年輪界は比較的不明瞭である。放射断面では放射柔細胞の分野壁孔がヒノキ型で1分野に1~4個存在する。仮道管の内壁には、らせん肥厚が2本対で存在する。放射組織が単列の同性放射組織型である。

以上の特徴からカヤに同定される。カヤは宮城県以南の本州、四国、九州と韓国の済州島に分布する。常緑の高木で通常高さ25m、径90cmに達する。

(2) スダジイ *Castanopsis sieboldii* Hatusima ブナ科

年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる単列の同性放射組織型を示す。

以上の特徴からスダジイに同定される。スダジイは本州 (福島県, 新潟県佐渡以南), 四国, 九州に分布する。常緑の高木で、高さ20m、径1.5mに達する。

(3) シイ属 *Castanopsis* ブナ科

年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる単列の同性放射組織型のもが存在する。

以上の特徴からシイ属に同定される。シイ属は本州 (福島県, 新潟県佐渡以南), 四国, 九州に分布する。常緑高木で、高さ20m、径1.5mに達する。シイ属にはスダジイとツブラジイがあり、集合放射組織の有無などで同定できるが、試料が小片で広範囲の観察が困難なためシイ属の同定にとどめた。

(4) サクラ属 *Prunus* バラ科

丸い道管が単独あるいは2~3個放射方向および斜め方向に複合して散在する散孔材である。道管の径は早材部から晩材部にかけてゆるやかに減少する。道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性に近い異性放射組織型を示す。

以上の特徴からサクラ属に同定される。サクラ属には、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、シウリザクラ、ウメ、モモなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木または低木である。

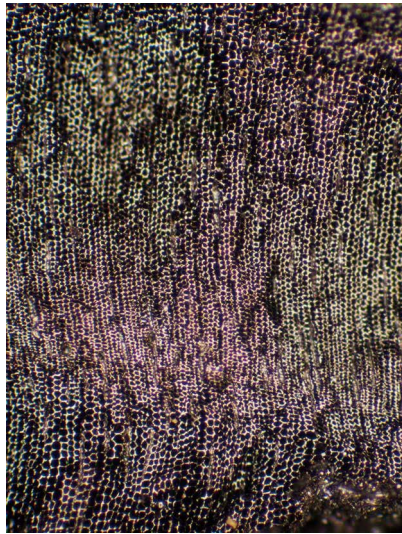
5 所見

炭化材の樹種同定の結果、No.1 (SH13①) はカヤ、No.2 (SH13③) はサクラ属、No.3 (SH14) はシイ属、No.4 (SH 8) はスダジイ、No.5 (古道11) はスダジイと同定された。

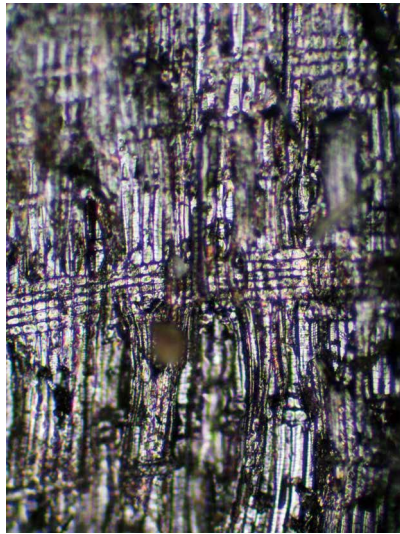
スダジイを含むシイ属は、やや重硬で耐朽・保存性は低い材であるが、九州では古くから建築部材などに広く利用されている。シイ属は成長が早く採取が容易であることや、タンニンが多く防腐・防虫効果を持つため、湿

第31表 炭化材の樹種同定結果

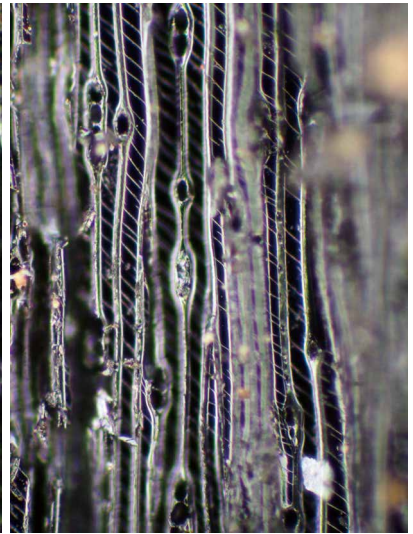
No.	試料	結果 (学名/和名)
1	SH13①, 棒状	<i>Torreya nucifera</i> Sieb. et Zucc. カヤ
2	SH13②, 板状 - 穿孔有	<i>Prunus</i> サクラ属
3	SH14-34	<i>Castanopsis</i> シイ属
4	SH 8-15	<i>Castanopsis sieboldii</i> Hatusima スダジイ
5	古道 11 (KM4-5)	<i>Castanopsis sieboldii</i> Hatusima スダジイ



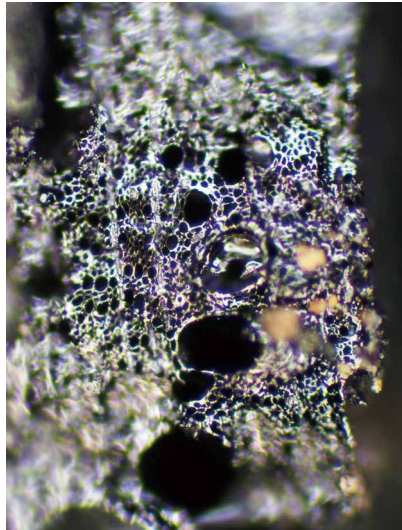
横断面
カヤ SH13出土炭化材①



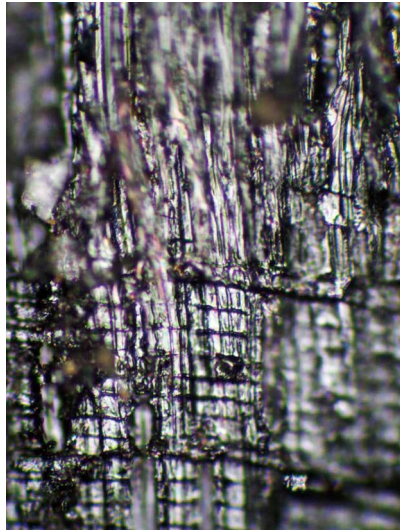
放射断面



接線断面



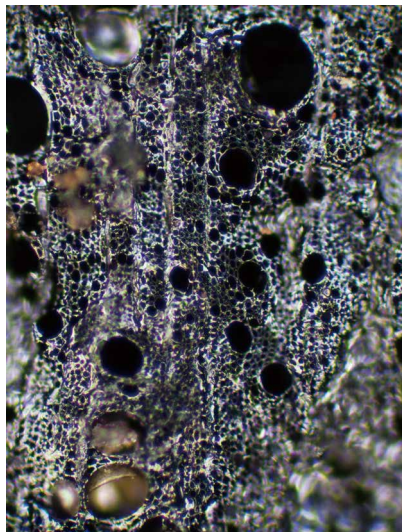
横断面
サクラ属 SH13出土炭化材②



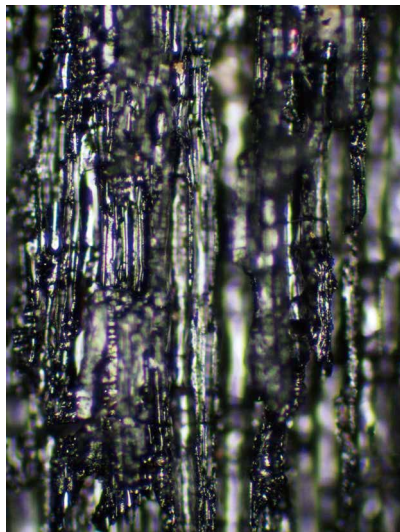
放射断面



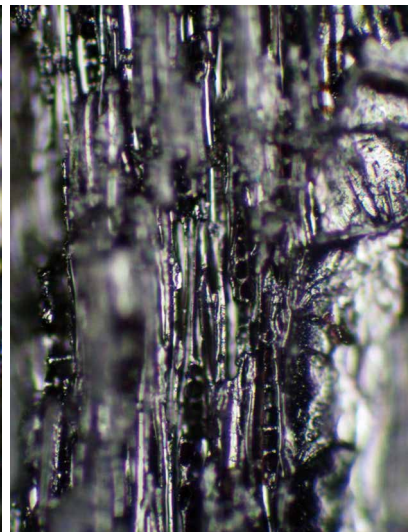
接線断面



横断面
シイ属 SH14出土炭化物



放射断面

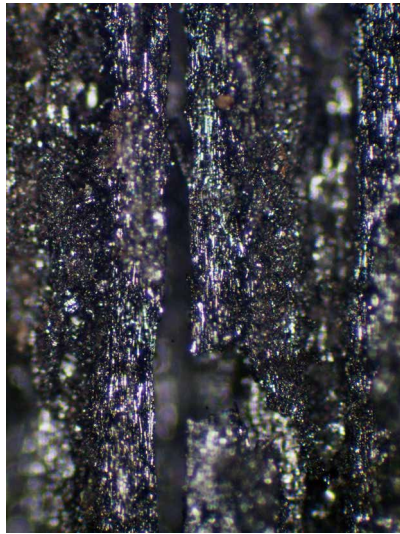


接線断面

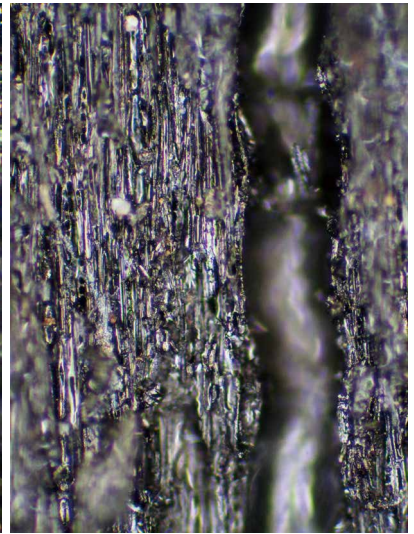
第 104 図 久保田牧遺跡の木材 I



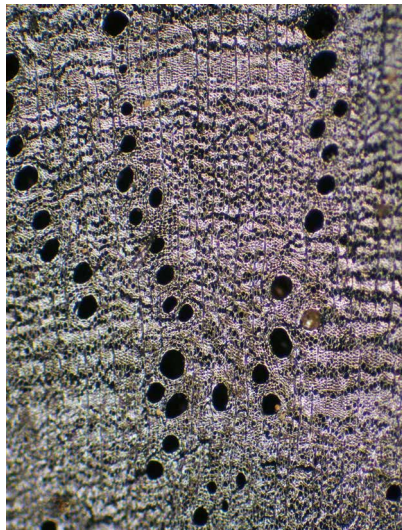
横断面
スダジイ SH8出土炭化材 0.1mm



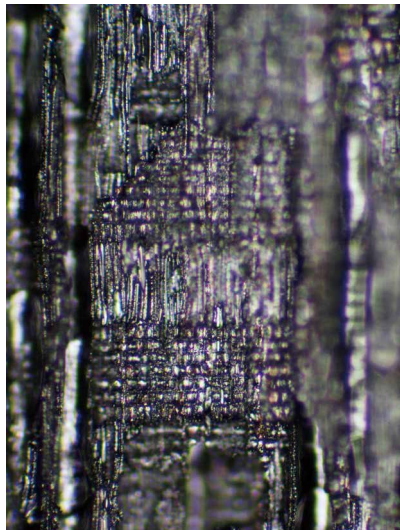
放射断面 0.1mm



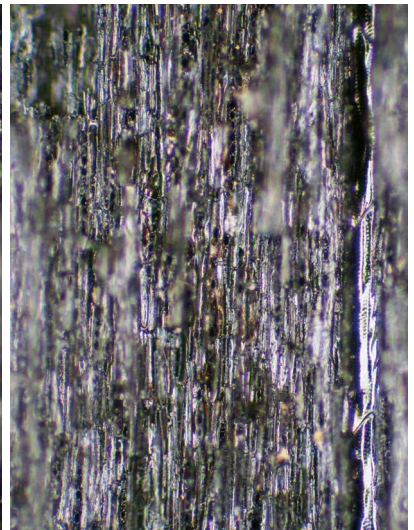
接線断面 0.1mm



横断面
スダジイ 硬化面4出土炭化物 0.1mm



放射断面 0.1mm



接線断面 0.1mm

第 105 図 久保田牧遺跡の木材 II

度の高い九州では利用が多かったと考えられる。

カヤは、耐朽・保存性が高く水湿に耐える材で、加工が容易で割裂し易い。表面の仕上がりが良好で光沢が出ることから、現在では碁盤や将棋盤などに利用される。また、均質緻密で堅硬であり弾性が強いことから弓などにも用いられる。

サクラ属は、耐朽・保存性の高い材で、切削・加工の難度は中庸で、概して堅硬な材である。サクラ属を建築部材として利用する例は少ないが、比較的最近では刳物の容器などに利用されている。

燃料材（薪炭材）としての利用では、針葉樹は火付きの良さや瞬発的な火力の強さがあり、広葉樹は火持ちが良いものが多い。カヤは針葉樹であり火付きが良いため焚き付け材として有用であり、スダジイは火力が強く、サクラ属は火持ちは劣るが比較的早く着火するため中薪に最適とされている。

これらの樹種は、いずれも温帯から温帯下部の暖温帯に分布し、スダジイを含むシイ属は照葉樹林の主要構成要素であり、カヤは谷沿いなどやや湿潤なところに生育し、サクラ属は排水の良い斜面地に分布する。いずれの樹種も、当時の遺構周辺もしくは近隣の地域で採取可能であったと考えられる。

文献

伊東隆夫・山田昌久 (2012) 木の考古学. 出土木製品用材データベース. 海青社, 449P.

島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司 (1985) 木材の構造. 文永堂出版, 290P.
島地 謙・伊東隆夫 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧. 雄山閣, 296P.

山田昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史. 植生史研究特別1号. 植生史研究会, 242P.

第4節 植物珪酸体分析

1 はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO₂) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 2000, 2009)。

2 試料

分析試料は、紫コラ (開聞岳噴火 874 年) 直下の畝間状遺構から採取された Na.6 (イ: 畝間の埋土), Na.7 (ウ: 畝間の下層), Na.8 (オ: 畝部, II 層), Na.9 (キ: 畝部,

III a 層) の 4 点である (第 38 図参照)。

3 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法 (藤原, 1976) を用いて、次の手順で行った。

(1) 試料を 105℃ で 24 時間乾燥 (絶乾)

(2) 試料約 1 g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加 (0.1mg の精度で秤量)

(3) 電気炉灰化法 (550℃ ・ 6 時間) による脱有機物処理

(4) 超音波水中照射 (300W ・ 42KHz ・ 10 分間) による分散

(5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去

(6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成

(7) 検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1 g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1 g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重 (1.0 と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重) をかけて、単位面積で層厚 1 cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる (杉山, 2000)。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4 分析結果

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第 32 表および第 106 図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真 (第 107 図) を示す。

[イネ科]

イネ, ヨシ属, キビ族型, ススキ属型 (おもにススキ属), ウシクサ族 A (チガヤ属など)

[イネ科-タケ亜科]

メダケ節型 (メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節, ヤダケ属), ネザサ節型 (おもにメダケ属ネザサ節), チマキザサ節型 (ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など), ミヤコザサ節型 (ササ属ミヤコザサ節など), 未分類等 [イネ科-その他]

表皮毛起源, 棒状珪酸体 (おもに結合組織細胞由来), 未分類等

〔樹木〕

ブナ科（シイ属）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）、アワブキ科、その他

5 考察

（1）イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネをはじめムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属型（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはイネが検出された。

イネは、Na.6（イ：畝間の埋土）、Na.8（オ：畝部、Ⅱ層）、Na.9（キ：畝部、Ⅲ a 層）から検出された。イネの密度は、Na.6とNa.9では500個/g、Na.8では1,500個/gと低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/g（状況により3,000個/gとする場合もある）を下回っている。ただし、Na.6は直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入したことは考えにくい。したがって、同層準の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。また、陸稲栽培の場合は、連作障害や地力の低下を避けるために輪作を行ったり休閑期間をおく必要があることから、イネの密度は水田よりもかなり低く1,000～2,000個/g程度であることが多い。

イネ科栽培植物の中には検討が不十分なものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。また、キビ族型にはヒエ属やエノコログサ属に近似したものも含まれている。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

（2）植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群では、各試料ともススキ属型、ウシクサ族Aが多く検出され、メダケ節型、ネザサ節型、および樹木（照葉樹）のブナ科（シイ属）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）、アワブキ科なども認められた。また、Na.9ではヨシ属も少量検出された。おもな分類群の推定生産量によると、各試料ともススキ属型が優勢となっている。

以上の結果から、各層準の堆積当時は、ススキ属やウシクサ族（チガヤ属など）を主体としてメダケ属（メダケ節やネザサ節）なども見られる草原的な環境であったと考えられ、遺跡周辺にはシイ属、クスノキ科、イスノキ属などの照葉樹林が分布していたと推定される。

6 まとめ

植物珪酸体分析の結果、紫コラ（874年）直下の畝間状遺構から採取された試料では、少量ながらイネが検出され、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が認められた。遺跡の立地や周辺の植生などから、ここで行われた稲作は畑作の系統（陸稲）であった可能性が考えられる。

各層準の堆積当時は、ススキ属やウシクサ族（チガヤ属など）を主体としてメダケ属（メダケ節やネザサ節）なども見られる草原的な環境であったと考えられ、遺跡周辺にはシイ属、クスノキ科、イスノキ属などの照葉樹林が分布していたと推定される。

文献

- 杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－. 考古学と自然科学, 19, P.69－84.
- 杉山真二（1999）植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史. 第四紀研究, 38（2）, P.109－123.
- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）. 考古学と植物学. 同成社, P.189－213.
- 杉山真二（2009）植物珪酸体と古生態. 人と植物の関わりあい④. 大地と森の中で－縄文時代の古生態系－. 縄文の考古学Ⅲ. 小杉康ほか編. 同成社, P.105－114.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－. 考古学と自然科学, 9, P.15－29.
- 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）－プラント・オパール分析による水田址の探査－. 考古学と自然科学, 17, P.73－85.

第5節 花粉分析

1 はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの有機質遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

2 試料

分析試料は、植物珪酸体分析に用いられたものと同じ

第 32 表 植物珪酸体分析結果

検出密度 (単位: × 100 個 / g)

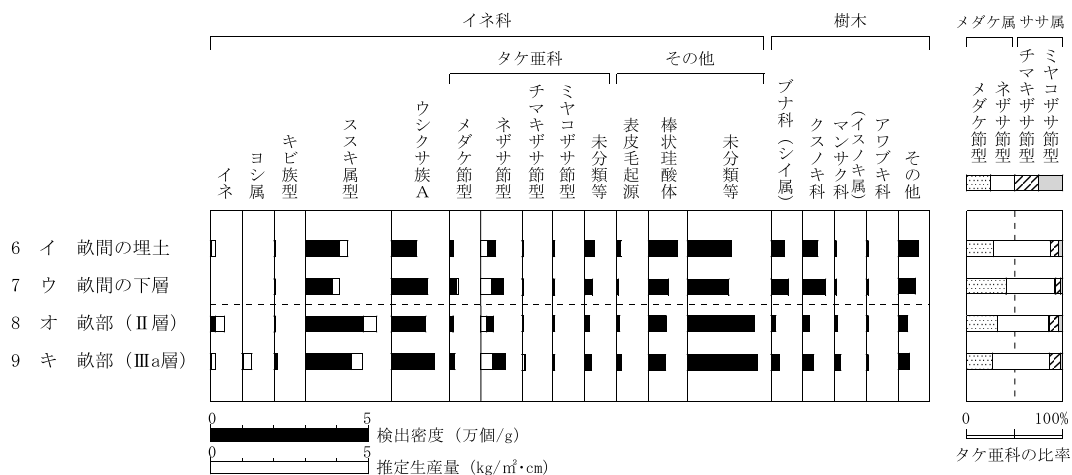
分類群	学名	地点・試料			
		6	7	8	9
イネ科	Gramineae				
イネ	<i>Oryza sativa</i>	5		15	5
ヨシ属	<i>Phragmites</i>				5
キビ族型	<i>Panicaceae type</i>	5	5	5	10
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	111	88	187	148
ウシクサ族 A	<i>Andropogoneae A type</i>	82	117	111	138
タケ亜科	Bambusoideae				
メダケ節型	<i>Pleioblastus sect. Nipponocalamus</i>	10	24	10	15
ネザサ節型	<i>Pleioblastus sect. Nezasa</i>	48	73	40	79
チマキザサ節型	<i>Sasa sect. Sasa etc.</i>	5	5	5	10
ミヤコザサ節型	<i>Sasa sect. Crassinodi</i>	5	5	5	5
未分類等	Others	29	24	15	20
その他のイネ科	Others				
表皮毛起源	Husk hair origin	14	5	10	15
棒状珪酸体	Rodshaped	92	63	56	54
未分類等	Others	140	132	212	222
樹木起源	Arboreal				
ブナ科 (シイ属)	<i>Castanopsis</i>	43	54	15	25
クスノキ科	Lauraceae	48	73	20	35
マンサク科 (イスノキ属)	<i>Distylium</i>	5	5	10	20
アワブキ科	Sabiaceae	5	5	5	5
その他	Others	63	54	30	35
植物珪酸体総数	Total	709	733	753	845

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg / m² · cm) : 試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出

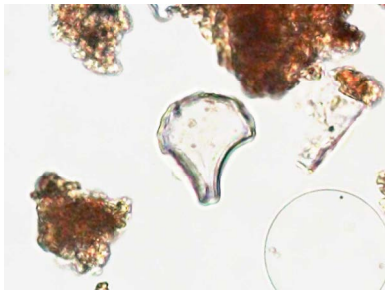
イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.14		0.45	0.15
ヨシ属	<i>Phragmites</i>				0.31
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	1.38	1.09	2.32	1.84
メダケ節型	<i>Pleioblastus sect. Nipponocalamus</i>	0.11	0.28	0.12	0.17
ネザサ節型	<i>Pleioblastus sect. Nezasa</i>	0.23	0.35	0.19	0.38
チマキザサ節型	<i>Sasa sect. Sasa etc.</i>	0.04	0.04	0.04	0.07
ミヤコザサ節型	<i>Sasa sect. Crassinodi</i>	0.01	0.01	0.02	0.01

タケ亜科の比率 (%)

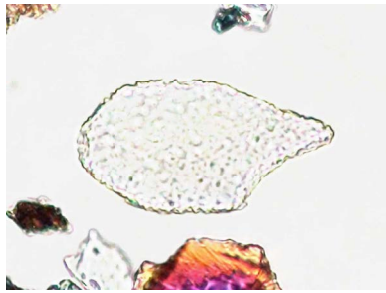
メダケ節型	<i>Pleioblastus sect. Nipponocalamus</i>	28	41	32	27
ネザサ節型	<i>Pleioblastus sect. Nezasa</i>	59	51	53	59
チマキザサ節型	<i>Sasa sect. Sasa etc.</i>	9	5	10	12
ミヤコザサ節型	<i>Sasa sect. Crassinodi</i>	4	2	4	2
メダケ率	Medake ratio	87	93	85	86



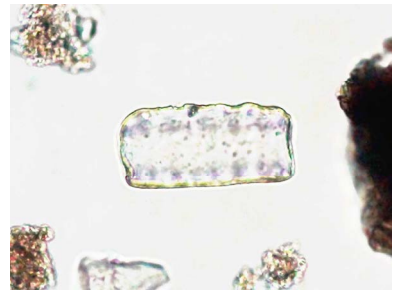
第 106 図 植物珪酸体分析結果



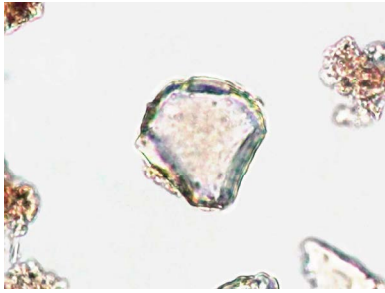
イネ
No. 9



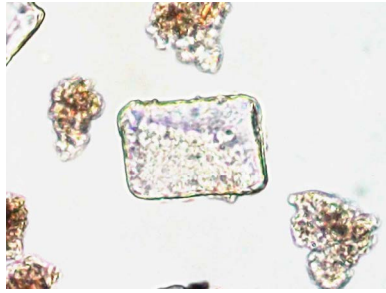
ヨシ属
No. 9



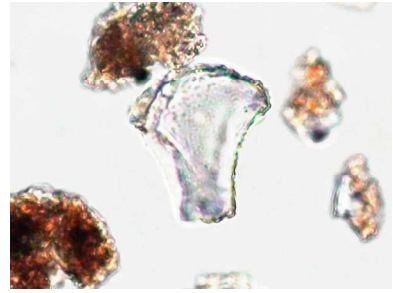
キビ族型
No. 8



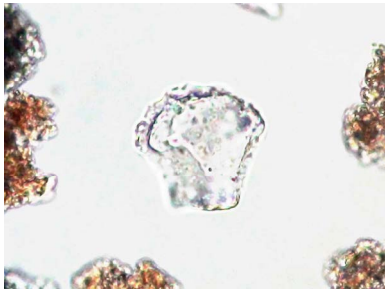
ススキ属型
No. 6



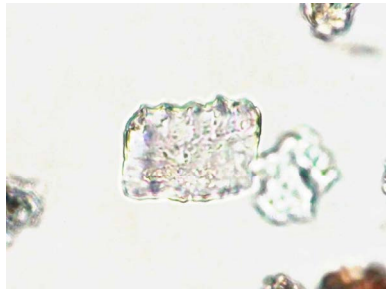
ウシクサ族A
No. 9



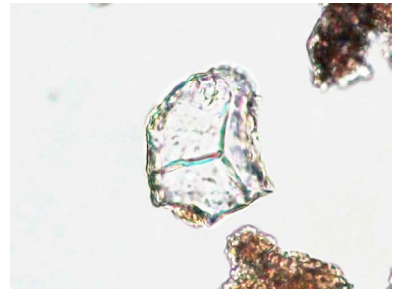
メダケ節型
No. 7



ネザサ節型
No. 8



ネザサ節型
No. 9



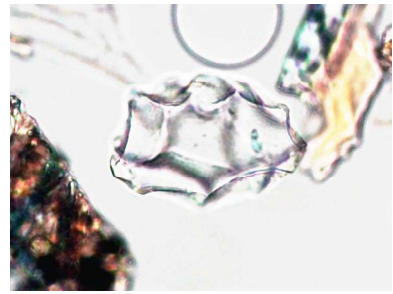
チマキザサ節型
No. 6



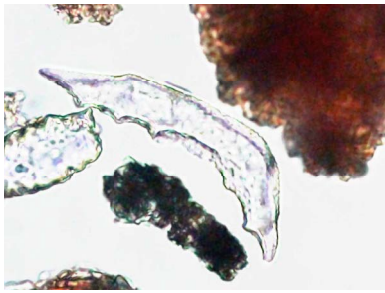
表皮毛起源
No. 9



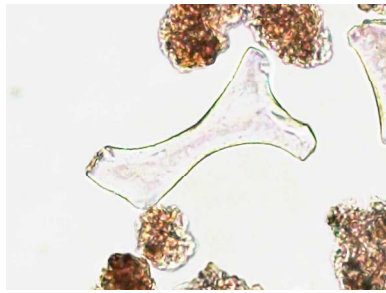
棒状珪酸体
No. 8



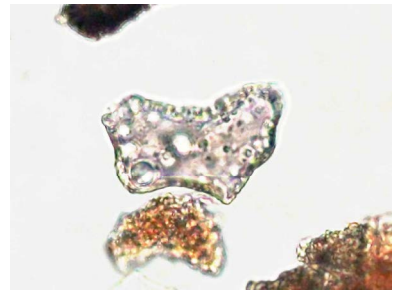
ブナ科 (シイ属)
No. 6



クスノキ科
No. 7



マンサク科 (イスノキ属)
No. 8



樹木 (その他)
No. 7

第 107 図 植物珪酸体 (プラント・オパール)

50 μ m

の4点 (No.6～No.9) である。

3 方法

花粉の分離抽出は、中村 (1967) の方法をもとに、以下の手順で行った。

- (1) 試料から 1 cm³ を秤量
- (2) 0.5% リン酸三ナトリウム (12 水) 溶液を加えて 15 分間湯煎
- (3) 水洗処理の後、0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- (4) 25% フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置
- (5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理 (無水酢酸 9 : 濃硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎) を施す
- (6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- (7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- (8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 300～1000 倍で行った。花粉の同定は、鳥倉 (1973) および中村 (1980) をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン (—) で結んで示した。イネ属については、中村 (1974, 1977) を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

4 結果

(1) 分類群

検出された分類群は、樹木花粉 10、樹木花粉と草本花粉を含むもの 3、草本花粉 7、シダ植物孢子 2 形態の計 22 分類群である。なお、寄生虫卵は認められなかった。分析結果を第 33 表に示し、主要な分類群について顕微鏡写真 (第 108 図) を示す。花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示しているが、いずれの試料も花粉数が 100 個未満であった。以下に出現した分類群を記載する。

[樹木花粉]

マツ属複雑管束亜属、スギ、ヤナギ属、ハンノキ属、ハシバミ属、クマシデ属—アサダ、クリ、シイ属—マテバシイ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属 [樹木花粉と草本花粉を含むもの]

マメ科、ウコギ科、ニワトコ属—ガマズミ属

[草本花粉]

イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、アブラナ科、セリ亜科、タンポポ亜科、ヨモギ属 [シダ植物孢子]

単条溝孢子、三条溝孢子

(2) 花粉群集の特徴 (第 33 表)

各試料とも花粉密度が低いため、花粉ダイアグラムは作成できなかった。No.6 (畝間の埋土) では、樹木花粉のシイ属—マテバシイ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、クリ、草本花粉のヨモギ属、イネ科 (イネ属型を含む)、タンポポ亜科、アブラナ科、樹木・草本花粉のマメ科などが検出されたが、いずれも少量である。植物珪酸体分析 (第 4 節) の結果から、イネ科の主体はススキ属やチガヤ属と考えられる。その他の試料でも、おおむね同様の分類群が検出されたが、イネ属型は認められなかった。また、No.8 (畝部、II 層) と No.9 (畝部、III a 層) では、草本花粉のイネ科、ヨモギ属が比較的多く、樹木花粉は少なくなっている。

5 花粉分析から推定される植生と環境

紫コラ (874 年) 直下の畝間状遺構から採取された試料では、花粉があまり検出されないことから植生や環境の詳細な推定は困難である。花粉があまり検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられる。

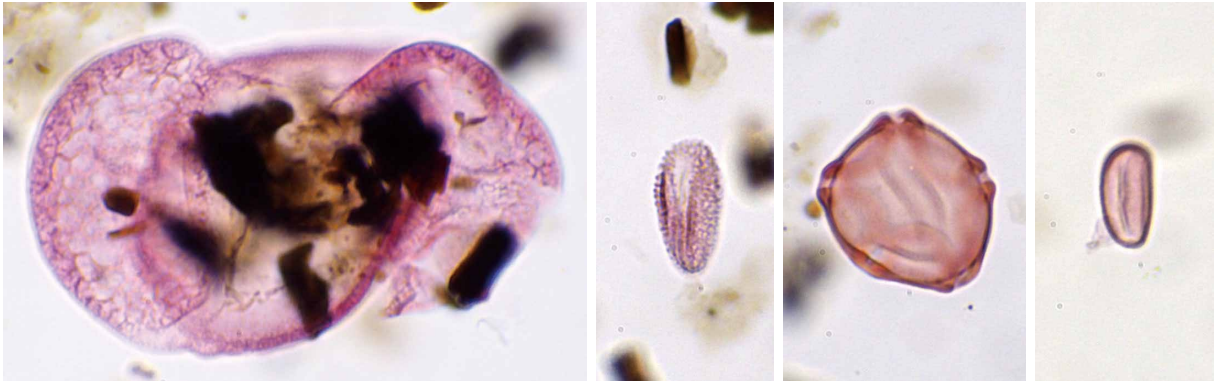
なお、No.6 (畝間の埋土) では少量ながらイネ属型の花粉が検出されることから、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が示唆される。これは、植物珪酸体分析の結果と整合している。また、周辺にはイネ科 (ススキ属、チガヤ属など)、ヨモギ属、タンポポ亜科などの日当たりの良い乾燥地を好む草本類が生育し、アブラナ科、マメ科などもみられたと考えられる。アブラナ科には、アブラナ (ナタネ)、ダイコン、ハクサイ、タカナ、カブなどの栽培植物が含まれている。また、遺跡周辺にはシイ属—マテバシイ属、コナラ属アカガシ亜属などの照葉樹をはじめ、二次林とみられるコナラ属コナラ亜属、クリなどが生育していた可能性が考えられる。

文献

- 金原正明 (1993) 花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本第 10 巻古代資料研究の方法, 角川書店, P.248 - 262.
- 鳥倉巳三郎 (1973) 日本植物の花形形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第 5 集, 60P.
- 中村純 (1967) 花粉分析. 古今書院, P.82 - 110.
- 中村純 (1974) イネ科花粉について, とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として. 第四紀研究, 13, P.187 - 193.
- 中村純 (1977) 稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, 第 10 号, P.21 - 30.
- 中村純 (1980) 日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第 13 集, 91P.

第 33 表 花粉分析結果

分類群		6	7	8	9
学名	和名				
Arboreal pollen	樹木花粉				
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	1			1
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ				1
<i>Salix</i>	ヤナギ属	1			
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1		1	
<i>Corylus</i>	ハシバミ属				1
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属 - アサダ			1	
<i>Castanea crenata</i>	クリ	1	14		4
<i>Castanopsis-Pasania</i>	シイ属 - マテバシイ属	9	1		
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	6	3	1	2
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	2			1
Arboreal · Nonarboreal pollen	樹木 · 草本花粉				
Leguminosae	マメ科	7	6	1	
Araliaceae	ウコギ科		1		
<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニワトコ属 - ガマズミ属				1
Nonarboreal pollen	草本花粉				
Gramineae	イネ科	6	7	33	24
<i>Oryza type</i>	イネ属型	1			
Cyperaceae	カヤツリグサ科		1		
Cruciferae	アブラナ科	1	1		4
Apiodeae	セリ亜科		1	2	1
Lactucoideae	タンポポ亜科	2	1	1	3
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	13	14	38	22
Arboreal pollen	樹木花粉	21	18	3	10
Arboreal · Nonarboreal pollen	樹木 · 草本花粉	7	7	1	1
Nonarboreal pollen	草本花粉	23	25	74	54
Total pollen	花粉総数	51	50	78	65
Pollen frequencies of 1cm ³	試料 1cm ³ 中の花粉密度	0.4	0.4	0.6	0.5
		× 10 ³	× 10 ³	× 10 ³	× 10 ³
Unknown pollen	未同定花粉	5	4	0	1
Fern spore	シダ植物孢子				
Monolate type spore	単条溝孢子	58	69	78	79
Trilate type spore	三条溝孢子	9	16	11	7
Total Fern spore	シダ植物孢子総数	67	85	89	86
Parasite eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)
Stone cell	石細胞	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal · woods fragments	微細炭化物 · 微細木片	(+)	(+)	(+)	(+)
微細植物遺体 (Charcoal · woods fragments)	(× 10 ⁵)				
未分解遺体片					
分解質遺体片		10.2	7.7	5.4	7.1
炭化遺体片 (微粒炭)			0.4	0.4	1.3



1 マツ属複維管束胚属 (No.6)

2 ヤナギ属 (No.6)

3 ハンノキ属 (No.6)

4 クリ (No.6)

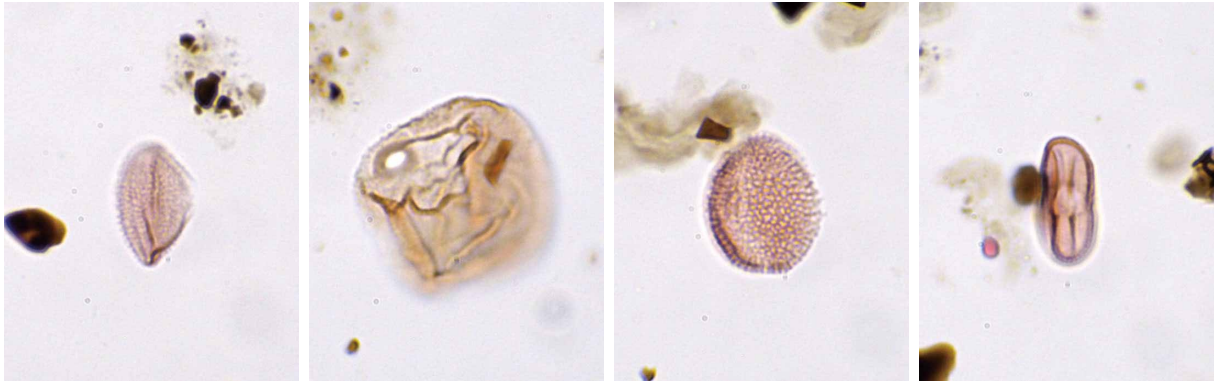


5 シイ属-マテバシイ属 (No.6)

6 コナラ属コナラ胚属 (No.6)

7 コナラ属アカガシ胚属 (No.9)

8 マメ科 (No.6)

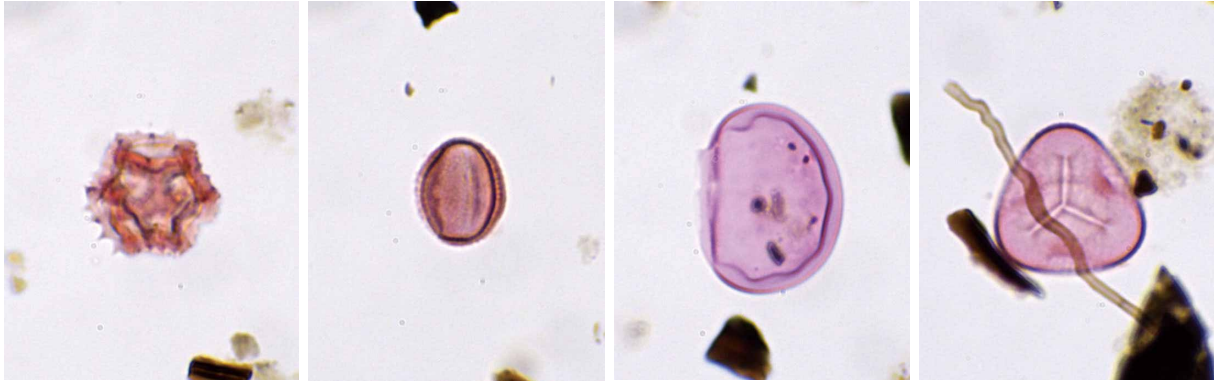


9 ニワトコ属-ガマズミ属 (No.7)

10 イネ科 (No.6)

11 アブラナ科 (No.9)

12 セリ胚科 (No.8)



13 タンポポ胚科 (No.8)

14 ヨモギ属 (No.8)

15 シダ植物単条溝胞子 (No.6)

16 シダ植物三条溝胞子 (No.6)

— 10 μm

第 108 図 久保田牧遺跡の花粉

第6節 テフラ（火山灰）分析

1 はじめに

テフラ（火山灰）の岩石学的諸特性（鉱物組成、火山ガラスの形態、火山ガラスと斜方輝石の屈折率など）を明らかにすることにより、指標テフラとの対比を試みた。なお、テフラの岩石学的諸特性や年代については新編火山灰アトラス（町田・新井,2003）などを参照した。

2 試料

分析試料は、畝間状遺構の覆土から採取されたNo.10（ア）である（第38図参照）。遺跡調査の所見から、AD874年に開聞岳から噴出した紫コラ（藤野・小林,1992）が含まれている可能性が想定されている。

3 分析方法

試料を超音波洗浄装置で分散し、粒径1/4mm - 1/8mmの粒子を篩分けした。ポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離を行い、重鉱物と軽鉱物（火山ガラスを含む）のフラクションに区分した。偏光顕微鏡下で鉱物組成（カンラン石、斜方輝石、単斜輝石、角閃石、磁鉄鉱、火山ガラスなど）を計測し、火山ガラスの形態分類（バブル型、中間型、軽石型など）を行った。火山ガラスと斜方輝石の屈折率は、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質製、MAIOT2000）を用いて測定した。

4 結果

（1）テフラ組成分析

分析結果を第34表および第109図に示す。重鉱物組成では、カンラン石の割合が29%、不透明鉱物が23%、斜方輝石が18%、単斜輝石が13%、角閃石が3%である。火山ガラス比では、バブル型火山ガラスと中間型火山ガラスがわずかに認められた。なお、篩別した1/4mm以上の粗粒碎屑物と火山ガラス比で「その他」とした砂分の実体顕微鏡による観察では、スコリアが多く確認された。スコリアは最大径約4.8mmで発泡不良であり、黒色が多く灰褐色や赤色が混在している。また、斜長石は斑晶の包有が少ない。

（2）火山ガラスと斜方輝石の屈折率測定

屈折率測定結果を第110図に示す。火山ガラスの屈折率は、レンジはn1.496-1.500でピークはn1.498-1.499である。また、n1.503やn1.512の高屈折率を示すものもある。斜方輝石の屈折率は、主要なレンジは γ 1.700 - 1.706であり、 γ 1.708-1.713や γ 1.730-1.738の高屈折率を示すものもある。

5 指標テフラとの対比

テフラの岩石学的諸特性（鉱物組成、火山ガラスの形態、火山ガラスと斜方輝石の屈折率）、顕微鏡観察の所見、および土層の堆積状況などから、試料に含まれるテフラ粒子について指標テフラとの対比を試みた。

畝間状遺構の覆土から採取されたNo.10（ア）は、カンラン石が主要な重鉱物でスコリアを多く含むことや、斜方輝石の屈折率における主要なレンジの値から、開聞岳を給源とするスコリア質テフラと考えられる。開聞岳の噴出物では、「コラ」と呼ばれる硬化した層が5層準あり（藤野・小林,1992,1997）、鹿児島県南部に分布する考古遺跡の重要な時間指標になっている。スコリアの色調や発泡度、斑晶の包有状況などの特徴から、No.10（ア）には最上位の紫コラ（AD874年）が含まれていると考えられる。

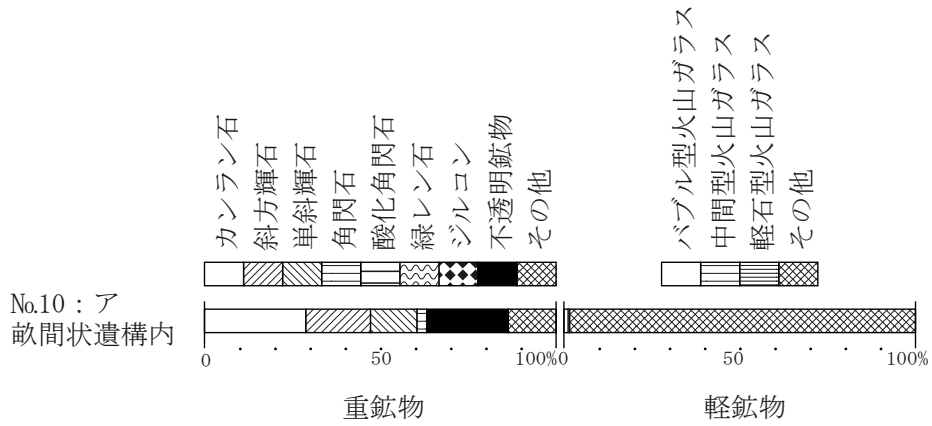
火山ガラスについては、低屈折率のものはシラスとよばれる基盤の始良入戸火砕堆積物（A - Ito, 約2.9万年前）に由来し、高屈折率のものは鬼界アカホヤ火山灰（K - Ah, 約7,300年前）に由来すると考えられる。また、斜方輝石については、高屈折率のものはK - Ahに由来し、さらに高屈折率のものはシラスに由来すると考えられる。

文献

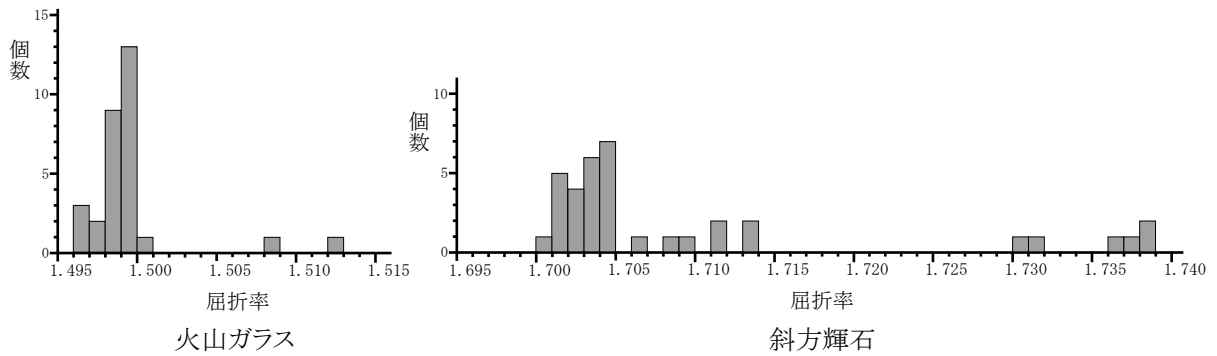
- 藤野直樹・小林哲夫（1992）開聞岳起源のコラ層の噴火・堆積様式。鹿児島大学紀要（地学・生物学）,25,P.69 - 83. 藤野直樹・小林哲夫（1997）開聞岳火山の噴火史。火山,42,P.195-211.
- 古澤明（1995）火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別。地質学雑誌,101,P.123 - 133.
- 町田洋・新井房夫（1978）南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ - アカホヤ火山灰。第四紀研究,17,P.143 - 163.
- 町田洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス - 日本列島とその周辺 -。東京大学出版会,336P.

第 34 表 テフラ組成分析結果

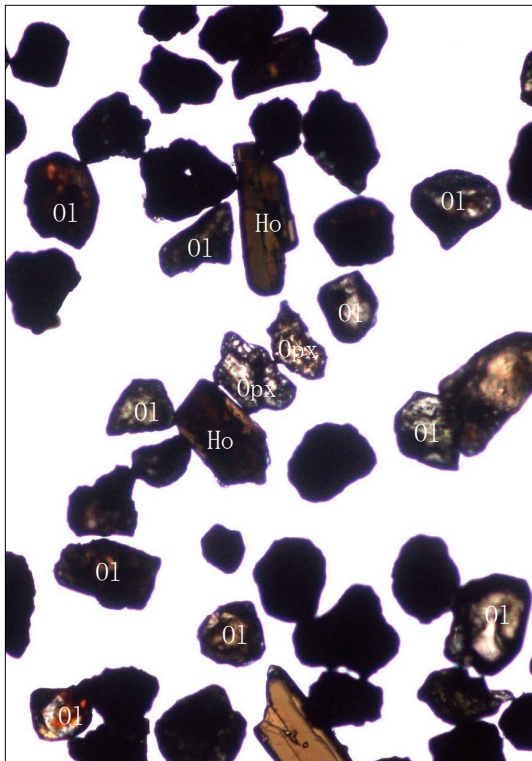
試料名	重鉱物										軽鉱物				
	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	緑レン石	ジルコン	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
No.10 : ア 畝間状遺構内	72	46	33	7	0	0	0	58	34	250	3	1	0	246	250



第 109 図 テフラ分析結果図



第 110 図 屈折率測定結果



1. 重鉱物



2. 火山ガラス

0.5mm

O1: カンラン石. Opx: 斜方輝石. Ho: 角閃石.
Vg: 火山ガラス. Qz: 石英. P1: 斜長石.



3. スコリア

2.0mm

第 111 図 テフラ試料の顕微鏡写真

第6章 総括

第1節 遺構

久保田牧遺跡の古代以降の遺構は、掘立柱建物跡や土坑、畝間状遺構、溝状遺構、古道が検出された。中世の遺物包含層であるⅡ層の残存状況が悪く、古代・中世とも遺構の検出面はⅢ層のものが多かった。

掘立柱建物跡は、古代が8棟、中世が18棟検出された。古代・中世とも17区以南で検出され、古代ではb～e-27～30区に集中し、中世ではc～i-29～34区を中心に検出された。第35表は掘立柱建物跡の主軸や平面規模等をまとめた。なお、柱間寸法・柱掘方径・柱掘方深さは平均値である。

土坑は、古代が12基、中世が8基検出された。畝間状遺構は調査範囲の北西端及び中央部分で検出された。埋土に紫コラを含むことから、全て古代のものと判断した。溝状遺構と古道は、調査範囲のほぼ全域から検出された。検出面や遺構の切り合い関係、遺構内出土遺物等から中世の遺構として取り扱ったが、古代に遡る可能性もある。

1 古代

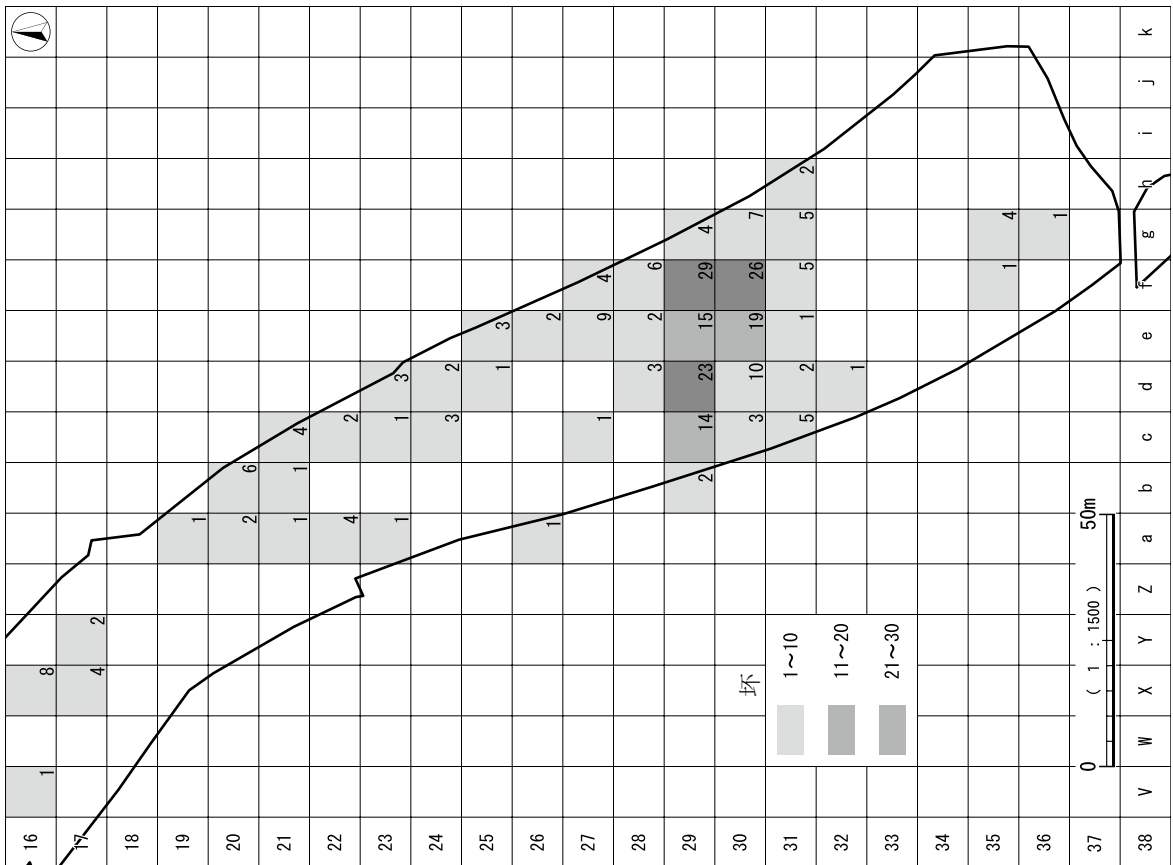
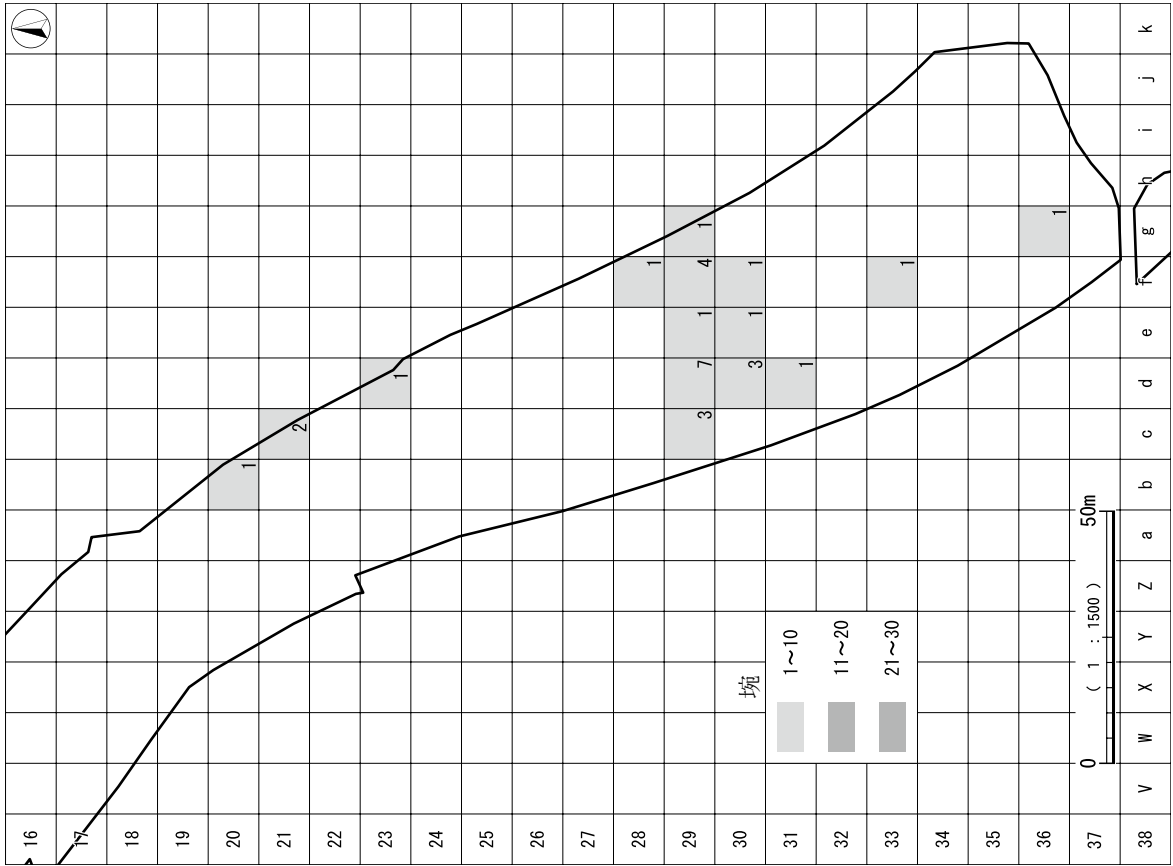
古代の掘立柱建物跡は主軸がほぼ南北方向もしくは東西方向のいずれかである。側柱建物が6棟、総柱建物が2棟であり、側柱建物は平面規模が4間×2間のものが

4棟と最も多く、残りは3間×2間及び5間×2間が1棟ずつである。総柱建物は2棟であり、8号は東西の二面に廂を持つ。建物の配置の点からは、b～e-27～30区で検出された2・3・5・6号は、東側に空間をもつコの字型に配置される(第19図参照)。後述するが、27～30区は包含層出土遺物が集中する箇所でもあり、遺構内出土遺物と包含層出土遺物に大きな差異は見られない。2・3・6号は主軸・平面規模が等しく、床面積や柱掘方の大きさ等が同程度である。2・3号は桁行の柱列が東西方向に揃い、3・6号の西側の梁行の柱列も南北方向に揃う。また、2号の西側の梁行と5号の東側の桁行の柱列は、南北方向に一直線上に並ぶことから、意図的な配置が窺える。5号は平面規模が5間×2間であり、床面積や柱掘方の大きさ・深さが本遺跡の掘立柱建物跡の中で最大である。また、5号から南東方向へ70m以上離れているが、8号も主軸は南北方向であり、床面積も50㎡を超える。主軸が方位に沿っていることや8号のみ離れて検出されたこと等から、公的な施設の中でも倉を置いた場所を想定することもできると赤司善彦氏よりご教示いただいた。

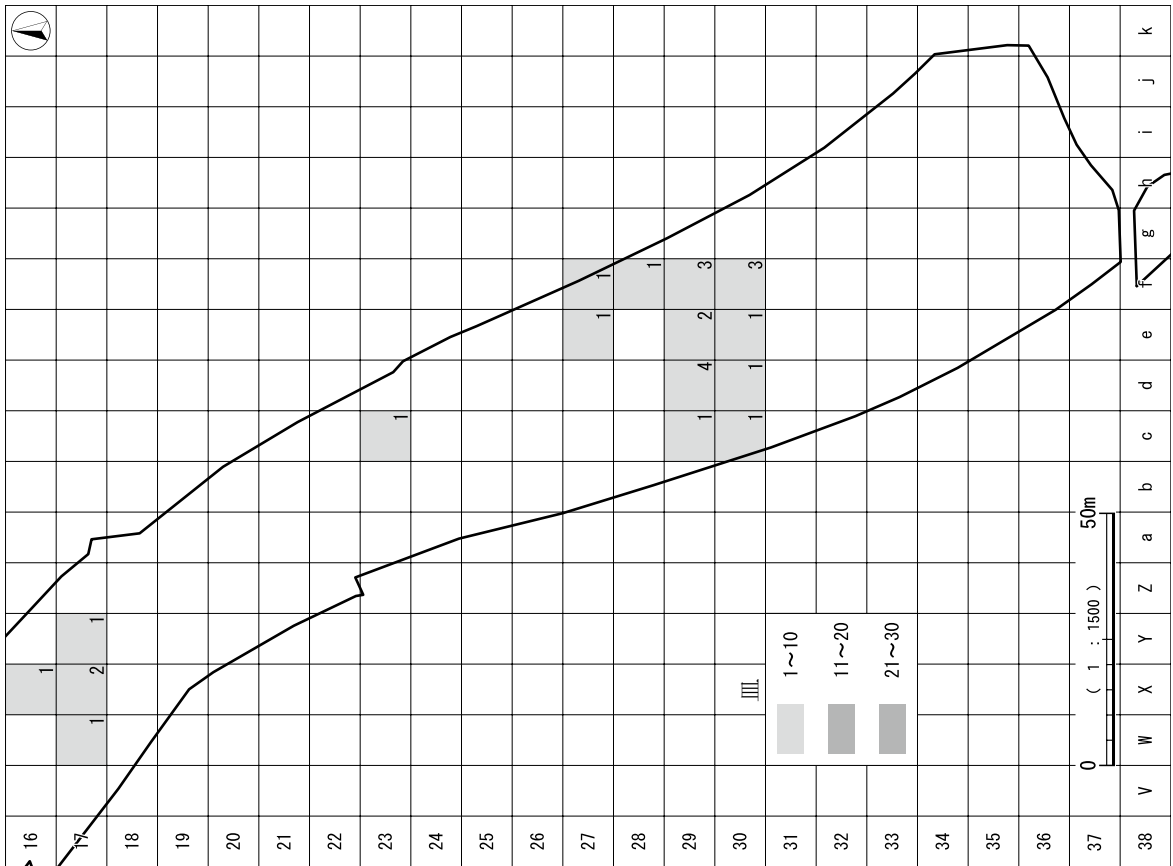
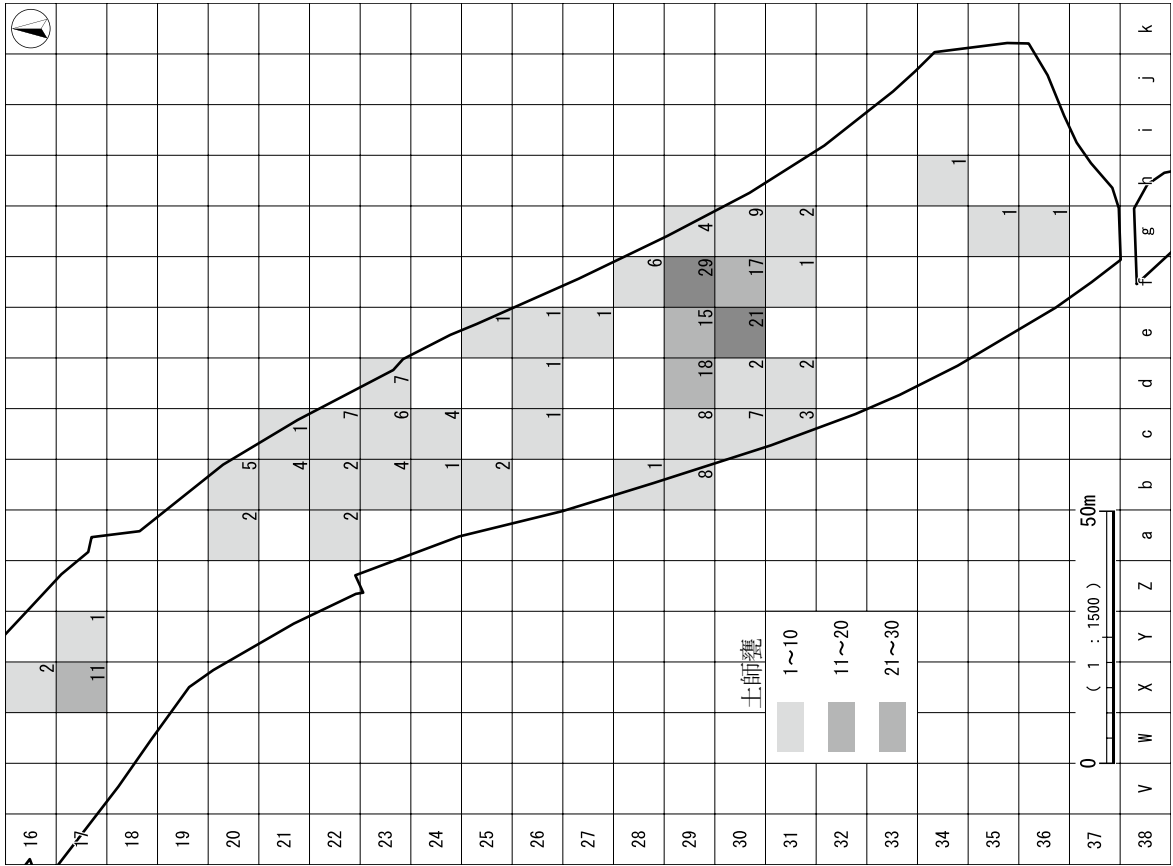
土坑は、9号土坑から土師器の坏・皿や墨書土器が重なっている状態で出土し、良好な一括資料が得られた。

第35表 掘立柱建物跡計測表

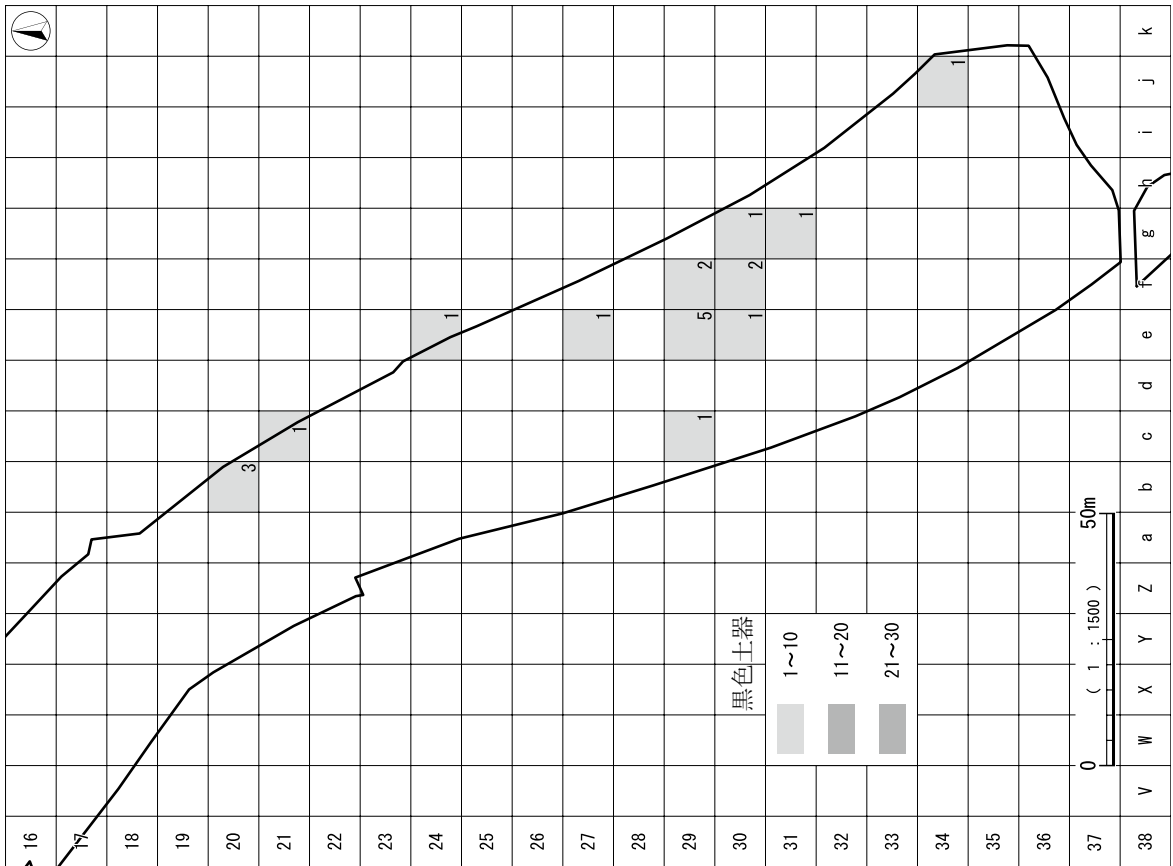
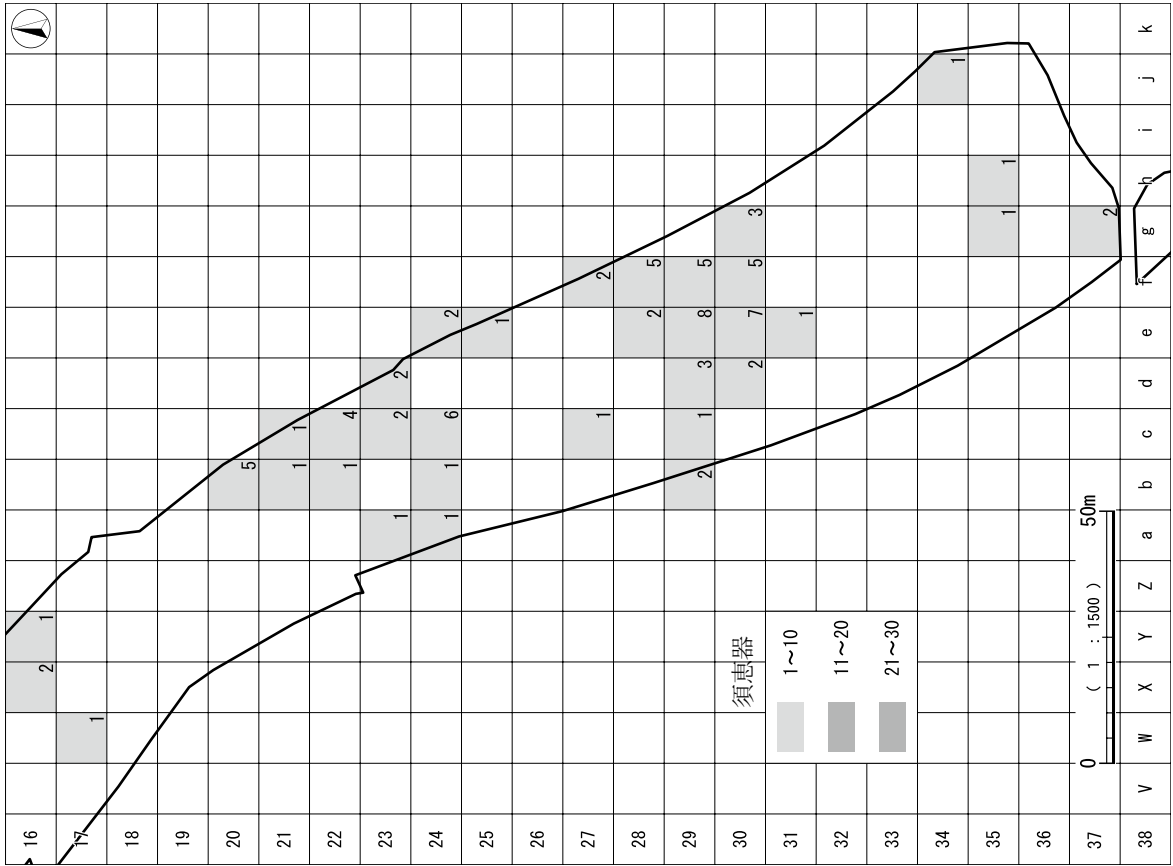
遺構名	主軸	平面規模 (桁行×梁行)	総長 m (桁行・梁行)	床面積 ㎡	柱間寸法 m (桁行・梁行)	柱掘 方径 m	柱掘方 深さ m	備考
1号	N-13° -W	4間×2間	5.10 ▪ 3.80	19.38	1.68 ▪ 1.88	0.47	0.61	
2号	N-88° -E	4間×2間	8.05 ▪ 5.20	41.86	2.01 ▪ 2.55	0.69	0.39	
3号	N-87° -E	4間×2間	6.74 ▪ 5.25	35.38	1.66 ▪ 2.64	0.64	0.30	
4号	N-78° -E	3間×2間	5.10 ▪ 3.70	18.87	1.72 ▪ 1.84	0.39	0.38	
5号	N-3° -W	5間×2間	10.65 ▪ 4.80	51.12	2.09 ▪ 2.30	0.86	0.95	
6号	N-88° -E	4間×2間	8.00 ▪ 4.65	37.2	1.96 ▪ 2.32	0.63	0.59	
7号	N-84° -E	3間×2間	5.50 ▪ 4.00	22	1.80 ▪ 1.95	0.42	0.30	総柱
8号	N-O° -W・E	4間×3間	8.06 ▪ 6.30	50.77	2.04 ▪ 2.10	0.47	0.42	総柱、二面廂(東西)
9号	N-75° -W	3間×2間	5.60 ▪ 3.47	19.43	1.84 ▪ 1.71	0.24	0.28	
10号	N-13° -E	3間×2間	5.25 ▪ 3.68	19.32	1.75 ▪ 1.85	0.23	0.16	
11号	N-12° -E	2間×2間	4.05 ▪ 3.17	12.83	2.03 ▪ 1.51	0.23	0.09	
12号	N-O° -W・E	2間+α×2間	3.95 ▪ 3.70	14.62	1.87 ▪ 1.85	0.30	0.34	片廂(南)
13号	N-5° -E	2間×2間	3.80 ▪ 3.89	14.78	1.91 ▪ 1.76	0.19	0.24	
14号	N-83° -W	3間+α×2間	6.15 ▪ 5.18	31.86	2.02 ▪ 2.29	0.22	0.29	
15号	N-6° -E	2間×2間	4.80 ▪ 4.10	19.68	2.32 ▪ 2.02	0.22	0.24	
16号	N-80° -E	2間×2間	4.05 ▪ 3.28	13.28	2.00 ▪ 1.58	0.26	0.29	総柱
17号	N-75° -E	2間×2間	4.09 ▪ 3.68	15.05	2.02 ▪ 1.79	0.24	0.23	総柱
18号	N-8° -W	2間×2間	3.13 ▪ 2.47	7.73	1.64 ▪ 1.31	0.23	0.27	総柱
19号	N-74° -E	3間+α×2間	6.36 ▪ 4.08	25.95	2.11 ▪ 2.04	0.25	0.19	総柱、二面廂(北西)
20号	N-75° -E	2間×2間	3.64 ▪ 3.48	12.67	1.75 ▪ 1.72	0.24	0.24	片廂(東)
21号	N-76° -E	4間×2間	8.34 ▪ 3.26	27.19	2.07 ▪ 1.59	0.20	0.17	
22号	N-80° -E	3間×2間	5.95 ▪ 3.90	23.21	1.88 ▪ 1.92	0.29	0.33	
23号	N-6° -E	2間×2間	4.15 ▪ 3.50	14.53	2.07 ▪ 1.72	0.24	0.21	総柱
24号	N-16° -W	3間×2間	7.40 ▪ 4.05	29.97	2.43 ▪ 1.99	0.24	0.27	
25号	N-71° -E	2間×1間	3.98 ▪ 2.07	8.24	2.00 ▪ 2.02	0.30	0.55	二面廂(東西)
26号	N-71° -E	2間×1間	4.02 ▪ 2.28	9.17	1.97 ▪ 2.27	0.33	0.60	二面廂(東西)



第112图 遺物出土状況图1 (坏・坑)



第113図 遺物出土状況図2 (皿・土師甕)



第114図 遺物出土状況図3 (黒色土器・須惠器)

また、10～12号土坑は焼土を伴う土坑であり、埋土中から多くの遺物が出土した。

畝間状遺構は、北・南区で埋土中から紫コラが検出されたが、規模や方位に違いが見られる。また、自然科学分析の結果からは、栽培作物の推定には至らなかった。

2 中世

中世の掘立柱建物跡は、主軸が方位に沿うものは少なく、西に傾くものが多い。側柱建物が13棟、総柱建物が5棟であり、片廂及び両廂の建物が5棟検出された。平面規模は桁行が2～4間であり、梁行が2間のものが16棟であった。床面積・柱掘方の大きさは、古代の掘立柱建物跡の平均に比べると小さい。

土坑は、不定形の大型ものが目立つ。なお、g-36区で検出された19号土坑は、完形の土師器が検出されたことから、土坑墓の可能性がある。

溝状遺構及び古道は、長軸がほぼ南北方向もしくは東西方向に伸びる傾向にあり、それぞれが切り合い関係にあるものも見られた。調査範囲の南東端では、東側の傾斜面へ続くと考えられる溝状遺構及び古道も確認された。また、古道11の硬化面から出土した炭化材の放射性炭素年代測定を行ったところ、15世紀前半の年代値が得られた（第5章第2節参照）。

3 まとめ

古代の掘立柱建物跡は、主軸が方位に沿っていることやコの字型に配置すること、倉と想定することができる大型の掘立柱建物跡を有することが特筆できる。出土遺物の点からは、石帯が攪乱層から出土し、墨書土器や製塩土器も出土しているが、緑釉陶器や越州窯系青磁、硯、帯金具等は出土しておらず、遺物のほとんどが土師器の坏や皿といった日常雑器である。以上のことから、古代の末端官衙に関わる施設の可能性もあるが、出土遺物からは一般的な集落の様相を示す。

第2節 遺物

1 古代

古代の遺物は、調査区の16～39区Ⅱ～Ⅳ層から出土しており、特にⅡ～Ⅲa・Ⅲb層に多く出土している。なかでも27～31区が遺物の出土が多く全体の半分以上を占め、特に29・30区に多い（第112～114図）。

土師器は、坏が多く、全体の9割以上を占める。土師器類の分類は、横手分類（横手2019）を参考にした。坏は、全体的に底部が5～6cm後半のものが多い。完形や口縁部などから立ち上がりから口縁にかけて開くⅢ類、直線的に立ち上がるⅣ類、充実高台が見られるⅤ類へ分類した。中でもⅢ・Ⅳ類のものが多く出土している。皿は、口縁部が開くⅠ類、そのまま立ち上がるⅡ類があ

る。碗は、「ハ」の字状の高台をもつⅡ・Ⅲ類である。甕は、判別する数が少ないが、器形がゆるやかなS字状を呈するⅡ類や、寸胴状になるⅢ類が見られる。

掲載番号	遺構及びグリッド等	器種	部位	文字	備考
3	5号堀立柱建物跡	坏	口縁～底部	西	古代
13	7号土坑	坏	口縁～底部	十	古代
24	9号土坑	坏	完形	万か石	古代
25	9号土坑	坏	完形	万か石	古代
26	9号土坑	坏	口縁～胴部	万か石	古代
27	9号土坑	坏	口縁～底部	万か石	古代
30	10～12号土坑	坏	口縁～底部	万か石	古代
36	10～12号土坑	坏	胴部	杯	古代
37	10～12号土坑	坏	胴部～底部	万	古代
104	C-29	坏	口縁～底部	万か石	古代
105	f-29	坏か碗	口縁部	万か石	古代
106	C-28	坏か碗	口縁部	万か石	古代
107	d-29	坏か碗	口縁部	万か石	古代
108	g-33	坏か碗	口縁部	万	古代
109	e-29	坏か碗	口縁部	火偏	古代
110	e-36	坏か碗	口縁～底部	嘉か帚	古代
130	x-17	皿	底部	田代	古代
193	15号土坑	坏	口縁部	万か石	中世
219	溝状遺構1	坏	胴部～底部	万か石	中世
238	溝状遺構5	坏	口縁～胴部	万か石	中世
281	古道13	坏	口縁部	万か石	中世
283	古道13	坏	胴部	新	中世
284	古道13	坏	底部	万	中世
102	表土	碗	底部	正か主	古代刻書
103	Y-18	皿	口縁～底部	満	古代刻書

第36表 墨書及び刻書土器

墨書土器は、包含層から35点の他、遺構内からも出土しており、文字等が判別しにくいものが多い。その中から、刻書土器も含め文字の判別が可能なのを一覧にした（第36表）。なお、中世からの出土もあるが判別可能なものとして一覧に記載した。24～30、104～108などは、「万」もしくは、「石」に判別できるものである。鹿児島県内での先行例から見ると（坂本ほか2004）、「石」の出土例がない。中世の古道13から出土した284には、底面に「万」の文字が記されており、「万」は全国的にも出土例が多く、県内でも鳥居ヶ段遺跡（鹿屋市輝北町）や下永迫A遺跡（日置市伊集院町）、市ノ原遺跡第1地点（日置市東市来町）などから出土しており、本遺跡のものも「万」の文字であると考えられる。24・25は、体部外面に正位で書かれていることから、祭祀に使用された可能性が高いことや、時期的には9世紀～9世紀中頃のものであると赤司善彦氏よりご教示をいただいた。また、103の刻書土器は、永山修一氏より「満」であるご教示をいただいた。

土鍾は、丸形や細長のものが多く検出された。土鍾が多く出土した小牧遺跡（鹿屋市）の例では、細長で指圧

痕などが見られるが、本遺跡の土錘は表面をナデ調整しているものが多い。地理的条件としては、河川に近く、台地上に立地していることなどから、漁労具として使用したと考えられる。

須恵器は、大隅地域での出土例があまりなく、参考にすることが難しく、壺の形状や当具痕などから中岳山麓窯跡群や鶴峯3号窯跡などから出土したものと類似しており、8世紀末～9世紀初頭のものと考えられる。

その他には、甑が出土した。古代の甑は大隅地域での出土例があまりなく、同様の出土例は宮ノ東遺跡（宮崎市佐土原町）に見ることができる（上床真氏教示）。

2 中世

土師器は、小皿が出土しているが、少量である。すべて糸切り底であることから、中世Ⅲ期（12世紀中後半）に属するものと考えられる（横手2019）。

青磁は、表土や攪乱層から出土した破片が多い。龍泉窯系のものが多い。青磁は大宰府分類（太宰府市教育委員会編2000）・上田分類（上田1982）を参考にした。332は篋書きの蓮弁文を描き、中心に鑄がないことからⅡa類、334は鑄蓮弁文を描き、弁の中心線は稜をなしていることからⅡb類とし、13世紀前後から前半とした。337は、わずかに蓮弁文が確認でき、口唇部まで幅があり、332・334・335とは異なり、時期的には14世紀末であると考えられる（上田1982）。338～359は、ほぼ同時期のものであると考えられ、344・345に見られる剣先蓮弁文や、346・347の雷文帯などの変遷を見ることができる。時期的には12世紀後半から16世紀までのものと考えられる（亀井編2002）（吉岡・門上2011）。

白磁は、青磁と同様に表土や攪乱層から出土が多い。白磁は大宰府分類・森田分類（1982）を参考にした。361は、やや高い高台で、高台外端を広く斜めに面取りがしてあり、底部外面に施釉しておらずⅣ類とし、12世紀後半とした。362・363は、施釉後に釉を掻き取り、口禿げが見られることからⅨ類とした。364は、形状等から15世紀のものと考えられる。

染付は、小野分類（小野1982）を参考にした。366・367は碗、368は皿であり、いずれも蕉葉文を含む文様などからC群とし、16世紀前半のものと考えられる。

3 まとめ

古代は、坏Ⅲ類が主体であり、碗・皿・鉢・黒色土器など多器種からなる、古代Ⅱ期とよばれる時期から、坏Ⅳ・Ⅴ類が中心となり在地性の強い食器が出現した、古代Ⅲ期が中心である。皿に注目すると古代Ⅱ・Ⅲ期のものが見られ、須恵器の甕等も出土している。このことから9～10世紀が中心とした時期であると考えられる。また、遺構内出土遺物と包含層出土遺物は、大きな差異

は見られず、ほぼ同時期のものであると考えられ、鹿児島県内で一般集落が増加する時期とも連動する。

中世は、包含層一括や表土一括、攪乱層からの出土のものが多かったが、各編年に照らし合わせると12～16世紀のものが中心である。また、極少量ではあるが、近世以降の遺物も見られた。このことから、本遺跡では当該期に連綿と土地を利用していたことが想定できる。

久保田牧遺跡には、縄文時代から古墳時代にかけての遺構や遺物が出土しており、さらに長期間にわたり人々の生活が営まれていたことが分かる。また、周辺の遺跡からは、古代～中世にかけての遺構や遺物の出土はあまり多くなく、当時の生活等を知ることは難しい。その中では、久保田牧遺跡は、当時の古代～中世の生活の様子を知ることができる遺跡である。

【引用・参考文献】 ※発掘調査報告書は割愛

- 上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁器研究No.2』日本貿易陶磁器研究会
- 小野正敏 1982「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁器研究No.2』日本貿易陶磁器研究会
- 亀井明德編 2002「明代前半期陶磁器の研究：首里城京の内SKO 1出土品」『アジア考古学研究報告書1』専修大学文学部
- 川口雅之 2018「古代の薩摩・大隅国、多福嶋における律令制度の普及－考古学の調査成果から－」『縄文の森から』第10号 pp.1～18 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 坂本佳代子・岩澤和徳・松田朝由 2004「墨書土器の性格－鹿児島を例として」『縄文の森から』第2号 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 太宰府市教育委員会編 2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』太宰府市の文化財第49集
- 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所編 2003『古代の官衙遺跡Ⅰ 遺構編』
- 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所編 2003『古代の官衙遺跡Ⅱ 遺物・遺跡編』
- 中村和美 2022「古代－土器研究の歩みと現状、課題と展望－」『鹿児島考古』第51号 鹿児島県考古学会
- 永山修一 2018「大隅国出土古代墨書土器集成・補填（1）」『古代日本における地域社会への文字文化の伝播と識字に関する研究』
- 松田朝由 2004「第Ⅲ章まとめ 第1節土器の製作技法と土器様相」『九養岡遺跡・踊場遺跡・高篠遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書71
- 森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁器研究No.2』日本貿易陶磁器研究会
- 横手伸太郎 2019「土師器から見た古代～中世の大隅－8～13世紀を中心に－」『鹿児島考古』第49号 鹿児島県考古学会
- 吉岡康暢・門上秀叔 2011『琉球出土陶磁社会史研究』真陽社

写真図版



基本層序

上：I～IX層（手前の白い筋は噴砂痕跡）

下：I～VIIb層



①



②



③



④



⑤

古代掘立柱建物跡 1

①: 1号掘立柱建物跡
②: 1号掘立柱建物跡柱穴

③~⑤: 2号掘立柱建物跡柱穴



古代掘立柱建物跡 2

上: 2号掘立柱建物跡(左手前)
3号掘立柱建物跡(左奥)
4号掘立柱建物跡(右)

下: 2号掘立柱建物跡



古代掘立柱建物跡 3

上: 3号掘立柱建物跡

下: 4号掘立柱建物跡



古代掘立柱建物跡 4

上: 5号掘立柱建物跡

下: 6号掘立柱建物跡



古代掘立柱建物跡 5

上：7号掘立柱建物跡

下：8号掘立柱建物跡



古代土坑 1

①②: 1号土坑

③④: 1号土坑(左)
2号土坑(右)

⑤: 3号土坑(左), 4号土坑(右)

⑥: 3号土坑

⑦⑧: 4号土坑

图版 8



古代土坑 2

①②: 5号土坑
③④⑤: 6号土坑

⑥: 8号土坑
⑦⑧: 7号土坑



古代土坑 3

①②③: 9号土坑

④⑤: 10·11·12号土坑

⑥: 11号土坑(左), 10号土坑(中央), 12号土坑(右奥)



古代畝間状遺構



中世掘立柱建物跡 1

上: 10号掘立柱建物跡

下: 11号掘立柱建物跡



中世掘立柱建物跡 2

上: 9号掘立柱建物跡

下: 12号掘立柱建物跡



中世掘立柱建物跡 3

上: 13号掘立柱建物跡

下: 14号掘立柱建物跡



中世掘立柱建物跡 4

上: 15号掘立柱建物跡

下: 16号掘立柱建物跡



中世掘立柱建物跡 5

上: 17号掘立柱建物跡(右)
18号掘立柱建物跡(左)

下: 19号掘立柱建物跡



中世掘立柱建物跡 6

上: 20号掘立柱建物跡

下: 21号掘立柱建物跡



中世掘立柱建物跡 7

上: 23号掘立柱建物跡

下: 24号掘立柱建物跡



①



②



③



④



⑤

中世掘立柱建物跡 8

①: 25号掘立柱建物跡(奥)・26号掘立柱建物跡(手前)
②: 25号掘立柱建物跡柱穴

③: 26号掘立柱建物跡柱穴
④⑤: 25号掘立柱建物跡



中世土坑 1

①②: 13号土坑
③: 14号土坑

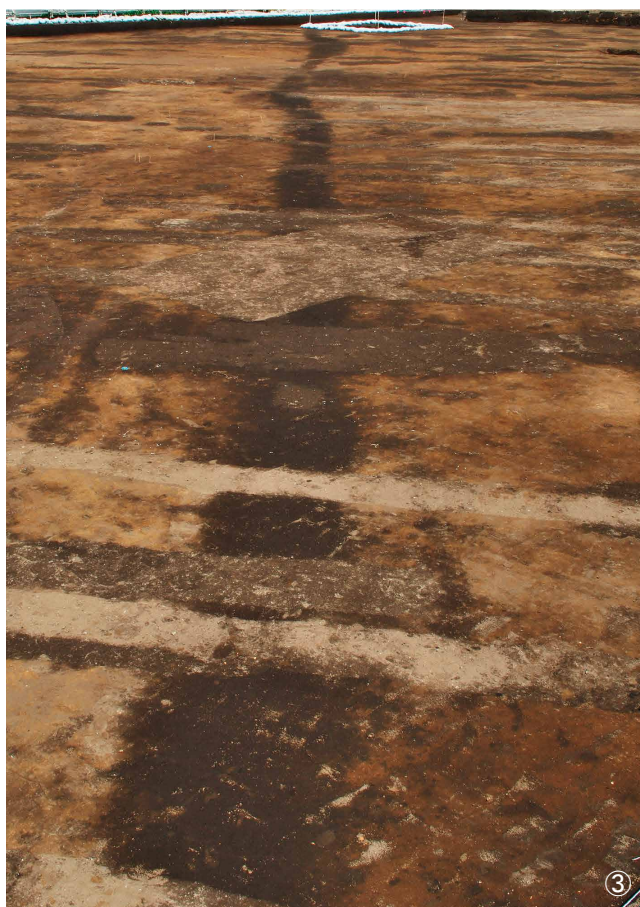
④⑤: 15号土坑
⑥⑦: 16号土坑



中世土坑 2

①②: 17号土坑
③④: 18号土坑

⑤~⑧: 20号土坑



中世溝状遺構 1

①: 溝状遺構 1 (左)・溝状遺構 2 (右)
②: 溝状遺構 2 (左)・溝状遺構 3 (右)

③④: 溝状遺構 4



中世溝状遺構 2・古道 1

①②: 溝状遺構10(右)・11(中央)・12(左)
③: 溝状遺構13

④: 溝状遺構16
⑤: 古道13



中世溝状遺構 3

上・下：溝状遺構19・20・21・22・23



中世古道 2

①②: 古道 3 (左)・古道 4 (右)
④: 古道 11

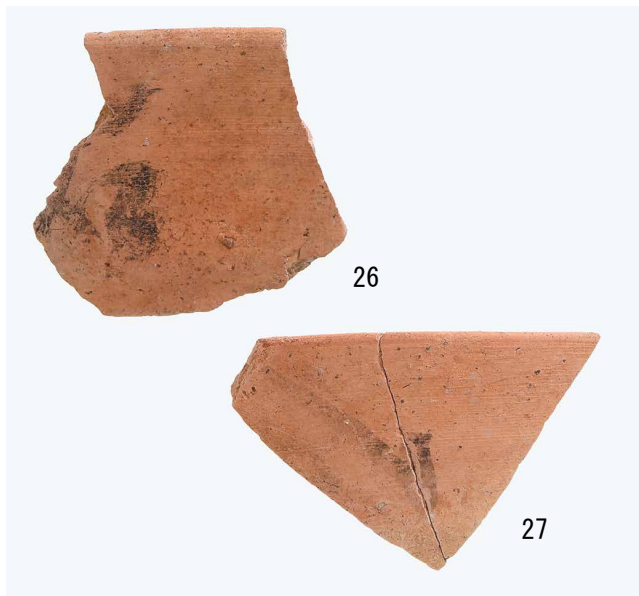
③: 古道 6
⑤: 古道 7
⑥: 古道 8 (左)・古道 9 (右)



古代掘立柱建物跡の遺物



古代7号土坑の遺物・遺構内出土鉄滓



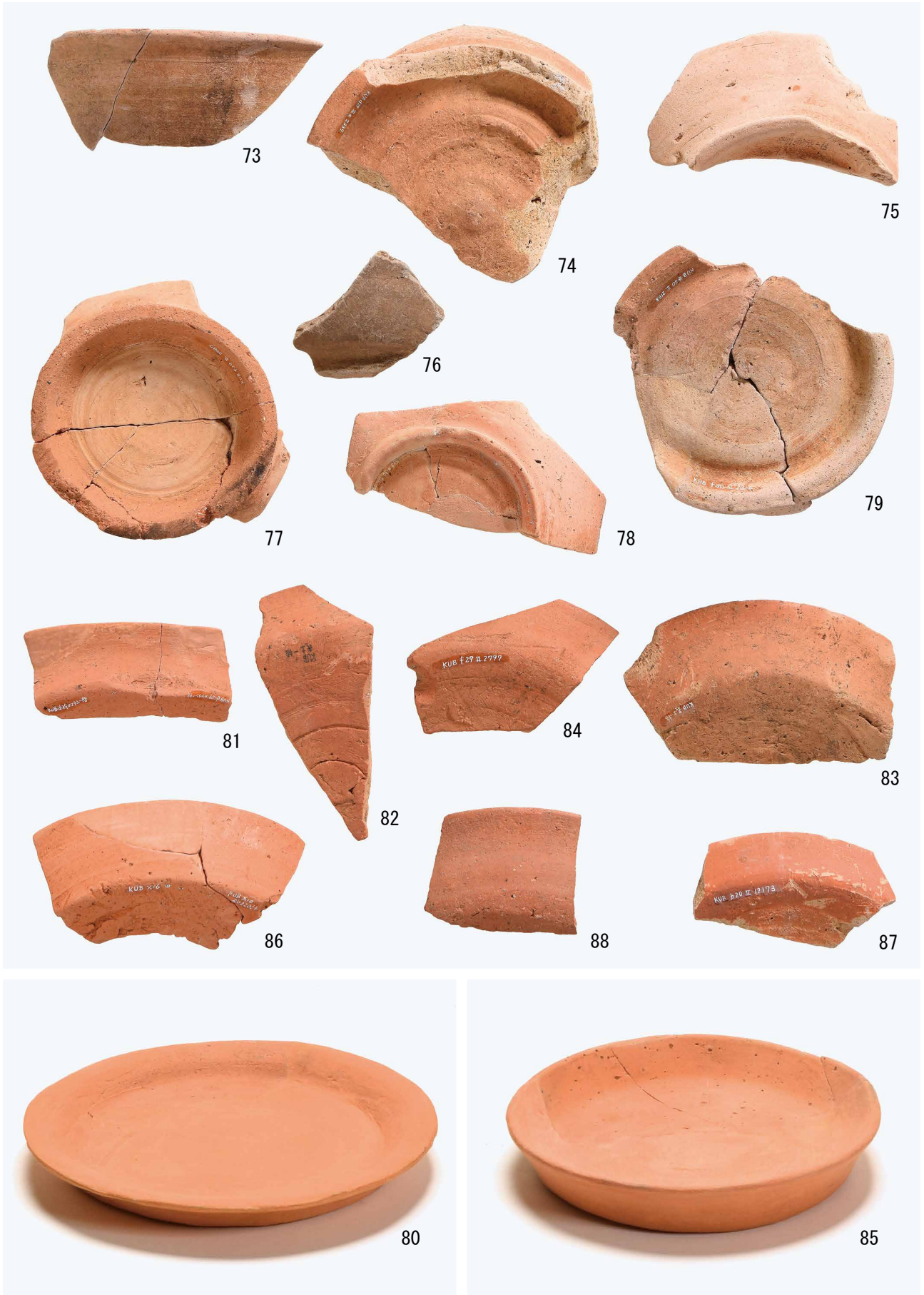
古代9号土坑の遺物



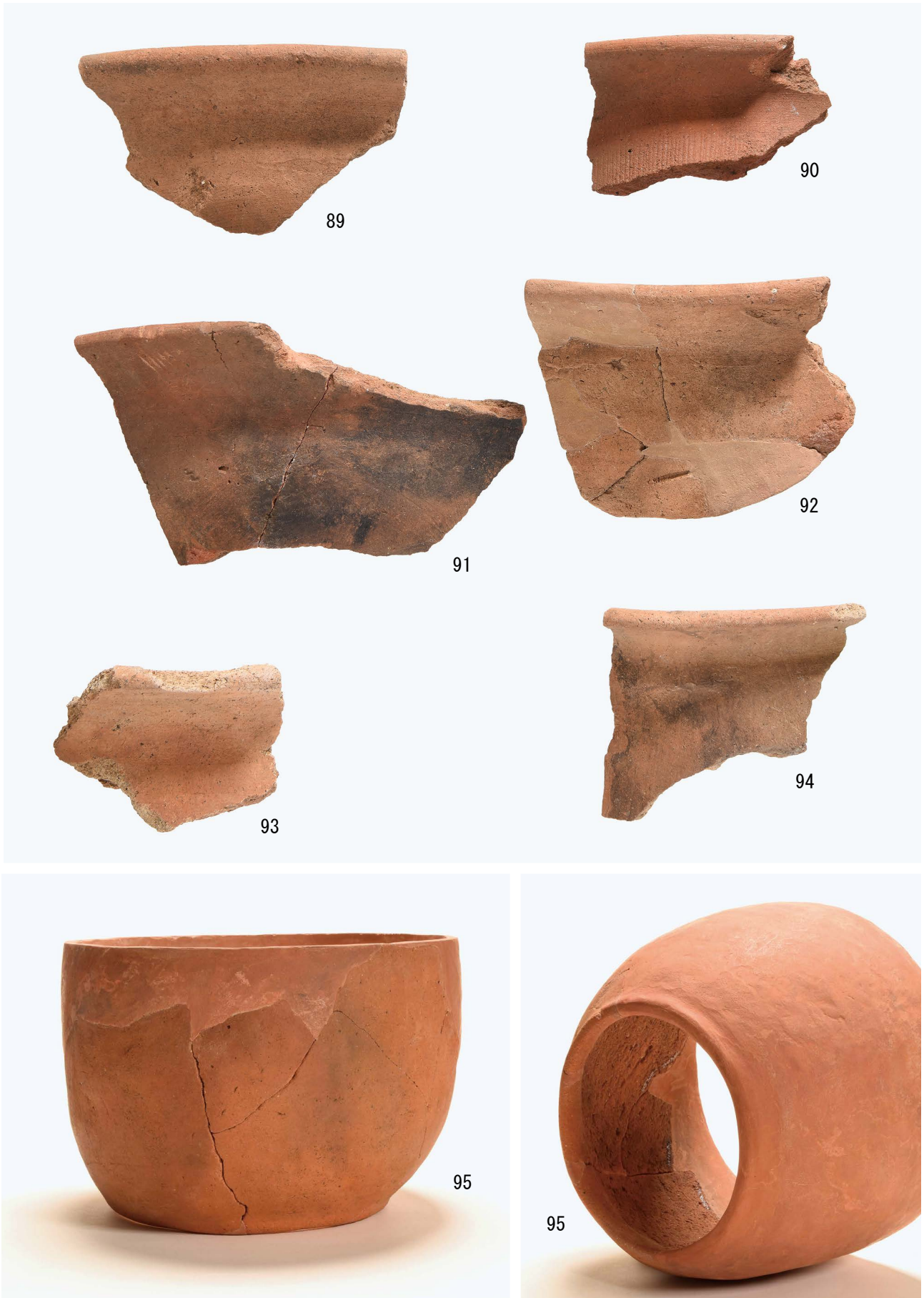
古代 10 ~ 12 号土坑の遺物



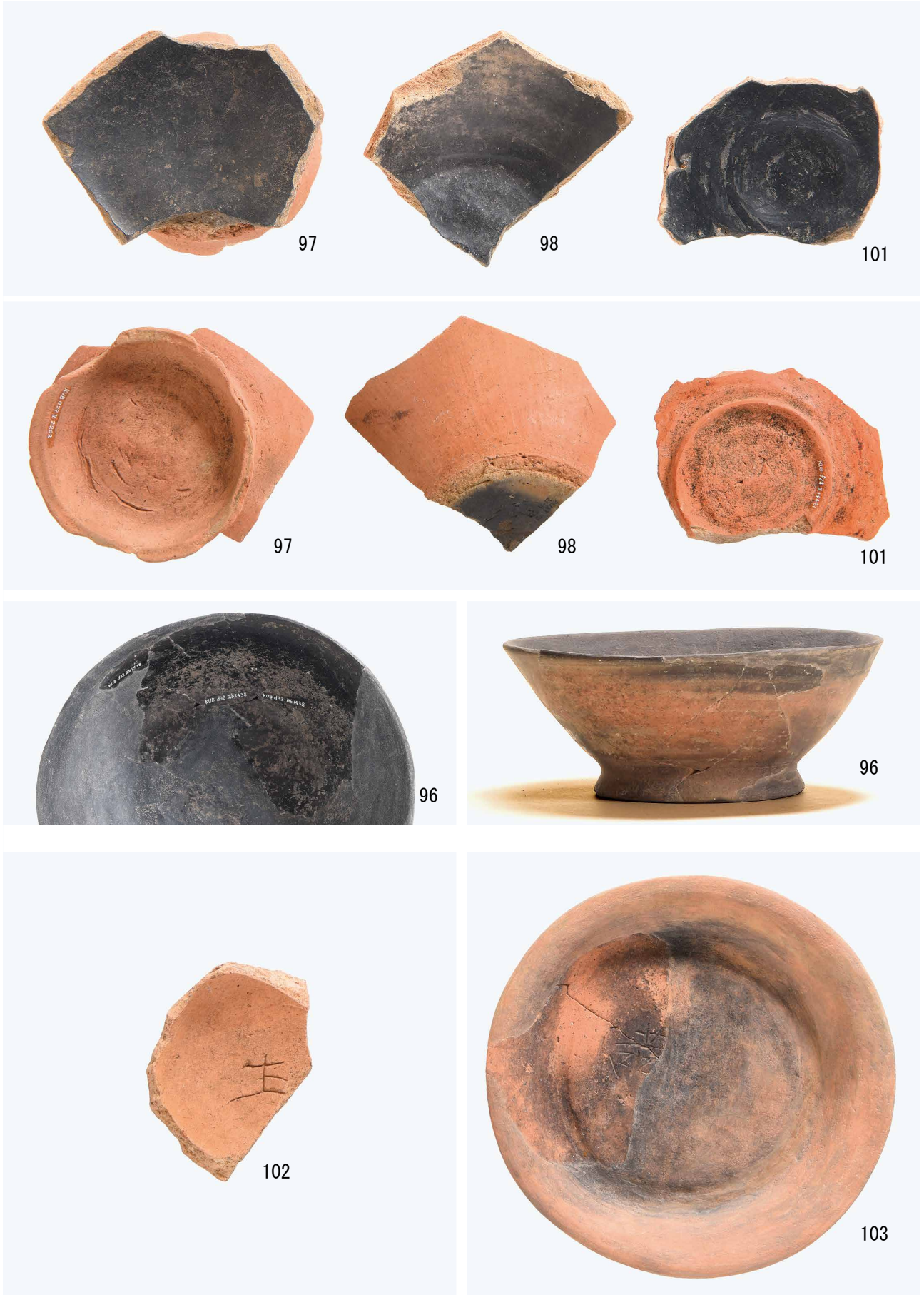
古代の遺物（1）



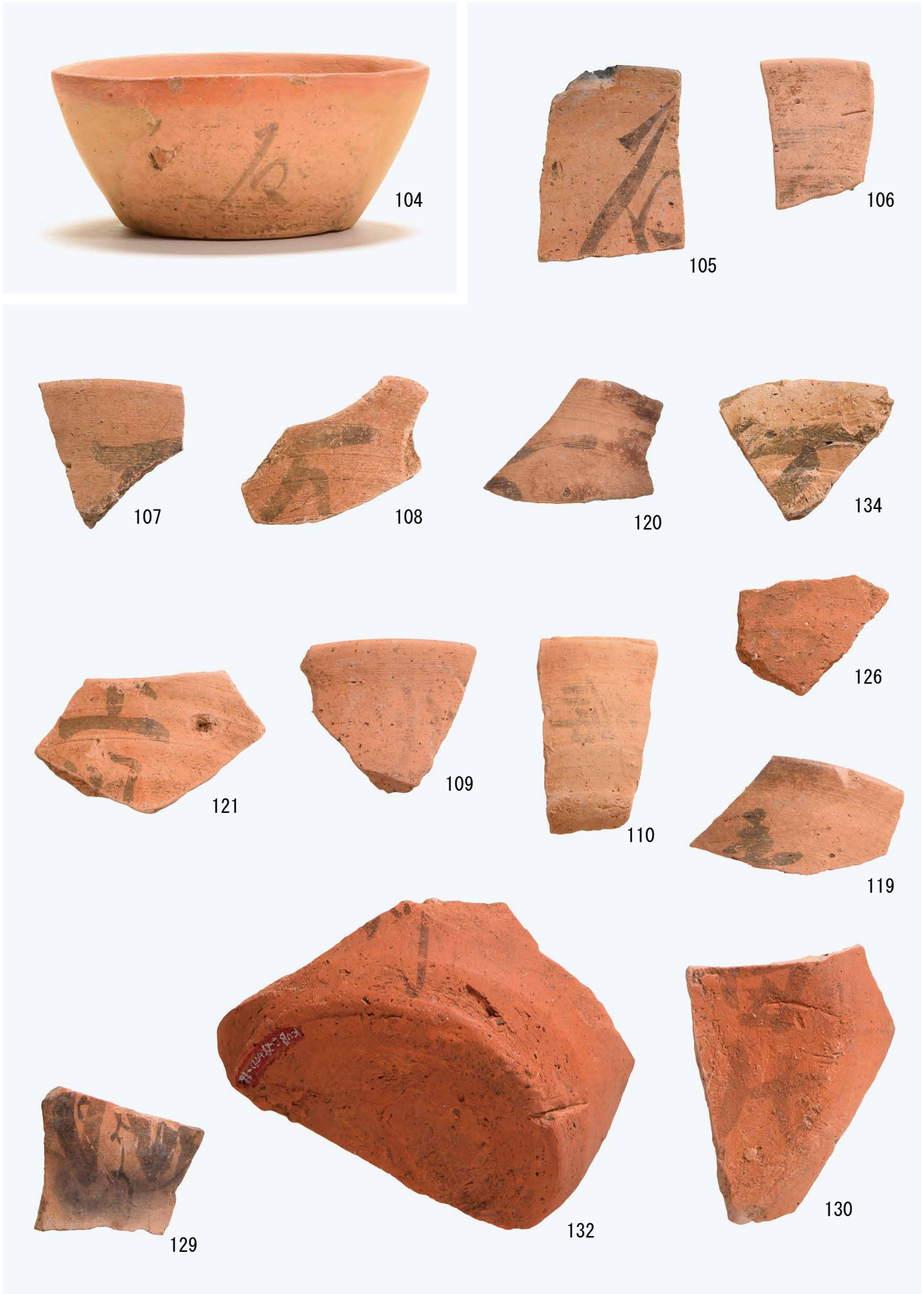
古代の遺物（2）



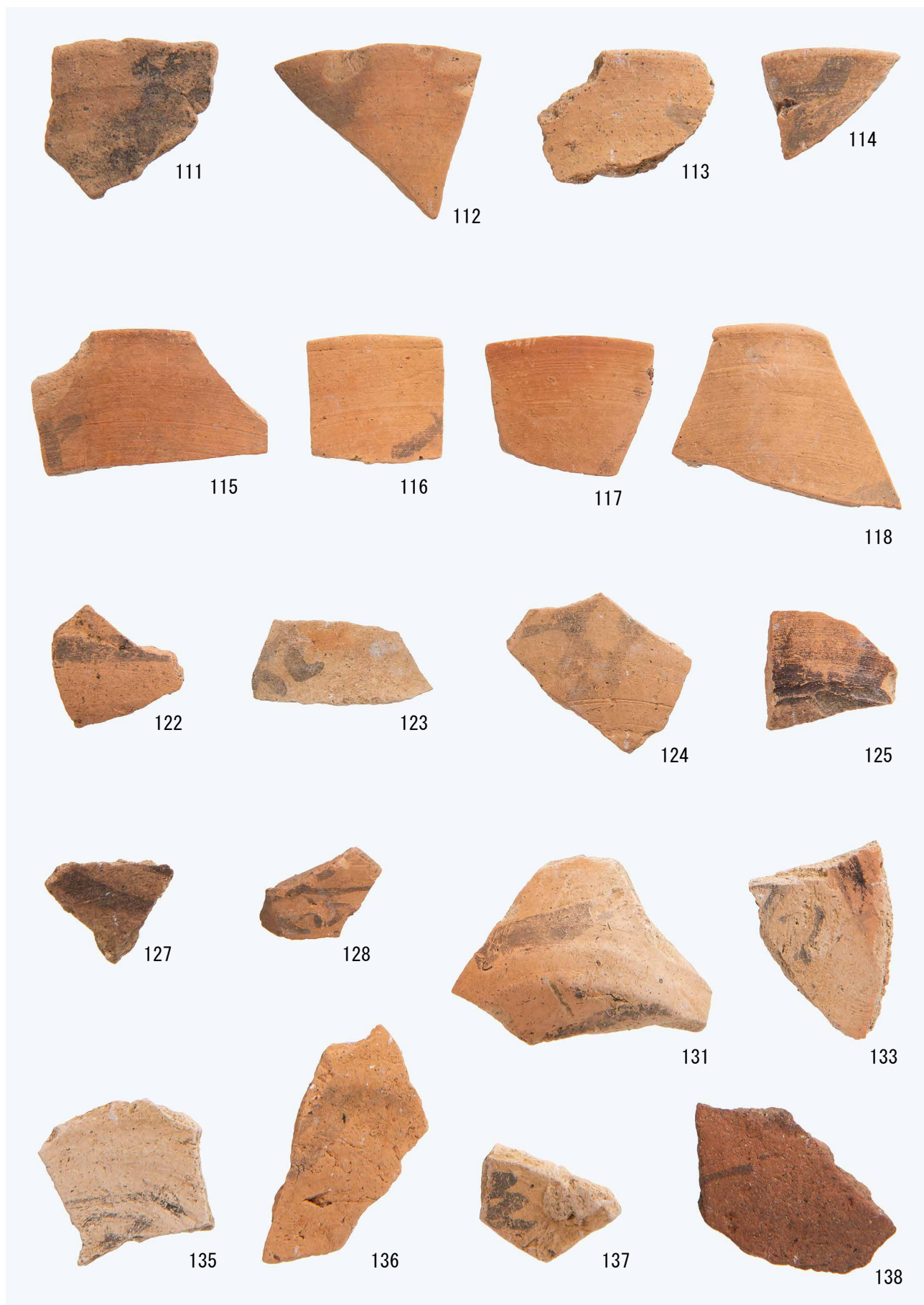
古代の遺物（3）



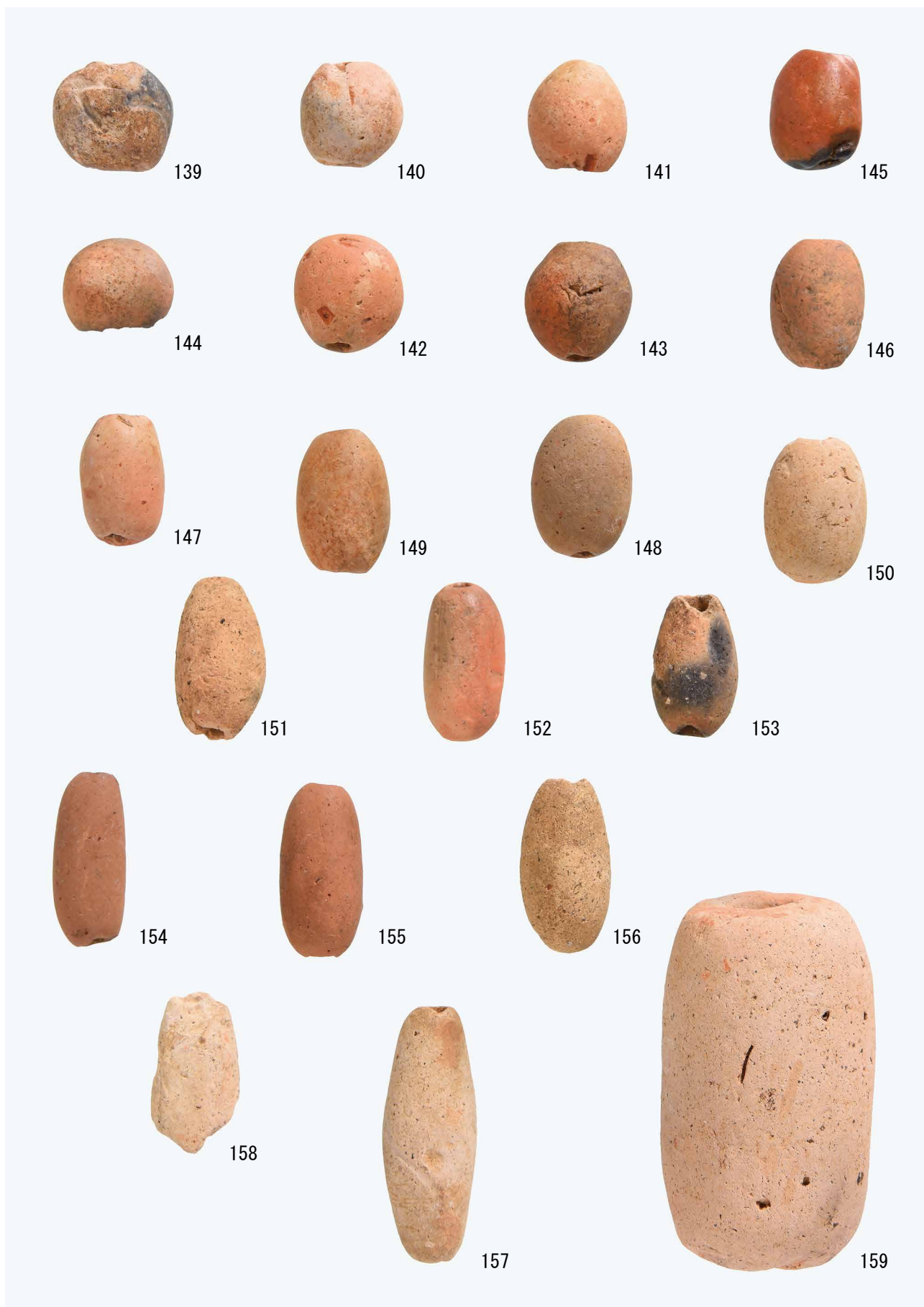
古代の遺物（4）



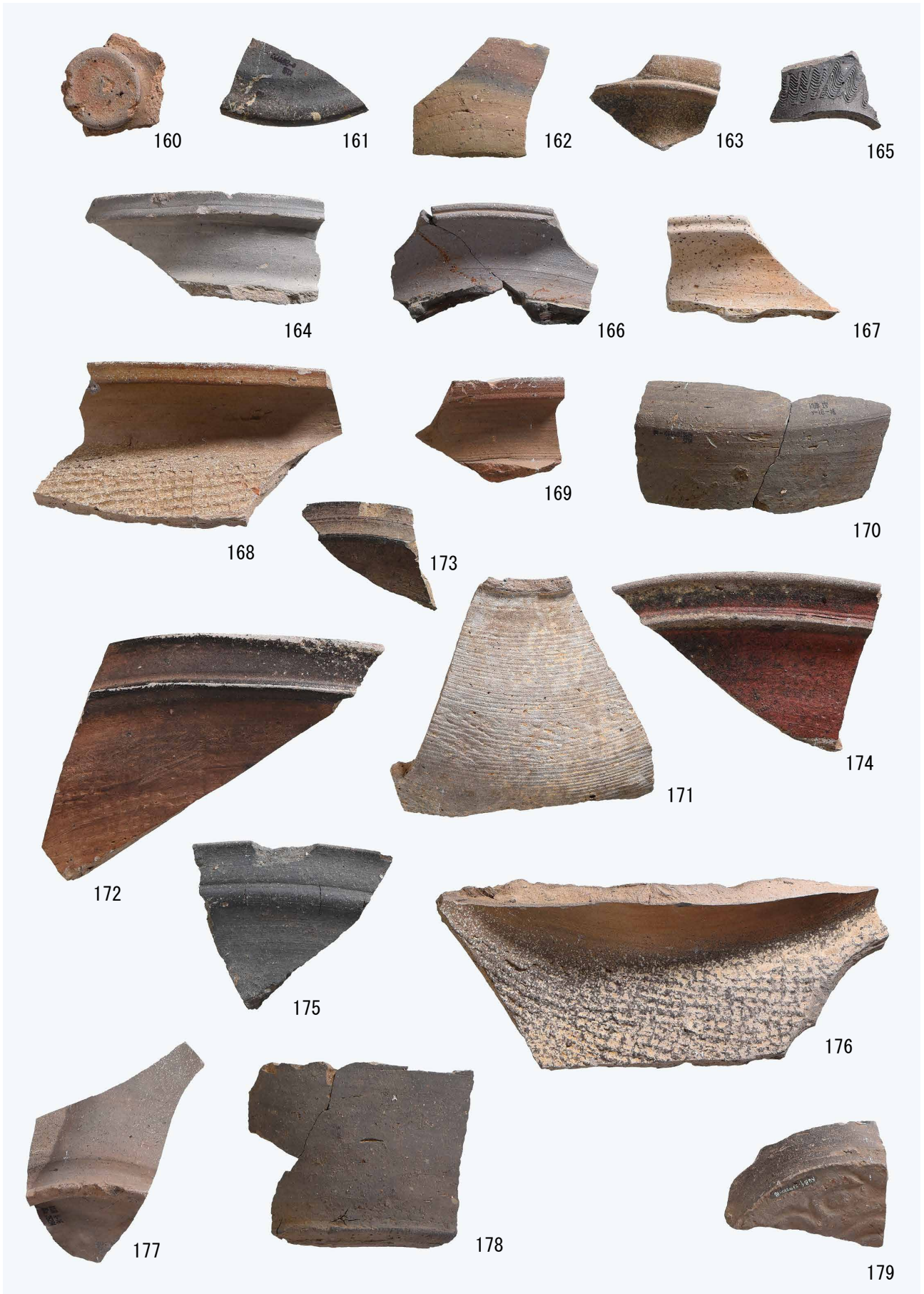
古代の遺物（5）



古代の遺物（6）



古代の遺物（7）



古代の遺物（8）



中世掘立柱建物跡・土坑の遺物

※掘→掘立柱建物跡



中世溝状遺構の遺物 (1)

溝状遺構 12



溝状遺構 13



溝状遺構 21



溝状遺構 15

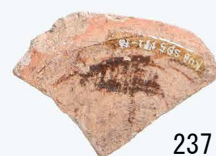
溝状遺構 25



溝状遺構 24



溝状遺構 14



溝状遺構 19・20

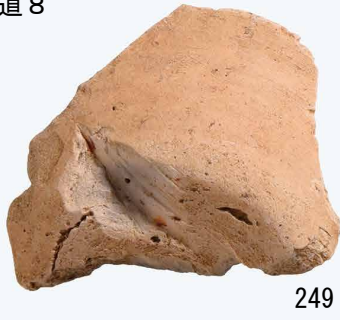


古道 4

中世溝状遺構の遺物 (2)・古道の遺物 (1)

図版 40

古道 8



249



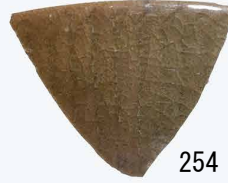
250



251



253



254



252



255



256



257

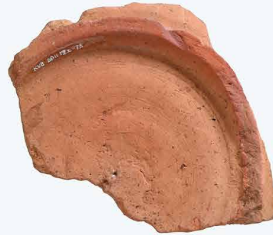


258

古道 9



260



259



262



263



261



264



265

古道 11



266



268



267



269

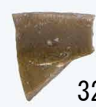
古道 14



322



321



320



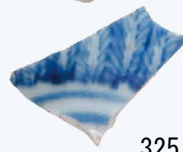
324



323



319



325

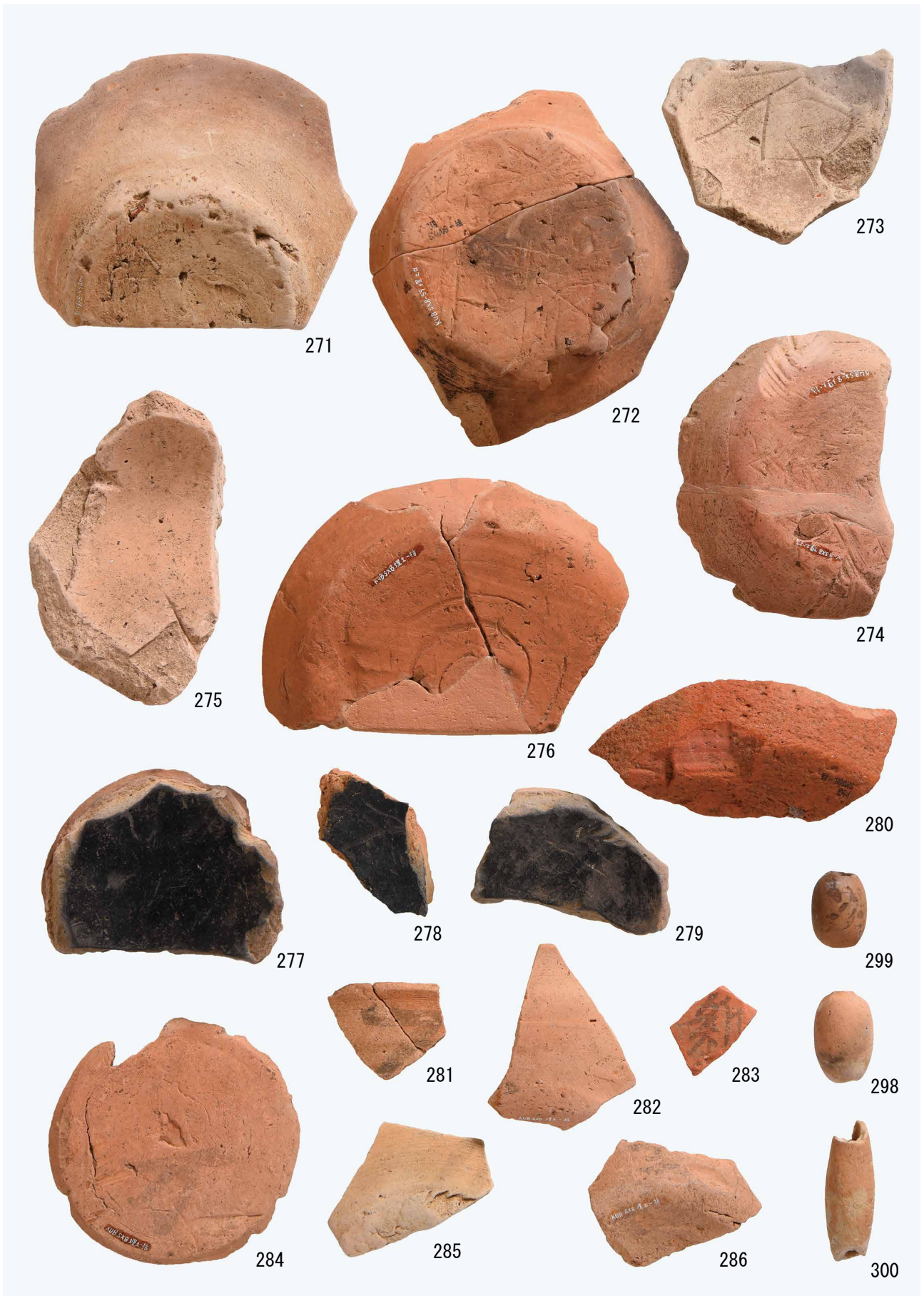


326

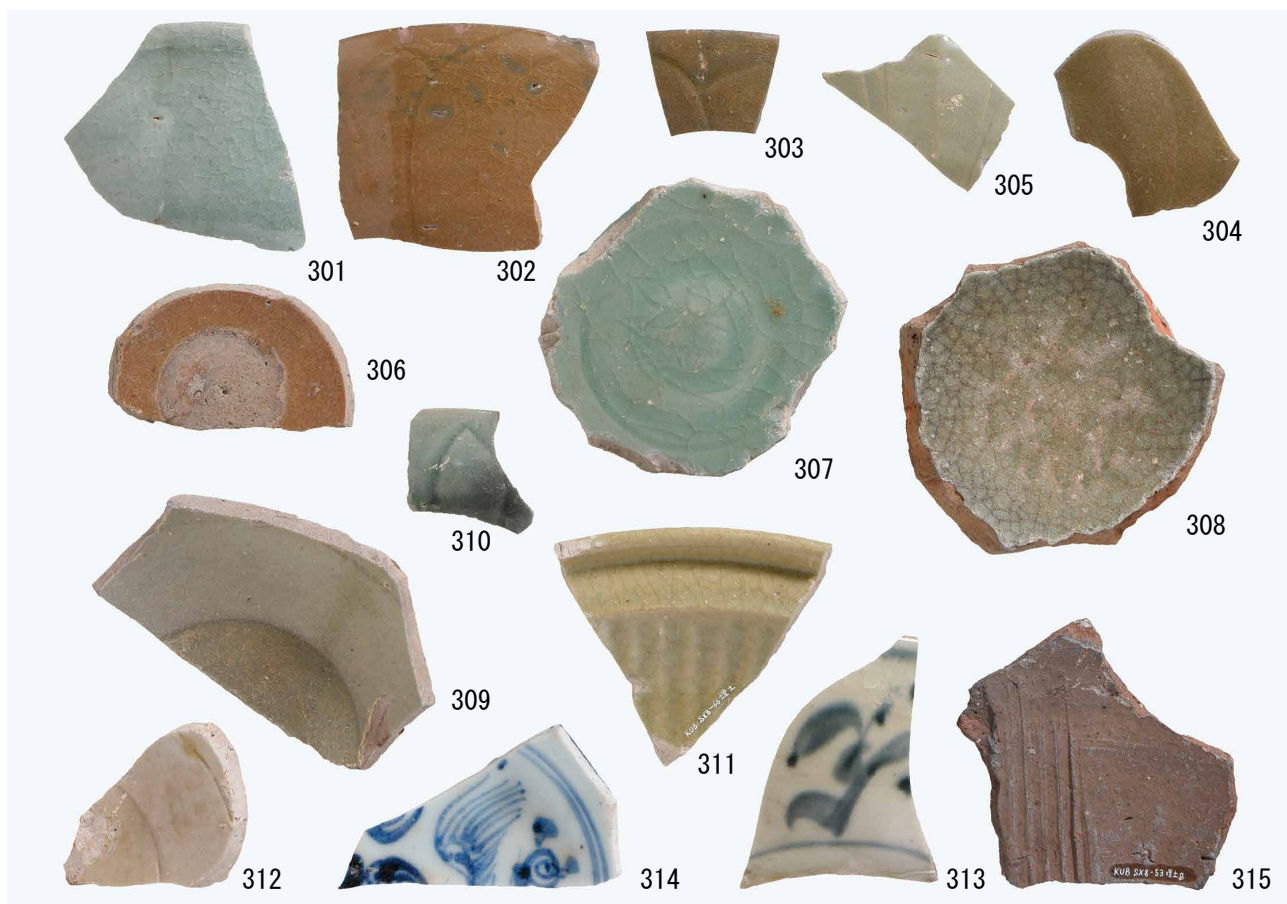


327

中世古道の遺物（2）



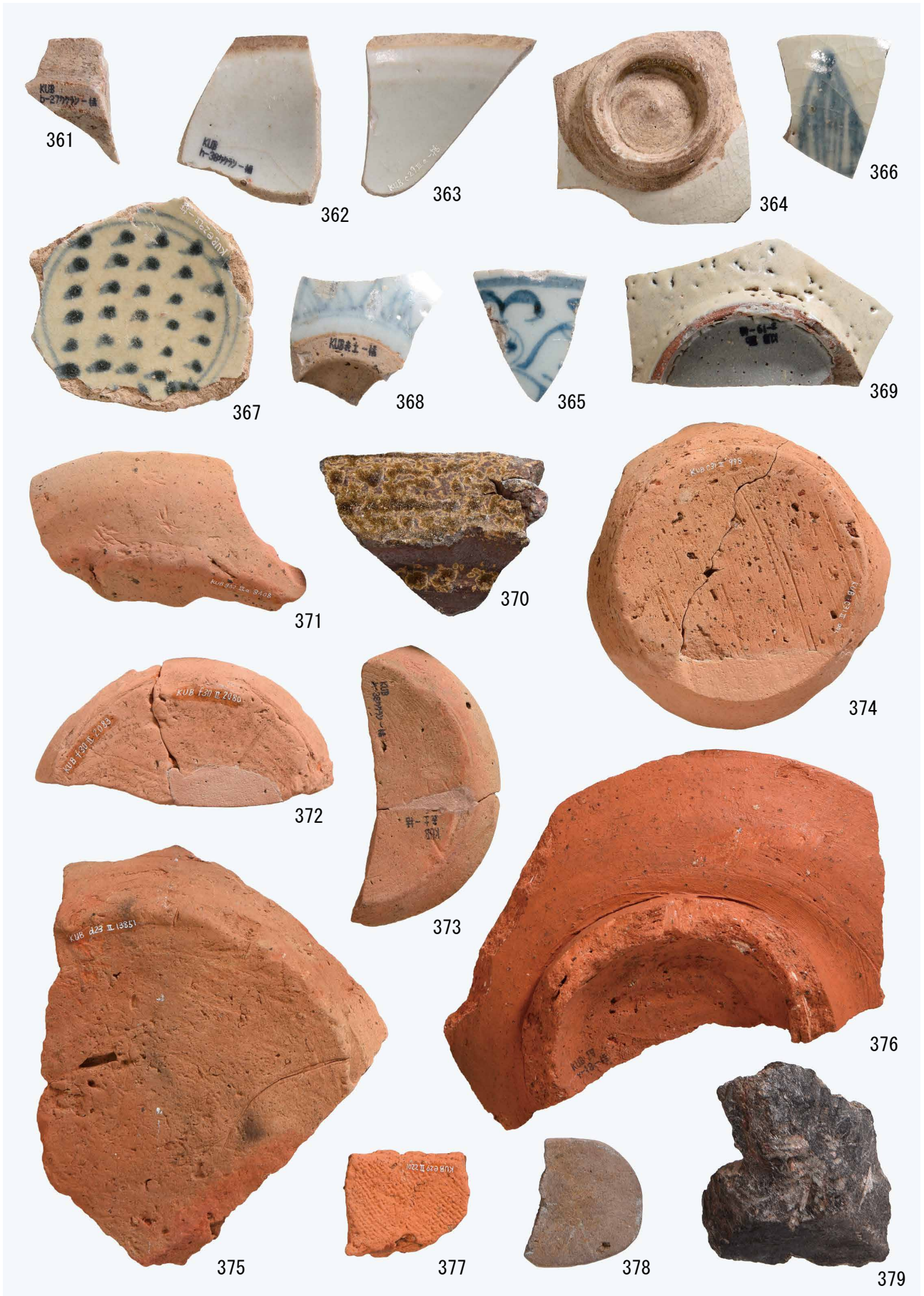
中世古道 13 の遺物 (1)



中世古道 13 の遺物 (2)



中世の遺物（1）



中世の遺物（2）



その他の遺物

上：中世遺構内出土石製品・鉄器，包含層出土金属器

下：近世出土遺物

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(221)
主要地方道鹿屋吾平佐多線(吾平道路)改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

久保田牧遺跡 1

古代以降編

発行年月 2023年3月
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811 FAX 0995-48-5821
印刷 株式会社イースト朝日
〒891-0122 鹿児島県鹿児島市南栄3丁目30-7
TEL 099-266-5522 FAX 099-266-5523



鹿児島県